長期ビジョン策定に向けた
市民アンケート調査
報告書

調査項目

日常生活の実態

自身の将来に関する認識

本市の現在と将来に関する認識

令和３年（2021 年）

八 王 子 市

目　　次

I　調査の概要 1
　1．　調査目的 3
　2．　調査設計 3
　3．　調査項目 3
　4．　回収結果 3
　5．　地域区分 4
　6．　報告書の見方 5
　7．　標本誤差 6
II　回答者の属性 7
III　調査結果 15
　　1．　日常生活の実態 17
　　（1）　インターネット利用の有無 17
　　（2）　利用しているインターネット接続端末について 19
　　（3）　インターネット環境について 21
　　（4）　インターネットの利用目的 23
　　（5）　インターネットを利用していない理由 26
　　（6）　隣近所とのつきあい方 28
　　（7）　町会・自治会活動への参加度合い 32
　　（8）　町会・自治会活動に参加したきっかけ 36
　　（9）　地域活動への参加度合い 41
　　(10)　地域活動に参加したきっかけ 44
　　(11)　協力または参加を増やすための、条件・きっかけについて 49
　　(12)　スポーツや運動の頻度 54
　　(13)　スポーツや運動を行った理由 57
　　(14)　スポーツや運動を行わなかった理由 61
　　(15)　防災訓練への参加状況 65
　　(16)　自宅からの避難場所の把握状況 69
　　(17)　連絡方法の共有について 72
　　(18)　買物の不便さについて 76
　　(19)　不便と感じている理由 78
　　(20)　空き地や空き家の増加 81
　　(21)　空き地や空き家が増加したことへの問題意識 83
　　(22)　支援が必要と感じる人の有無 86
　　(23)　支援が必要と感じる対象者・状況について 88
　　(24)　親族の介護状況 91
　　(25)　介護を要する人からみた介護者の続柄 93
　　(26)　介護状況 96
　　(27)　介護者の続柄 98

(28) 介護を必要とした場合の希望内容 99
2. あなたの将来に関する認識について 102
（1） 将来（2040 年頃）に対しての不安要素 102
（2） 社会環境に対する期待要素 106
（3） 科学技術に対する期待要素 115
（4） 社会環境に対する不安要素 126
3. 八王子市の現在、将来に関する認識について 145
（1） 現在と比較した将来（2040 年頃）の暮らしやすさ 145
（2） 現在と比較した将来（2040 年頃）の暮らしやすさ（理由） 147
（3） 将来（2040 年頃）に残したい事 149
（4） 力を入れている施策について 150
（5） 将来（2040 年頃）に向けて力を入れるべき施策 154
IV 参考資料 159
調査票 161
参考資料 「2040 年頃までに想定されている社会環境の変化」 177
インターネットを利用した回答方法 179

Ⅰ　調査の概要

１．調査目的

この調査は、市民から「日常生活の実態」や「自身の将来に関する認識」、「本市の現在と将来に関する認識」等を把握し、調査結果を「長期ビジョン」の策定に活用することを目的とする。

２．調査設計

（１）調査地域：八王子市内全域
（２）調査対象：市内在住の満 16 歳以上の男女個人
（３）対象者数：5,000 人
（４）調査方法：配達配布／郵送または電子申請による回収
（５）調査期間：令和３年（2021 年）１月 15 日～１月 31 日
（６）抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出法
・層　　化…「八王子ビジョン 2022」で示された６地域・14 管内の調査対象人口に応じて、調査数を比例配分
・対象者抽出…14 管内別に単純無作為抽出
（７）調査機関：株式会社タイム・エージェント

３．調査項目

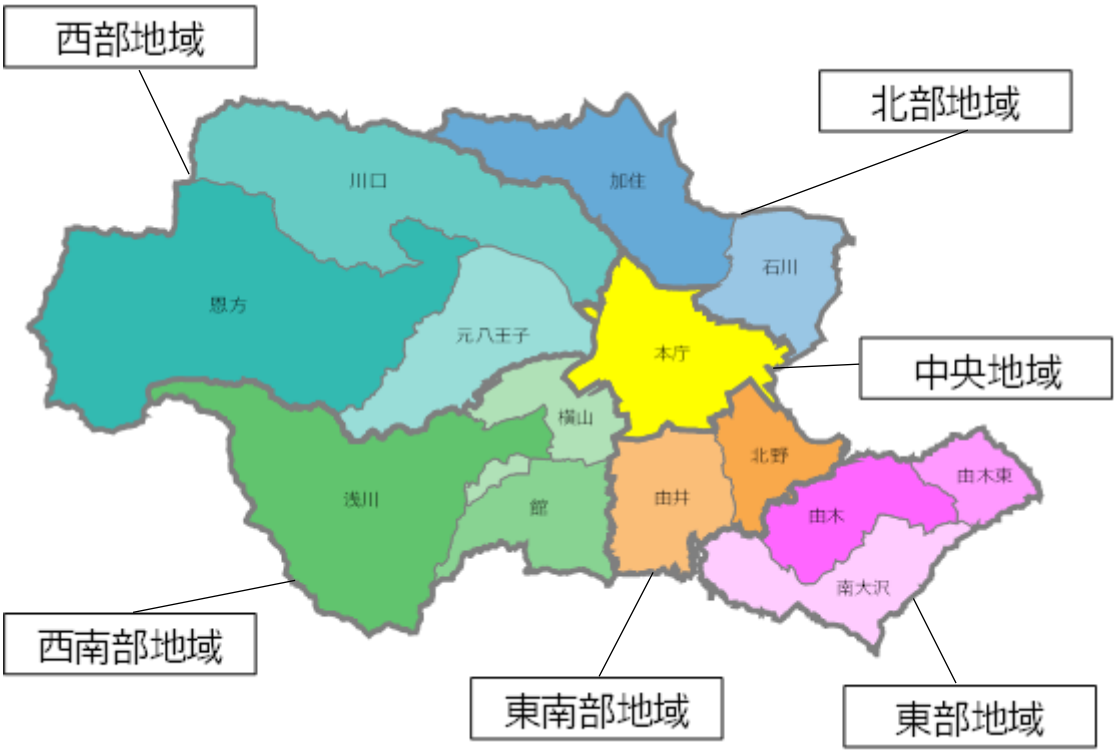
（１）日常生活の実態
（２）自身の将来に関する認識
（３）本市の現在と将来に関する認識

４．回収結果

対 象 者 数：5,000 人
有効回収数：2,418 票（有効回収率 48.4%）
回収方法別内訳：

回収方法	有効回収数	内訳
郵送回収	1,832	75.8%
電子申請	586	24.2%
合計	2,418	100.0%

５．地域区分



地域区分	町名（五十音順）
本庁管内 （中央地域）	暁町・旭町・東町・上野町・追分町・大横町・大和田町・小門町・清川町・子安町・ 新町・千人町・台町・田町・寺町・天神町・中町・中野上町・中野山王・中野町・ 八幡町・日吉町・平岡町・富士見町・本郷町・本町・三崎町・緑町・南新町・南町・ 明神町・元本郷町・元横山町・八木町・八日町・横山町・万町
元八王子・恩方・川口 （西部地域）	泉町・犬目町・小津町・叶谷町・上壱分方町・上恩方町・上川町・川口町・川町・ 下恩方町・諏訪町・大楽寺町・楢原町・西寺方町・弐分方町・美山町・元八王子町・ 横川町・四谷町
浅川・横山・館 （西南部地域）	裏高尾町・大船町・椚田町・散田町・城山手・高尾町・館町・寺田町・廿里町・長房町・ 並木町・西浅川町・狭間町・初沢町・東浅川町・南浅川町・めじろ台・山田町
加住・石川 （北部地域）	石川町・宇津木町・梅坪町・大谷町・尾崎町・加住町・久保山町・小宮町・左入町・ 平町・高倉町・高月町・滝山町・丹木町・戸吹町・丸山町・みつい台・宮下町・谷野町
由井・北野 （東南部地域）	打越町・宇津貫町・片倉町・北野台・北野町・絹ヶ丘・小比企町・長沼町・七国・ 西片倉・兵衛・みなみ野
由木・由木東・南大沢 （東部地域）	大塚・鹿島・上柚木・越野・下柚木・中山・南陽台・東中野・別所・堀之内・松が谷・ 松木・南大沢・鑓水

６．報告書の見方

（1）集計は、小数第２位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が 100%にならない場合がある。
（2）回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100%を超えることがある。
（3）基数となるべき実数は、ｎ（件数）として表示した。その比率はｎ（件数）を 100%として算出した。
（4）本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
（5）クロス集計による分析では、性別や年齢などの分析項目の質問に無回答である回答者の集計結果は図表中に表示していないが、これらの回答結果は図表中の「全体」には含まれる。したがって、図表中に示した分析項目すべてのｎ（件数）を合計しても、全体のｎ（件数）と一致しない場合がある。また、クロス集計の分析項目は、性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別・職業別・世帯構成別としている。
（6）調査結果の分析においては、ｎ（件数）が 30 件を下回る場合には、参考値とみなし該当属性に対するコメントは控えている。
（7）割合の表現については、以下の表記を基本とする。

＜例＞

表記	４割	約４割	４割強	４割台半ば	５割近く	５割弱
割合	40.0%	40.1～40.9%	41.0～43.9%	44.0～45.9%	46.0～48.9%	49.0～49.9%

（8）質問における選択肢を統合し、≪　　≫を用いて記述している場合がある。なお、この場合の比率は、個々の選択肢の比率の単純合計である。

＜例＞「期待する」と「どちらかといえば期待する」を統合して≪期待する≫。

7．標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ以下のとおりである。

単純無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（ｎ）及び回答比率（Ｐ）によって異なる。

$$b = \pm 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b ＝標本誤差
N ＝母集団数
n ＝比率算出の基数（サンプル数）
P ＝回答比率

例えば、ある設問の回答者数が 2,418 で、その設問の「期待する」の回答比率が 20%である場合、標本誤差は 20%を中心に±1.63%の範囲内となり、標本誤差を踏まえた回答比率は 18．37%～21.63%の間であるとみることができる。

同様に計算した標本誤差の早見表を以下に示す。

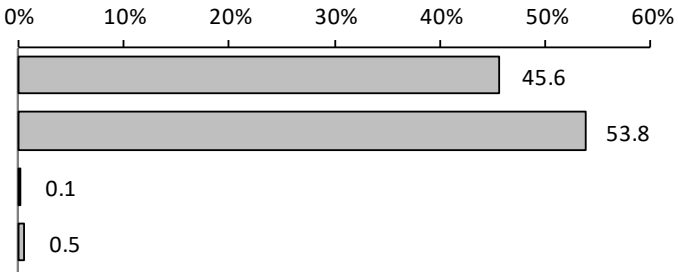
回答比率（P）／基数（n）	５％または95%前後	10%または90%前後	20%または80%前後	30%または70%前後	40%または60%前後	50%前後
2,418	±0.89	±1.22	±1.63	±1.86	±1.99	±2.03
2,000	±0.97	±1.34	±1.79	±2.05	±2.19	±2.24
1,500	±1.13	±1.55	±2.07	±2.37	±2.53	±2.58
1,000	±1.38	±1.90	±2.53	±2.90	±3.10	±3.16
500	±1.95	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \fallingdotseq 1$ として算出している。この表の計算式の信頼度は 95%である。

II　回答者の属性

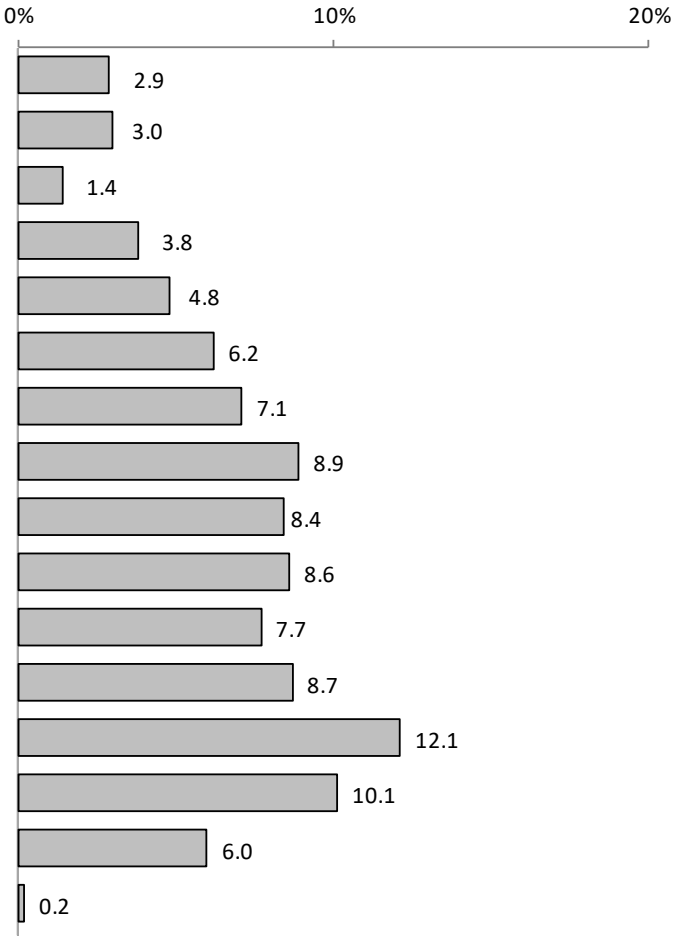
１．性別

区分	基数（人）	構成比（%）
男性	1,102	45.6
女性	1,301	53.8
あてはまらない	2	0.1
無回答	13	0.5
合計	2,418	100.0



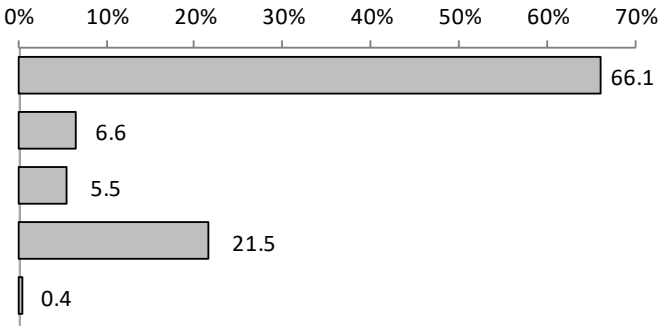
２．年齢

区分	基数（人）	構成比（%）
16～18歳	70	2.9
19～22歳	72	3.0
23･24歳	35	1.4
25～29歳	92	3.8
30～34歳	116	4.8
35～39歳	150	6.2
40～44歳	172	7.1
45～49歳	215	8.9
50～54歳	204	8.4
55～59歳	208	8.6
60～64歳	187	7.7
65～69歳	210	8.7
70～74歳	292	12.1
75～79歳	245	10.1
80歳以上	144	6.0
無回答	6	0.2
合計	2,418	100.0



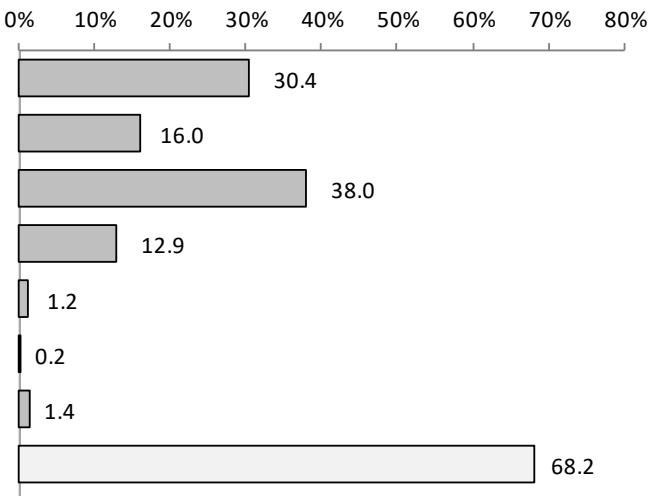
３．配偶者の有無（事実婚を含む）

区分	基数（人）	構成比（%）
いる	1,598	66.1
いない（死別）	159	6.6
いない（離婚）	133	5.5
結婚したことはない（未婚）	519	21.5
無回答	9	0.4
合計	2,418	100.0



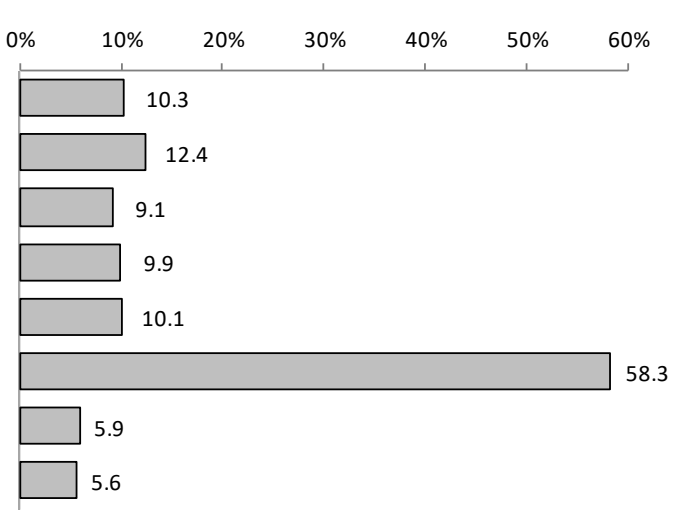
４．子どもの人数

区分		基数（人）	構成比（%）
いない		735	30.4
1人	※1	387	16.0
2人		918	38.0
3人		312	12.9
4人		28	1.2
5人以上		4	0.2
無回答		34	1.4
子どもあり 計 （※1の合計）		1,649	68.2
合計		2,418	100.0



４－１．子どもの成長段階（複数回答）

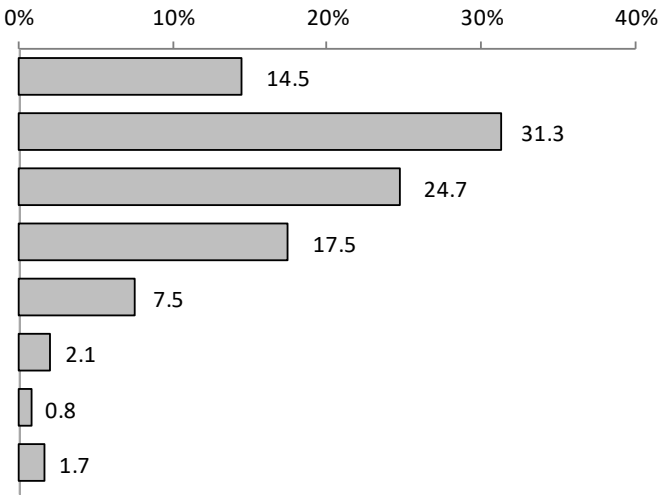
区分	基数（人）	構成比（%）
0歳～小学校入学前	170	10.3
小学生	204	12.4
中学生	150	9.1
高校生	164	9.9
大学生（大学院・専門学校等を含む）	167	10.1
学校教育終了（成人・社会人など）	961	58.3
その他	97	5.9
無回答	93	5.6
合計	2,006	100.0



（注）複数回答につき合計は 2,006 人であるが、回答者数 1,649 人を基数として構成比を算出した。

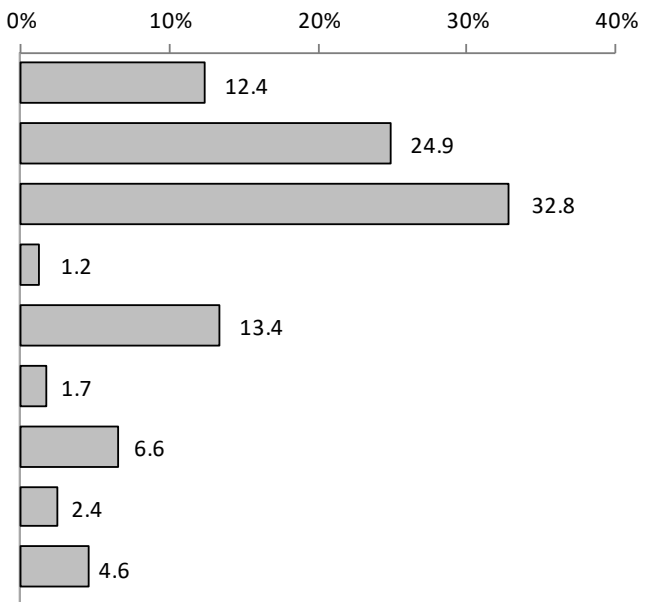
５．同居人数

区分	基数（人）	構成比（%）
1人	350	14.5
2人	756	31.3
3人	598	24.7
4人	422	17.5
5人	181	7.5
6人	51	2.1
7人以上	19	0.8
無回答	41	1.7
合計	2,418	100.0



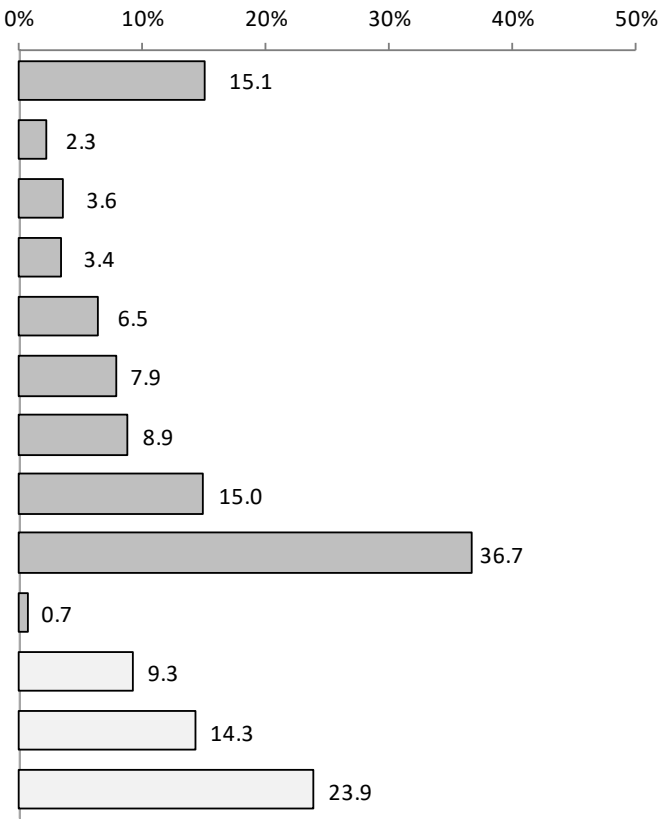
６．世帯構成

区分	基数（人）	構成比（%）
ひとり暮らし	301	12.4
配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）	603	24.9
自分たち夫婦と未婚の子ども（または、自分と未婚の子どもなど）	792	32.8
自分たち夫婦と子ども夫婦（または、自分と子ども夫婦など）	29	1.2
親と自分のみ（または、親と自分と兄弟・姉妹など）	323	13.4
親と自分たち夫婦	41	1.7
三世代（例えば、自分たち夫婦と子どもと孫、親と自分と子どもなど）	160	6.6
その他（四世代など）	57	2.4
無回答	112	4.6
合計	2,418	100.0



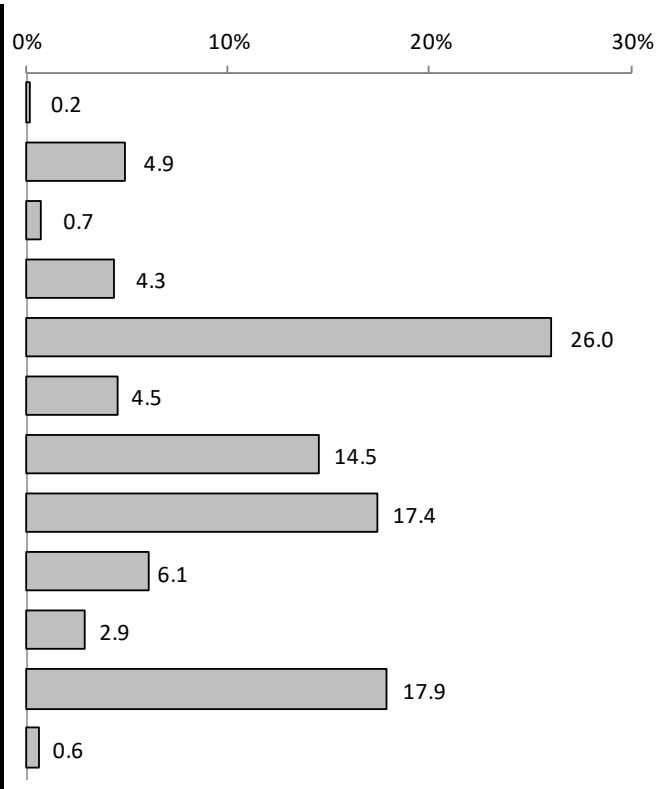
7．居住年数

区分		基数（人）	構成比（%）
生まれてからずっと居住している（年数に関わらず）		366	15.1
1年未満の居住	※1	55	2.3
1～3年未満の居住	※1	88	3.6
3～5年未満の居住	※1	82	3.4
5～10年未満の居住	※2	156	6.5
10～15年未満の居住	※2	190	7.9
15～20年未満の居住	※3	215	8.9
20～30年未満の居住	※3	363	15.0
30年以上の居住		887	36.7
無回答		16	0.7
5年未満計	（※1の合計）	225	9.3
5～15年未満計	（※2の合計）	346	14.3
15～30年未満計	（※3の合計）	578	23.9
合計		2,418	100.0



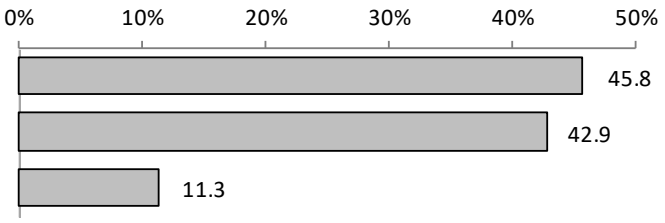
8．職業

区分	基数（人）	構成比（%）
農・林・漁業	5	0.2
自営業	119	4.9
自由業（開業医、弁護士、司法書士など）	16	0.7
会社や団体の役員	104	4.3
会社・商店・サービス業などの勤め人	629	26.0
教員・公務員	110	4.5
アルバイト・パート	350	14.5
（専業）主婦・主夫	420	17.4
学生	148	6.1
その他	70	2.9
無職	433	17.9
無回答	14	0.6
合計	2,418	100.0



８－１．仕事場

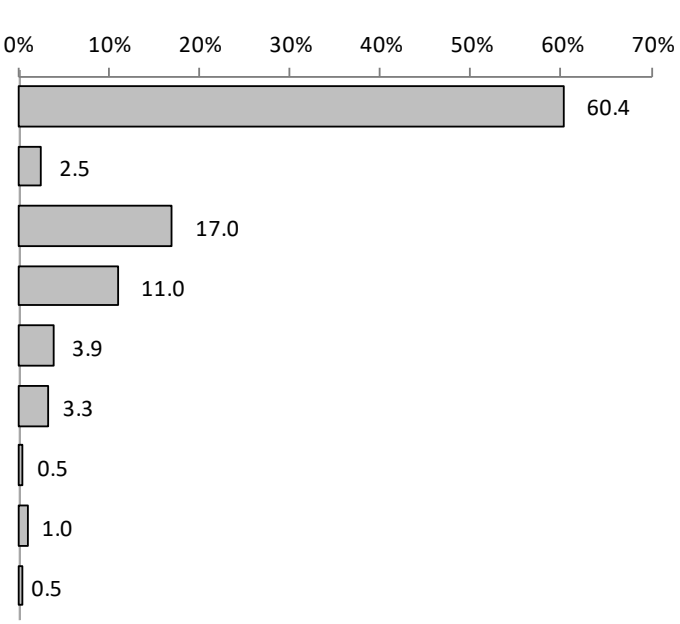
区分	基数（人）	構成比（%）
八王子市内	611	45.8
八王子市外	572	42.9
無回答	150	11.3
合計	1,333	100.0



※職業の回答者のうち、（専業）主婦・主夫、学生、その他、無職、無回答を除いた方に対する質問。

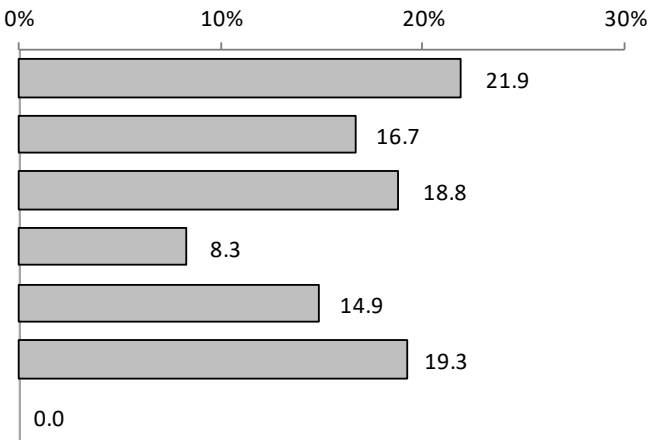
９．居住形態

区分	基数（人）	構成比（%）
戸建て（持ち家）	1,460	60.4
戸建て(借家)	60	2.5
分譲マンション	410	17.0
民間の賃貸アパート・マンション	267	11.0
公営賃貸住宅（都営・市営）	94	3.9
UR（旧公団）・公社の賃貸住宅または都民住宅	80	3.3
社宅・官舎・寮	12	0.5
その他（間借りなど）	24	1.0
無回答	11	0.5
合計	2,418	100.0



10．居住地域

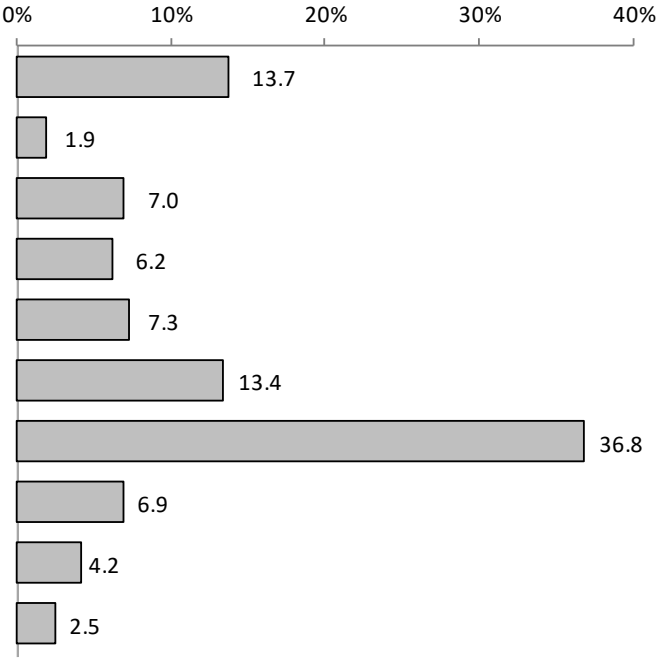
区分	基数（人）	構成比（%）
本庁管内（中央地域）	529	21.9
元八王子・恩方・川口（西部地域）	405	16.7
浅川・横山・館（西南部地域）	455	18.8
加住・石川（北部地域）	200	8.3
由井・北野（東南部地域）	361	14.9
由木・由木東・南大沢（東部地域）	467	19.3
無回答	1	0.0
合計	2,418	100.0



11. ライフステージ

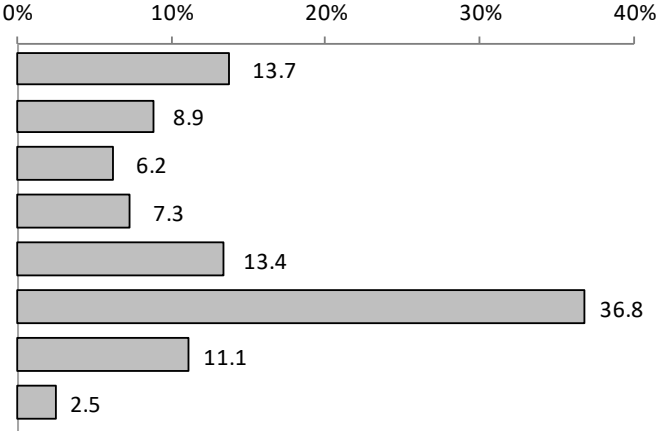
「２．年齢」「３．配偶者の有無」「４．子どもの人数」「４－１．子どもの成長段階」により、ライフステージの区分を作成。

区分	基数（人）	構成比（%）
39歳以下で単身者	331	13.7
39歳以下で配偶者がいて子どもがいない	47	1.9
64歳以下で一番下の子どもが小学校入学前	169	7.0
64歳以下で一番下の子どもが小学生	150	6.2
64歳以下で一番下の子どもが中学・高校生	176	7.3
64歳以下で一番下の子どもが高校を卒業している	325	13.4
65歳以上	891	36.8
40～64歳で単身者	167	6.9
40～64歳で配偶者がいて子どもがいない	101	4.2
無回答	61	2.5
合計	2,418	100.0



■ライフステージ（集約型）

区分	基数（人）	構成比（%）
独身期	331	13.7
家族形成期	216	8.9
家族成長前期	150	6.2
家族成長後期	176	7.3
家族成熟期	325	13.4
老齢期	891	36.8
その他	268	11.1
無回答	61	2.5
合計	2,418	100.0



■ライフステージ区分

独　身　期	39 歳以下で単身者
家 族 形 成 期	39 歳以下で配偶者がいて子どもがいないまたは、64 歳以下で一番下の子どもが小学校入学前
家族成長前期	64 歳以下で一番下の子どもが小学生
家族成長後期	64 歳以下で一番下の子どもが中学・高校生
家 族 成 熟 期	64 歳以下で一番下の子どもが高校を卒業している
老　齢　期	65 歳以上
そ　の　他	40～64 歳で単身者または、40～64 歳で配偶者がいて子どもがいない

III 調査結果

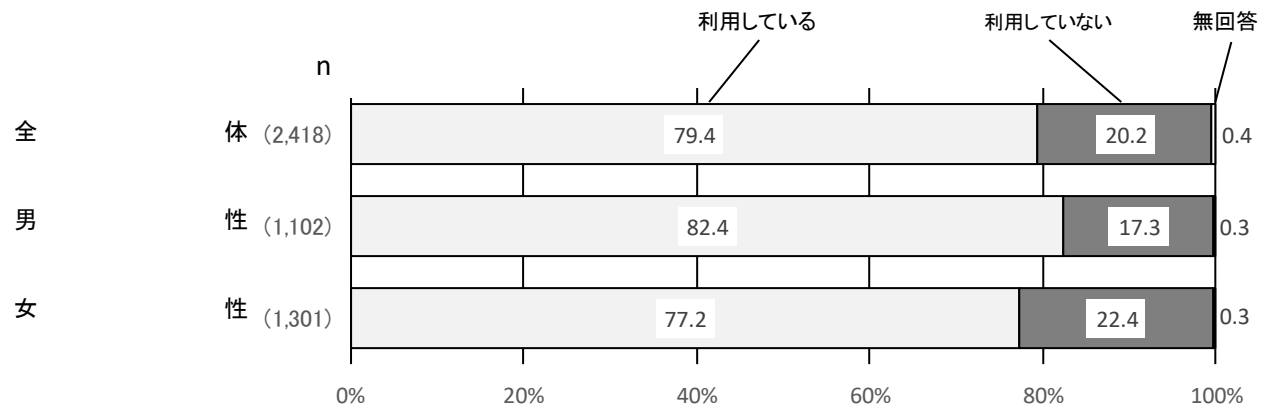
１．日常生活の実態

≪インターネット等利用状況について≫

（１） インターネット利用の有無

問１　インターネットを利用していますか。（○は１つだけ）

図表１－１－１　インターネット利用の有無 － 全体、性別

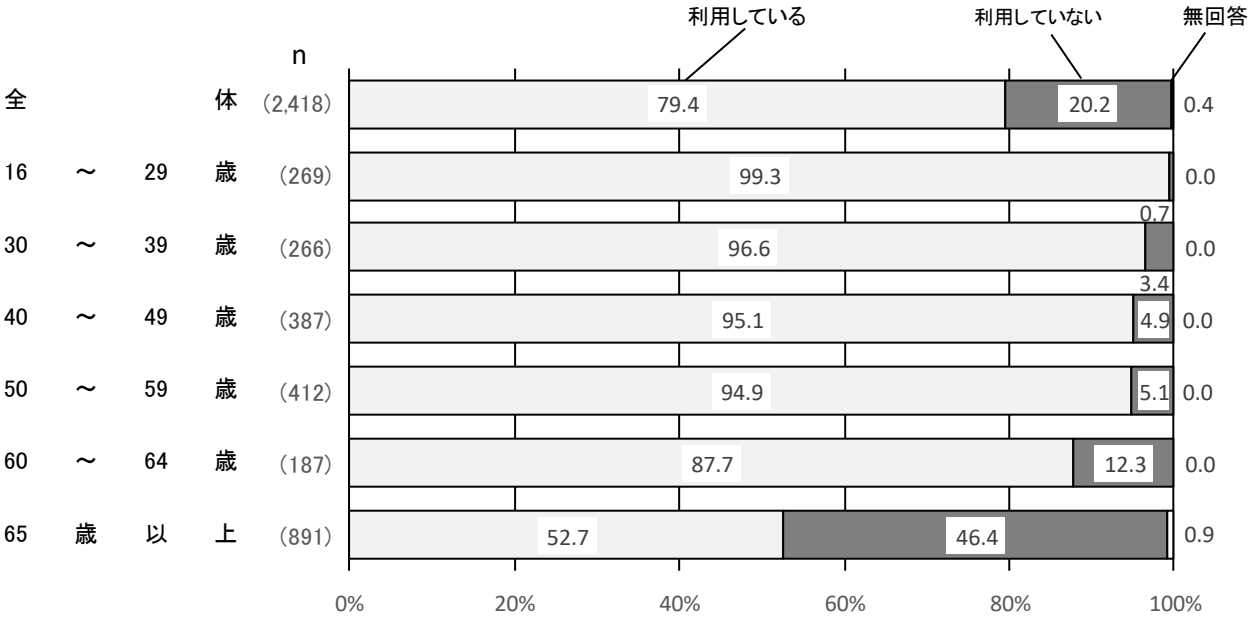


インターネットを利用しているか聞いたところ、「利用している」（79.4%）は８割弱、「利用していない」（20.2%）は約２割となっている。

性別にみると、「利用している」は男性（82.4%）が女性（77.2%）より 5.2 ポイント高くなっている。

（図１－１－１）

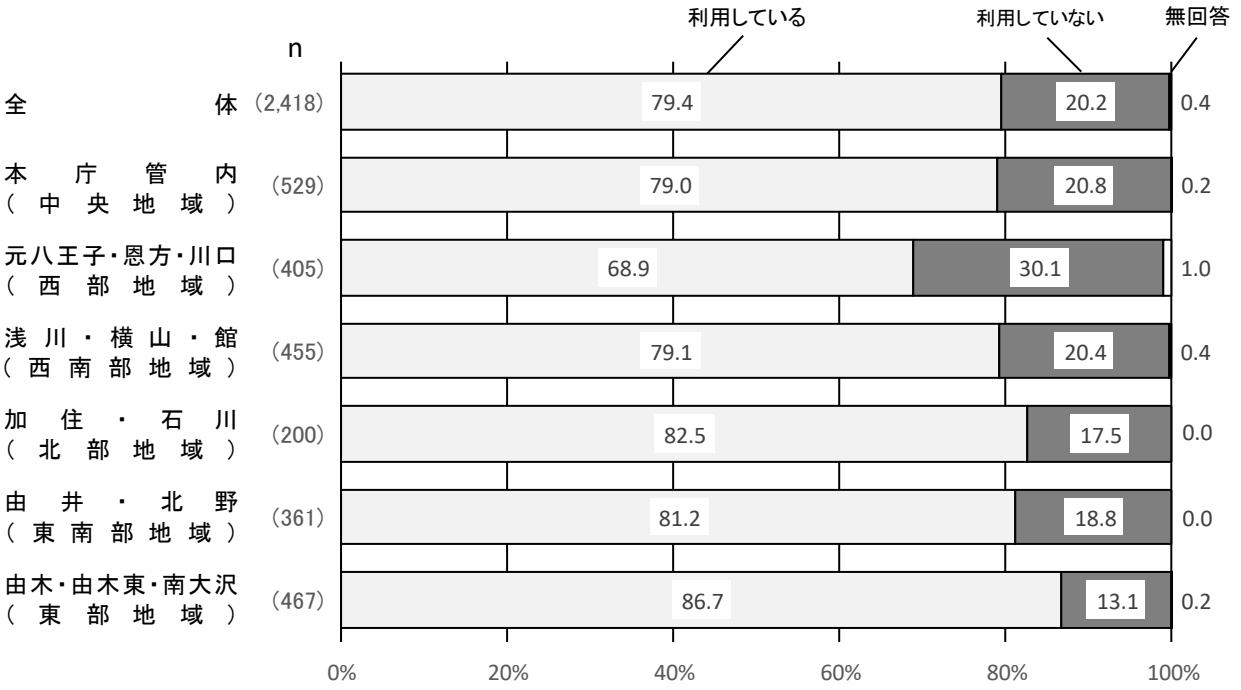
図表１－１－２　インターネット利用の有無 － 年齢別



年齢別にみると、「利用している」は16～29歳（99.3%）で10割弱と最も高くなっている。「利用していない」は年齢層が上がるにつれ割合が高くなっており、65歳以上（46.4%）で５割近くと高くなっている。

（図表１－１－２）

図表１－１－３　インターネット利用の有無 － 居住地域別



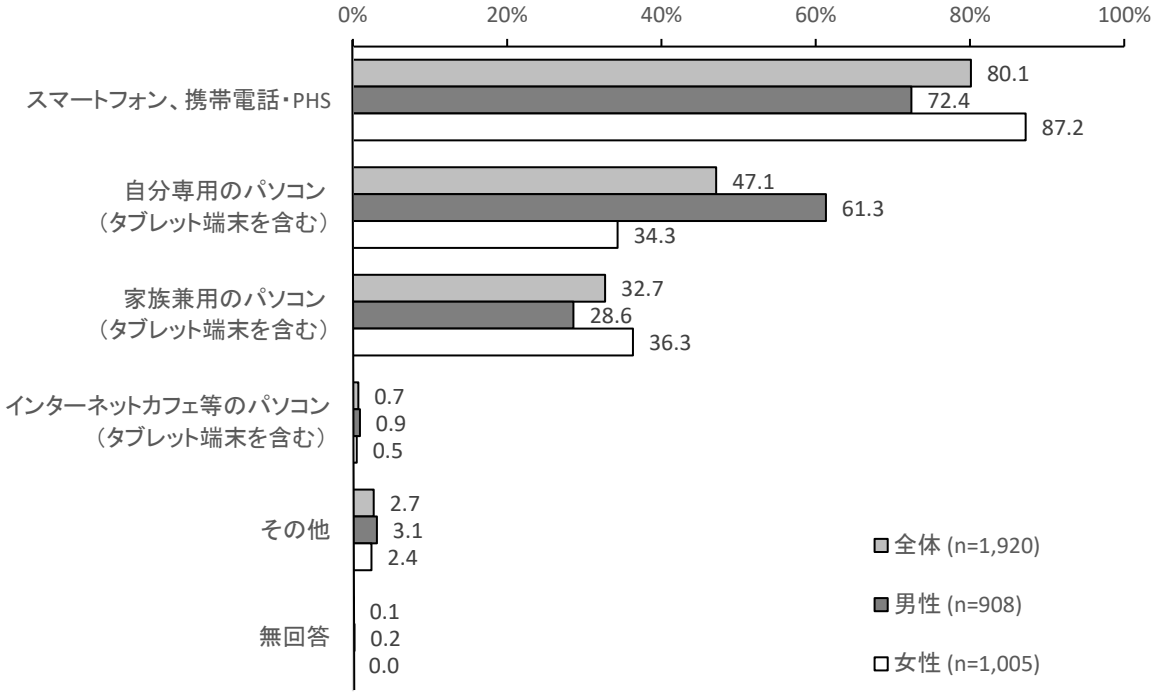
居住地域別にみると、「利用している」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（86.7%）で９割近くと、最も高くなっている。「利用していない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（30.1%）で約３割と高くなっている。（図表１－１－３）

（２） 利用しているインターネット接続端末について

（「１　利用している」を選択した方にお聞きします。）

問１－１　日常的に利用しているインターネット接続端末はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

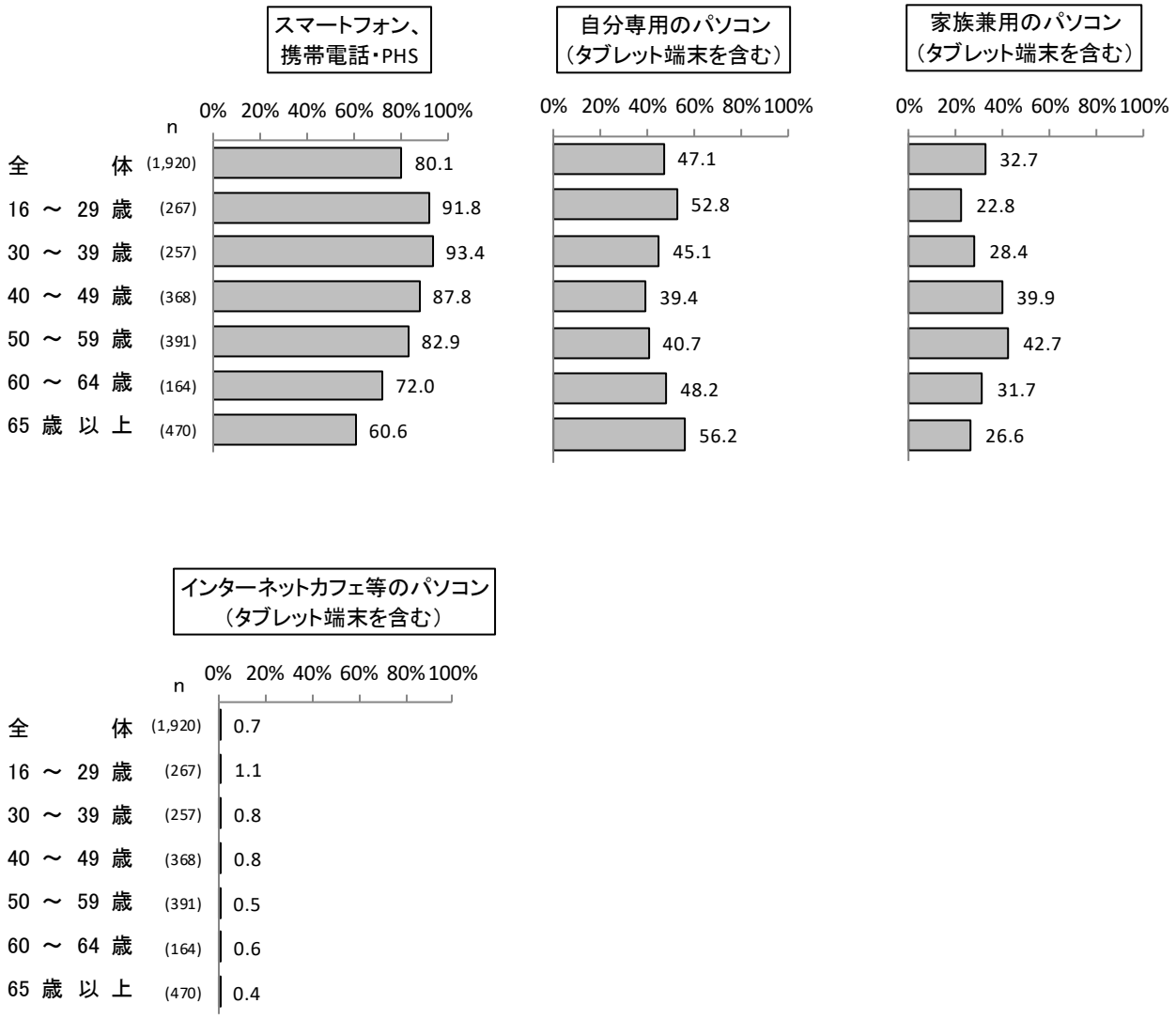
図表１－２－１　利用しているインターネット接続端末 － 全体、性別



利用しているインターネット接続端末について聞いたところ、「スマートフォン、携帯電話・PHS」（80.1％）が最も高く約８割となっている。次いで、「自分専用のパソコン（タブレット端末を含む）」（47.1％）、「家族兼用のパソコン（タブレット端末を含む）」（32.7％）などの順となっている。

性別にみると、「スマートフォン、携帯電話・PHS」は女性（87.2％）が男性（72.4％）より 14.8 ポイント高く、「自分専用のパソコン（タブレット端末を含む）」は男性（61.3％）が女性（34.3％）より 27.0 ポイント高くなっている。（図表１－２－１）

図表１－２－２　利用しているインターネット接続端末 － 年齢別

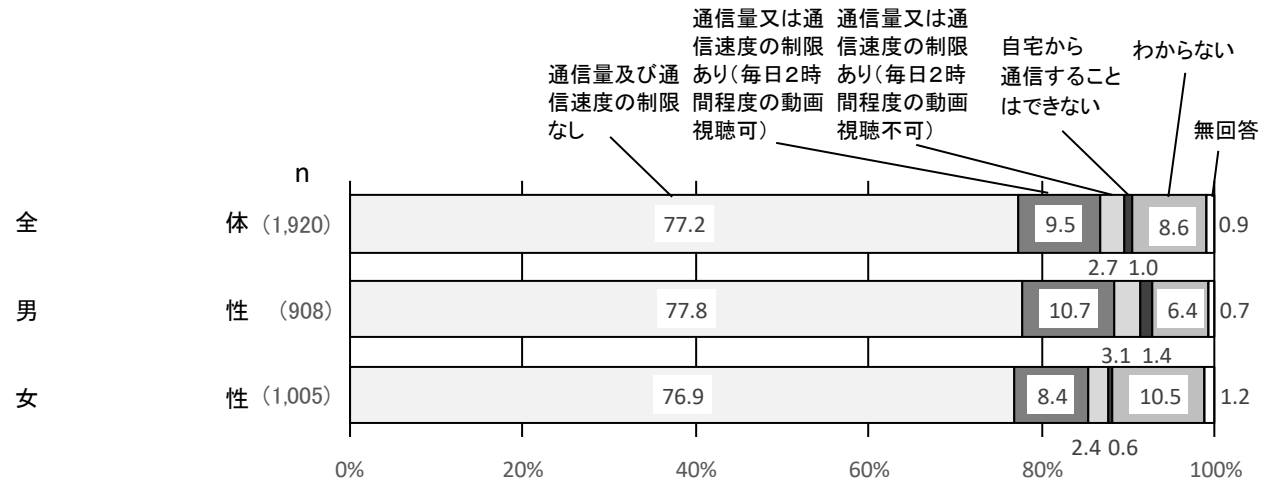


年齢別にみると、「スマートフォン、携帯電話・PHS」はおおむね年齢層が下がるにつれ割合が高くなっており、16～29 歳（91.8%）、30～39 歳（93.4%）で９割強となっている。「自分専用のパソコン（タブレット端末を含む)」は 65 歳以上（56.2%）で６割近くと最も高く、次いで 16～29 歳（52.8%）で５割強となっている。「家族兼用のパソコン（タブレット端末を含む)」は 50～59 歳（42.7%）で４割強、40～49 歳（39.9%）で４割弱と高くなっている。（図表１－２－２）

（3） インターネット環境について

問1-2　ご自宅のインターネット環境を教えてください。（○は１つだけ）

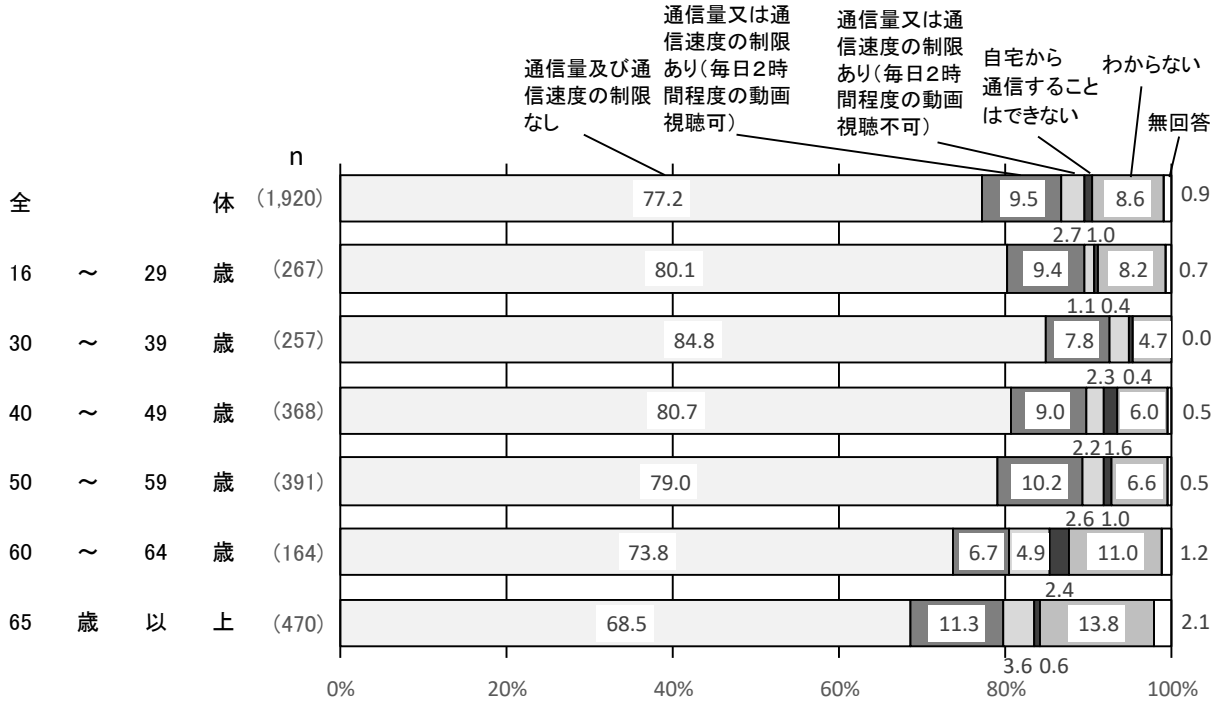
図表１－３－１　インターネット環境 － 全体、性別



インターネット環境について聞いたところ、「通信量及び通信速度の制限なし」（77.2%）が最も高く８割近くとなっている。次いで、「通信量又は通信速度の制限あり（毎日２時間程度の動画視聴可）」（9.5%）、「通信量又は通信速度の制限あり（毎日２時間程度の動画視聴不可）」（2.7%）となっている。

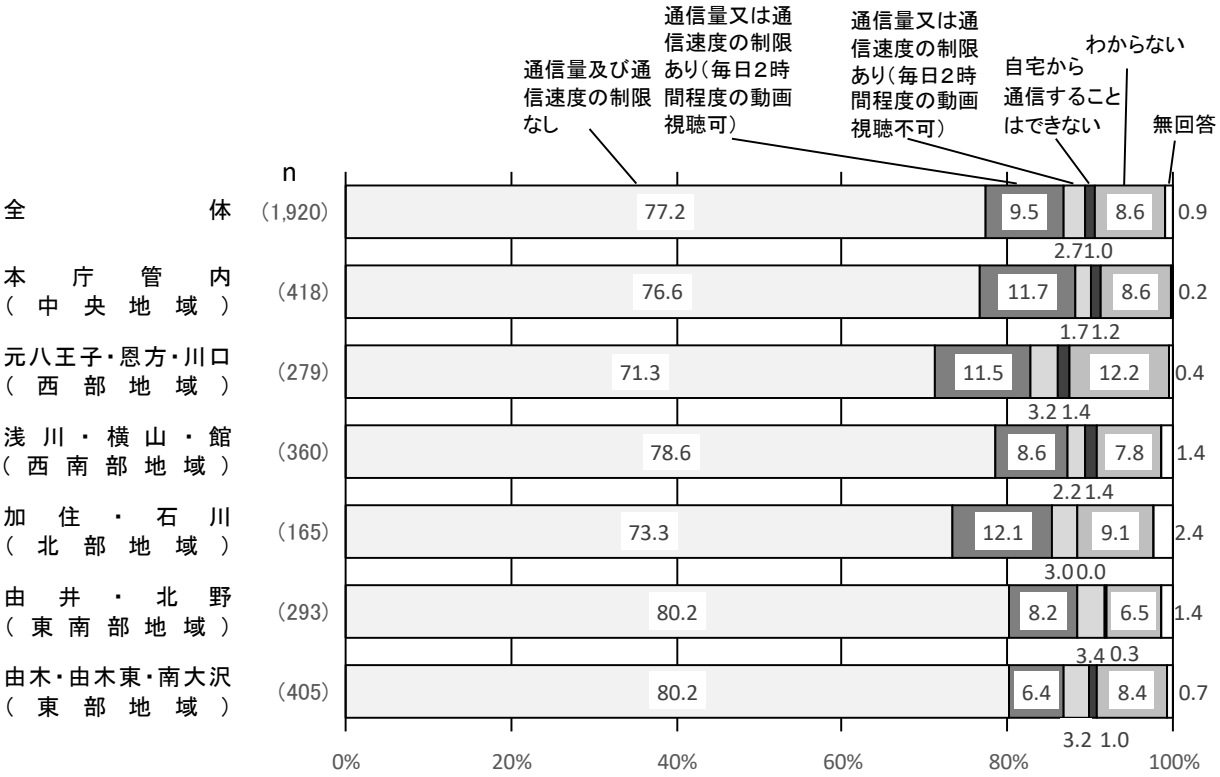
性別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表１－３－１）

図表１－３－２　インターネット環境 － 年齢別



年齢別にみると、「通信量及び通信速度の制限なし」は30～39歳（84.8%）で最も高く８割台半ば、次いで40～49歳（80.7%）、16～29歳（80.1%）となっている。（図表１－３－２）

図表１－３－３　インターネット環境 － 居住地域別

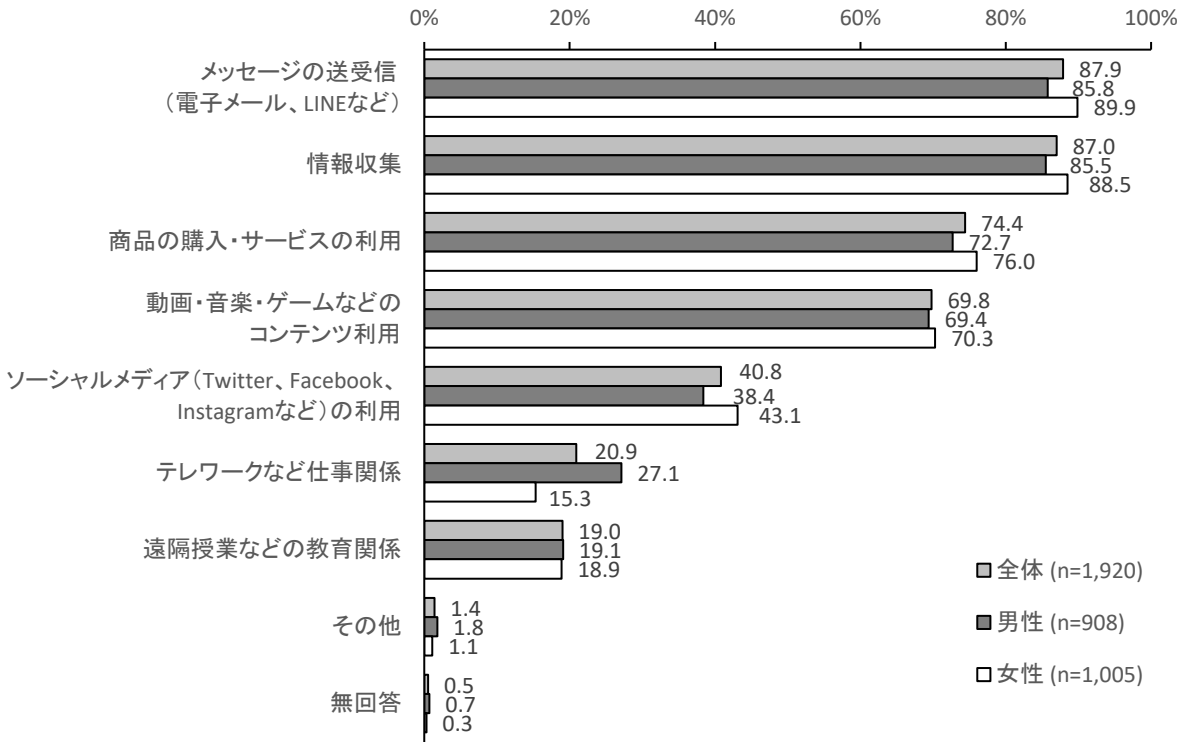


居住地域別にみると、「通信量及び通信速度の制限なし」は由井・北野（東南部地域）（80.2%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（80.2%）でともに約８割と最も高くなっている。（図表１－３－３）

（４） インターネットの利用目的

問１−３　インターネットの利用目的を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

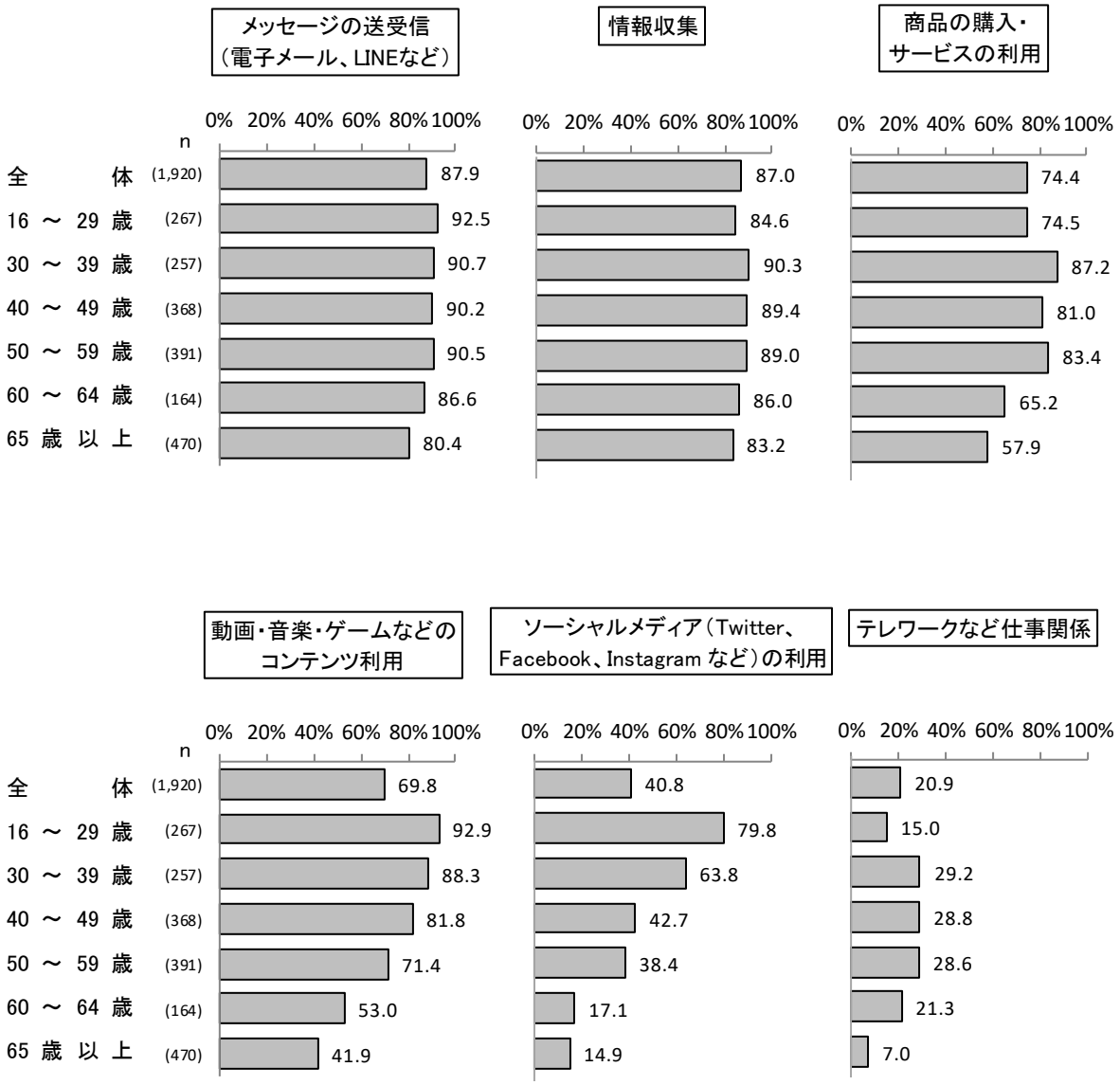
図表１－４－１　インターネットの利用目的 － 全体、性別



インターネットの利用目的について聞いたところ、「メッセージの送受信（電子メール、LINE など）」（87.9%）が最も高く９割近くとなっている。次いで、「情報収集」（87.0%）、「商品の購入・サービスの利用」（74.4%）、「動画・音楽・ゲームなどのコンテンツ利用」（69.8%）などの順となっている。

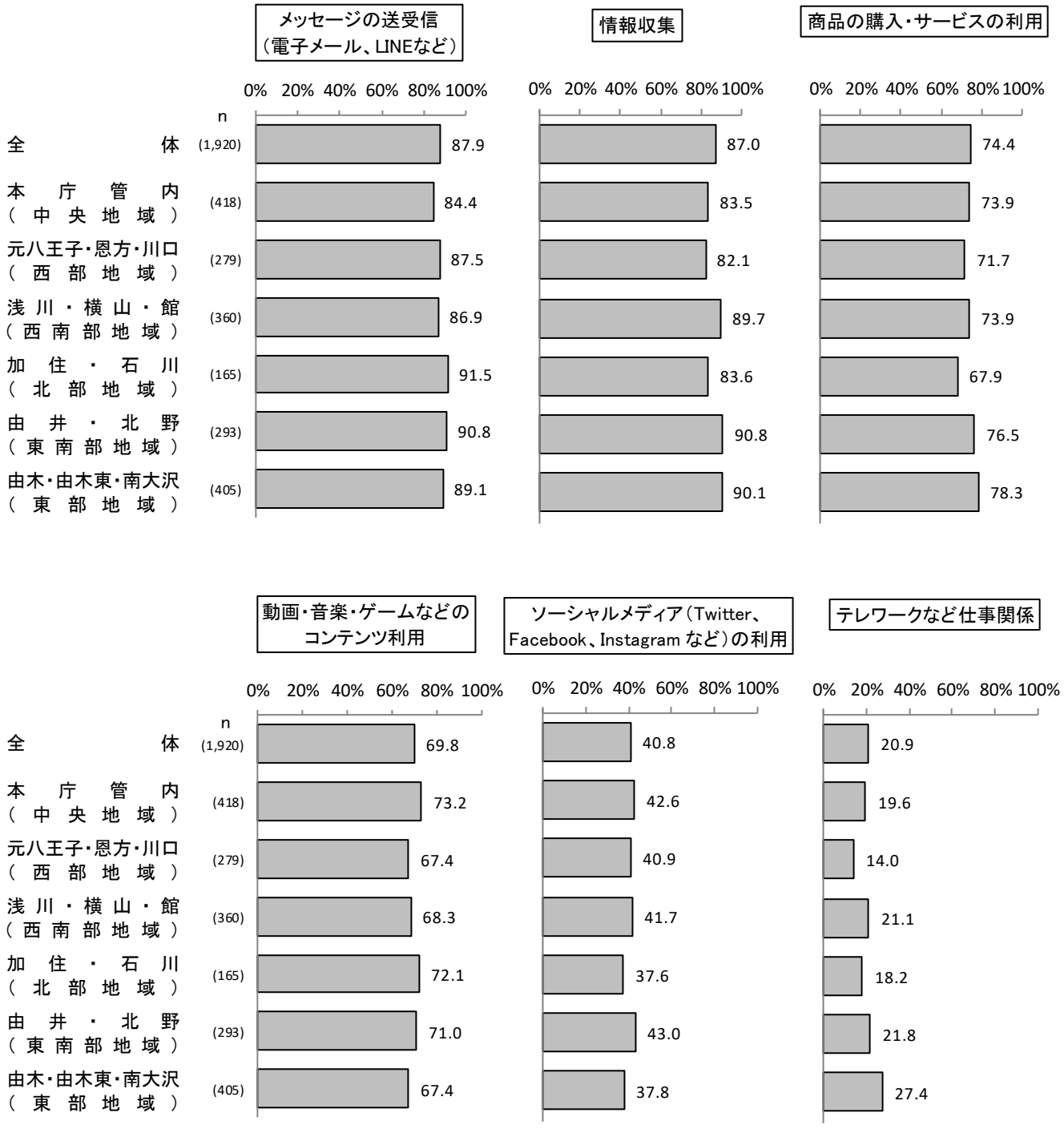
性別にみると、「テレワークなど仕事関係」は男性（27.1%）が女性（15.3%）より 11.8 ポイント高くなっている。（図表１－４－１）

図表１－４－２　インターネットの利用目的 － 年齢別（上位６位）



年齢別にみると、「メッセージの送受信（電子メール、LINE など）」「情報収集」はすべての年齢層で８割以上となっている。「動画・音楽・ゲームなどのコンテンツ利用」は年齢層が下がるにつれて割合が高くなっており、16～29 歳（92.9％）で９割強となっている。また、「ソーシャルメディア（Twitter、Facebook、Instagram など）の利用」も年齢層が下がるにつれて割合が高くなっており、16～29 歳（79.8％）で８割弱となっている。（図表１－４－２）

図表１－４－３　インターネットの利用目的 － 居住地域別（上位６位）



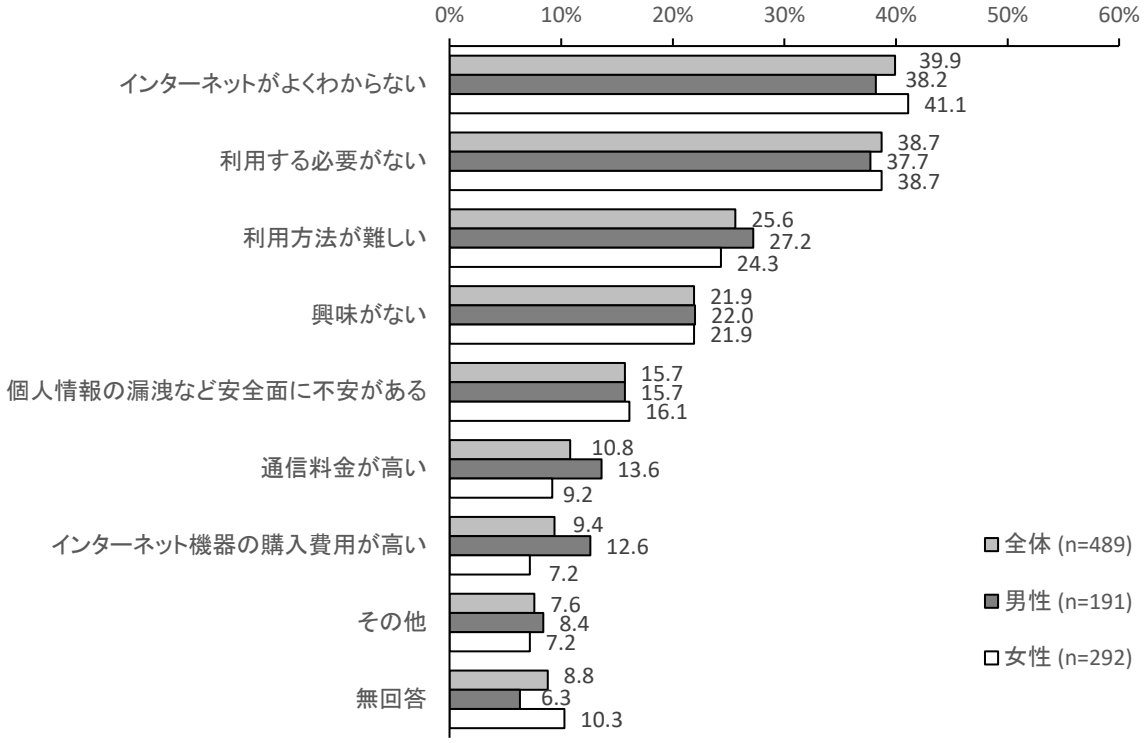
居住地域別にみると、「テレワークなど仕事関係」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（27.4%）で３割近くと高くなっている。（図表１－４－３）

（５） インターネットを利用していない理由

（「２　利用していない」を選択した方にお聞きします。）

問１-４　インターネットを利用していない理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

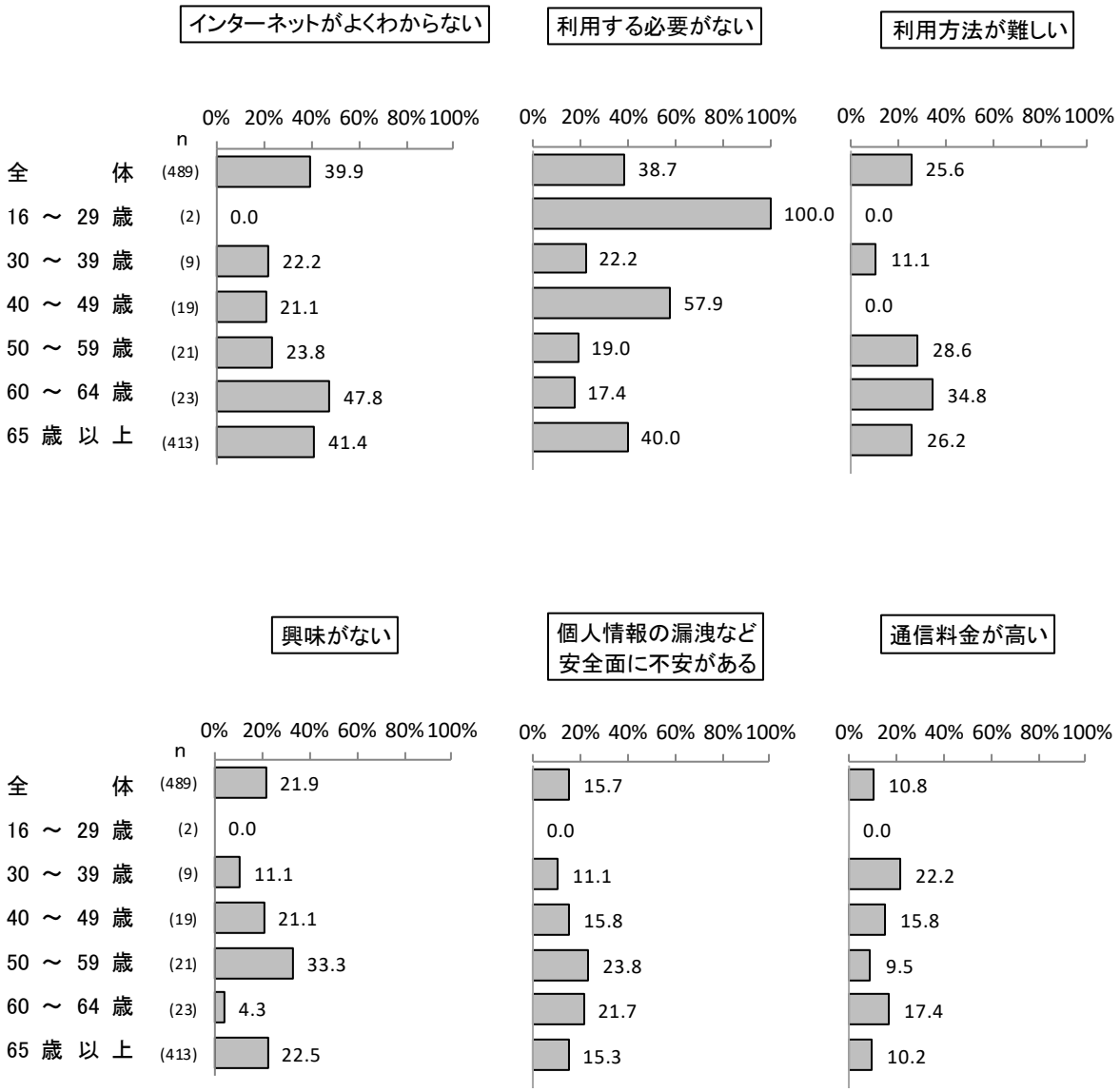
図表１－５－１　インターネットを利用していない理由 － 全体、性別



インターネットを「利用していない」と回答した 489 人に、その理由について聞いたところ、「インターネットがよくわからない」（39.9%）が最も高く４割弱となっている。次いで「利用する必要がない」（38.7%）、「利用方法が難しい」（25.6%）、「興味がない」（21.9%）などの順となっている。

性別にみると、「インターネット機器の購入費用が高い」は男性（12.6%）が女性（7.2%）より 5.4 ポイント高くなっている。（図表１－５－１）

図表１－５－２　インターネットを利用していない理由 － 年齢別（上位６位）



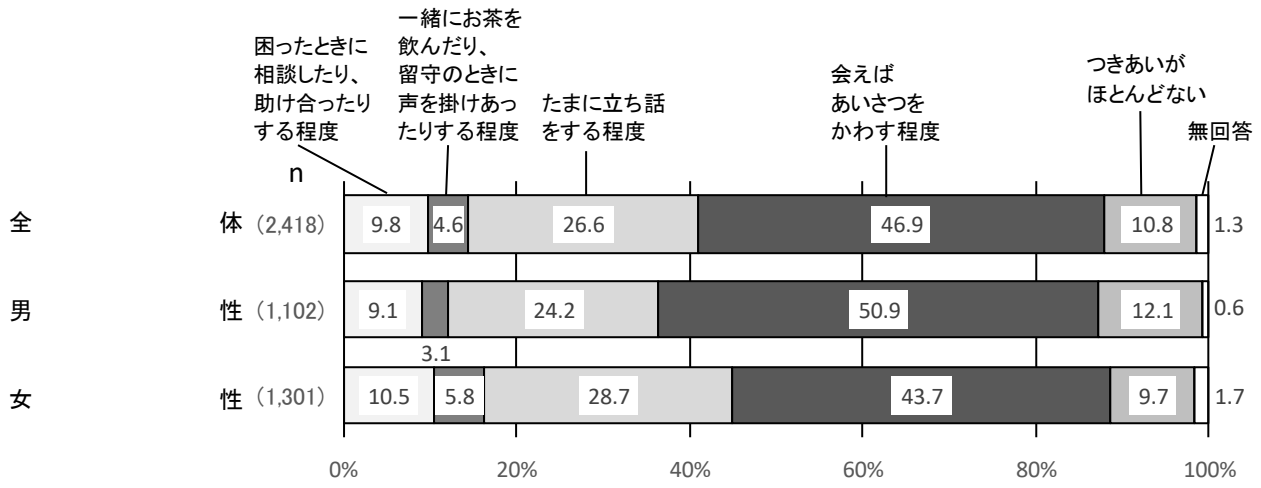
年齢別にみると、65 歳以上では「インターネットがよくわからない」(41.4%)、「利用する必要がない」(40.0%)が４割台と高くなっている。（図表１－５－２）

≪身近な生活及び生活環境について≫

（６） 隣近所とのつきあい方

問２　あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。つきあいの程度（度合い）としてお答えください。（○は１つだけ）

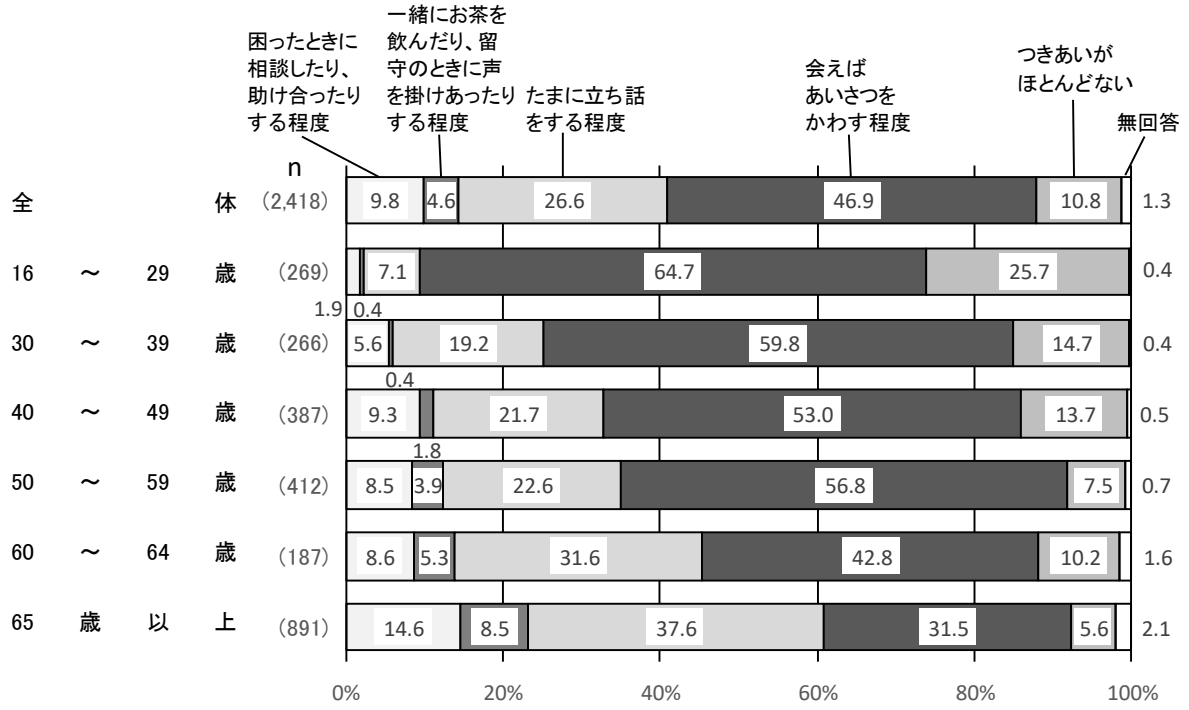
図表１－６－１　隣近所とのつきあい方 － 全体、性別



隣近所とのつきあい方について聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」（46.9%）が最も高く５割近くとなっている。次いで「たまに立ち話をする程度」（26.6%）が３割近く、「困ったときに相談したり、助け合ったりする程度」（9.8%）が１割弱となっている。一方、「つきあいがほとんどない」（10.8%）は約１割となっている。

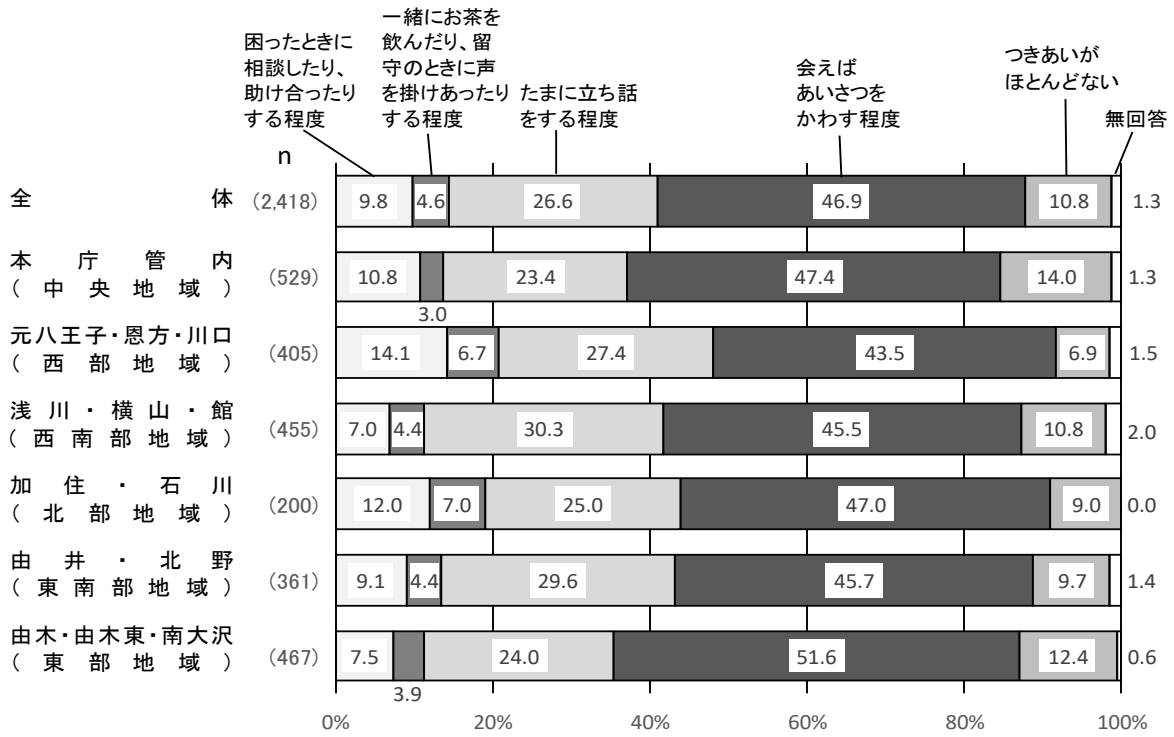
性別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は男性（50.9%）が女性（43.7%）より 7.2 ポイント高くなっている。（図表１－６－１）

図表１－６－２　隣近所とのつきあい方 － 年齢別



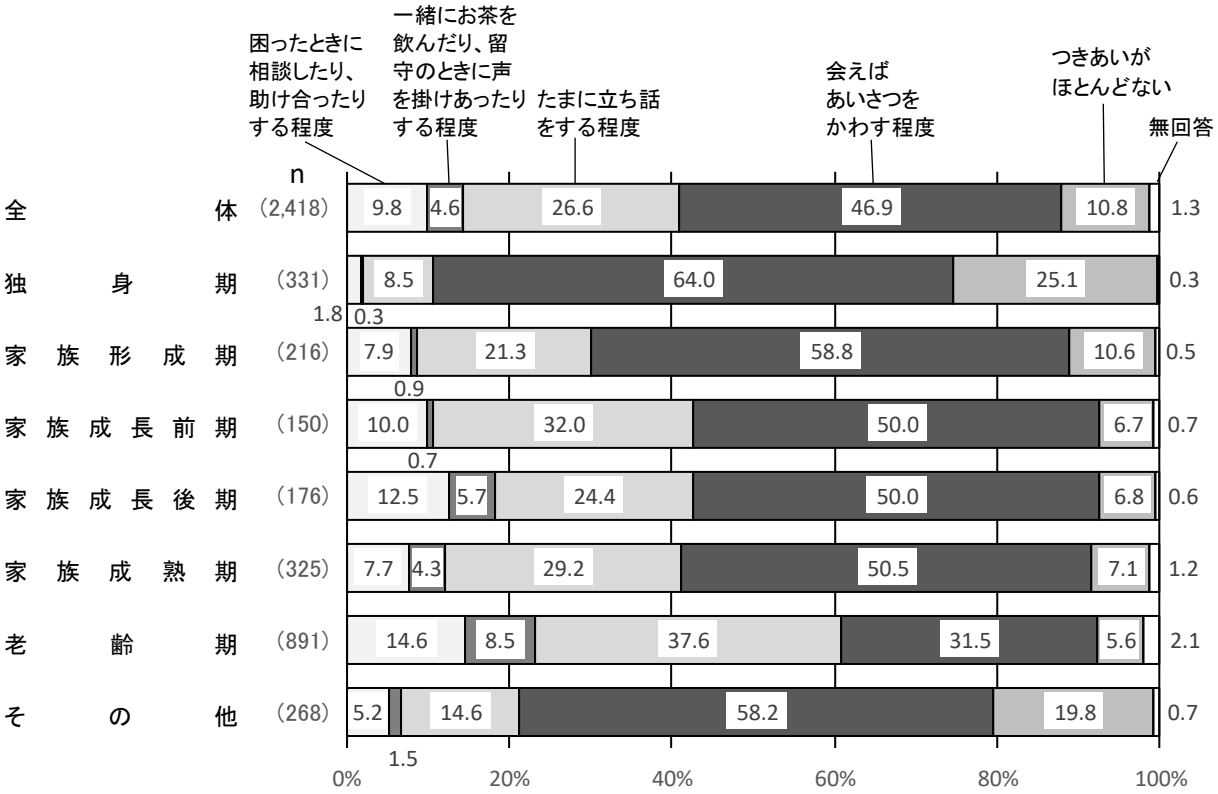
年齢別にみると、「たまに立ち話をする程度」は年齢層が上がるにつれて割合が高くなっており、65 歳以上（37.6%）で４割近くとなっている。「会えばあいさつをかわす程度」は 16～29 歳（64.7%）で６割台半ばと高くなっている。また、「つきあいがほとんどない」も 16～29 歳（25.7%）が２割台半ばと高くなっている。（図表１－６－２）

図表１－６－３　隣近所とのつきあい方 － 居住地域別



居住地域別にみると、「困ったときに相談したり、助け合ったりする程度」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（14.1%）で最も高く１割台半ばとなっている。（図表１－６－３）

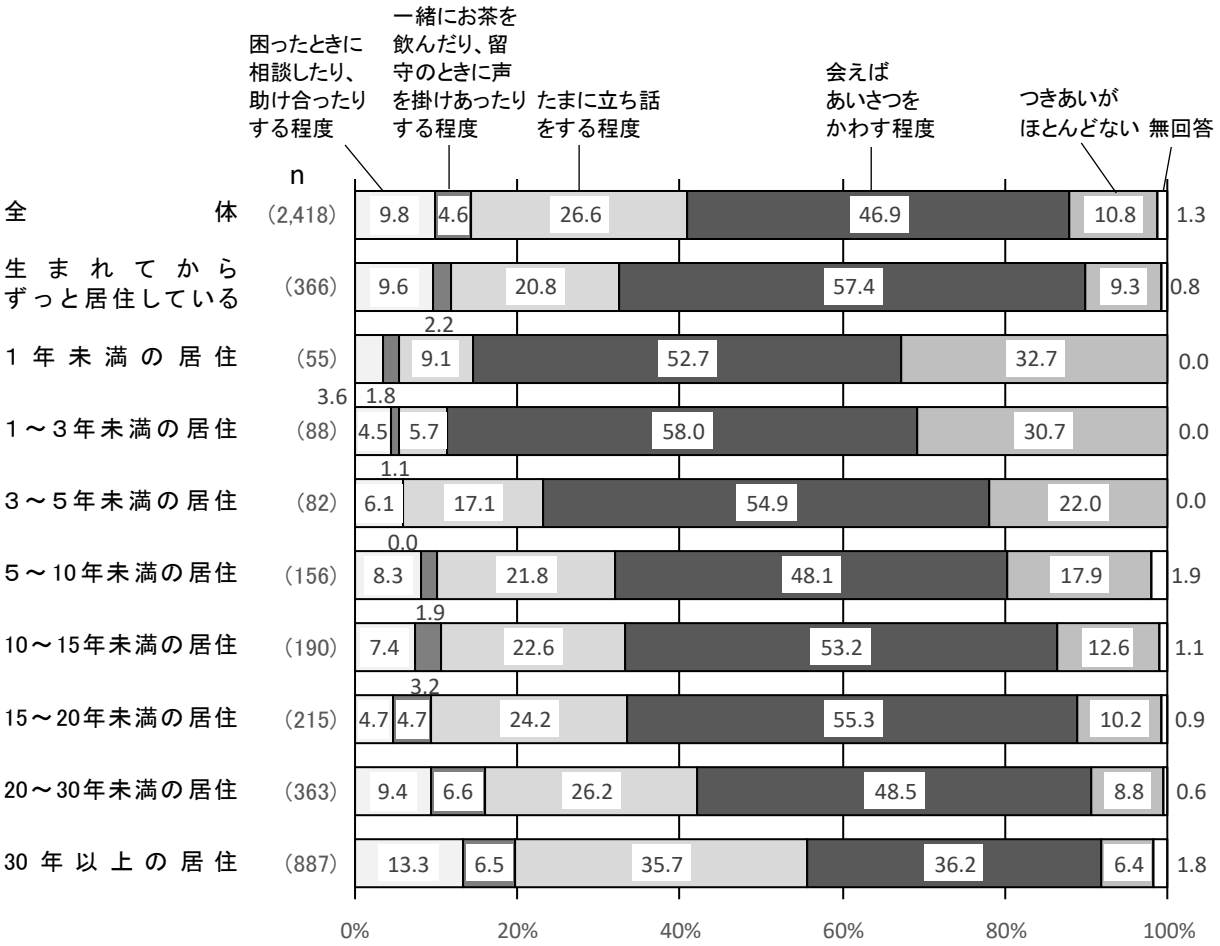
図表１－６－４　隣近所とのつきあい方 － ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は独身期（64.0%）で６割台半ばと高くなっている。また、「つきあいがほとんどない」も独身期（25.1%）で２割台半ばと高くなっている。

（図表１－６－４）

図表１－６－５　隣近所とのつきあい方 － 居住年数別

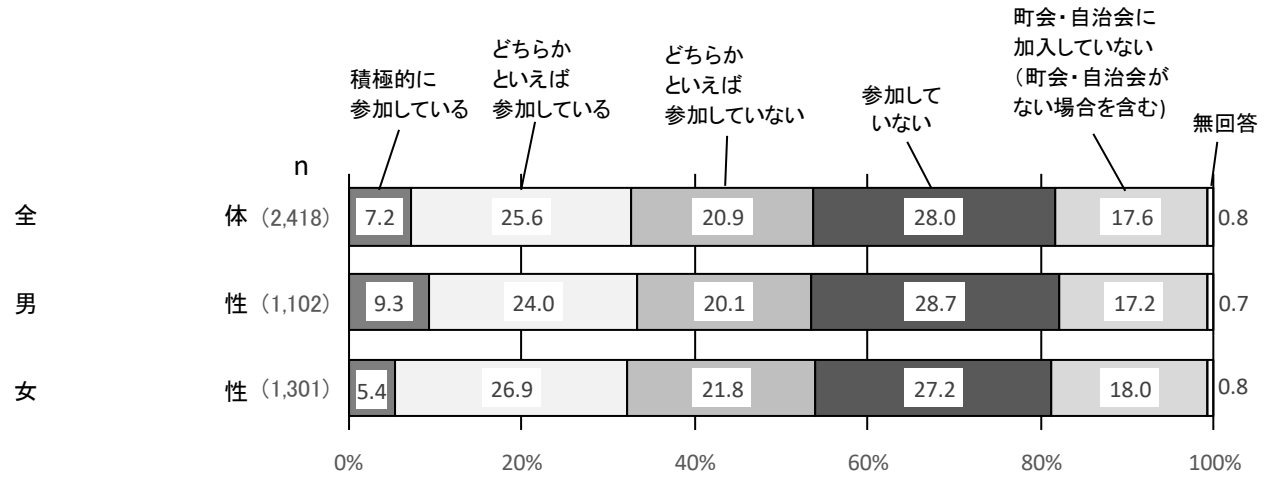


居住年数別にみると、「たまに立ち話をする程度」は30年以上の居住（35.7%）で３割台半ばと高くなっている。「つきあいがほとんどない」は１年未満の居住（32.7%）で３割強、１～３年未満の居住（30.7%）で約３割と高くなっている。（図表１－６－５）

（７） 町会・自治会活動への参加度合い

問３　あなたの町会・自治会活動への参加度合いを教えてください。（○は１つだけ）

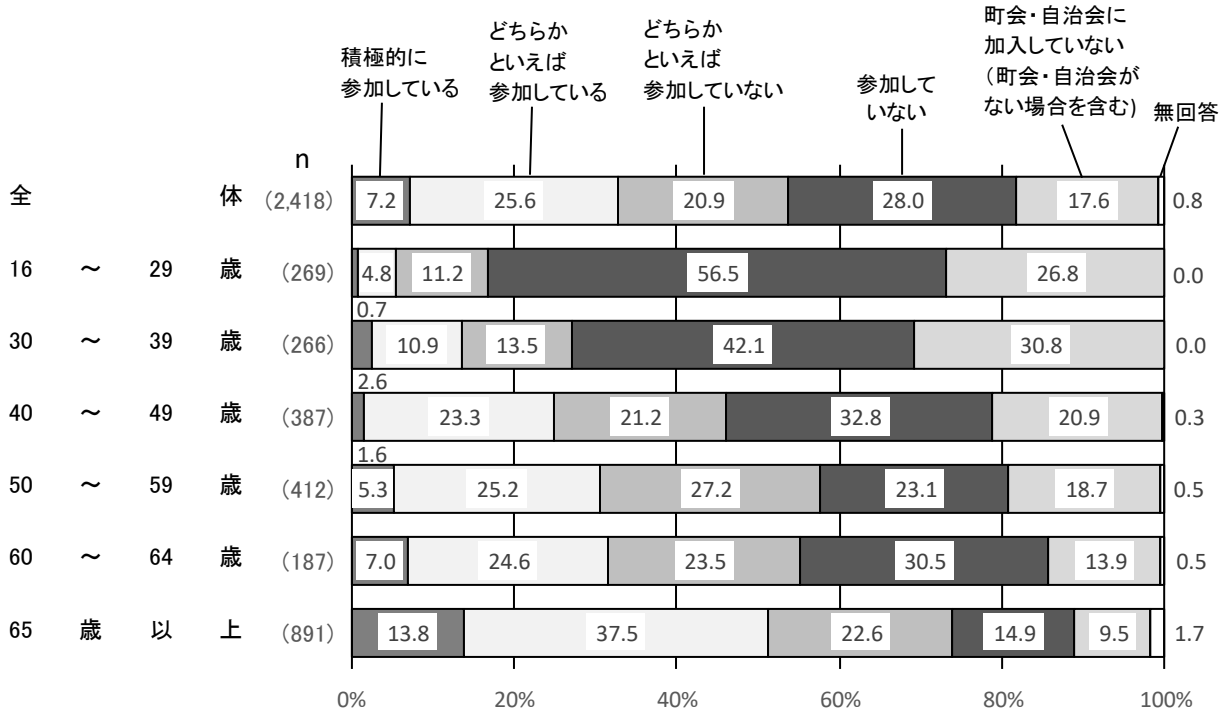
図表１－７－１　町会・自治会活動への参加度合い － 全体、性別



町会・自治会活動への参加度合いについて聞いたところ、「積極的に参加している」（7.2%）と「どちらかといえば参加している」（25.6%）を合わせた≪参加している≫（32.8%）は３割強となっている。一方、「どちらかといえば参加していない」（20.9%）と「参加していない」（28.0%）を合わせた≪参加していない≫（48.9%）は５割近くとなっている。「町会・自治会に加入していない（町会・自治会がない場合を含む）」（17.6%）は２割近くとなっている。

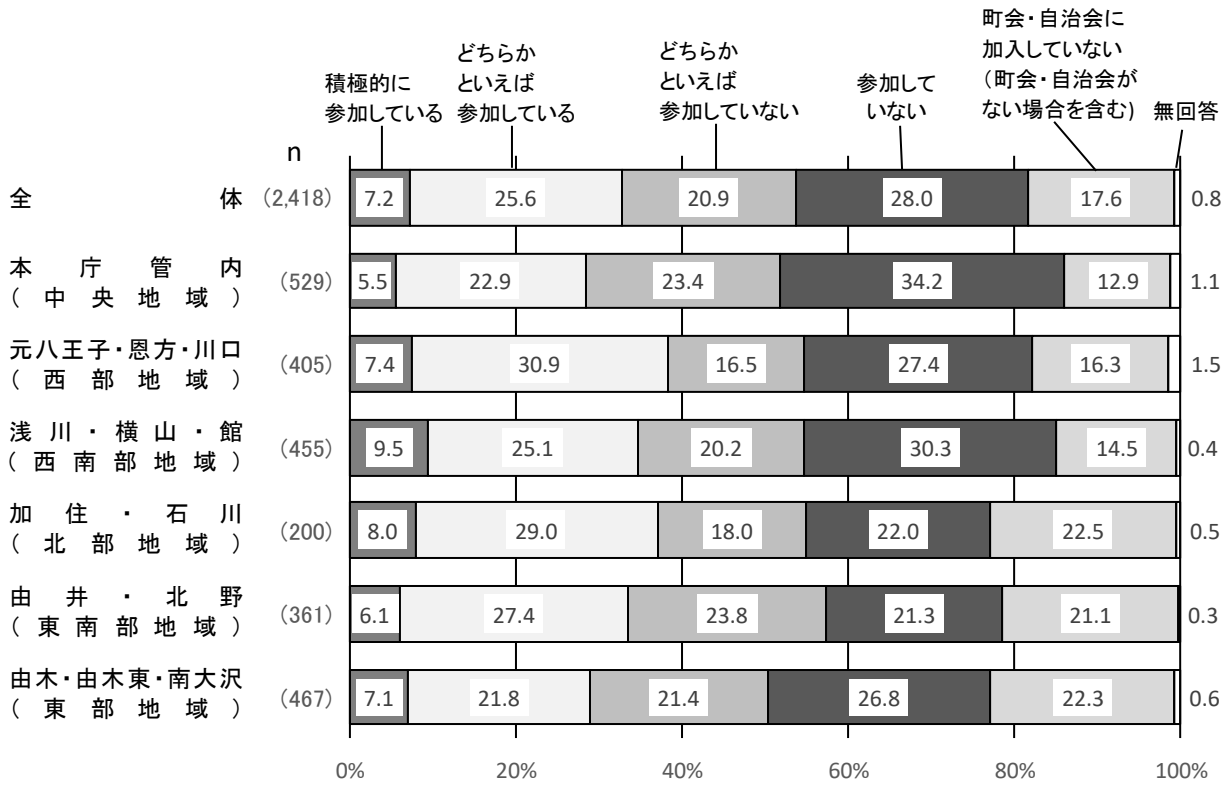
性別にみると、「積極的に参加している」は、男性（9.3%）が女性（5.4%）より 3.9 ポイント高くなっている。（図表１－７－１）

図表１－７－２　町会・自治会活動への参加度合い － 年齢別



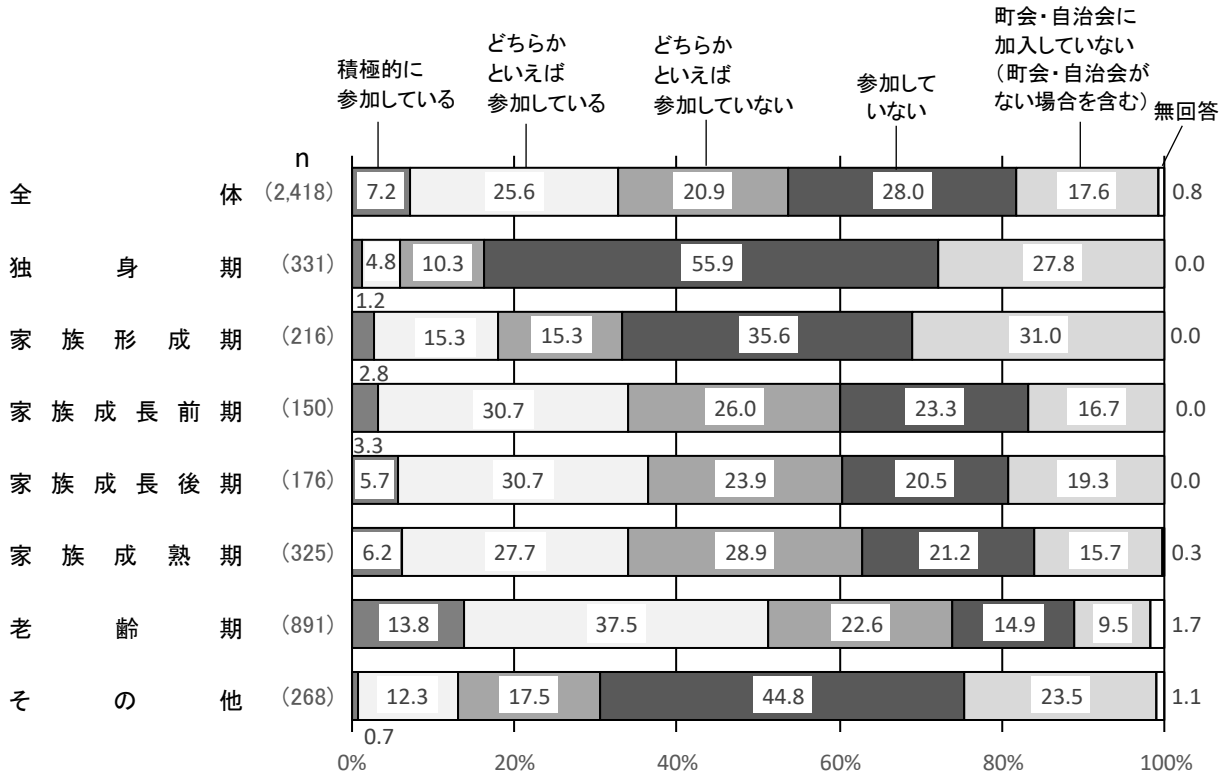
年齢別にみると、≪参加している≫は年齢層が上がるにつれて割合が高くなっており、65 歳以上（51.3%）で５割強となっている。（図表１－７－２）

図表１－７－３　町会・自治会活動への参加度合い － 居住地域別



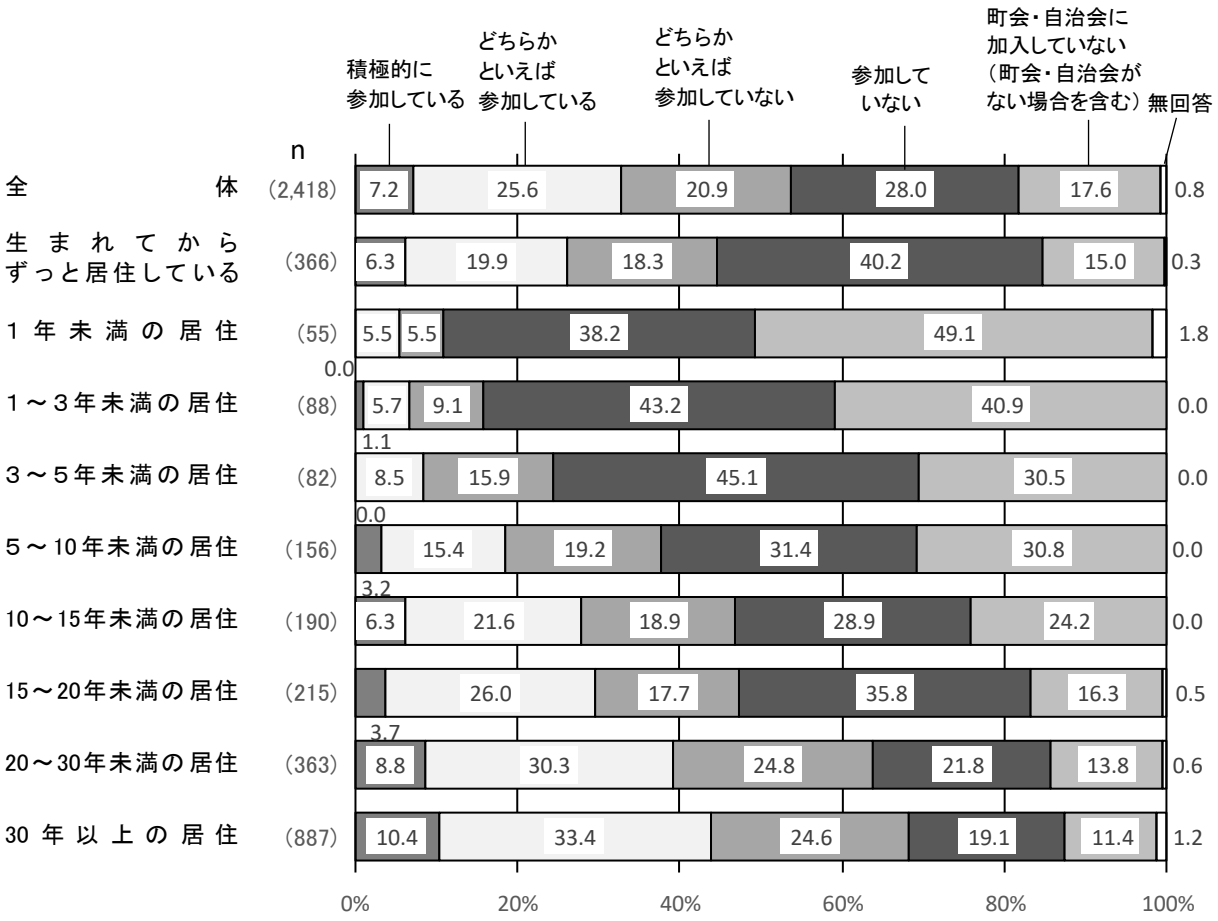
居住地域別にみると、≪参加している≫は、元八王子・恩方・川口（西部地域）（38.3%）、加住・石川（北部地域）（37.0%）で４割近くと高くなっている。（図表１－７－３）

図表１－７－４　町会・自治会活動への参加度合い ― ライフステージ別



ライフステージ別にみると、≪参加している≫は老齢期（51.3%）で５割強と高くなっている。≪参加していない≫は独身期（66.2%）で７割近くと高くなっている。「町会・自治会に加入していない（町会・自治会がない場合を含む）」は家族形成期（31.0%）で３割強と高くなっている。（図表１－７－４）

図表１－７－５　町会・自治会活動への参加度合い － 居住年数別



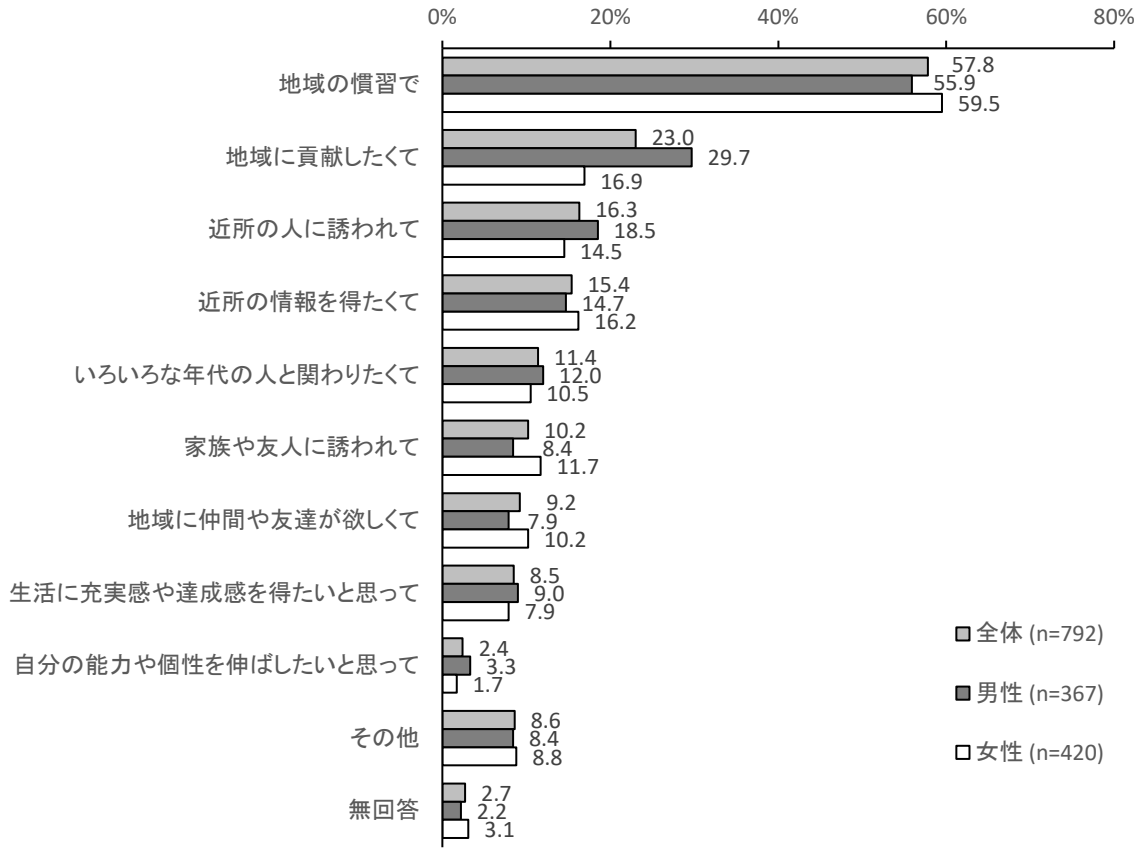
居住年数別にみると、≪参加している≫は居住年数が長くなるにつれ割合が高くなっており、30 年以上の居住（43.8%）で４割強となっている。「町会・自治会に加入していない（町会・自治会がない場合を含む)」は１年未満の居住（49.1%）で５割弱と高くなっている。（図表１－７－５）

（８） 町会・自治会活動に参加したきっかけ

（「１　積極的に参加している」、「２　どちらかといえば参加している」を選択した方にお聞きします。）

問３－１　あなたが町会・自治会活動に参加したきっかけを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

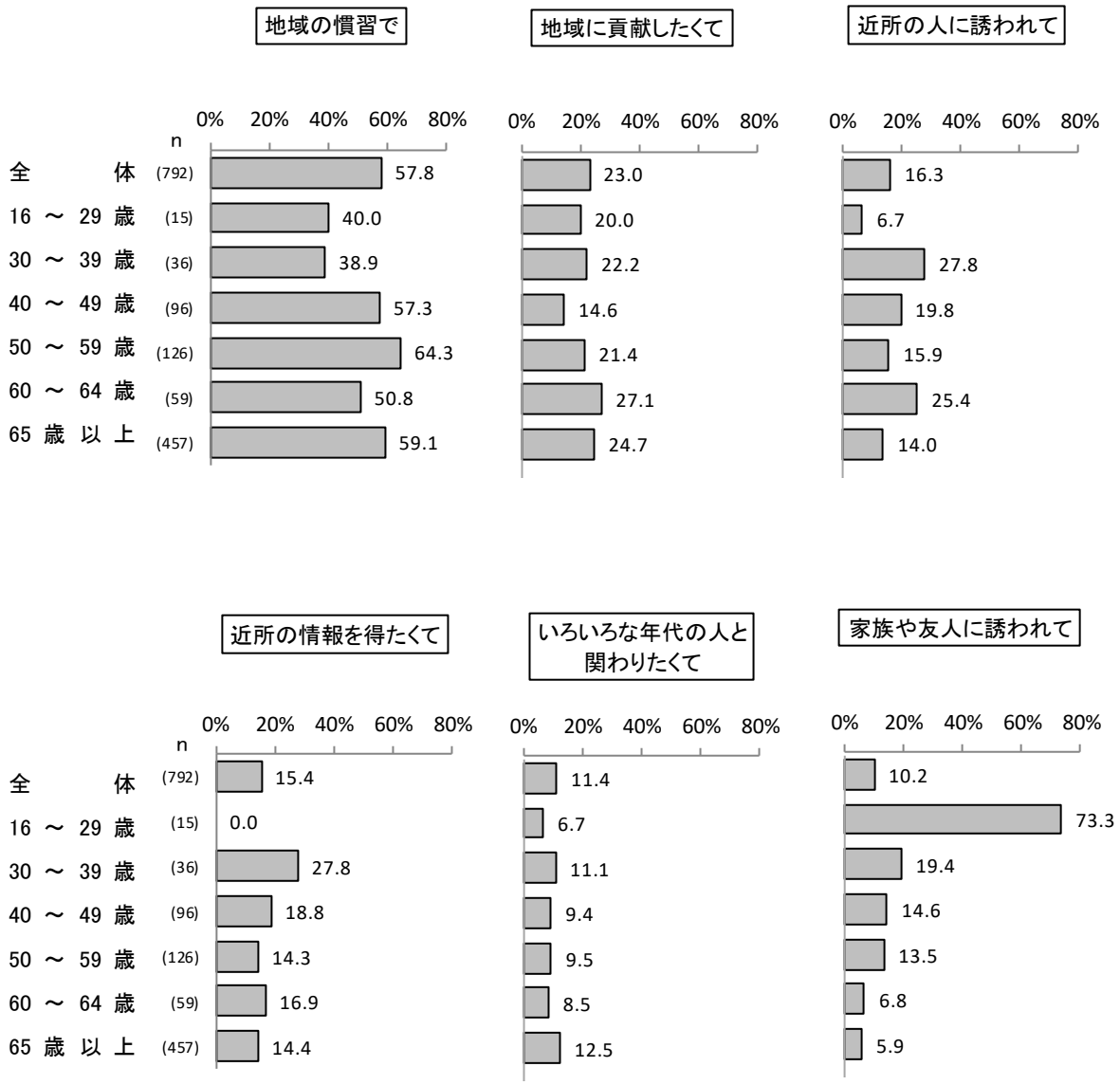
図表１－８－１　町会・自治会活動に参加したきっかけ ― 全体、性別



町会・自治会活動に「積極的に参加している」または「どちらかといえば参加している」と回答した 792 人に、参加したきっかけについて聞いたところ、「地域の慣習で」(57.8%) が最も高く６割近くとなっている。次いで、「地域に貢献したくて」(23.0%)、「近所の人に誘われて」(16.3%)、「近所の情報を得たくて」(15.4%) などの順となっている。

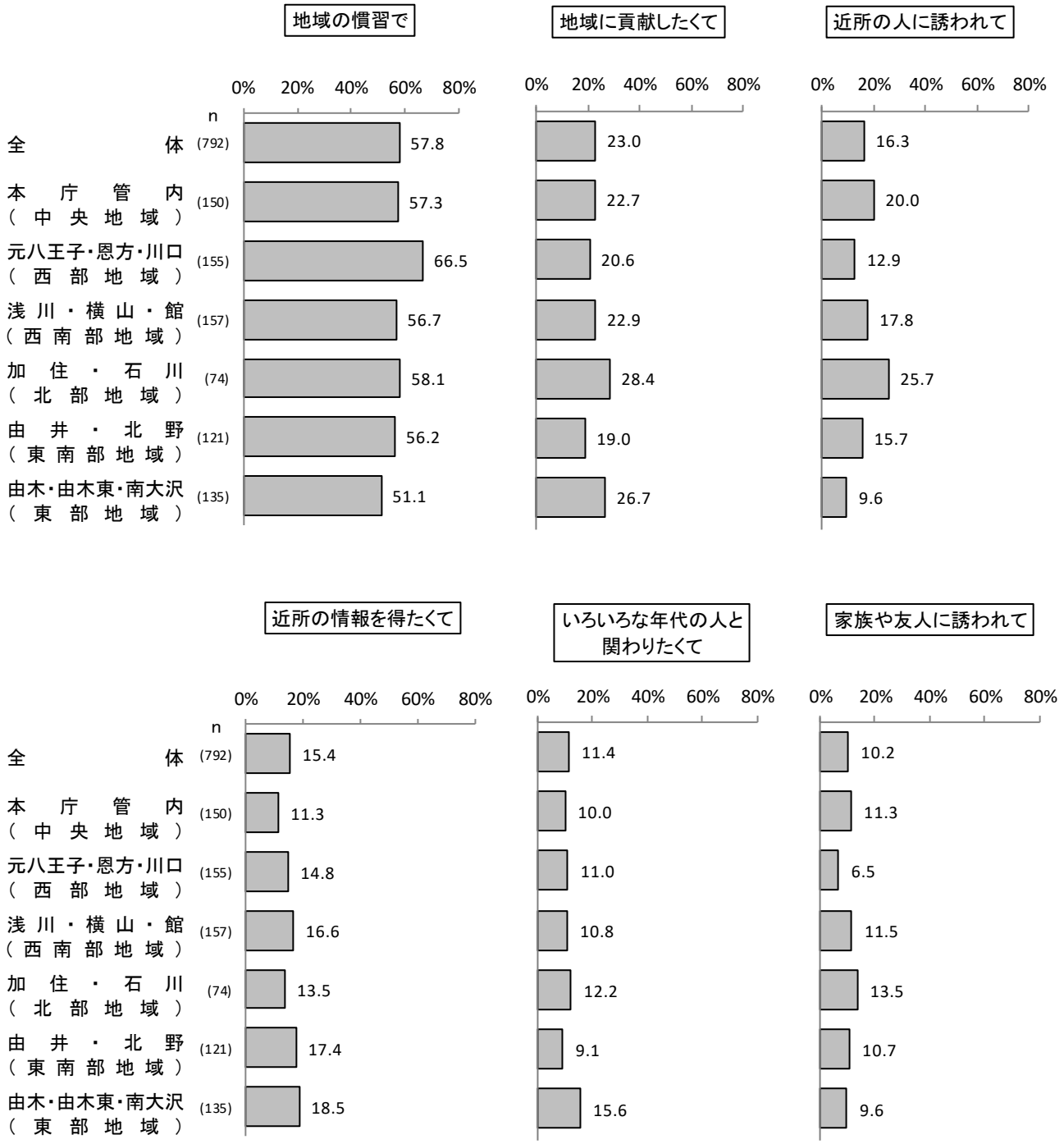
性別にみると、「地域に貢献したくて」は男性（29.7%）が女性（16.9%）より 12.8 ポイント高くなっている。（図表１－８－１）

図表１－８－２　町会・自治会活動に参加したきっかけ ― 年齢別（上位６位）



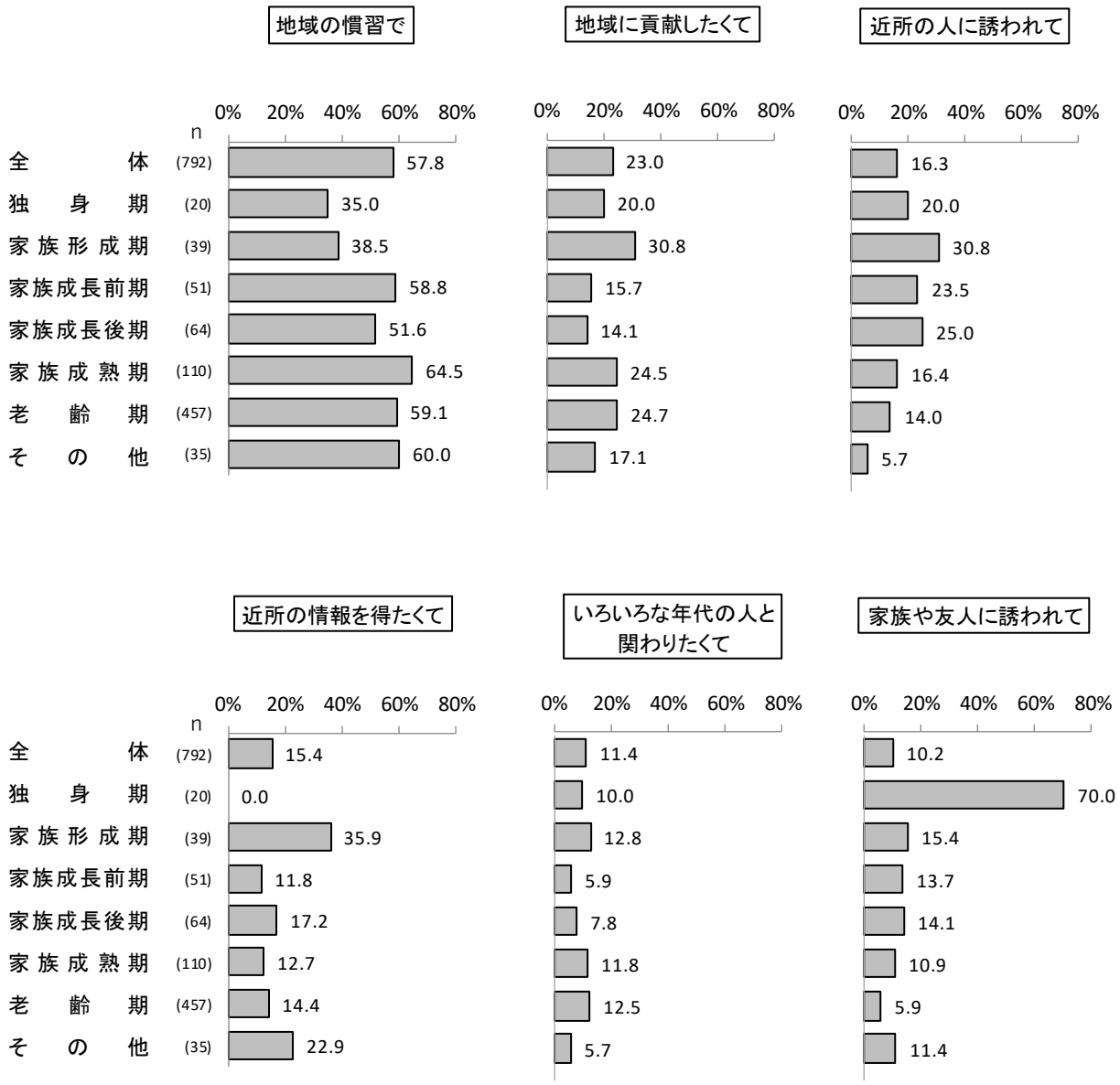
年齢別にみると、「地域の慣習で」は 50～59 歳（64.3%）が６割台半ばと高くなっている。「地域に貢献したくて」は 60～64 歳（27.1%）で３割近くと高くなっている。「近所の情報を得たくて」は 30～39 歳（27.8%）で３割近くと高くなっている。（図表１－８－２）

図表１－８－３　町会・自治会活動に参加したきっかけ ― 居住地域別（上位６位）



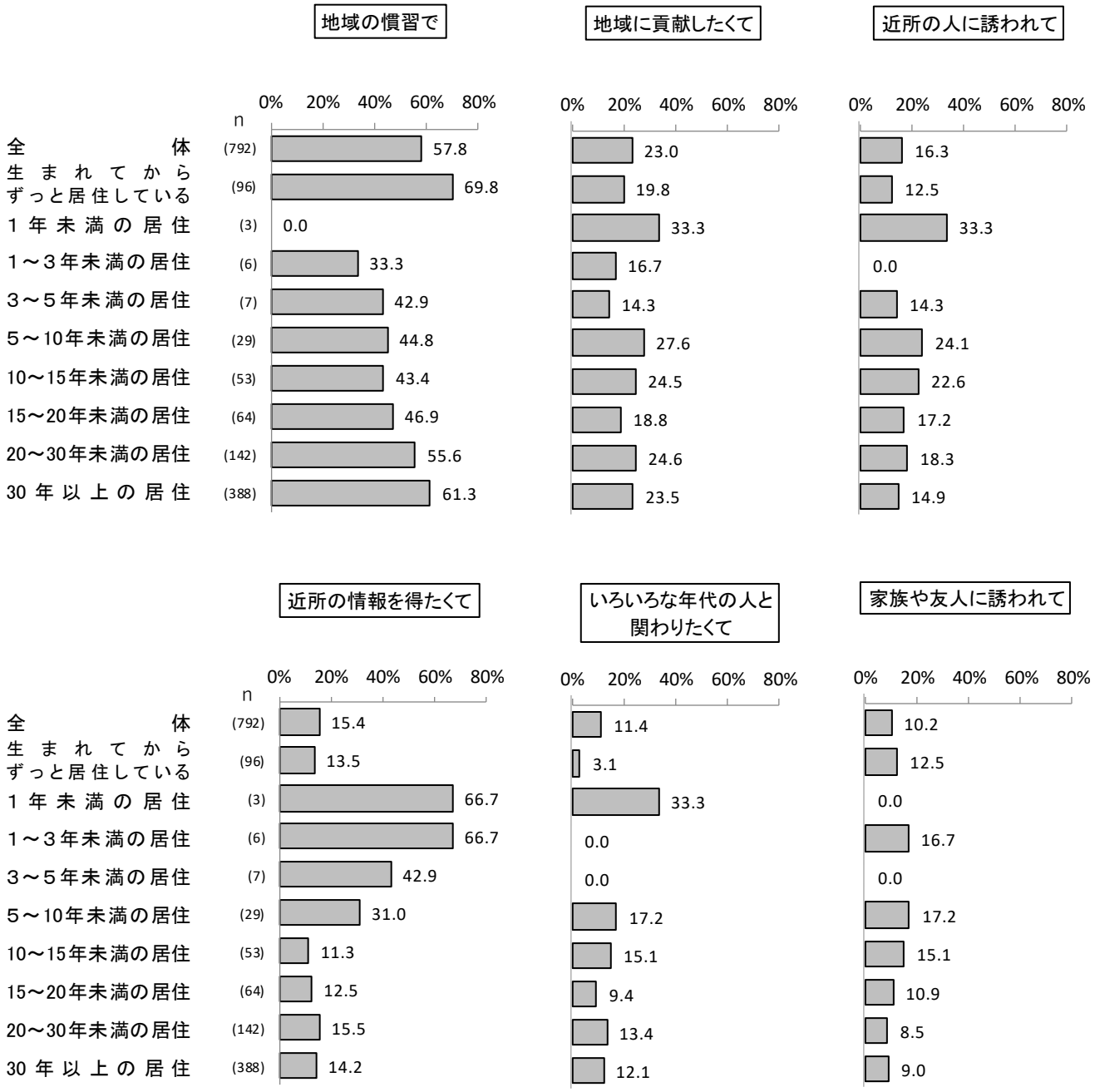
居住地域別にみると、「地域の慣習で」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（66.5%）が７割近くと高くなっている。（図表１－８－３）

図表１－８－４　町会・自治会活動に参加したきっかけ ― ライフステージ別（上位６位）



ライフステージ別にみると、「地域に貢献したくて」は家族形成期（30.8%）で約３割と高くなっている。「近所の情報を得たくて」は家族形成期（35.9%）で３割台半ばと高くなっている。（図表１－８－４）

図表１－８－５　町会・自治会活動に参加したきっかけ ― 居住年数別（上位６位）

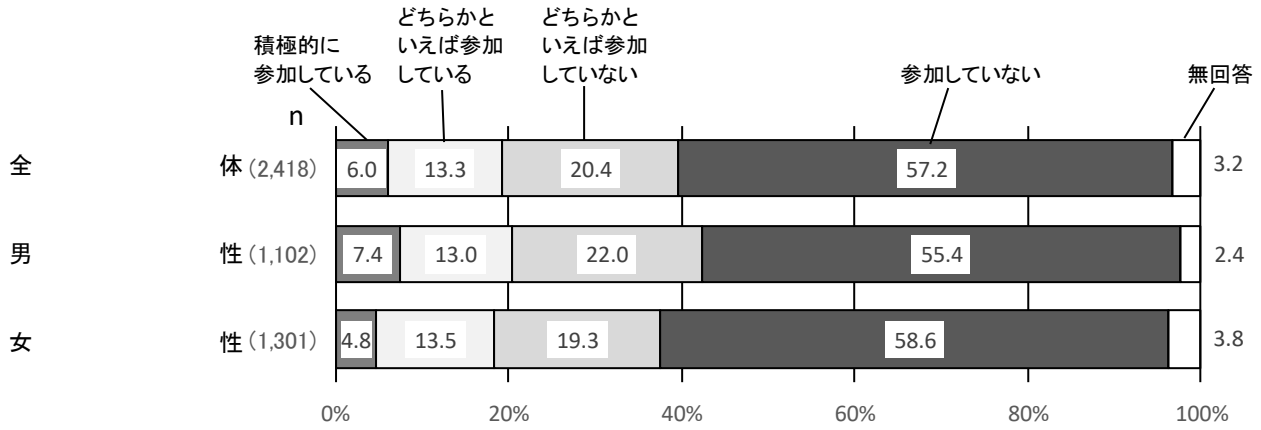


居住年数別にみると、「地域の慣習で」は生まれてからずっと居住している（69.8%）で７割弱と高くなっている。（図表１－８－５）

（９） 地域活動への参加度合い

問４　あなたの町会・自治会活動以外の地域活動（まちづくり、環境、教育、福祉、国際交流、文化、スポーツなど）への参加度合いを教えてください。（○は１つだけ）

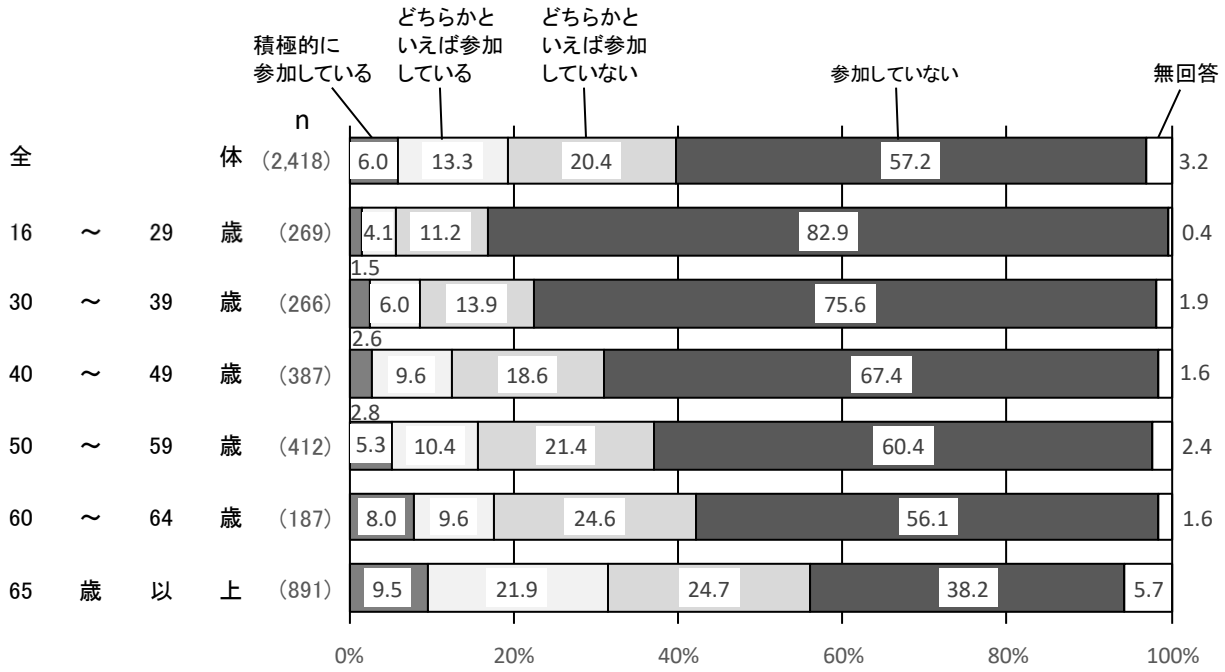
図表１－９－１　地域活動への参加度合い － 全体、性別



地域活動への参加度合いについて聞いたところ、「積極的に参加している」（6.0%）と「どちらかといえば参加している」（13.3%）を合わせた≪参加している≫（19.3%）は２割弱となっている。一方、「どちらかといえば参加していない」（20.4%）と「参加していない」（57.2%）を合わせた≪参加していない≫（77.6%）は８割近くとなっている。

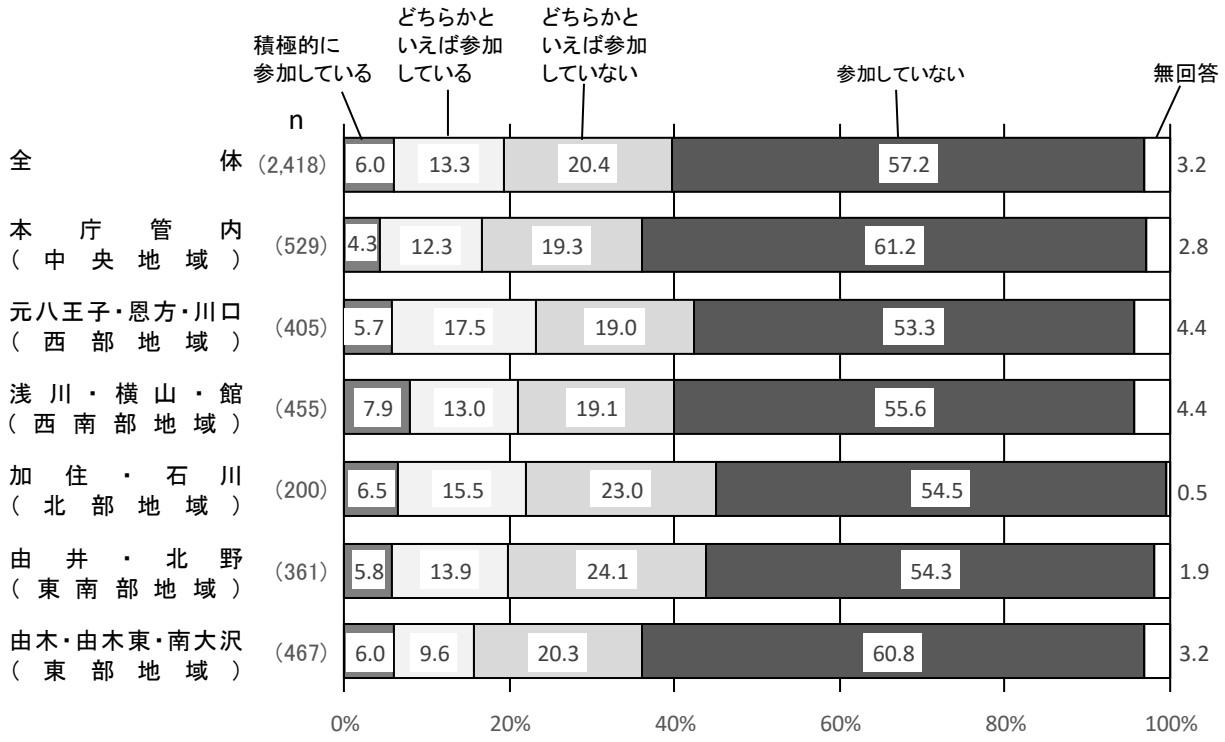
性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－９－１）

図表１－９－２　地域活動への参加度合 － 年齢別



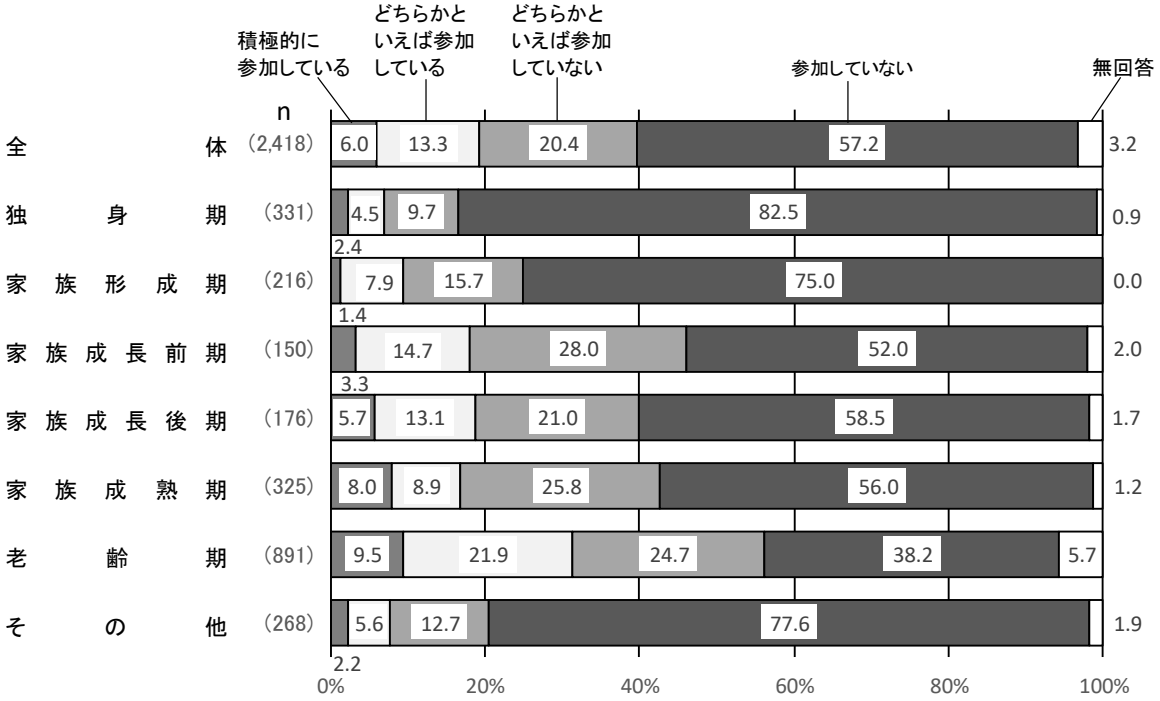
年齢別にみると、≪参加している≫は年齢層が上がるにつれて割合が高くなっており、65 歳以上 (31.4%) で３割強となっている。(図表１－９－２)

図表１－９－３　地域活動への参加度合 － 居住地域別



居住地域別にみると、≪参加している≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）(23.2%) が最も高く２割強となっている。(図表１－９－３)

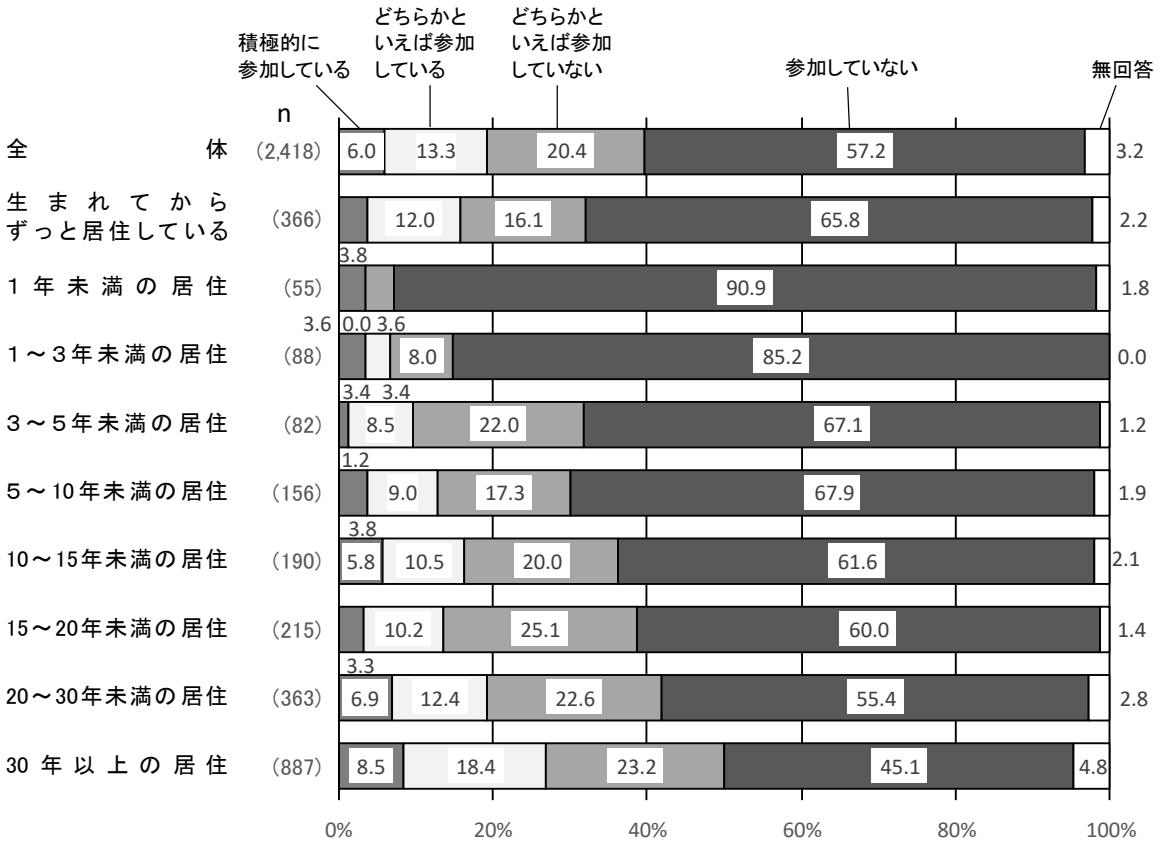
図表１－９－４　地域活動への参加度合 － ライフステージ別



ライフステージ別にみると、≪参加している≫は老齢期（31.4%）で３割強と最も高くなっている。

（図表１－９－４）

図表１－９－５　地域活動への参加度合 － 居住年数別



居住年数別にみると、≪参加している≫は30年以上の居住（26.9%）で３割近くと最も高くなっている。

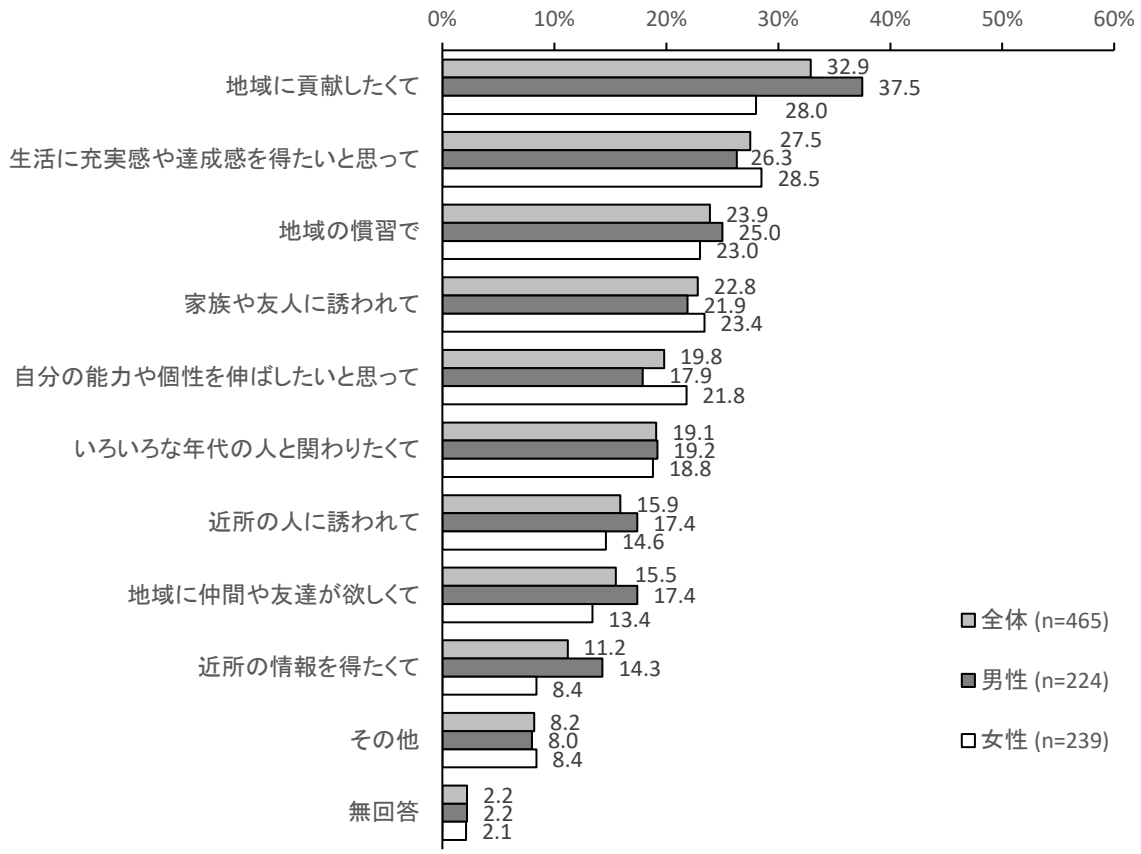
（図表１－９－５）

(10) 地域活動に参加したきっかけ

（「１　積極的に参加している」、「２　どちらかといえば参加している」を選択した方にお聞きします。）

問４－１　あなたがその地域活動に参加したきっかけを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

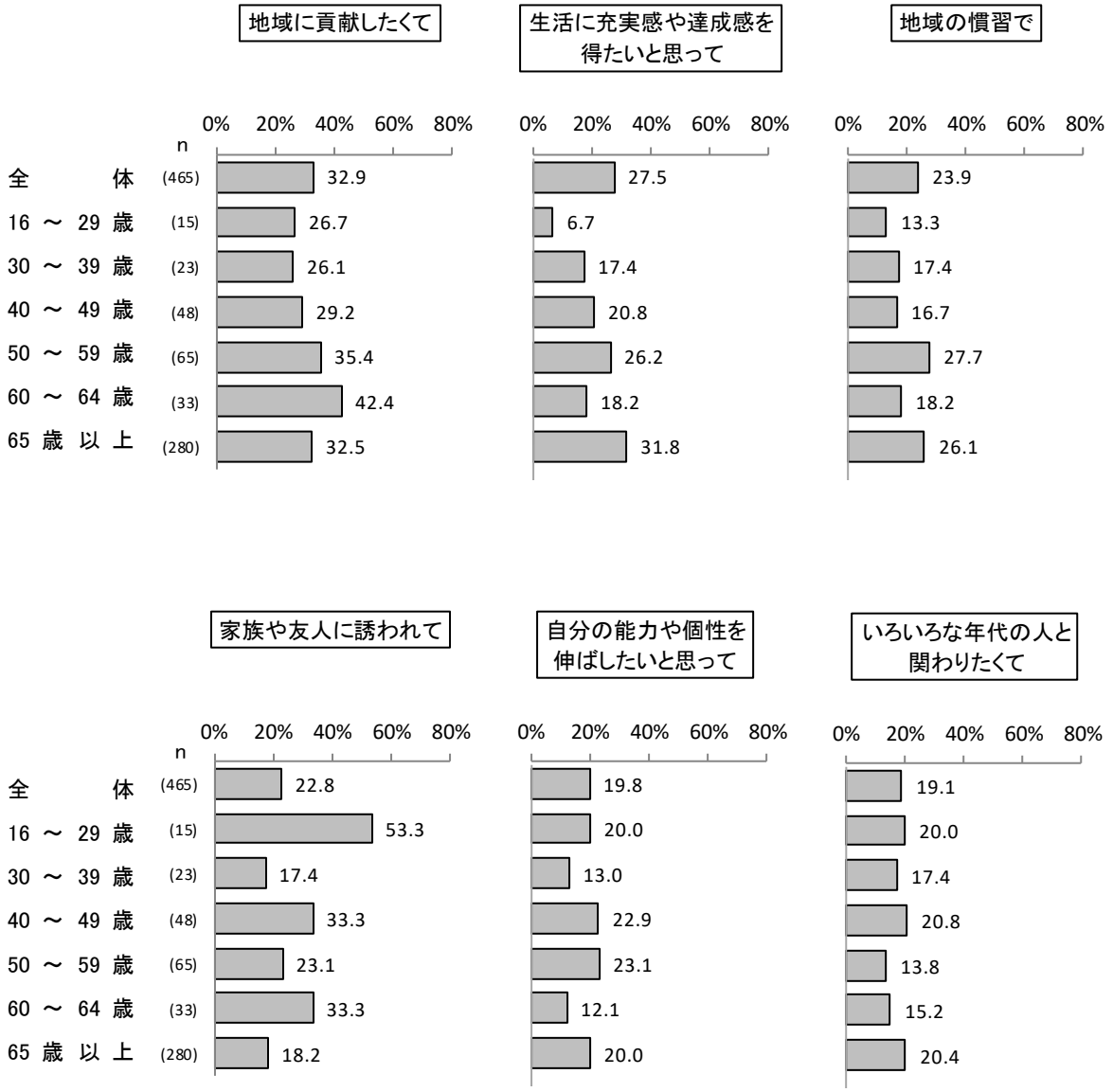
図表１－10－１　地域活動に参加したきっかけ － 全体、性別



地域活動に「積極的に参加している」または「どちらかといえば参加している」と回答した 465 人に参加したきっかけについて聞いたところ、「地域に貢献したくて」(32.9%) が最も高く３割強となっている。次いで、「生活に充実感や達成感を得たいと思って」(27.5%)、「地域の慣習で」(23.9%)、「家族や友人に誘われて」(22.8%) などの順となっている。

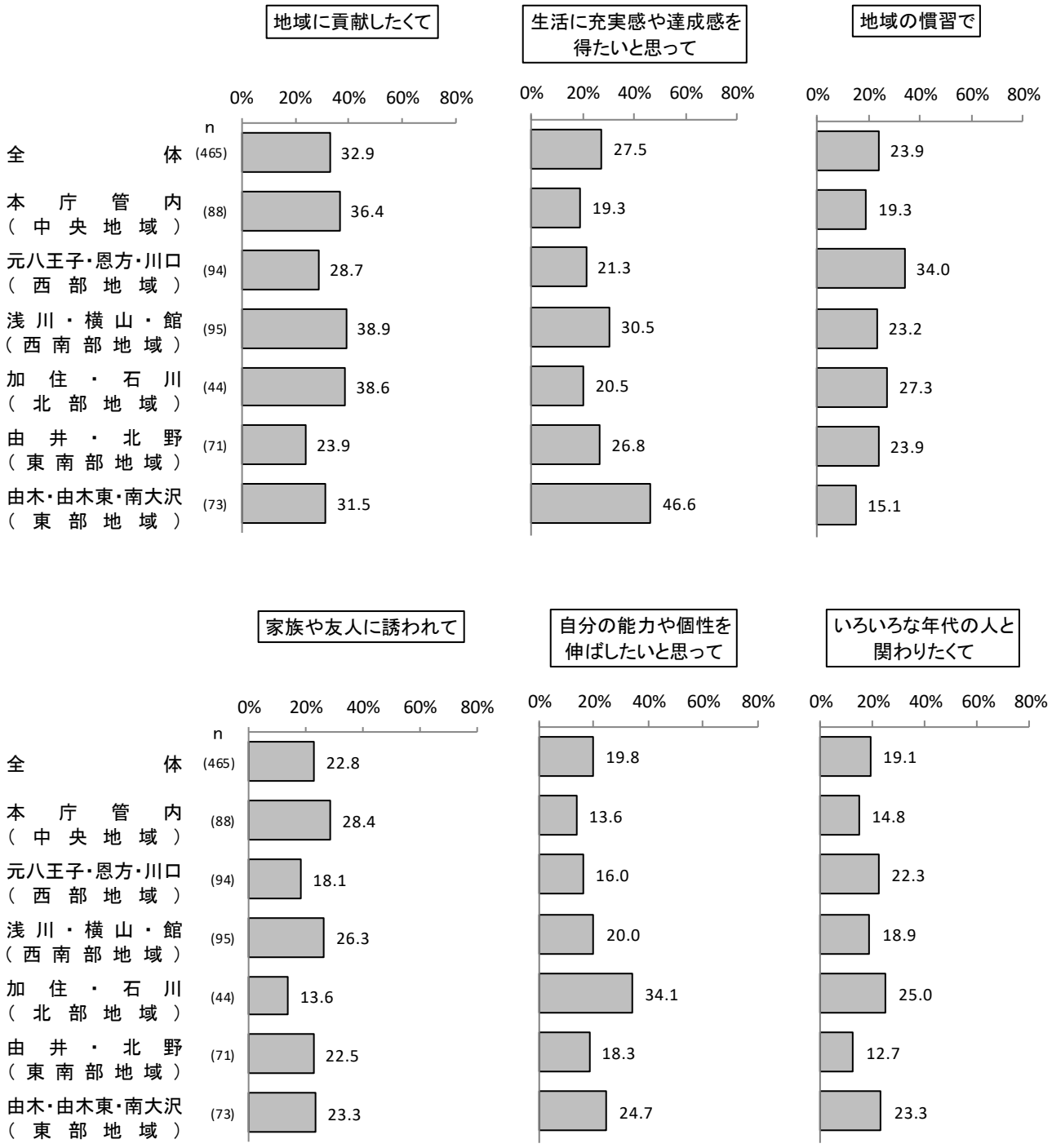
性別にみると、「地域に貢献したくて」は男性 (37.5%) が女性 (28.0%) より 9.5 ポイント、「近所の情報を得たくて」は男性 (14.3%) が女性 (8.4%) より 5.9 ポイントそれぞれ高くなっている。(図表１－10－１)

図表１－10－２　地域活動に参加したきっかけ － 年齢別（上位６位）



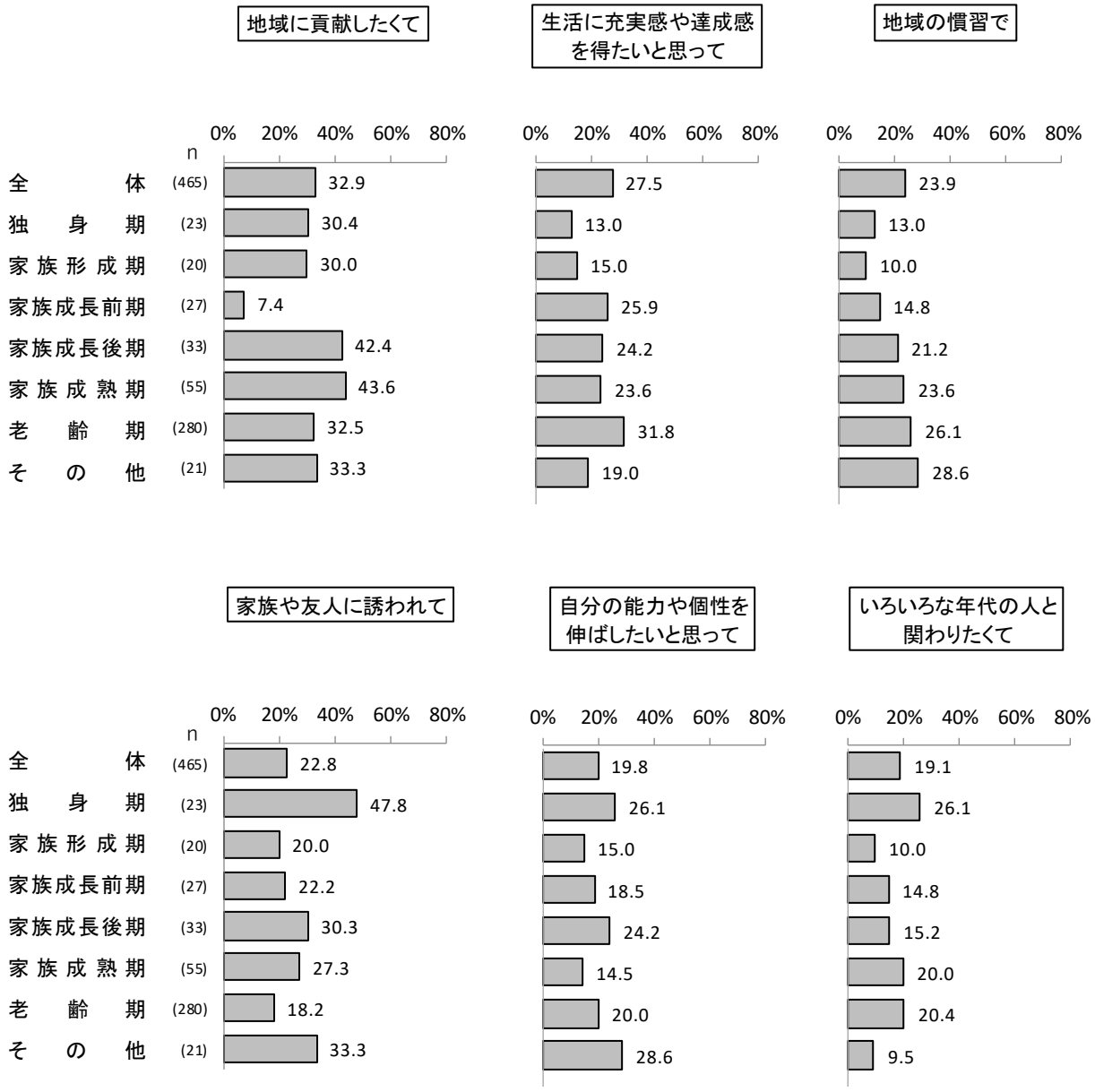
年齢別にみると、「生活に充実感や達成感を得たいと思って」は65歳以上（31.8%）で３割強と高くなっている。（図表１－10－２）

図表１－10－３　地域活動に参加したきっかけ － 居住地域別（上位６位）



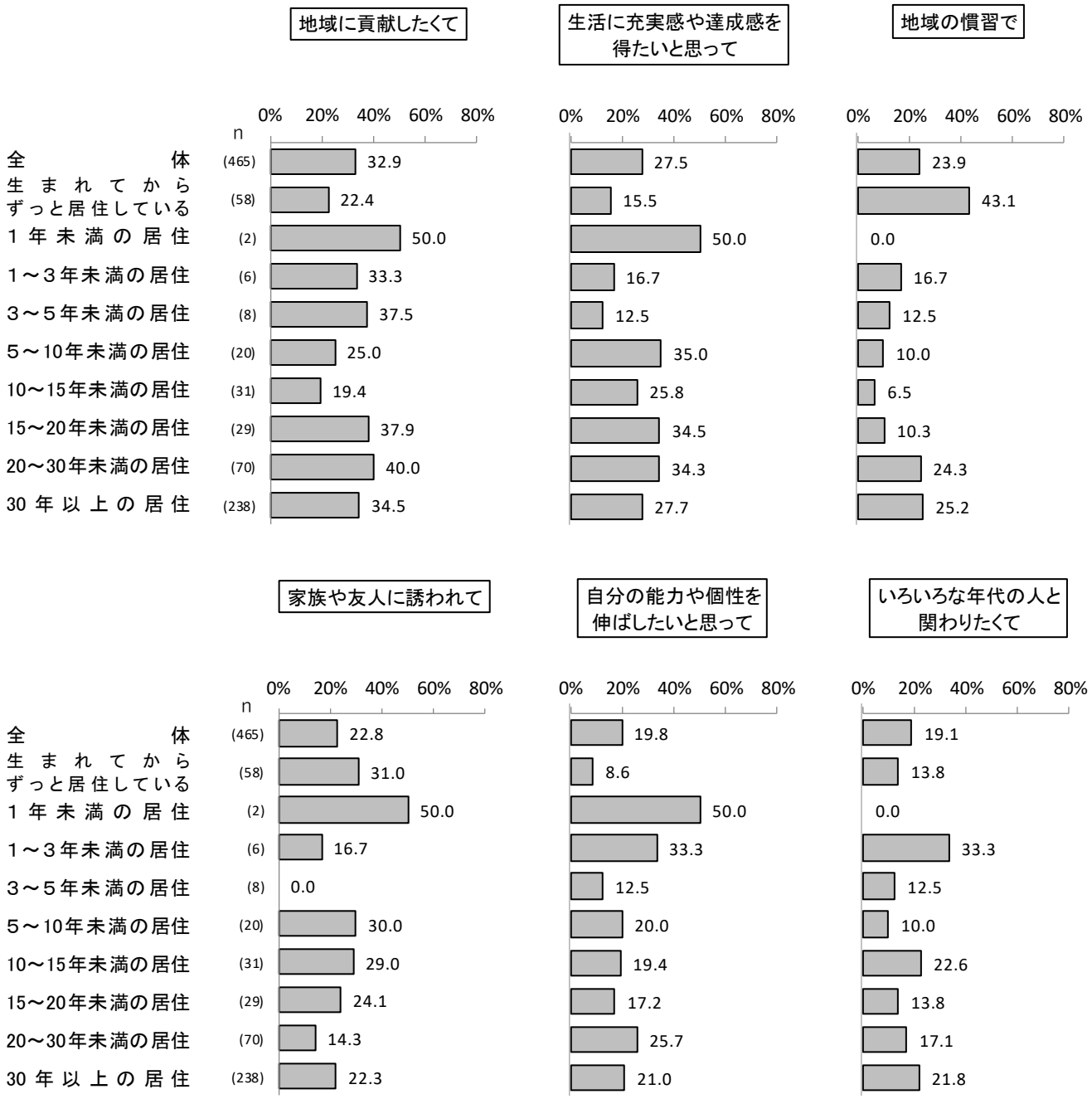
居住地域別にみると、「生活に充実感や達成感を得たいと思って」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（46.6%）で５割近くと高くなっている。「自分の能力や個性を伸ばしたいと思って」は加住・石川（北部地域）（34.1%）で３割台半ばと高くなっている。（図表１－10－３）

図表１－10－４　地域活動に参加したきっかけ ― ライフステージ別（上位６位）



ライフステージ別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－10－４）

図表１－10－５　地域活動に参加したきっかけ － 居住年数別（上位６位）

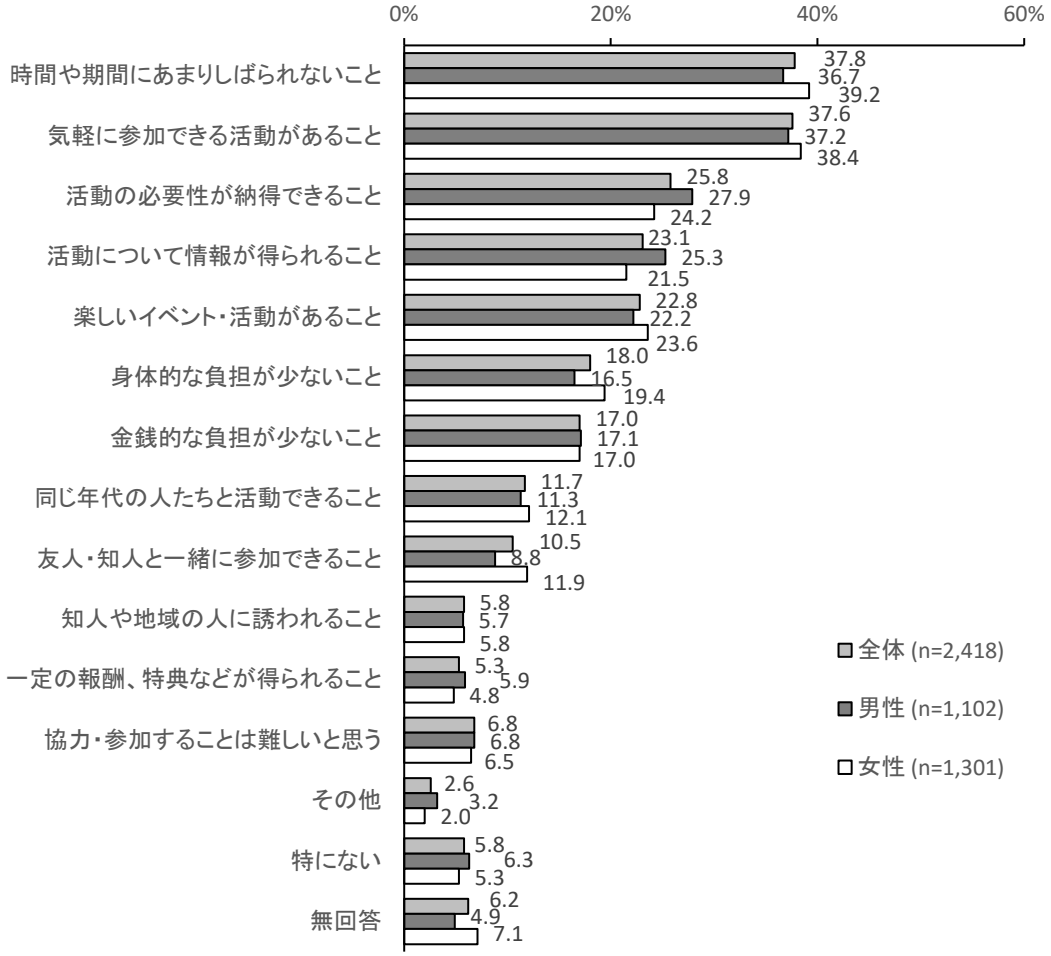


居住年数別にみると、「地域の慣習で」は生まれてからずっと居住している（43.1%）で４割強と高くなっている。（図表１－10－５）

（11）協力または参加を増やすための、条件・きっかけについて

問５　町会・自治会活動や地域活動への協力または参加を増やすためには、どのような条件・きっかけが必要だと考えますか。（○は３つまで）

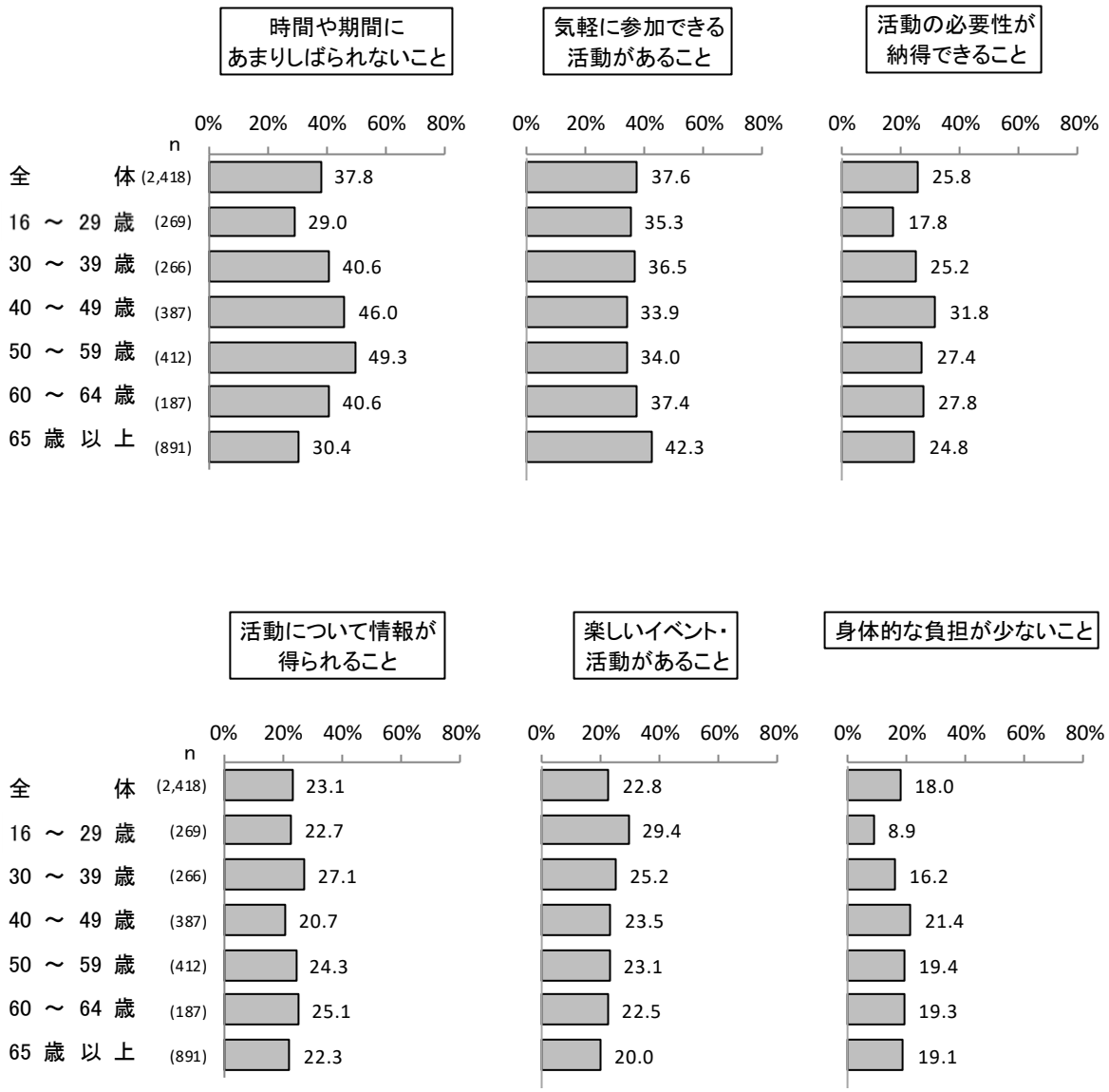
図表１－11－１　協力または参加を増やすための、条件・きっかけ － 全体、性別



協力または参加を増やすための、条件・きっかけについて聞いたところ、「時間や期間にあまりしばられないこと」（37.8%）が最も高く４割近くとなっている。次いで、「気軽に参加できる活動があること」（37.6%）、「活動の必要性が納得できること」（25.8%）、「活動について情報が得られること」（23.1%）などの順となっている。

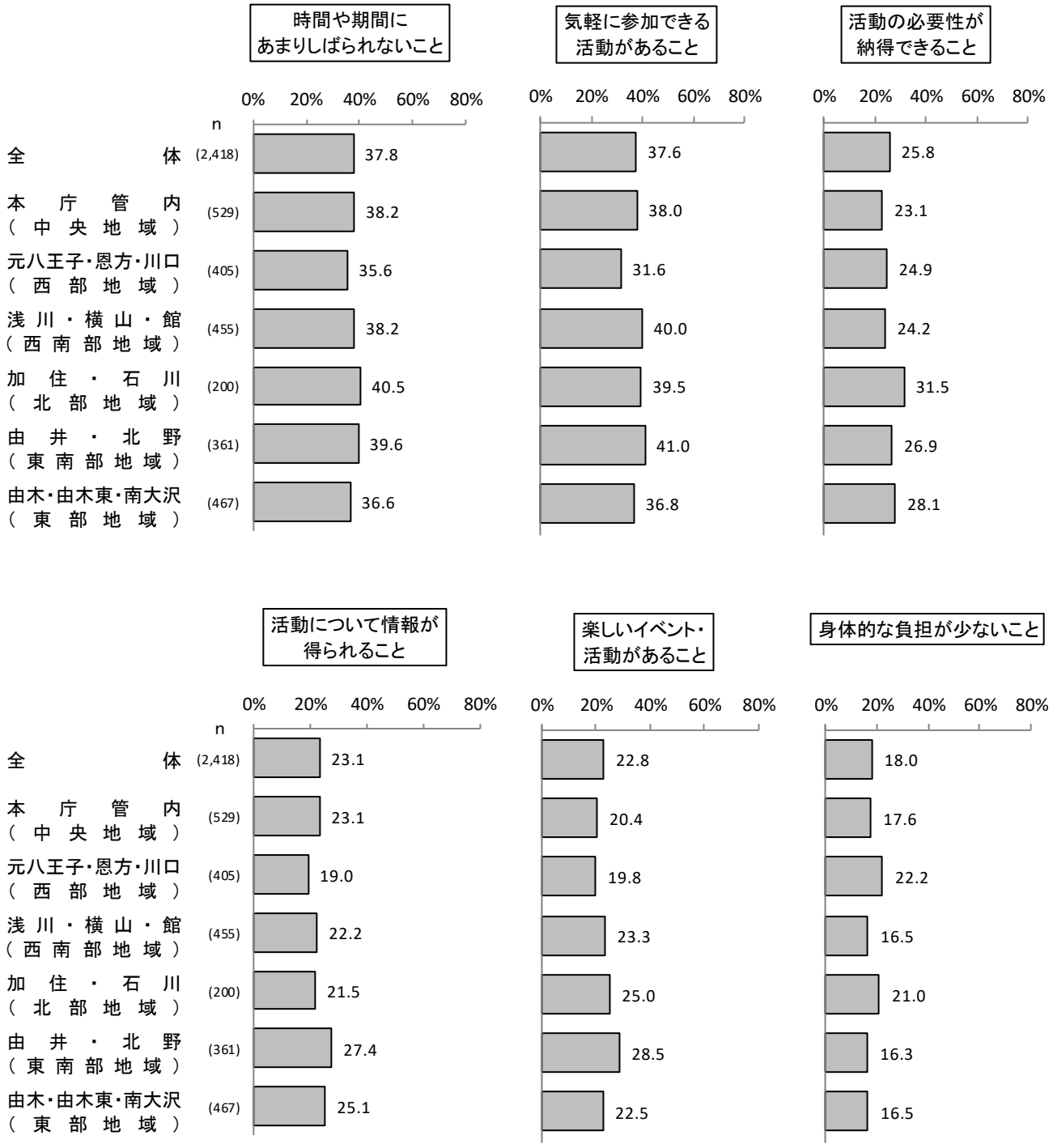
性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－11－１）

図表１－11－２　協力または参加を増やすための、条件・きっかけ － 年齢別（上位６位）



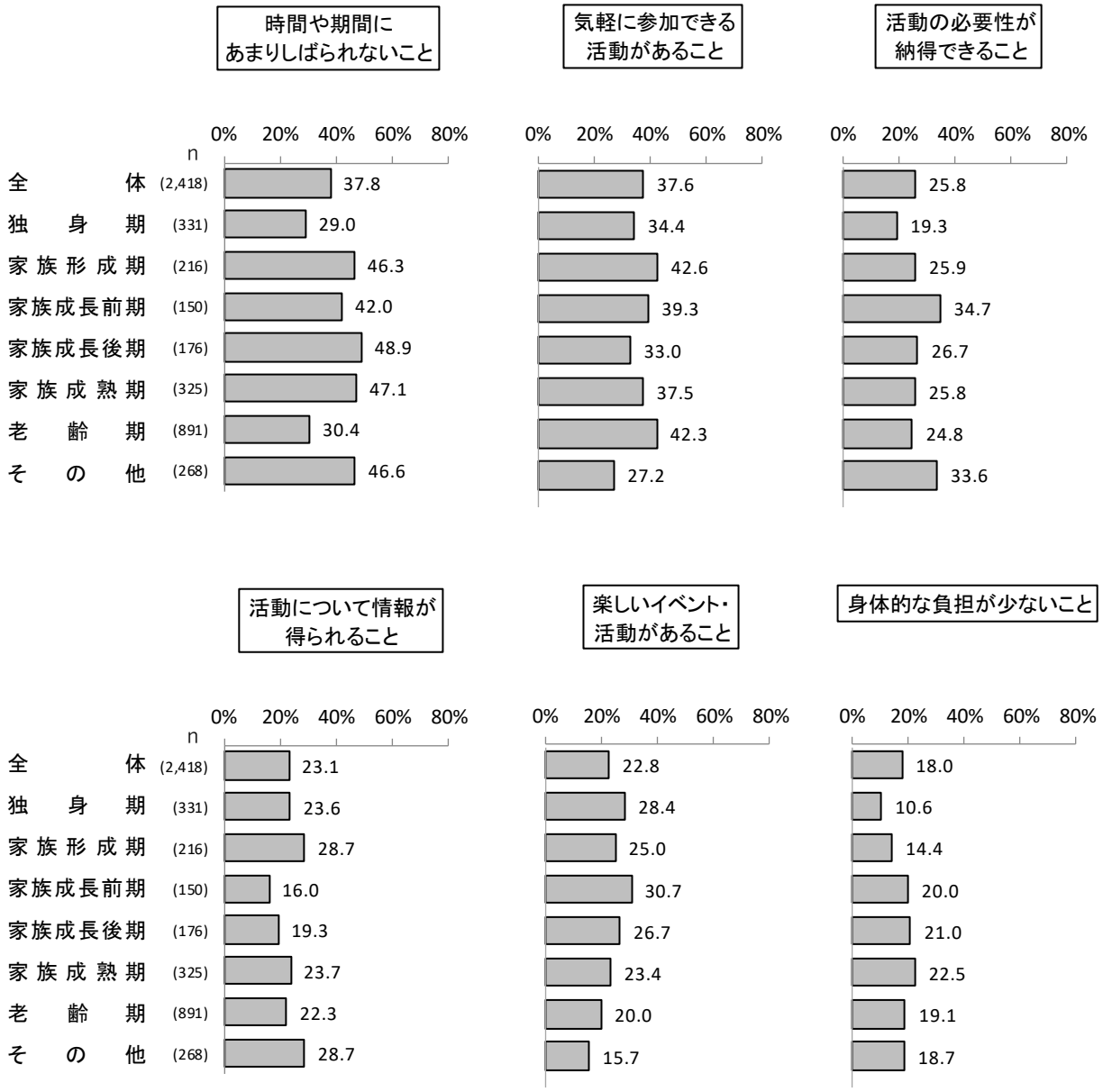
年齢別にみると、「時間や期間にあまりしばられないこと」は50～59歳（49.3%）で最も高く５割弱となっている。（図表１－11－２）

図表１－11－３　協力または参加を増やすための、条件・きっかけ ― 居住地域別（上位６位）



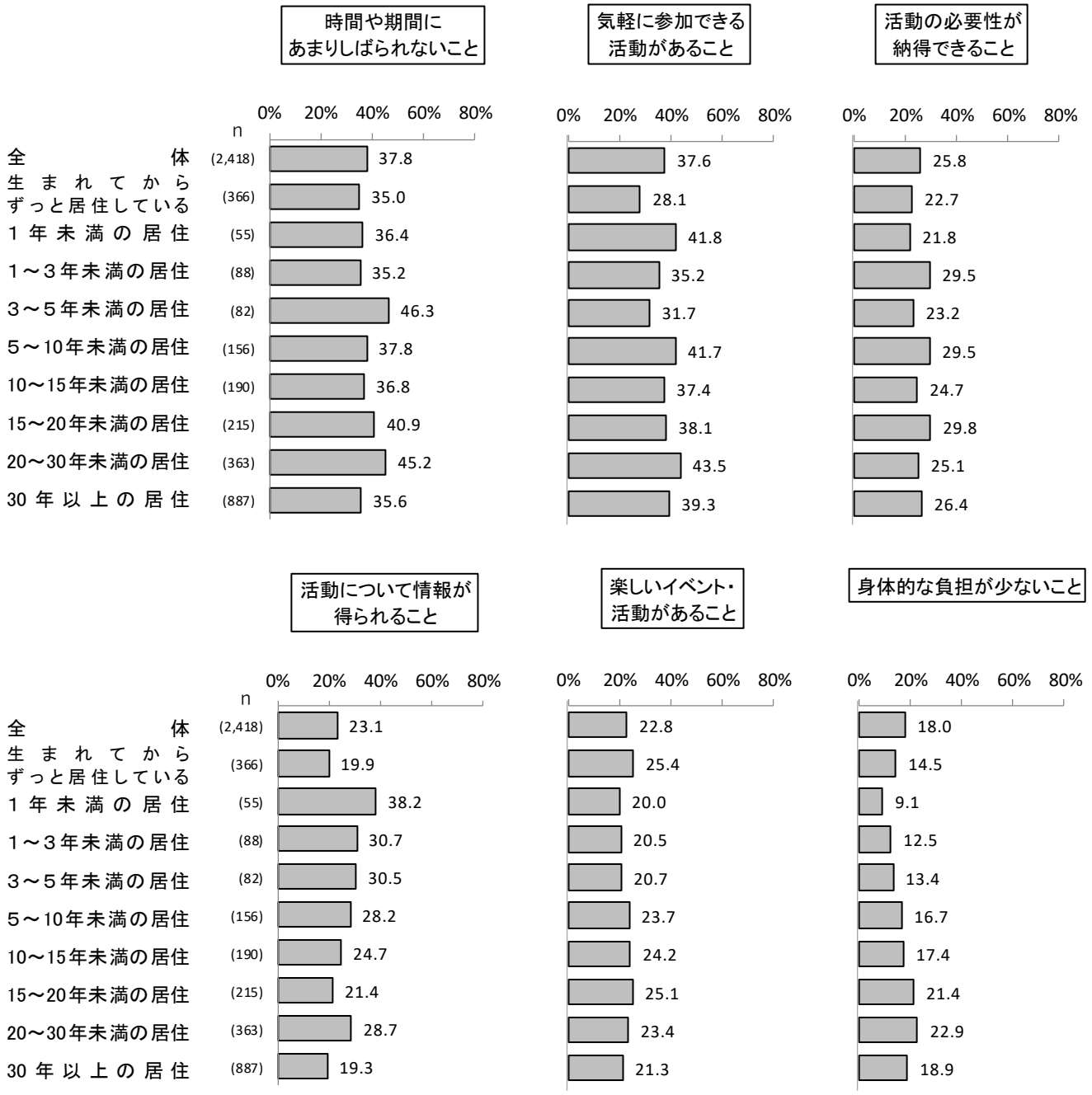
居住地域別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－11－３）

図表１－11－４　協力または参加を増やすための、条件・きっかけ ― ライフステージ別（上位６位）



ライフステージ別にみると、「時間や期間にあまりしばられないこと」は家族成長後期（48.9%）、家族成熟期（47.1%）、家族形成期（46.3%）で５割近くとなっている。「活動の必要性が納得できること」は家族成長前期（34.7%）で３割台半ばと高くなっている。（図表１－11－４）

図表１－11－５　協力または参加を増やすための、条件・きっかけ － 居住年数別（上位６位）

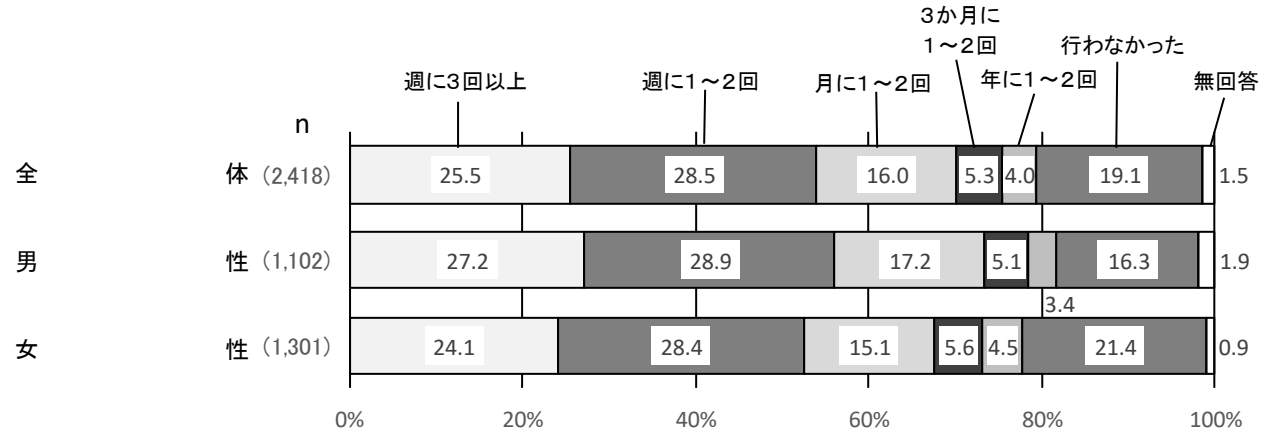


居住年数別にみると、「時間や期間にあまりしばられないこと」は３～５年未満の居住（46.3%）で５割近くとなっている。「活動について情報が得られること」は１年未満の居住（38.2%）で４割近くと高くなっている。（図表１－11－５）

(12) スポーツや運動の頻度

問６　あなたがこの１年間にスポーツや運動（散歩を含む）を行った回数はどのくらいですか。（○は１つだけ）

図表１－12－１　１年間に行ったスポーツや運動の頻度－ 全体、性別

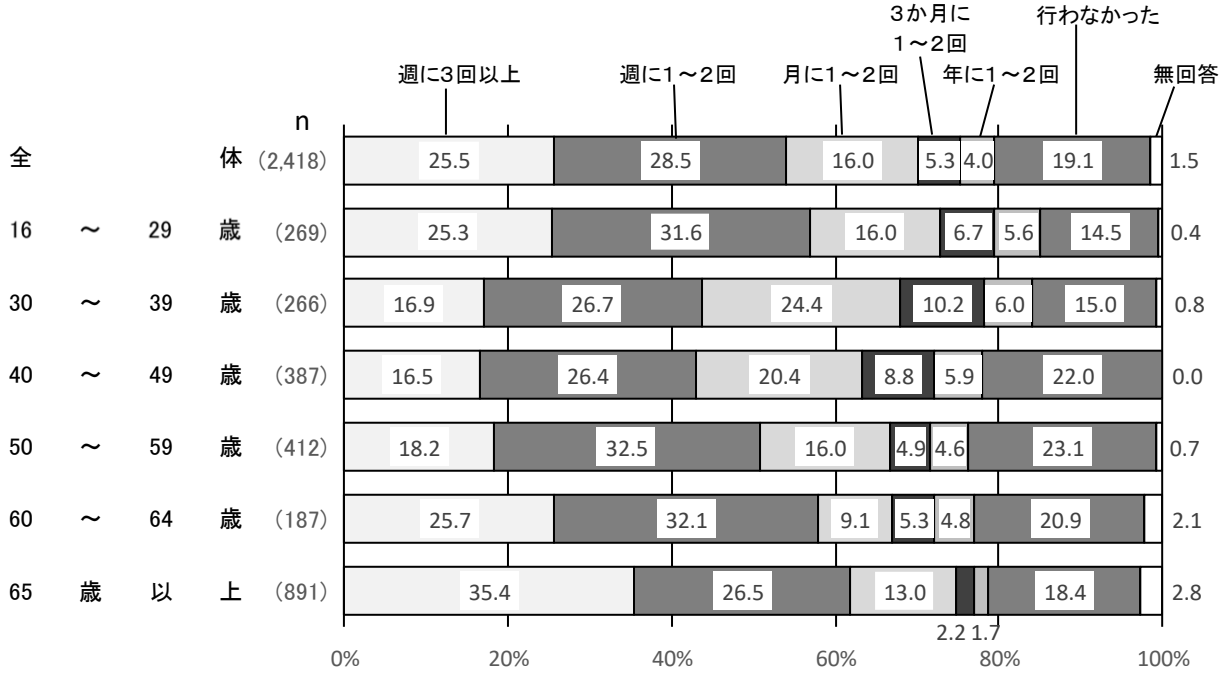


１年間に行ったスポーツや運動の頻度について聞いたところ、「週に１～２回」（28.5%）が最も高く３割近くとなっている。「週に３回以上」（25.5%）は２割台半ば、「月に１～２回」（16.0%）は２割近くとなっている。「行わなかった」（19.1%）は２割弱となっている。

性別にみると、「行わなかった」は女性（21.4%）が男性（16.3%）より 5.1 ポイント高くなっている。

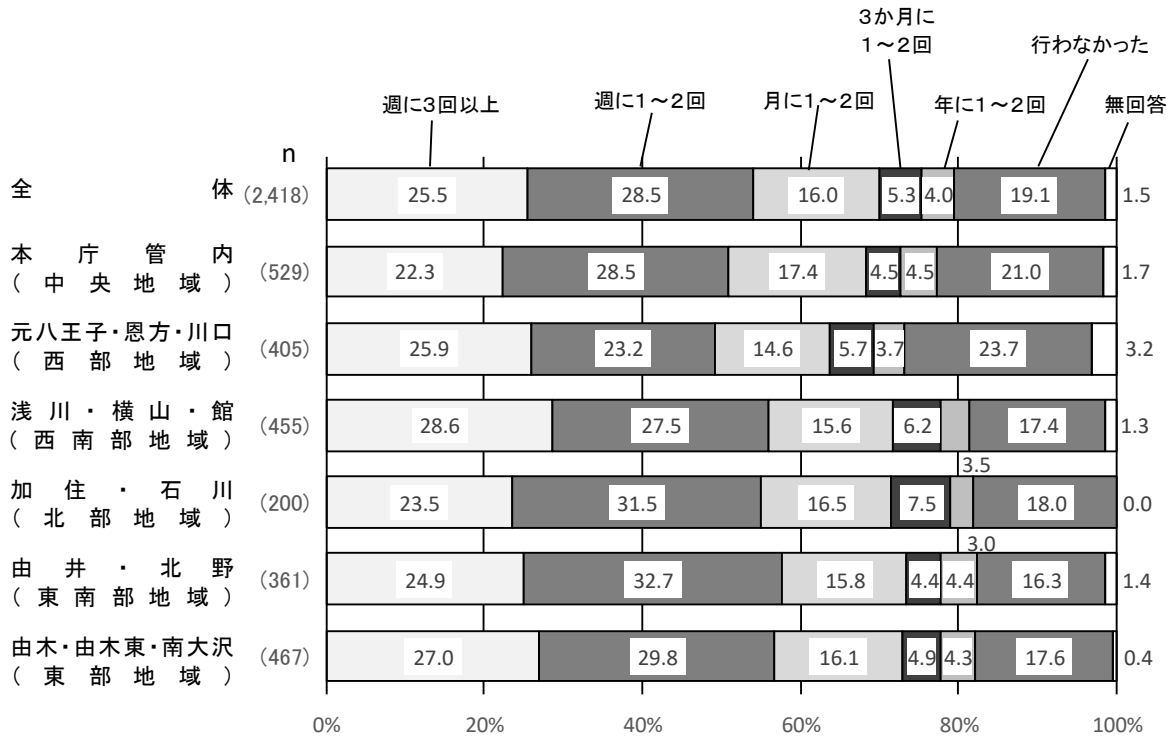
（図表１－12－１）

図表１－12－２　スポーツや運動の頻度 － 年齢別



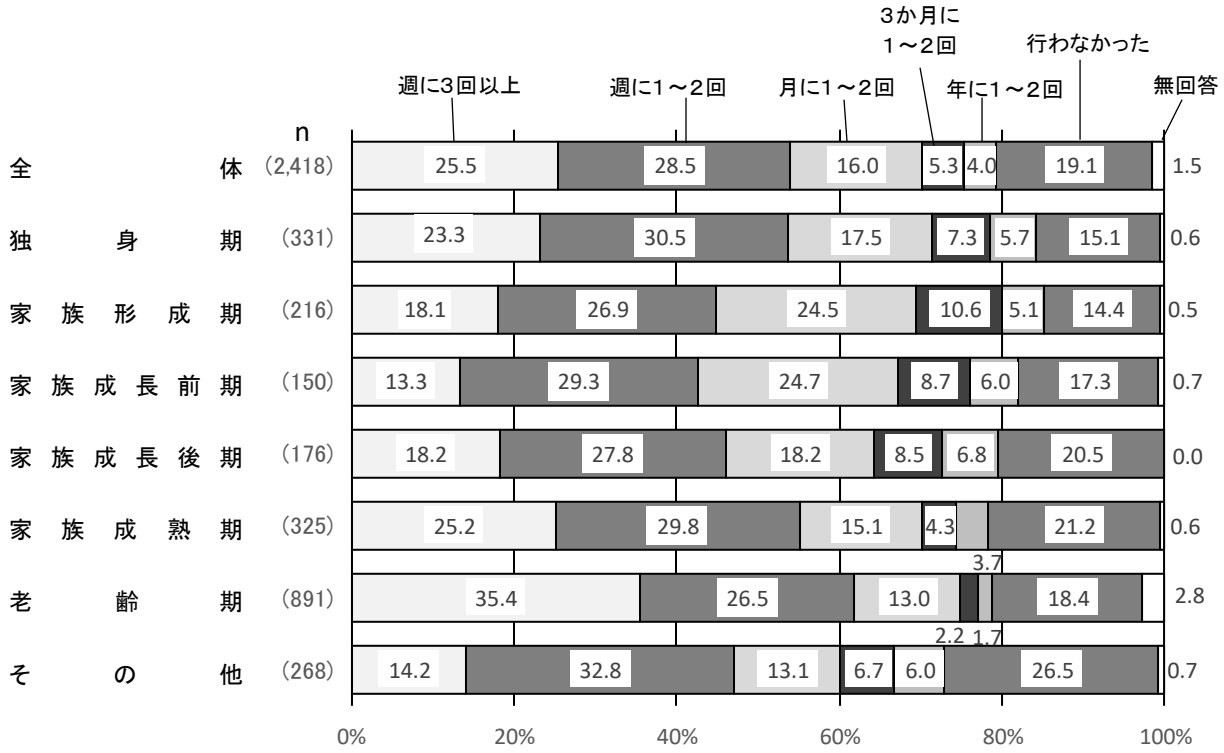
年齢別にみると、「週に３回以上」は 65 歳以上（35.4%）で３割台半ばと最も高くなっている。65 歳以上を除くすべての年齢層で「週に１～２回」が最も高くなっている。（図表１－12－２）

図表１－12－３　スポーツや運動の頻度 － 居住地域別



居住地域別にみると、「行わなかった」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（23.7%）で２割強と最も高く、本庁管内（中央地域）、元八王子・恩方・川口（西部地域）を除く４地域で８割以上が≪年に１回以上≫スポーツや運動をしたと回答している。（図表１－12－３）

図表１－12－４　スポーツや運動の頻度 － ライフステージ別



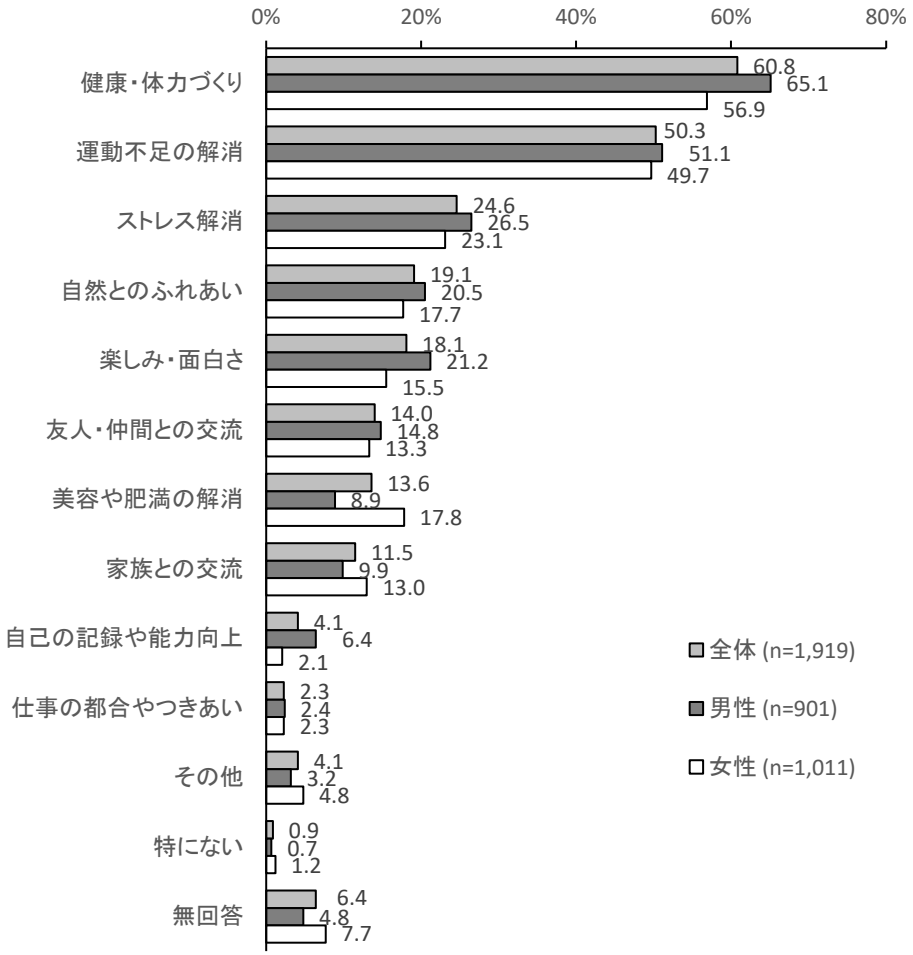
ライフステージ別にみると、「週に３回以上」は老齢期（35.4%）で３割台半ばと最も高くなっている。老齢期を除くすべてのライフステージで「週に１～２回」が最も高くなっている。（図表１－12－４）

(13) スポーツや運動を行った理由

（「１　週に３回以上」から「５　年に１～２回」を選択した方にお聞きします。）

問６－１　あなたがこの１年間にスポーツや運動を行った理由は何ですか。（○は３つまで）

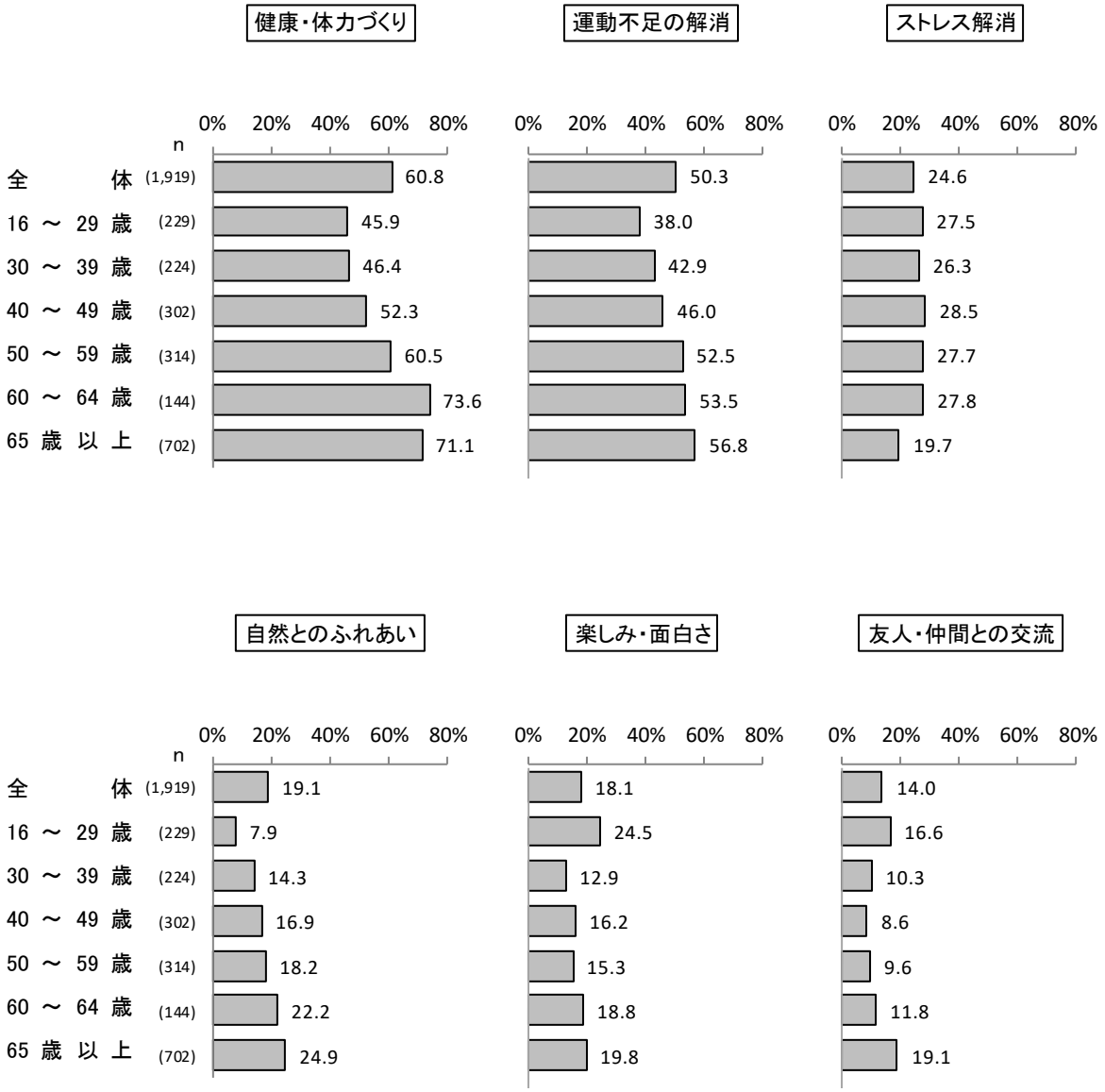
図表１－13－１　スポーツや運動を行った理由 － 全体、性別



この１年間にスポーツや運動を「週に３回以上」から「年に１～２回」行ったと回答した 1,919 人にその理由について聞いたところ、「健康・体力づくり」（60.8%）が最も高く約６割となっている。次いで、「運動不足の解消」（50.3%）、「ストレス解消」（24.6%）、「自然とのふれあい」（19.1%）などの順となっている。

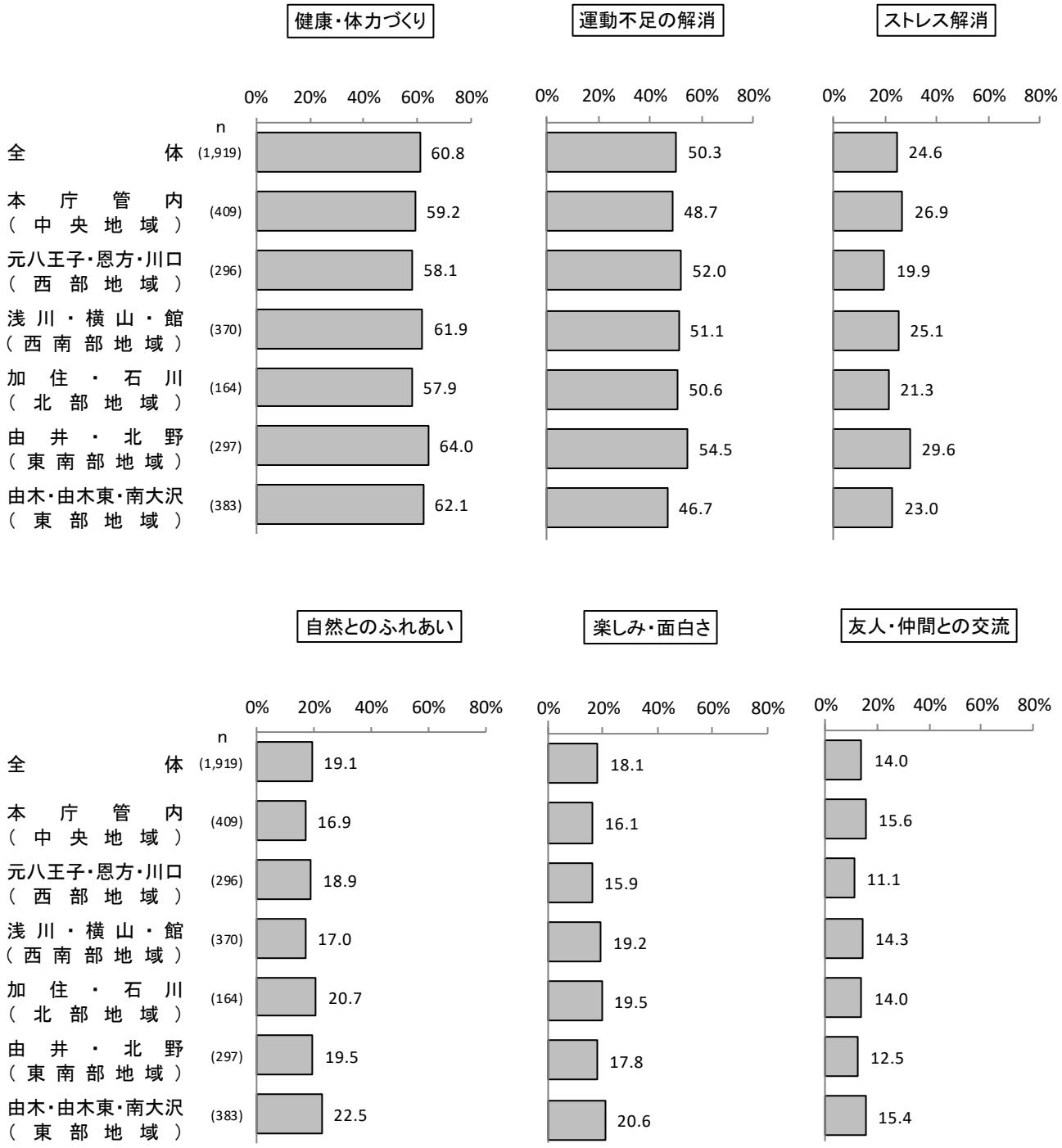
性別にみると、「美容や肥満の解消」は女性（17.8%）が男性（8.9%）より 8.9 ポイント高くなっている。「健康・体力づくり」は男性（65.1%）が女性（56.9%）より 8.2 ポイント、「楽しみ・面白さ」は男性（21.2%）が女性（15.5%）より 5.7 ポイントそれぞれ高くなっている。（図表１－13－１）

図表１－13－２　スポーツや運動を行った理由 － 年齢別（上位６位）



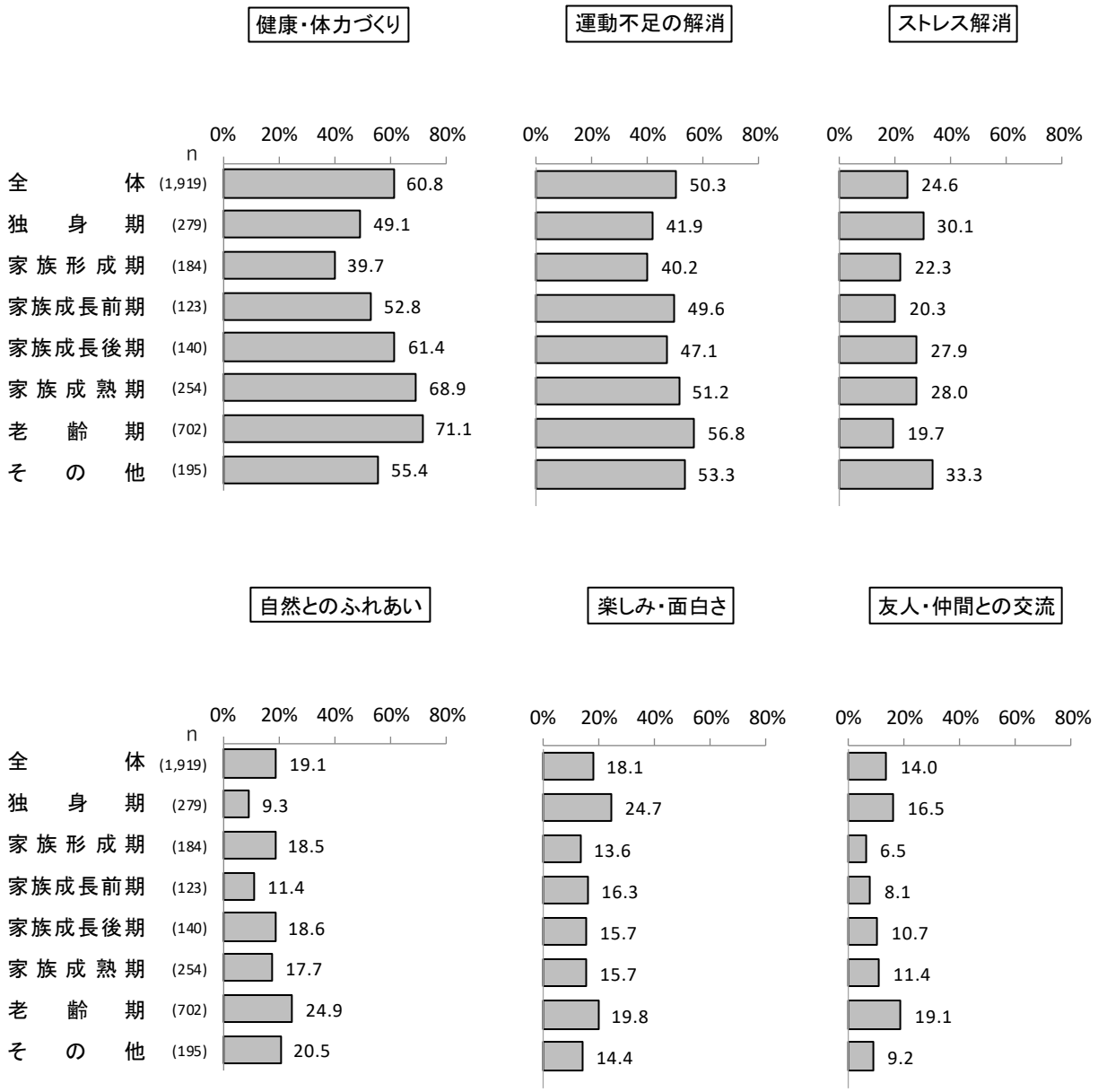
年齢別にみると、「健康・体力づくり」は60～64歳（73.6%）で最も高く７割強となっている。「楽しみ・面白さ」は16～29歳（24.5%）で２割台半ばと高くなっている。「運動不足の解消」、「自然とのふれあい」は年齢層が上がるにつれて割合が高くなっている。（図表１－13－２）

図表１－13－３　スポーツや運動を行った理由 － 居住地域別（上位６位）



居住地域別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－13－３）

図表１－13－４　スポーツや運動を行った理由 － ライフステージ別（上位６位）



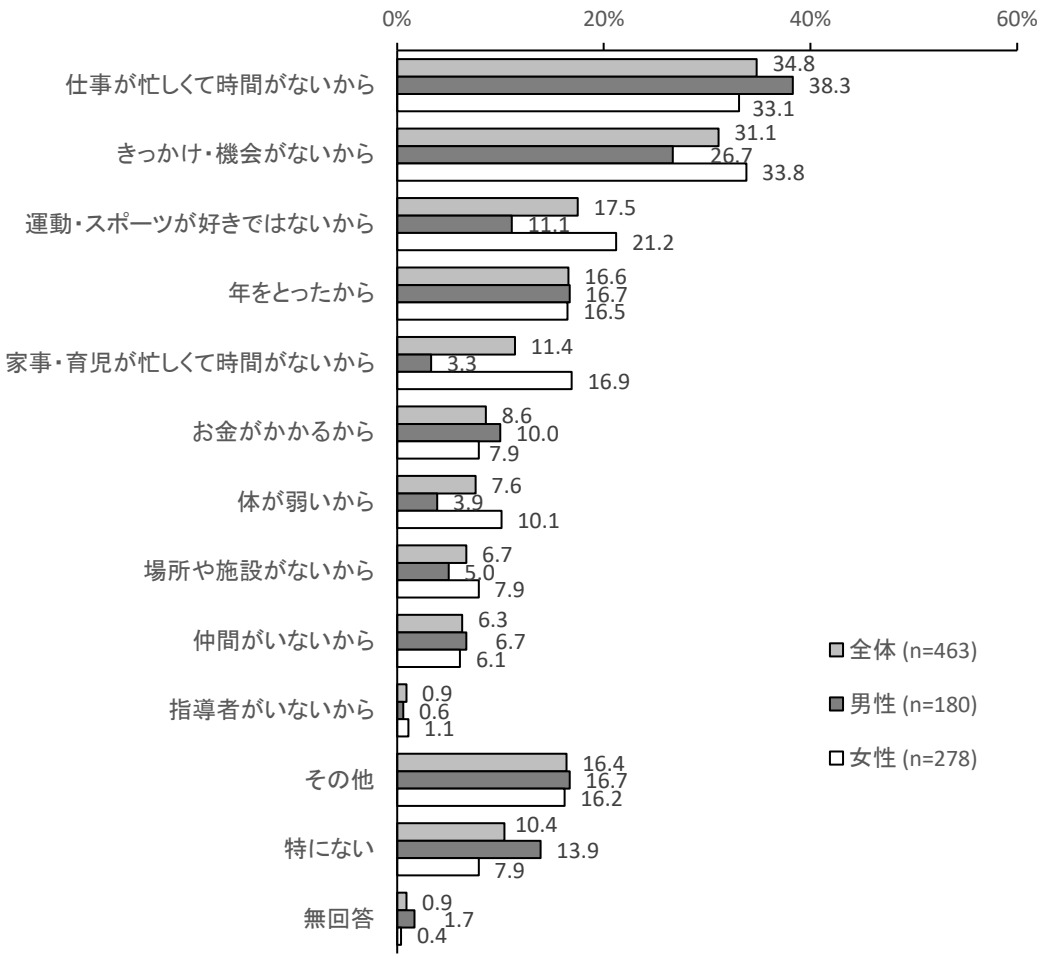
ライフステージ別にみると、「健康・体力づくり」は老齢期（71.1%）が７割強と高くなっている。「楽しみ・面白さ」は独身期（24.7%）で２割台半ばと高くなっている。（図表１－13－４）

(14) スポーツや運動を行わなかった理由

（「６　行わなかった」を選択した方にお聞きします。）

問６－２　あなたがこの１年間にスポーツや運動を行わなかった理由は何ですか。（○は３つまで）

図表１－14－１　スポーツや運動を行わなかった理由 － 全体、性別

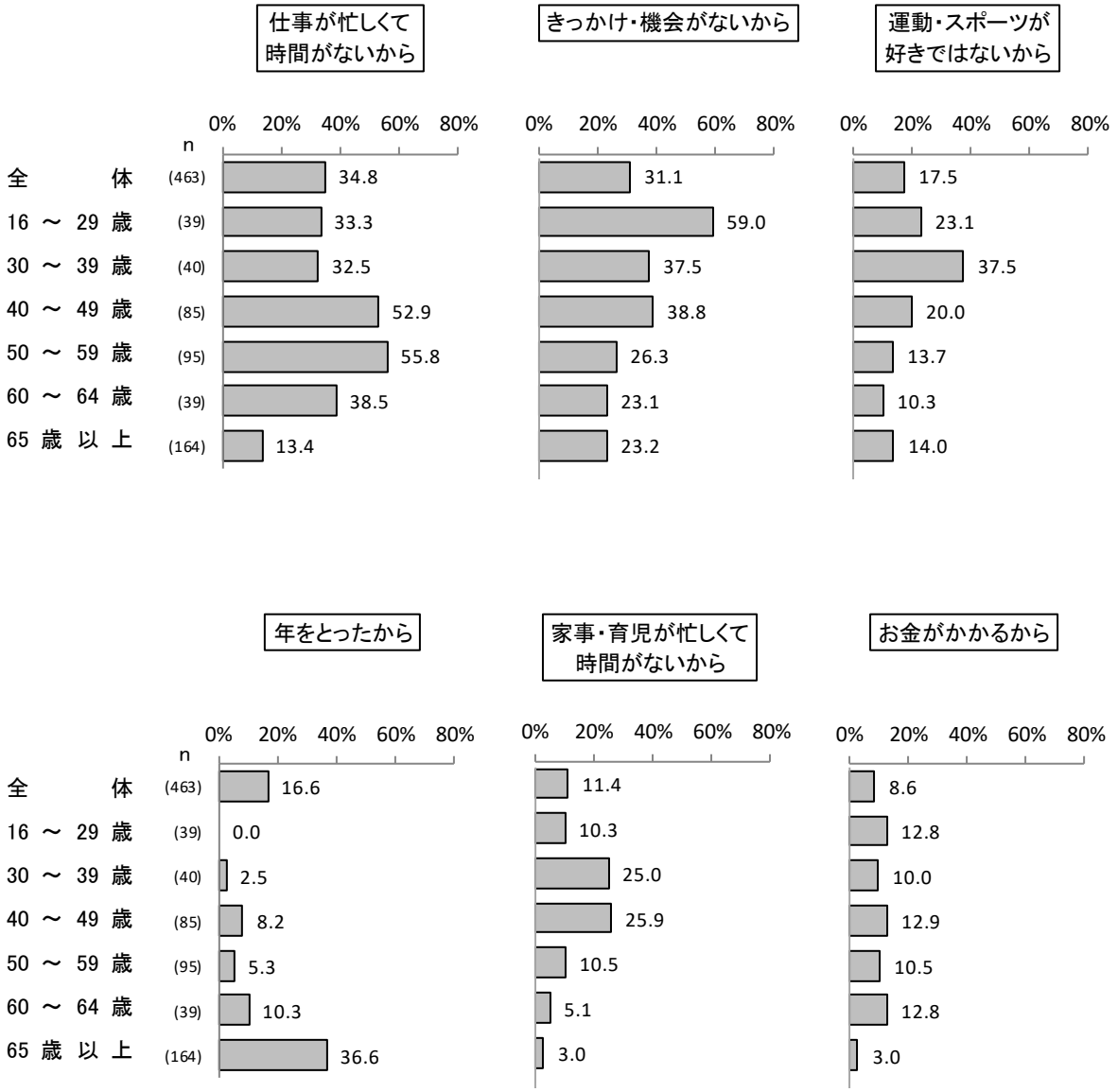


この１年間にスポーツや運動を「行わなかった」と回答した 463 人にその理由について聞いたところ、「仕事が忙しくて時間がないから」（34.8%）が最も高く３割台半ばとなっている。次いで、「きっかけ・機会がないから」（31.1%）、「運動・スポーツが好きではないから」（17.5%）、「年をとったから」（16.6%）などの順となっている。

性別にみると、「家事・育児が忙しくて時間がないから」は女性（16.9%）が男性（3.3%）より 13.6 ポイント、「運動・スポーツが好きではないから」は女性（21.2%）が男性（11.1%）より 10.1 ポイント、「きっかけ・機会がないから」は女性（33.8%）が男性（26.7%）より 7.1 ポイントとそれぞれ高くなっている。

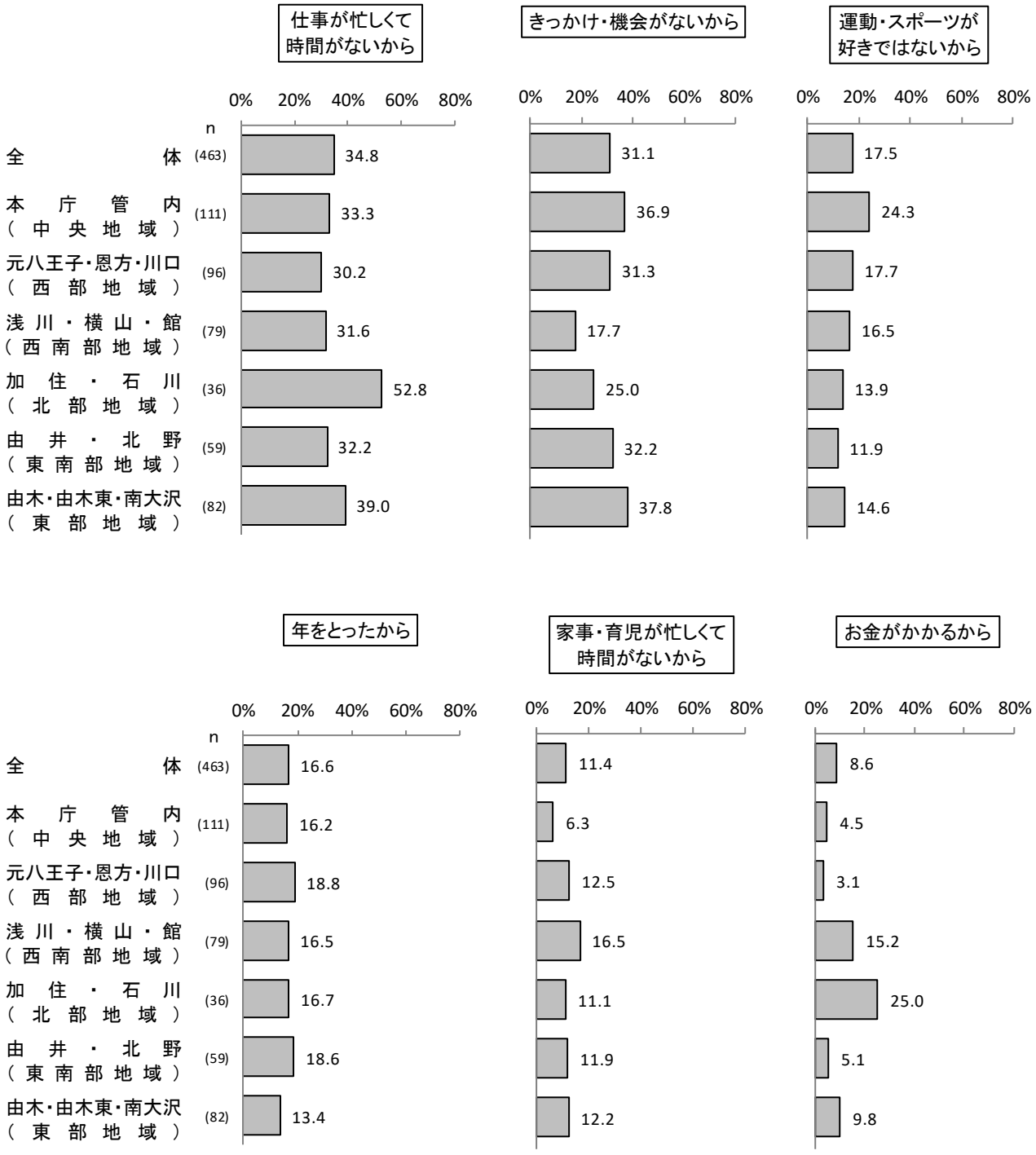
（図表１－14－１）

図表１－14－２　スポーツや運動を行わなかった理由 － 年齢別（上位６位）



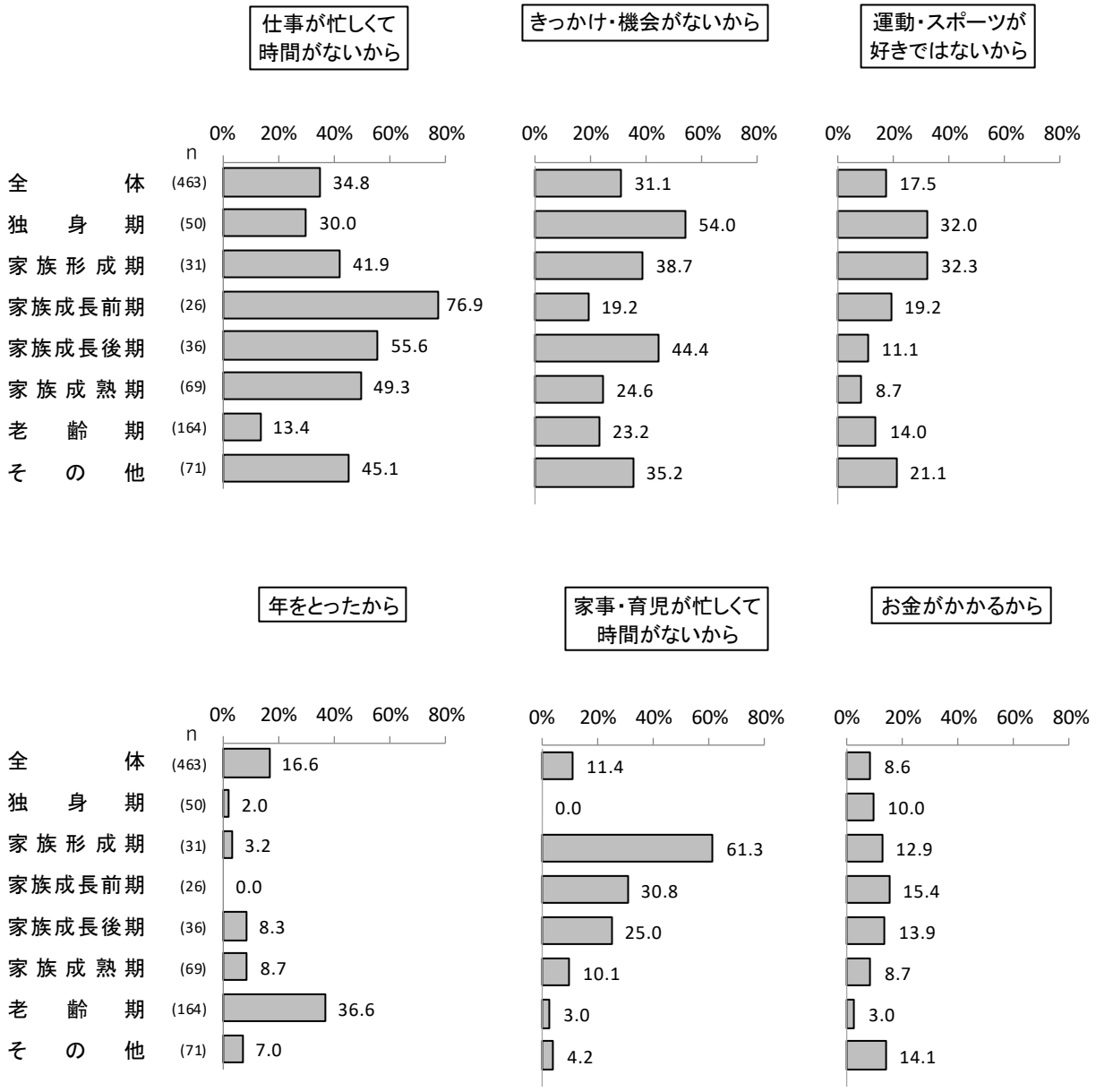
年齢別にみると、「きっかけ・機会がないから」は16～29歳（59.0%）で６割弱、「運動・スポーツが好きではないから」は30～39歳（37.5%）で４割近く、「年をとったから」は65歳以上（36.6%）で４割近くとなっており、それぞれ最も高くなっている。「仕事が忙しくて時間がないから」は50～59歳（55.8%）、40～49歳（52.9%）で５割台と高くなっている。（図表１－14－２）

図表１－14－３　スポーツや運動を行わなかった理由 － 居住地域別（上位６位）



居住地域別にみると、「仕事が忙しくて時間がないから」は加住・石川（北部地域）（52.8%）で５割強となっている。（図表１－14－３）

図表１－14－４　スポーツや運動を行わなかった理由 － ライフステージ別（上位６位）



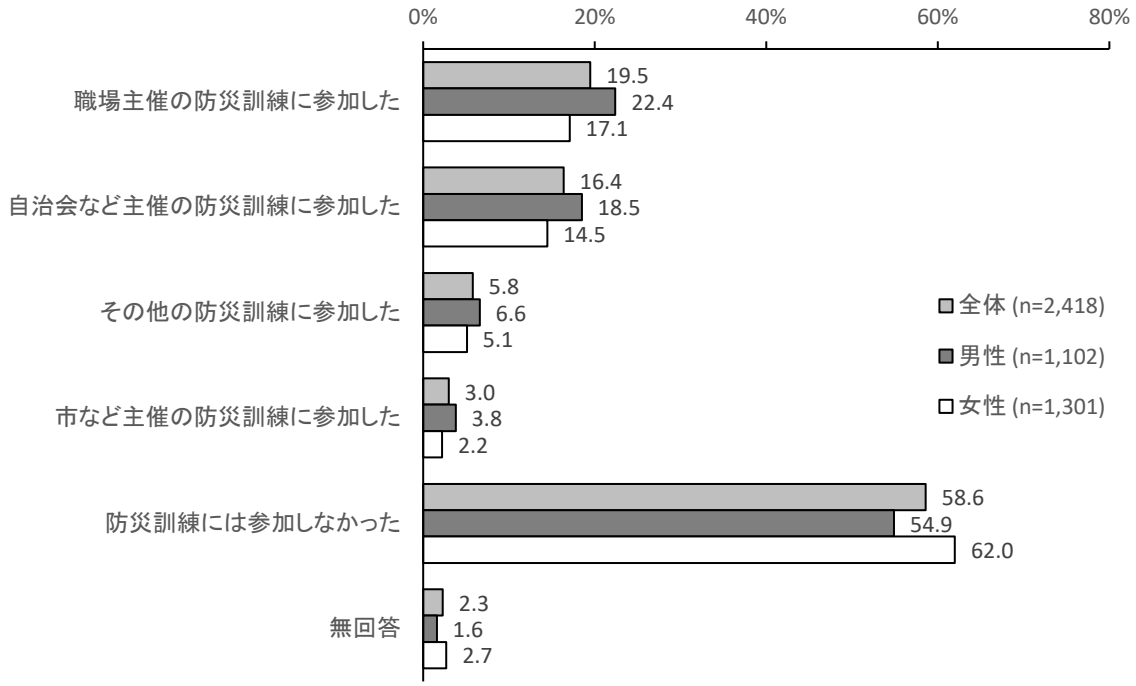
ライフステージ別にみると、「きっかけ・機会がないから」は独身期（54.0%）で５割台半ば、「家事・育児が忙しくて時間がないから」は家族形成期（61.3%）で６割強と、それぞれ高くなっている。

（図表１－14－４）

（15）防災訓練への参加状況

問７　直近３年間のあなたの防災訓練への参加状況を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

図表１－15－１　直近３年間の防災訓練への参加状況－ 全体、性別

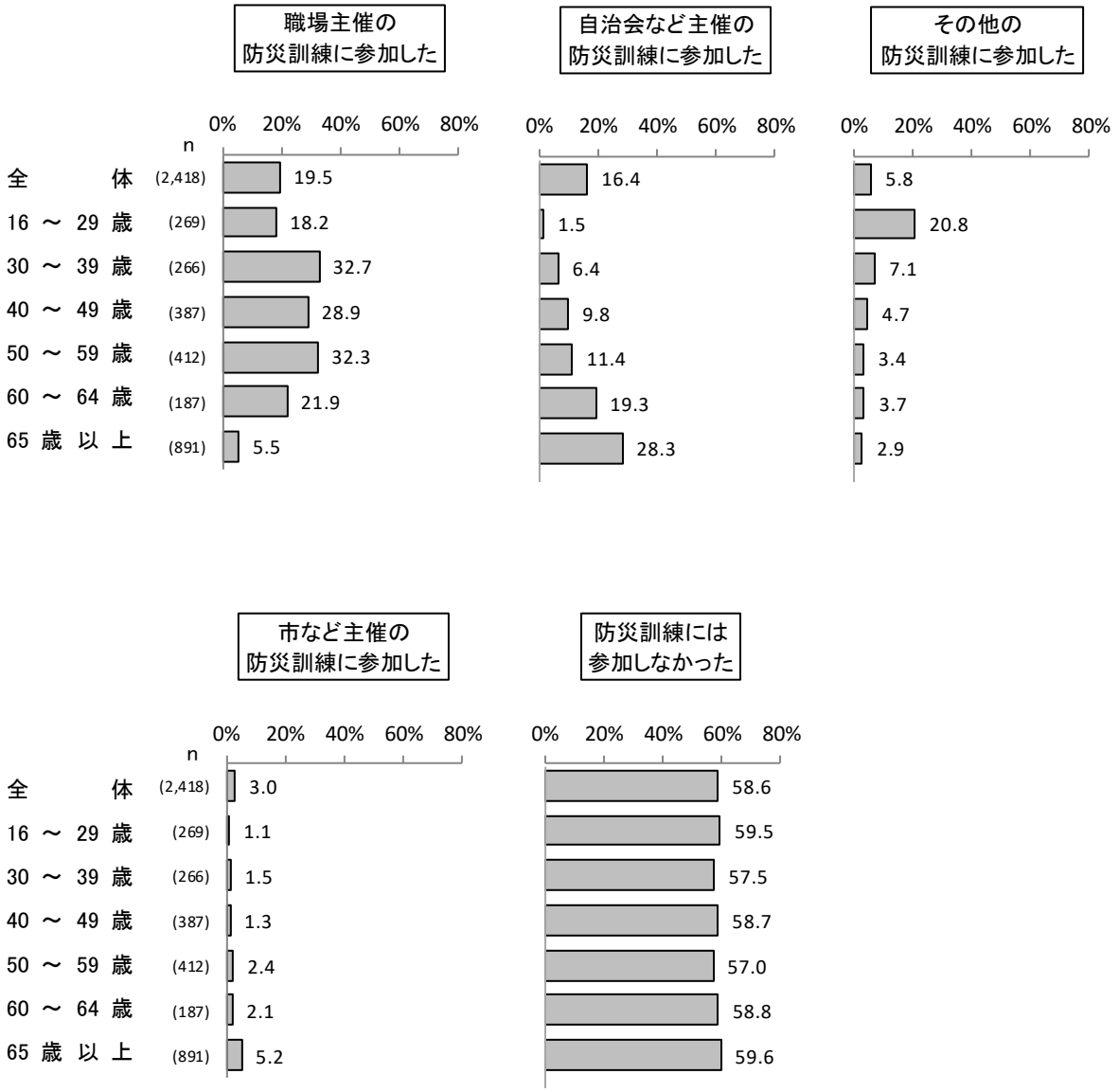


直近３年間の防災訓練への参加状況について聞いたところ、「防災訓練には参加しなかった」（58.6%）が最も高く６割近くとなっている。一方、「参加した」の中では、「職場主催の防災訓練に参加した」（19.5%）が最も高く２割弱となっている。次いで、「自治会など主催の防災訓練に参加した」（16.4%）が２割近くとなっている。

性別にみると、「防災訓練には参加しなかった」は女性（62.0%）が男性（54.9%）より 7.1 ポイント、「職場主催の防災訓練に参加した」は男性（22.4%）が女性（17.1%）より 5.3 ポイントそれぞれ高くなっている。

（図表１－15－１）

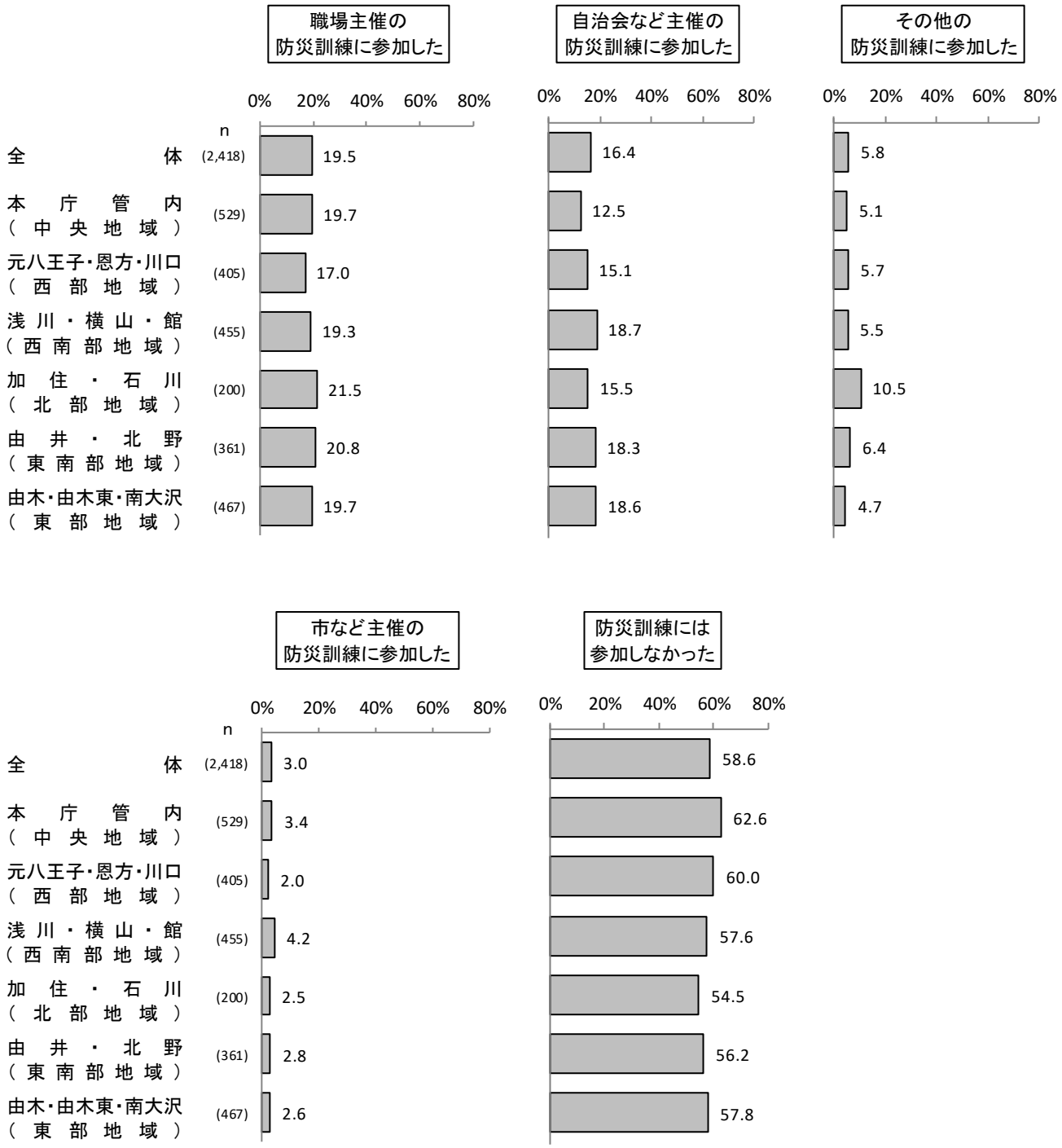
図表１－15－２　防災訓練への参加状況－年齢別



年齢別にみると、「職場主催の防災訓練に参加した」は30～39歳（32.7%）、50～59歳（32.3%）で３割強と高くなっている。「自治会など主催の防災訓練に参加した」は年齢層が上がるにつれて割合が高くなっており、65歳以上（28.3%）で３割近くとなっている。「その他の防災訓練に参加した」は16～29歳（20.8%）が約２割と高くなっている。「防災訓練には参加しなかった」はすべての年齢層で５割以上と高くなっている。

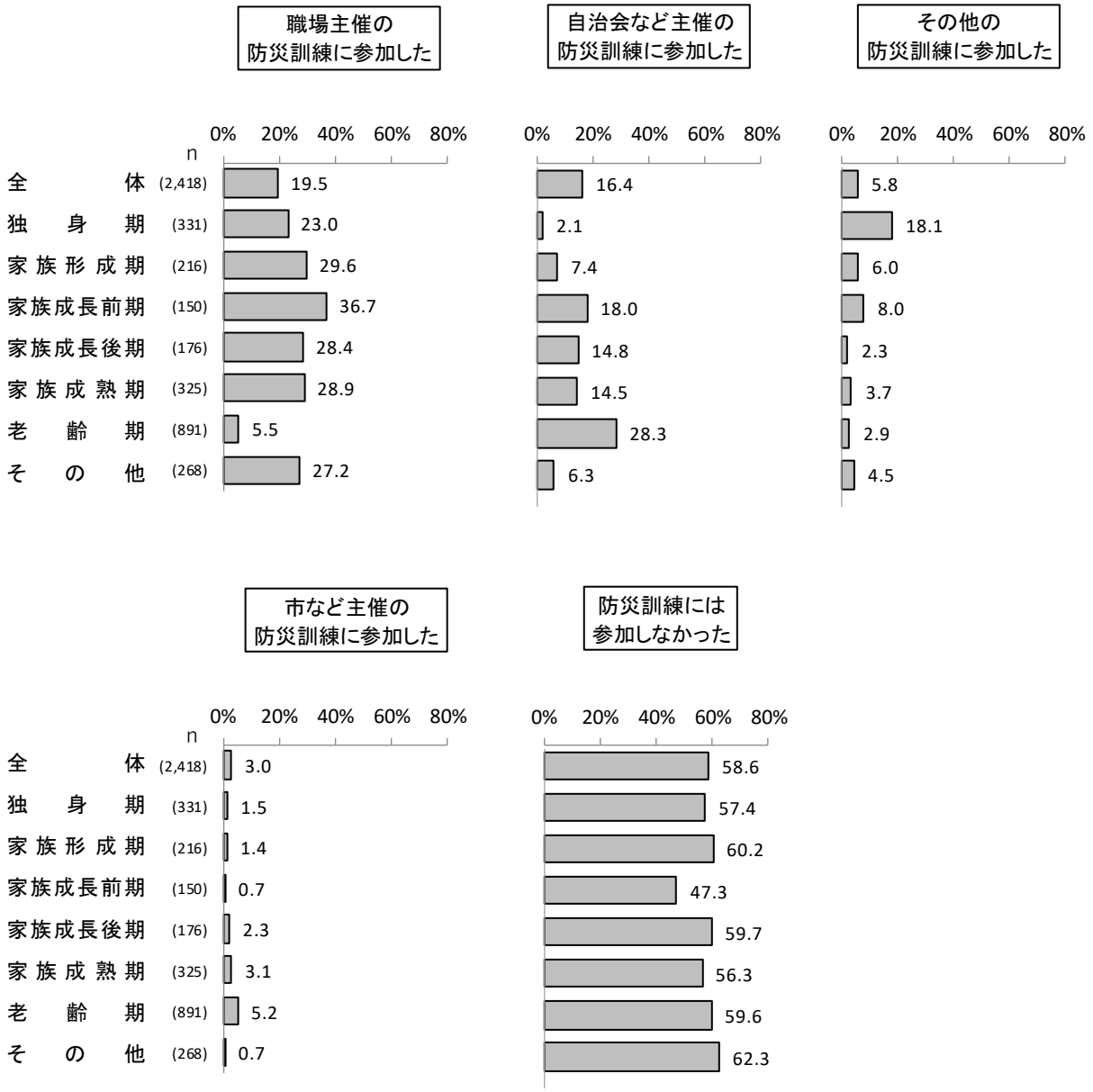
（図表１－15－２）

図表１－15－３　防災訓練への参加状況－居住地域別



居住地域別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－15－３）

図表１－15－４　防災訓練への参加状況－ライフステージ別



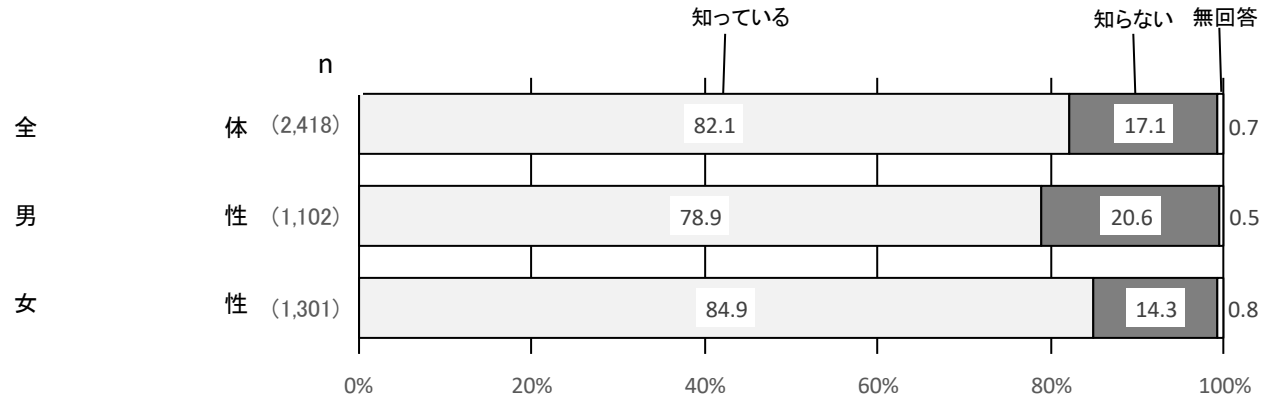
ライフステージ別にみると、「自治会など主催の防災訓練に参加した」は老齢期（28.3%）で３割近くと高くなっている。「その他の防災訓練に参加した」は独身期（18.1%）で２割近くと高くなっている。

（図表１－15－４）

(16) 自宅からの避難場所の把握状況

問８　災害時、あなたはご自宅からの避難場所を知っていますか。（○は１つだけ）

図表１－16－１　自宅からの避難場所の把握状況 － 全体、性別

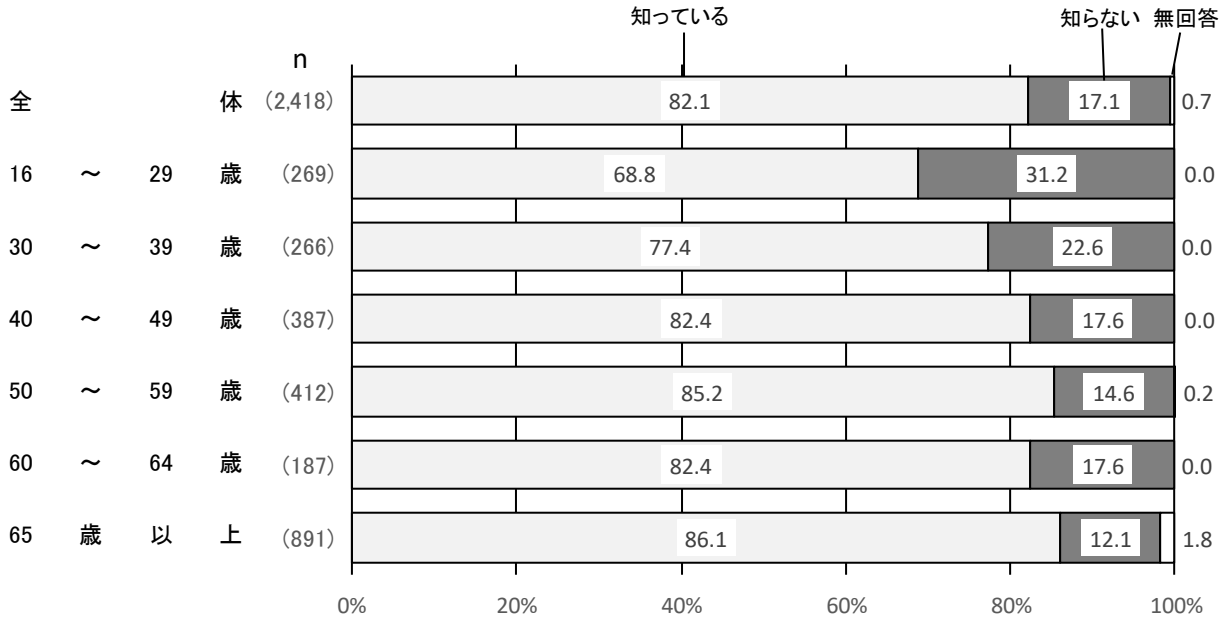


自宅からの避難場所の把握状況について聞いたところ、「知っている」(82.1%)が８割強、「知らない」(17.1%)は２割近くとなっている。

性別にみると、「知っている」は女性（84.9%）が男性（78.9%）より 6.0 ポイント高くなっている。

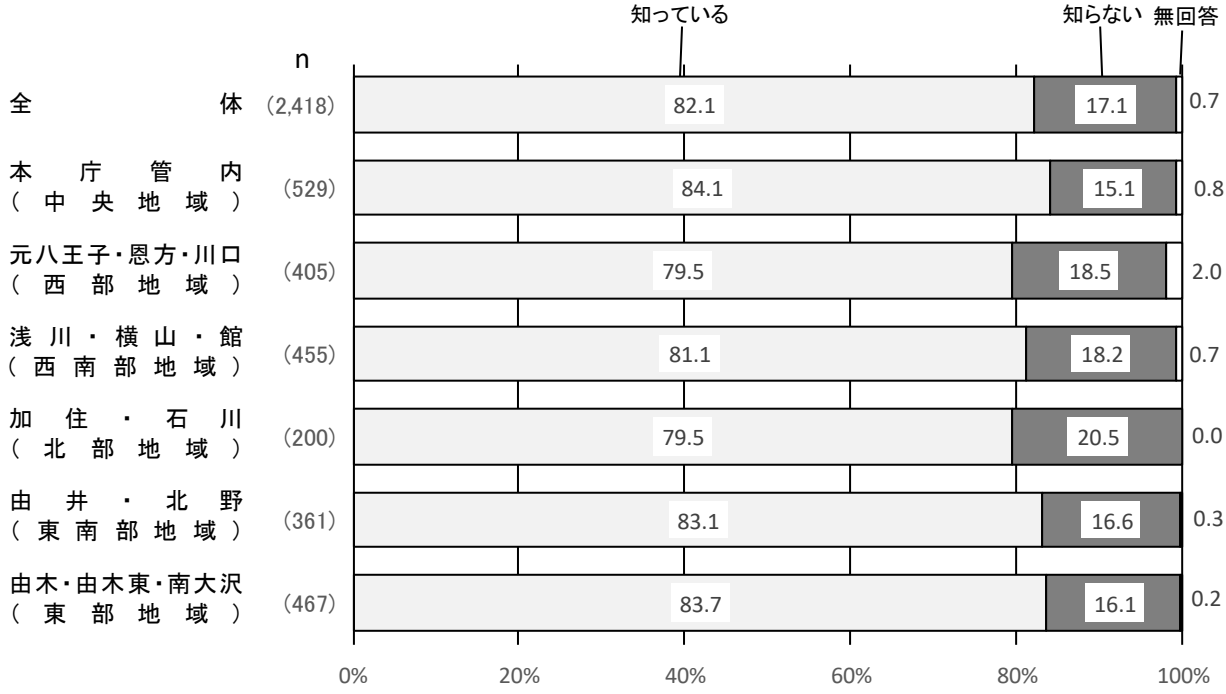
（図表１－16－１）

図表１－16－２　自宅からの避難場所の把握状況 － 年齢別



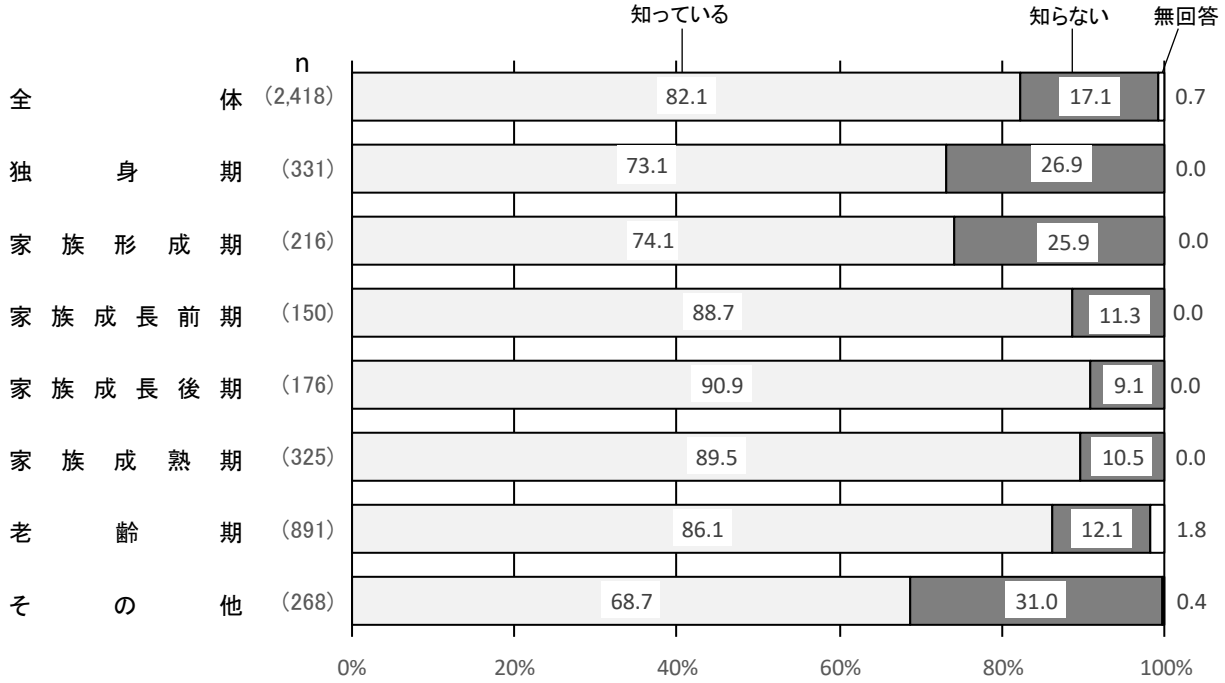
年齢別にみると、「知っている」は65歳以上（86.1%）で９割近くと最も高くなっている。「知らない」は16～29歳（31.2%）で３割強となっている。（図表１－16－２）

図表１－16－３　自宅からの避難場所の把握状況 － 居住地域別



居住地域別にみると、「知っている」はすべての地域で８割弱以上となっており、本庁管内（中央地域）（84.1%）で８割台半ばと最も高くなっている。（図表１－16－３）

図表１－16－４　自宅からの避難場所の把握状況 － ライフステージ別

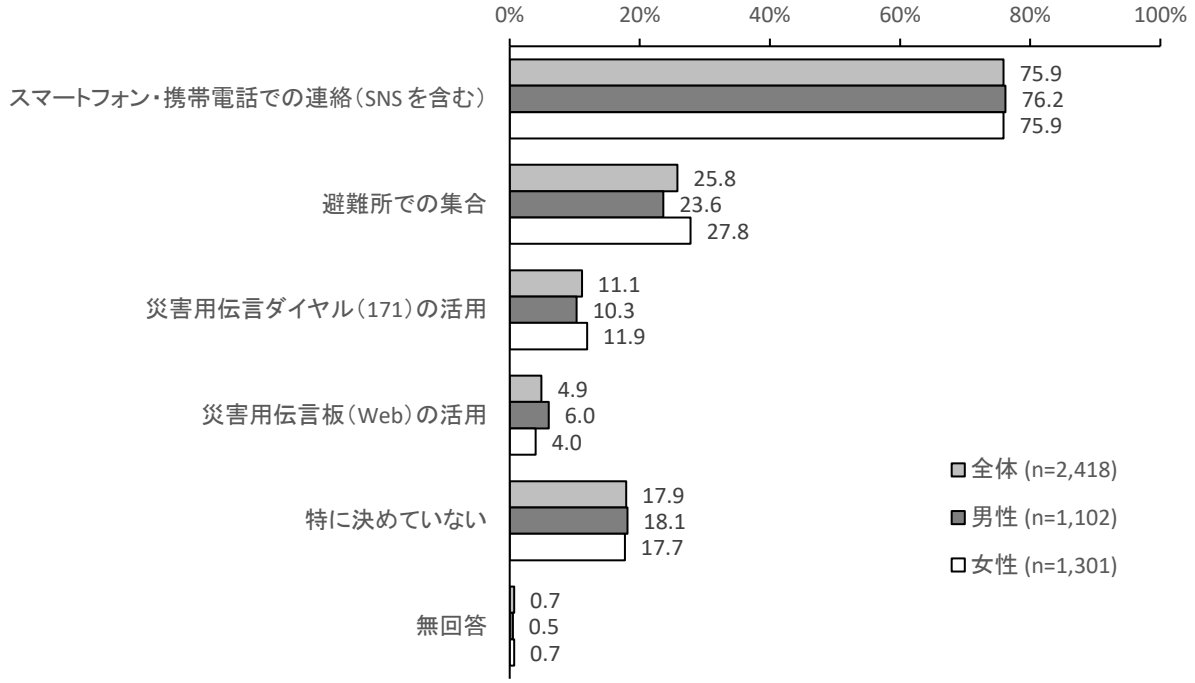


ライフステージ別にみると、「知っている」は家族成長後期（90.9%）で約９割と最も高くなっている。「知らない」はその他（31.0%）で３割強、独身期（26.9%）で３割近くとなっている。（図表１－16－３）

（17）連絡方法の共有について

問９　災害時、家族や大切な人との連絡方法について共有しているものを教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

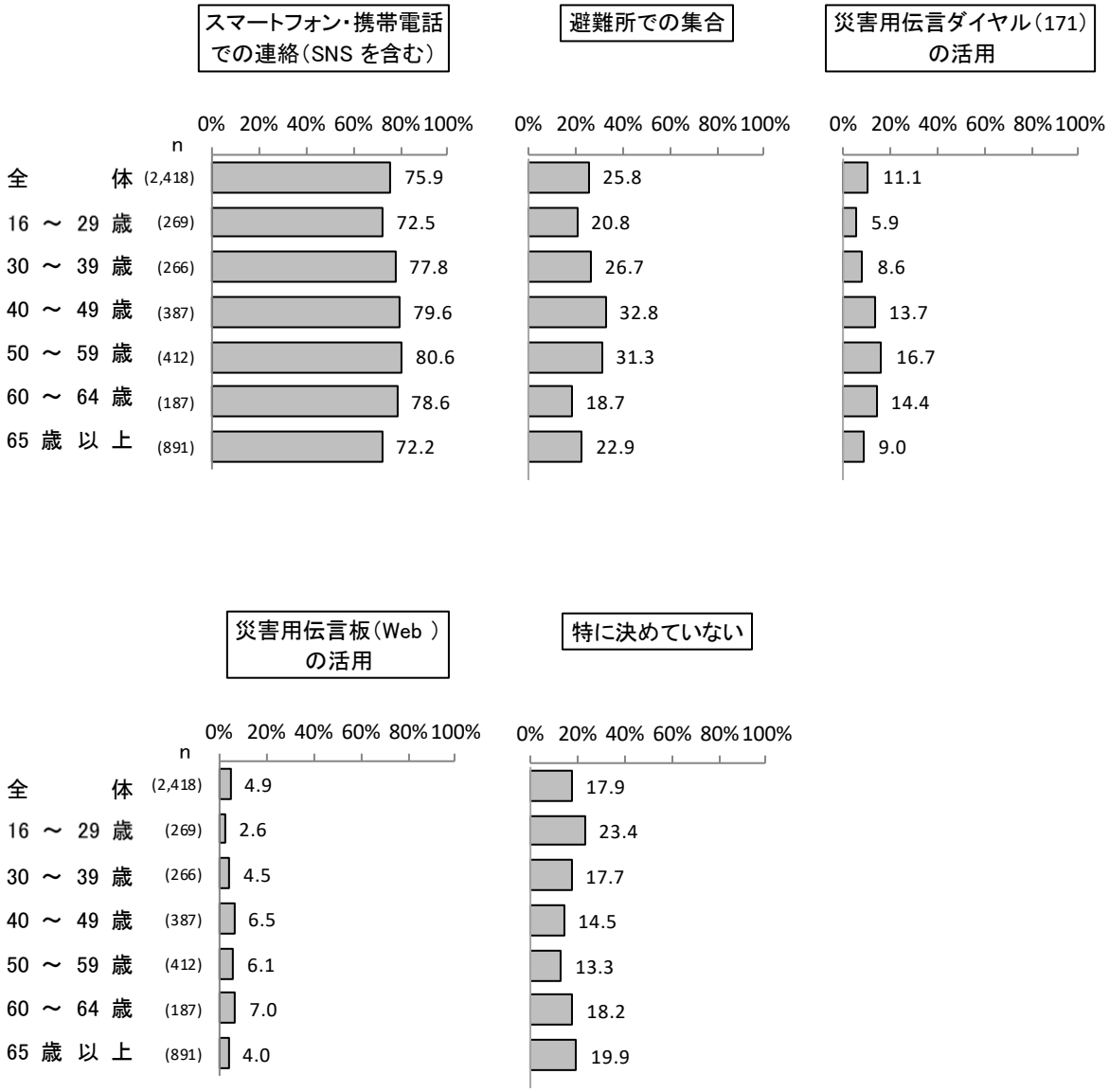
図表１－17－１　連絡方法の共有 － 全体、性別



連絡方法の共有について聞いたところ、「スマートフォン・携帯電話での連絡（SNS を含む）」（75.9％）が最も高く７割台半ばとなっている。次いで、「避難所での集合」（25.8％）、「災害用伝言ダイヤル（171）の活用」（11.1％）などの順となっている。一方、「特に決めていない」（17.9％）は２割近くとなっている。

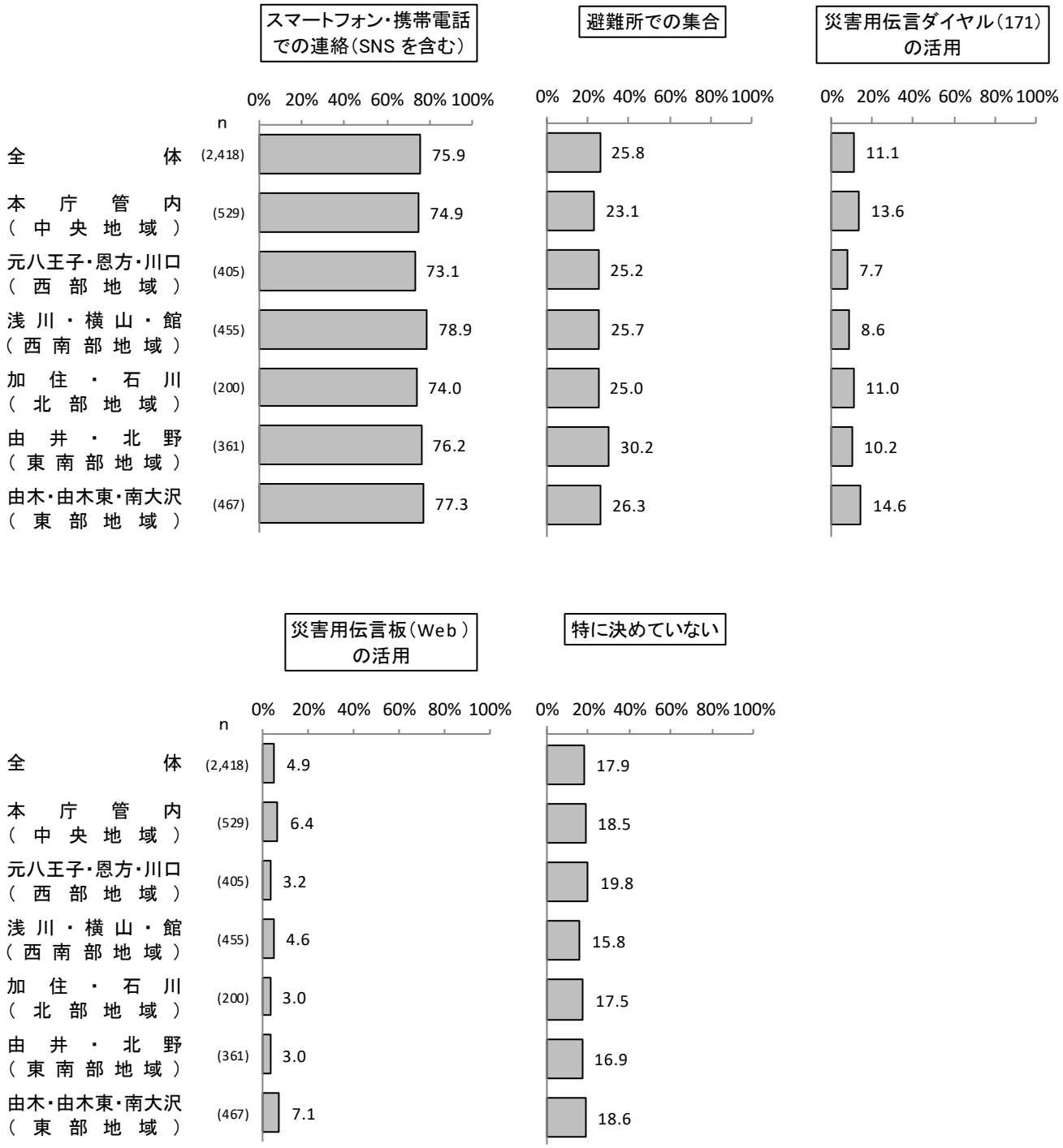
性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図１－17－１）

図表１－17－２　連絡方法の共有 － 年齢別



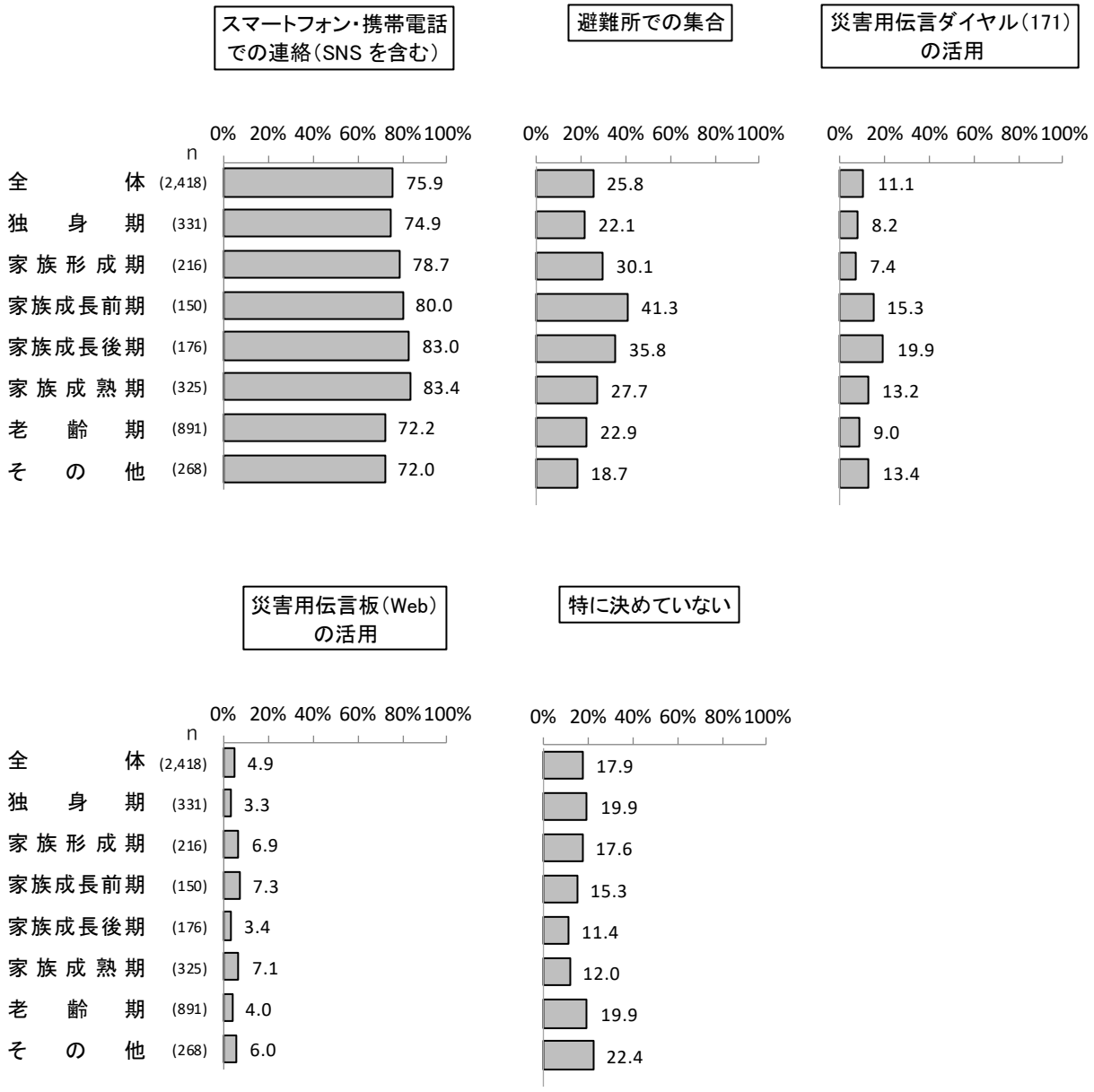
年齢別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－17－２）

図表１－17－３　連絡方法の共有 － 居住地域別



居住地域別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－17－３）

図表１－17－４　連絡方法の共有 － ライフステージ別



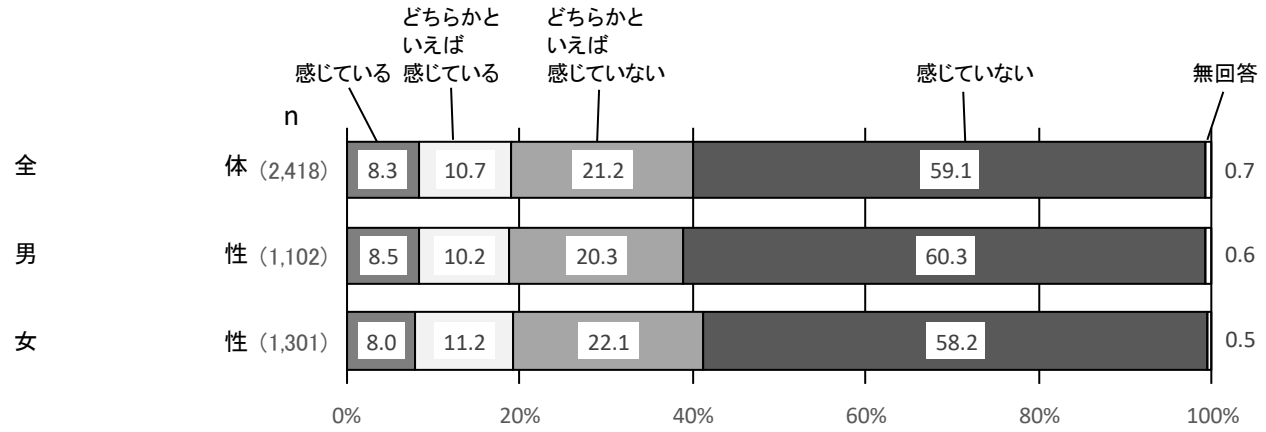
ライフステージ別にみると、「避難所での集合」は家族成長前期（41.3%）で４割強と高くなっている。

（図表１－17－４）

（18）買物の不便さについて

問 10　あなたのご家庭は食料品などの買物に不便を感じていますか。（○は１つだけ）

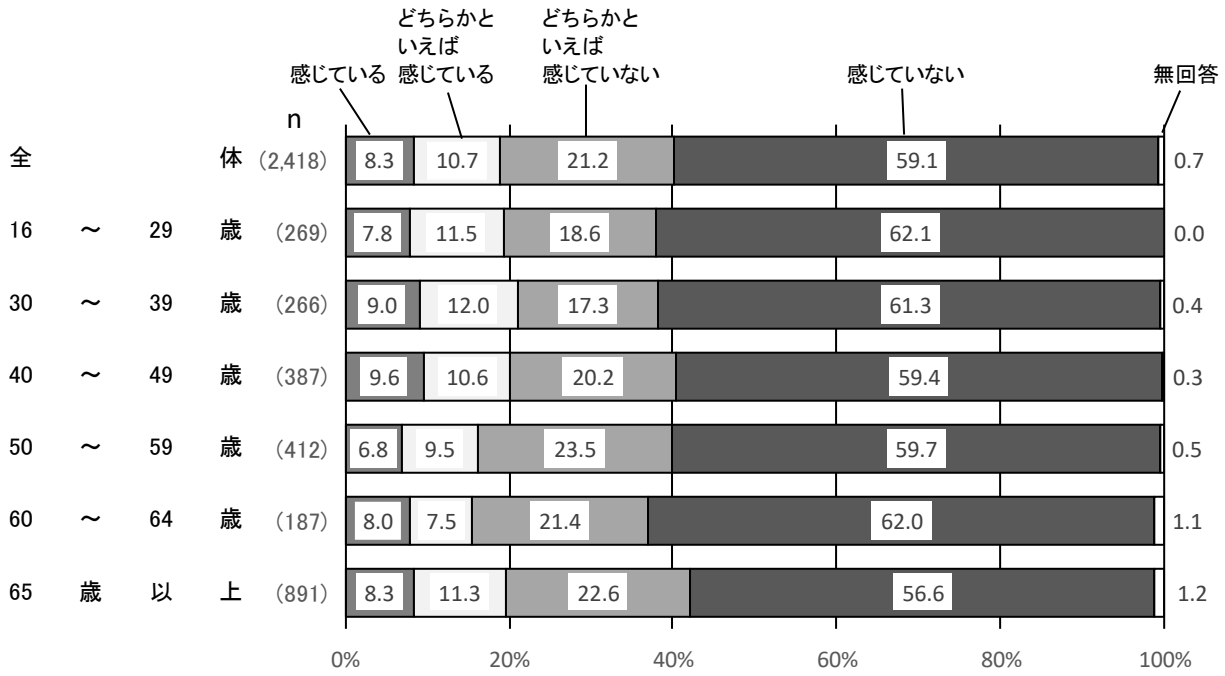
図表１－18－１　買物の不便さについて　－ 全体、性別



買物の不便さについて聞いたところ、「感じている」（8.3%）と「どちらかといえば感じている」（10.7%）を合わせた≪感じている≫（19.0%）は２割弱となっている。「どちらかといえば感じていない」（21.2%）と「感じていない」（59.1%）を合わせた≪感じていない≫（80.3%）は約８割となっている。

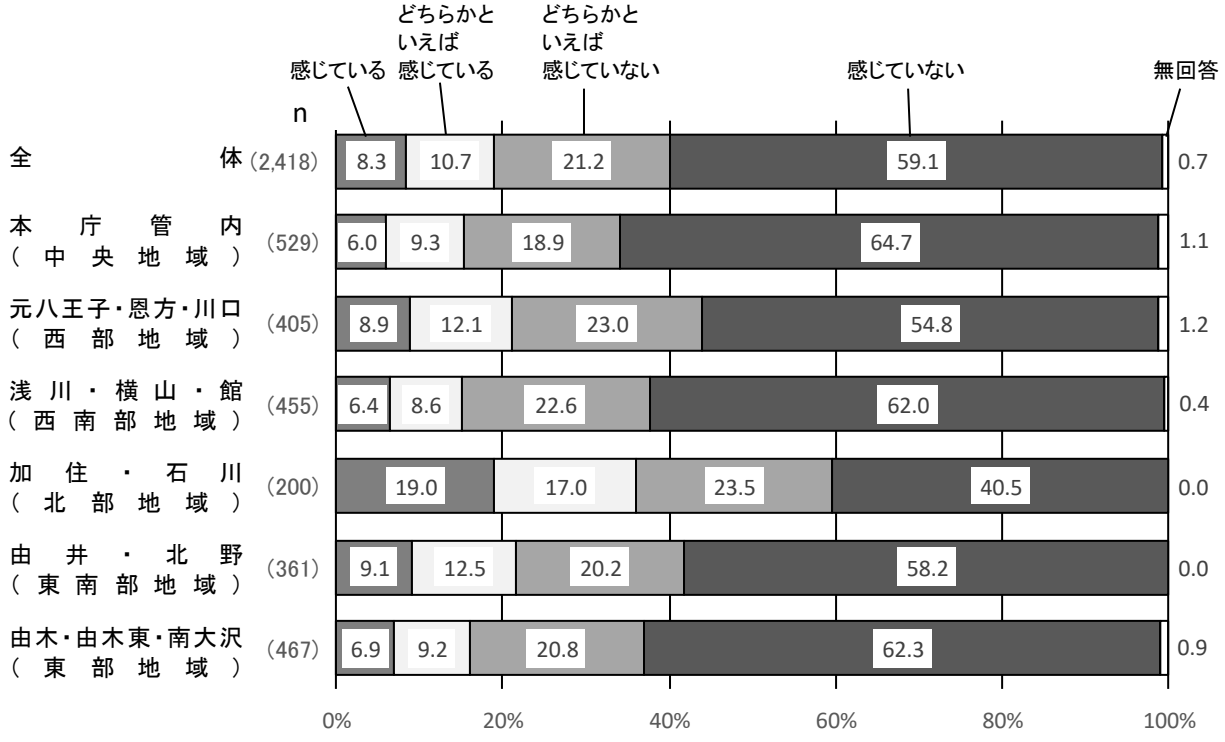
性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－18－１）

図表１－18－２　買物の不便さについて　－　年齢別



年齢別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－18－２）

図表１－18－３　買物の不便さについて　－　居住地域別



居住地域別にみると、≪感じている≫は加住・石川（北部地域）（36.0%）で４割近くと高くなっている。≪感じていない≫は浅川・横山・館（西南部地域）（84.6%）で８割台半ばと最も高くなっている。

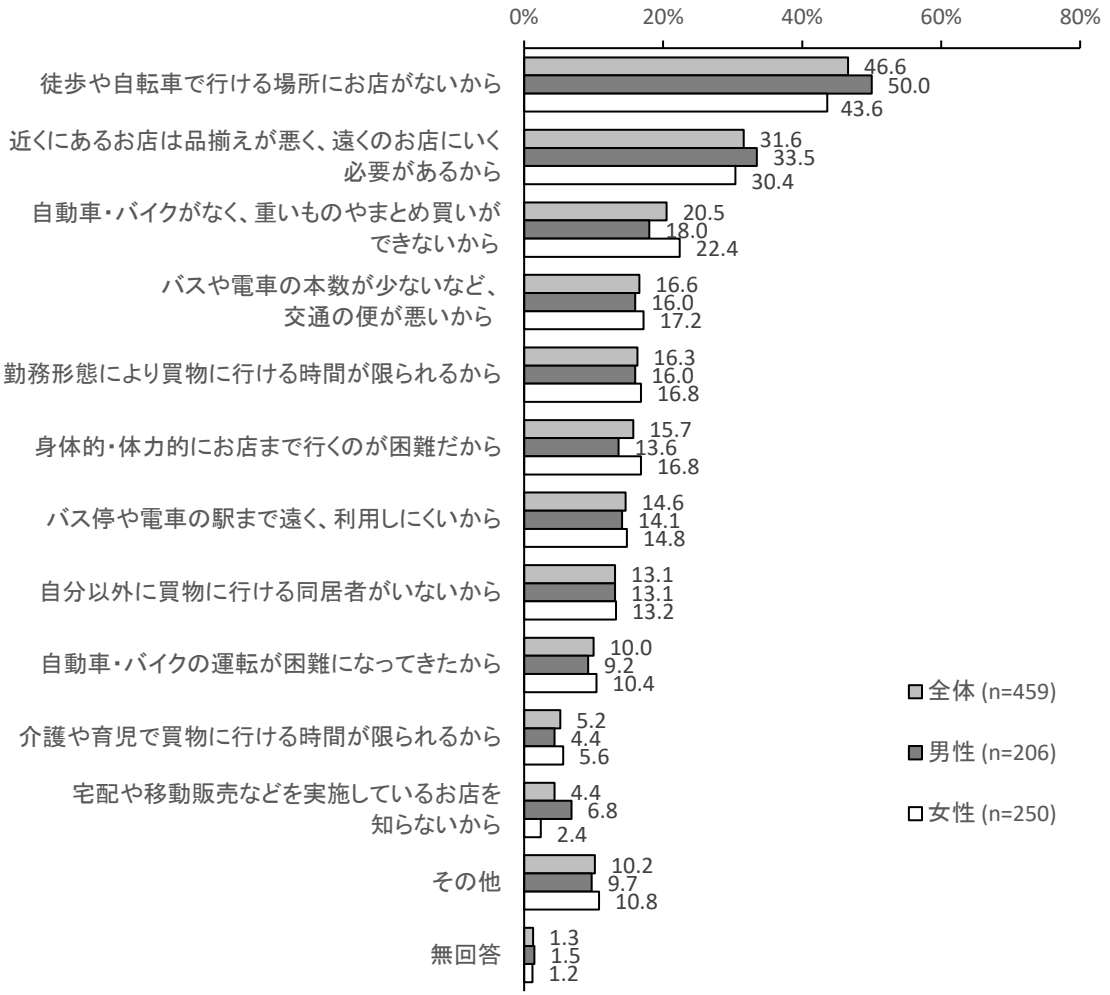
（図表１－18－３）

(19) 不便と感じている理由

（「１　感じている」、「２　どちらかといえば感じている」を選択した方にお聞きします。）

問 10-１　不便と感じている理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

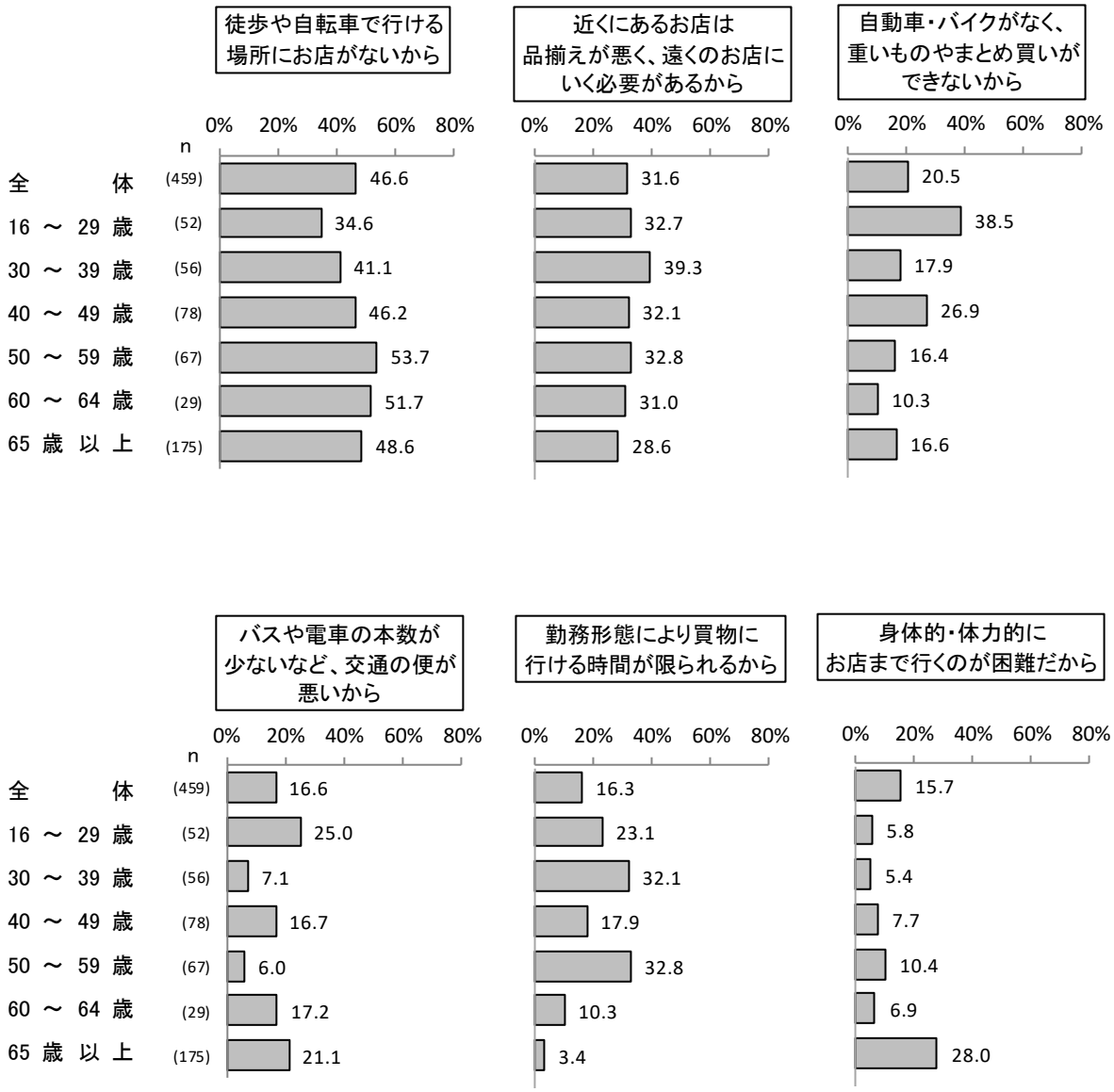
図表１－19－１　不便と感じている理由 － 全体、性別



買物に不便を「感じている」または「どちらかといえば感じている」と回答した 459 人にその理由について聞いたところ、「徒歩や自転車で行ける場所にお店がないから」（46.6%）が最も高く５割近くとなっている。次いで、「近くにあるお店は品揃えが悪く、遠くのお店にいく必要があるから」（31.6%）、「自動車・バイクがなく、重いものやまとめ買いができないから」（20.5%）などの順となっている。

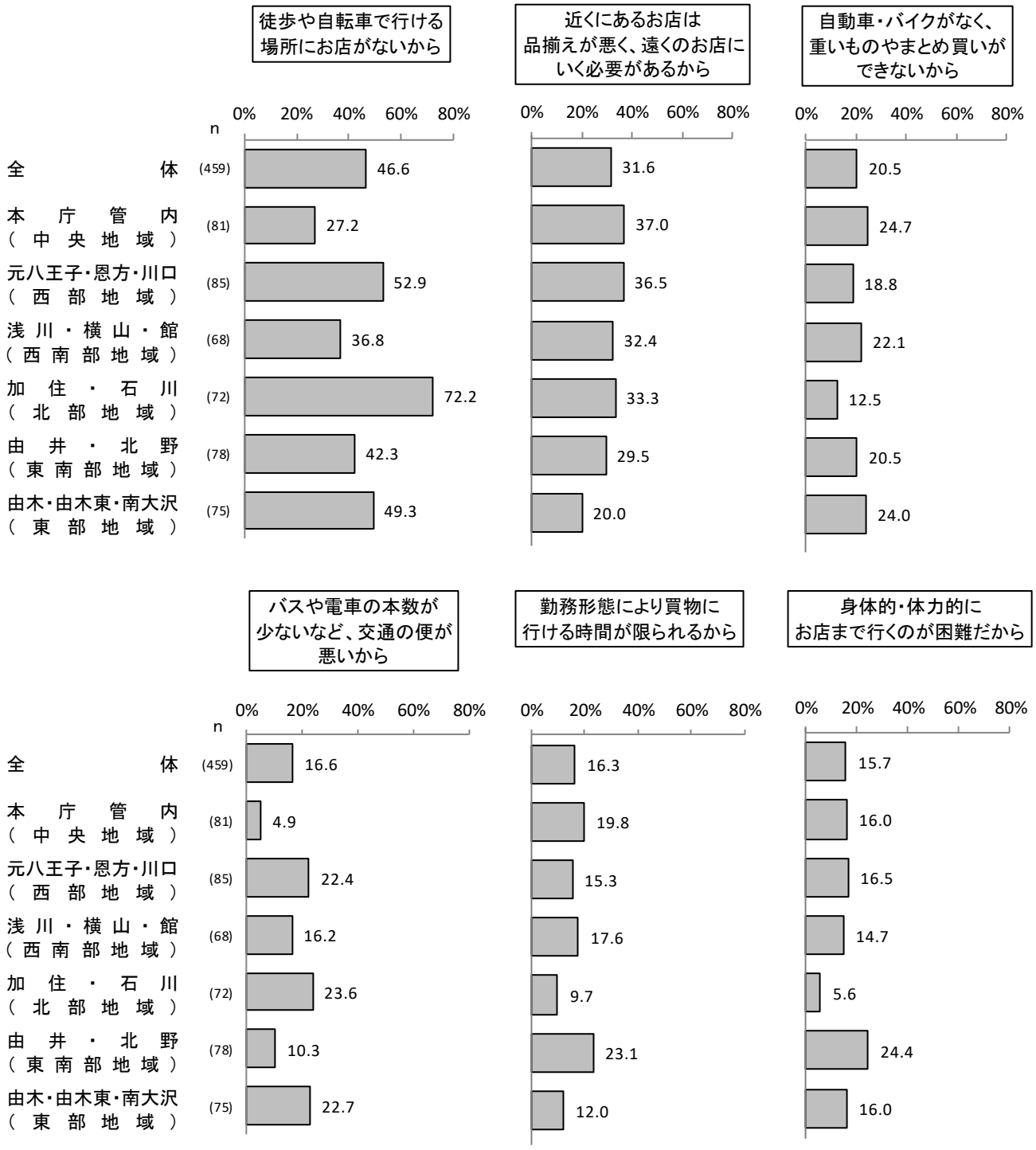
性別にみると、「徒歩や自転車で行ける場所にお店がないから」は男性（50.0%）が女性（43.6%）より 6.4 ポイント高くなっている。（図表１－19－１）

図表１－19－２　不便と感じている理由 － 年齢別（上位６位）



年齢別にみると、「自動車・バイクがなく、重いものやまとめ買いができないから」は16～29歳（38.5%）で４割近く、「身体的・体力的にお店まで行くのが困難だから」は65歳以上（28.0%）で３割近くとそれぞれ高くなっている。（図表１－19－２）

図表１－19－３　不便と感じている理由 － 居住地域別（上位６位）

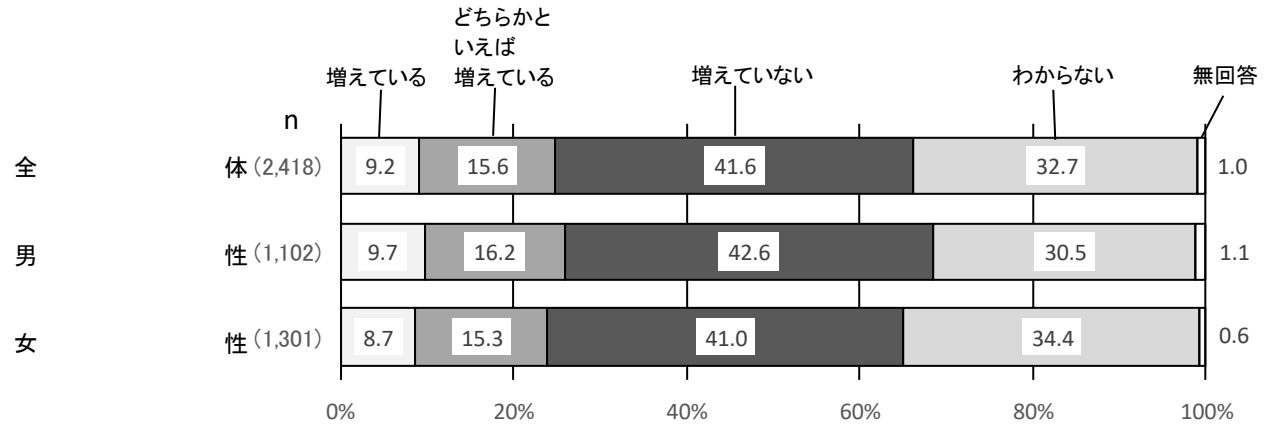


居住地域別にみると、「徒歩や自転車で行ける場所にお店がないから」は加住・石川（北部地域）（72.2%）で７割強と高くなっており、本庁管内（中央地域）（27.2%）で３割近くと低くなっている。「近くにあるお店は品揃えが悪く、遠くのお店に行く必要があるから」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（20.0%）で２割と低くなっている。（図表１－19－３）

(20) 空き地や空き家の増加

問11　あなたの身近に空き地や空き家は増えていますか。(○は1つだけ)

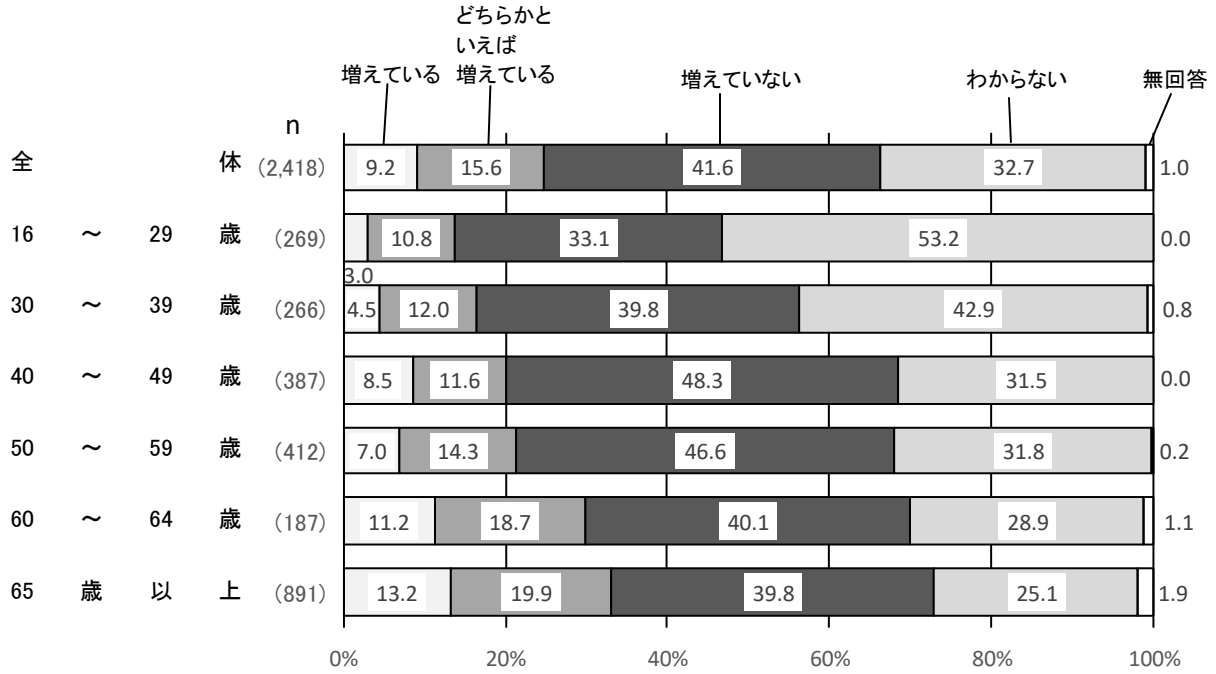
図表１－20－１　空き地や空き家の増加 － 全体、性別



空き地や空き家の増加について聞いたところ、「増えている」(9.2%) と「どちらかといえば増えている」(15.6%) を合わせた≪増えている≫ (24.8%) は２割台半ばとなっている。一方、「増えていない」(41.6%) は４割強となっている。

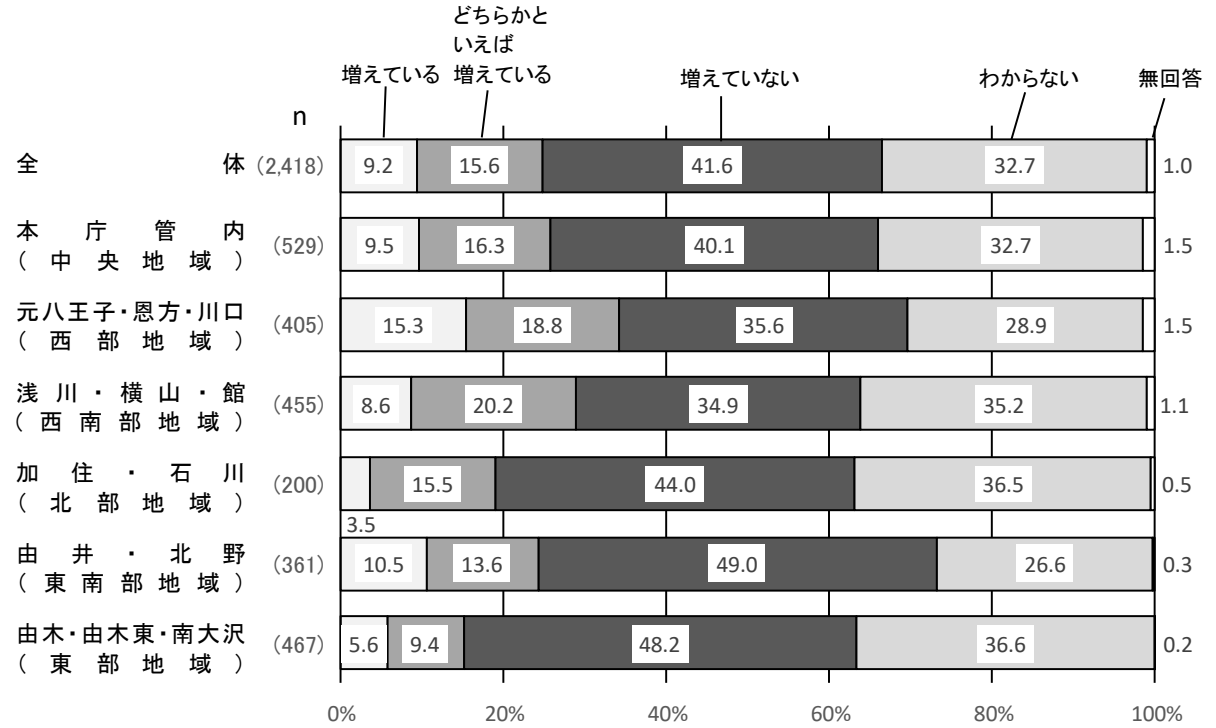
性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。(図表１－20－１)

図表１－20－２　空き地や空き家の増加 － 年齢別



年齢別にみると、≪増えている≫は年齢層が上がるにつれて割合が高くなっており、65 歳以上（33.1%）で３割強となっている。（図表１－20－２）

図表１－20－３　空き地や空き家の増加 － 居住地域別



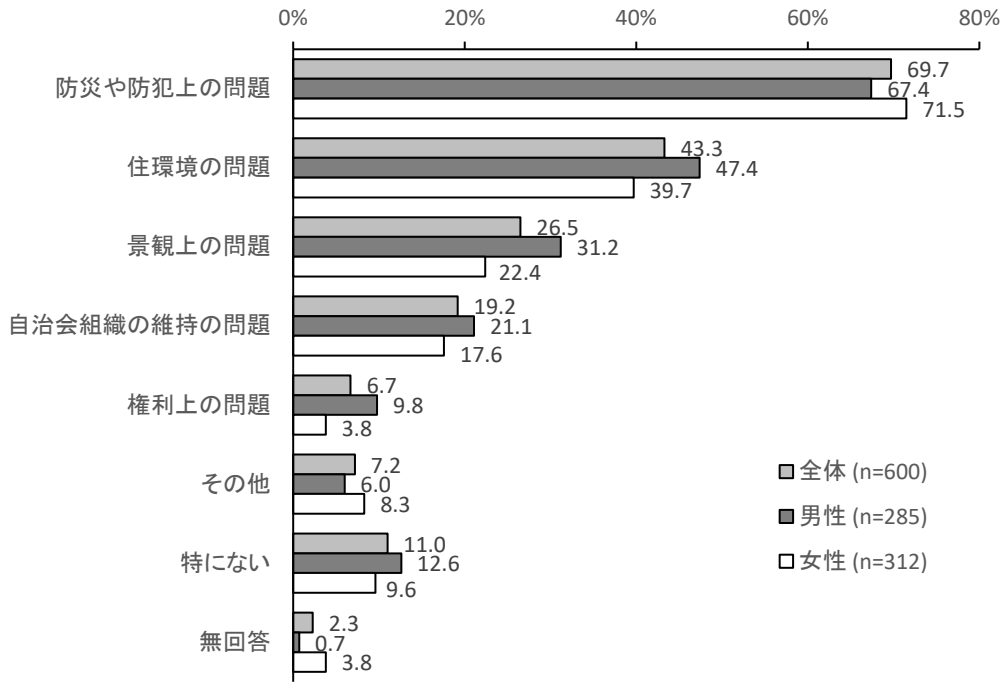
居住地域別にみると、≪増えている≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）（34.1%）で３割台半ばと最も高く、次いで浅川・横山・館（西南部地域）（28.8%）、本庁管内（中央地域）（25.8%）などの順となっている。（図表１－20－３）

(21) 空き地や空き家が増加したことへの問題意識

（「１　増えている」、「２　どちらかといえば増えている」を選択した方にお聞きします。）

問 11-１　あなたが空き地や空き家が増えて問題だと考えることはどのようなことですか。
（あてはまるものすべてに○）

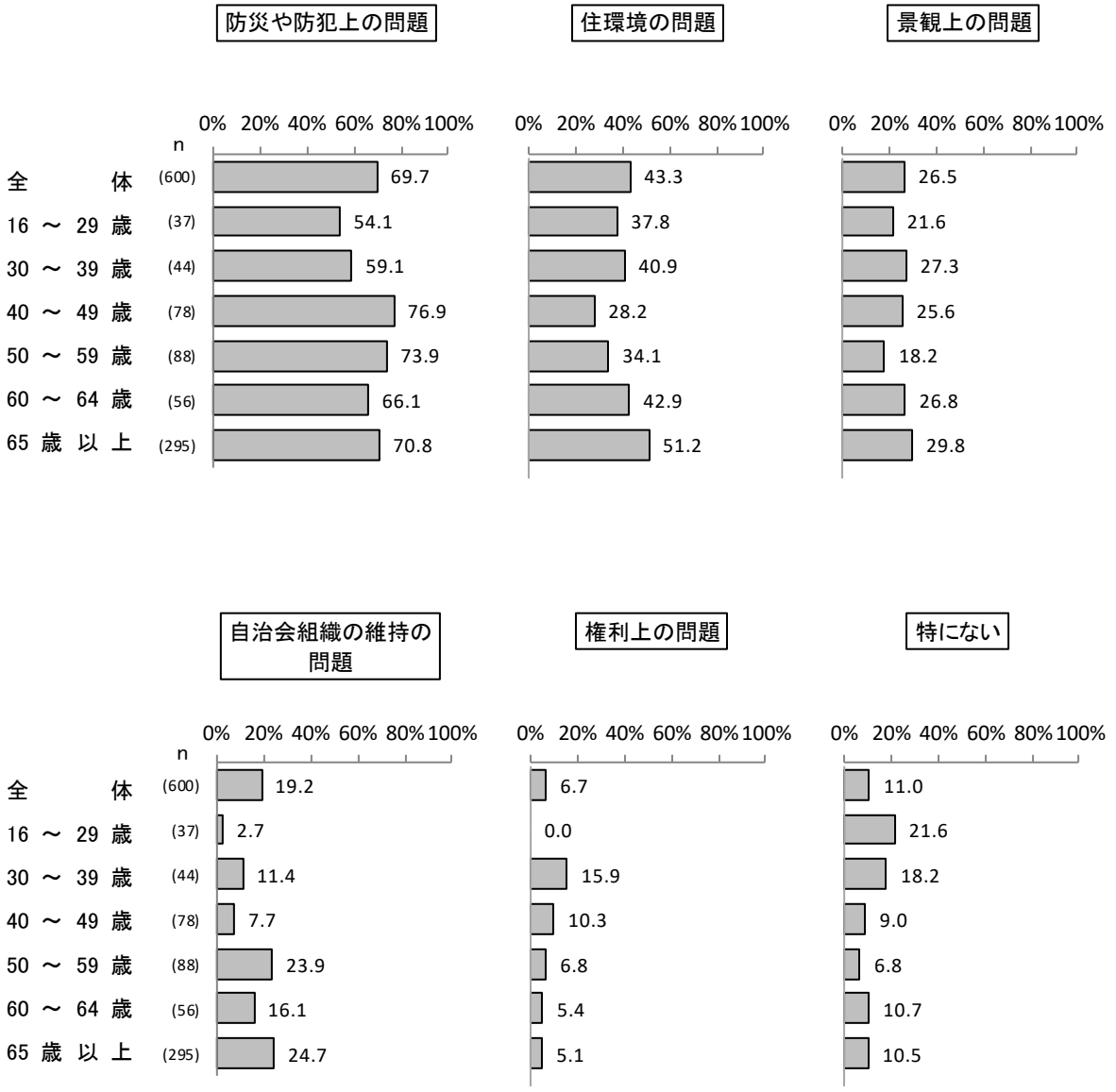
図表１－21－１　空き地や空き家が増加したことへの問題意識 － 全体、性別



空き地や空き家が「増えている」または「どちらかといえば増えている」と回答した 600 人に増加したことへの問題意識について聞いたところ、「防災や防犯上の問題」（69.7%）が最も高く７割弱となっている。次いで、「住環境の問題」（43.3%）、「景観上の問題」（26.5%）などの順となっている。

性別にみると、「景観上の問題」は男性（31.2%）が女性（22.4%）より 8.8 ポイント、「住環境の問題」は男性（47.4%）が女性（39.7%）より 7.7 ポイントそれぞれ高くなっている。（図表１－21－１）

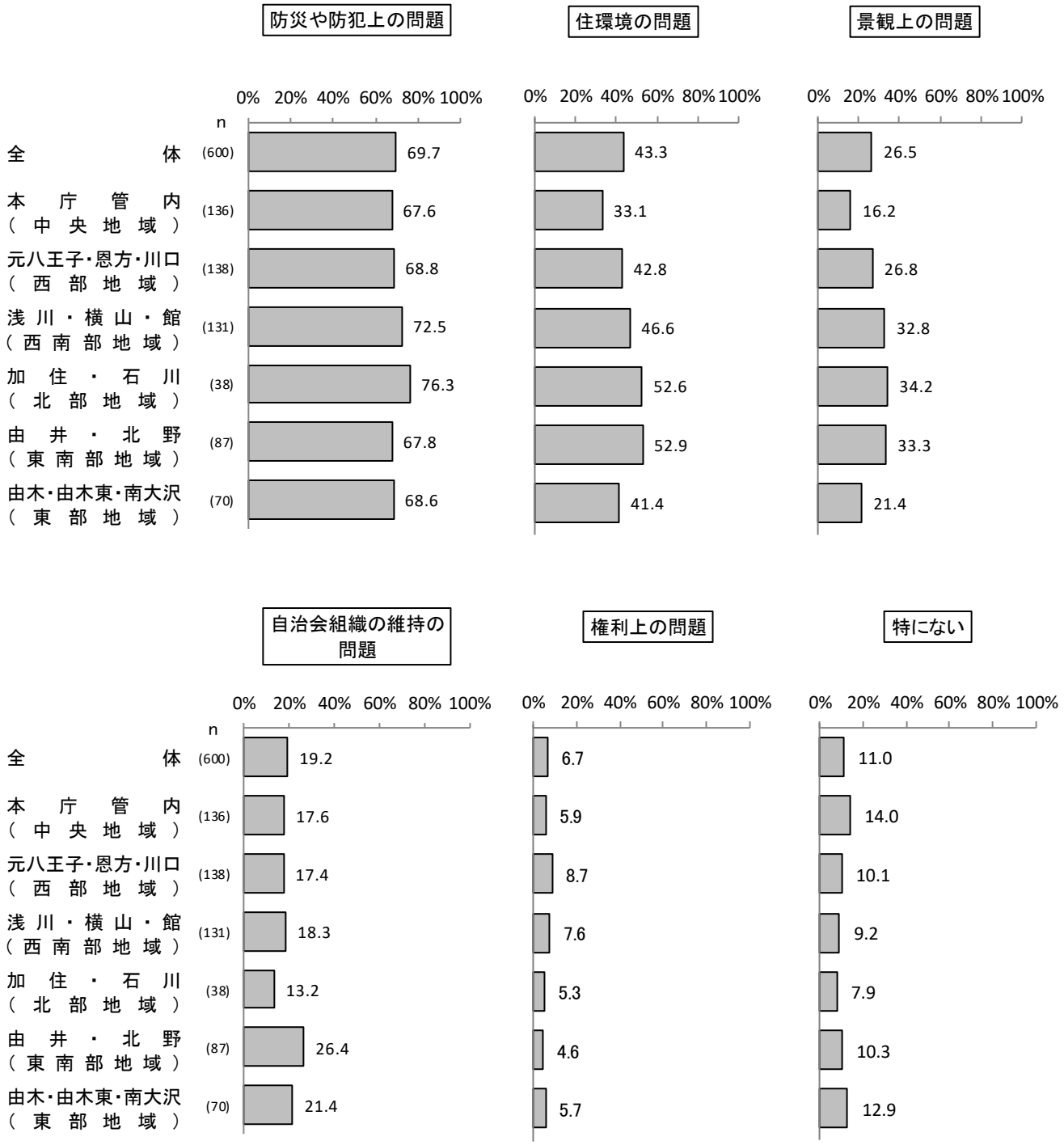
図表１－21－２　空き地や空き家が増加したことへの問題意識 － 年齢別



年齢別にみると、「防災や防犯上の問題」は40～49歳（76.9%）、50～59歳（73.9%）、65歳以上（70.8%）で７割以上と高くなっている。「住環境の問題」は65歳以上（51.2%）で５割強と高くなっている。

（図表１－21－２）

図表１－21－３　空き地や空き家が増加したことへの問題意識 － 居住地域別



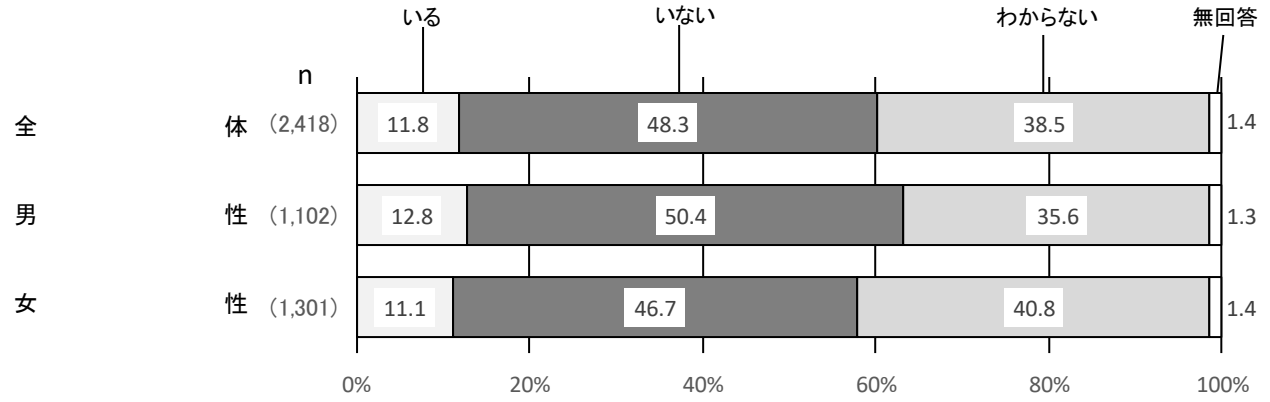
居住地域別にみると、「防災や防犯上の問題」はすべての地域で最も高くなっている。「自治会組織の維持の問題」は由井・北野（東南部地域）（26.4%）で３割近くと高くなっている。（図表１－21－３）

≪身近にいる支援が必要な人について≫

（22）支援が必要と感じる人の有無

問12　あなたの身近（家族を除く）に日常の生活を送るにあたり支援が必要と感じる人はいますか。
（○は１つだけ）

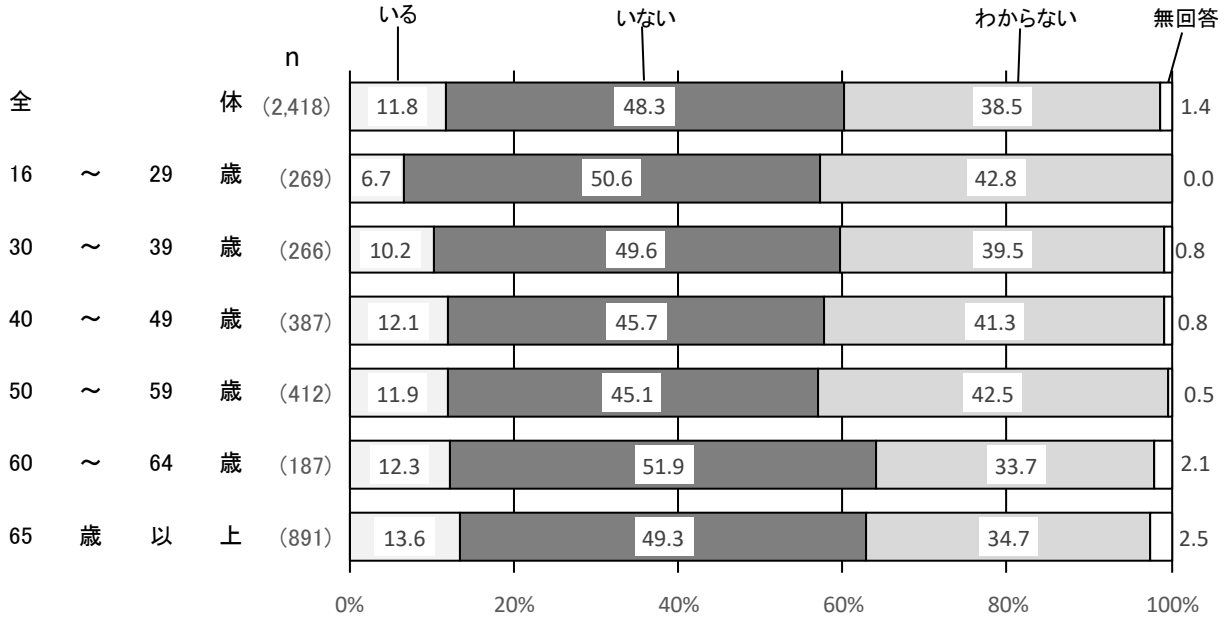
図表１－22－１　支援が必要と感じる人の有無 － 全体、性別



身近（家族を除く）に支援が必要と感じる人の有無について聞いたところ、「いる」（11.8%）が１割強、「いない」（48.3%）が５割近くとなっている。

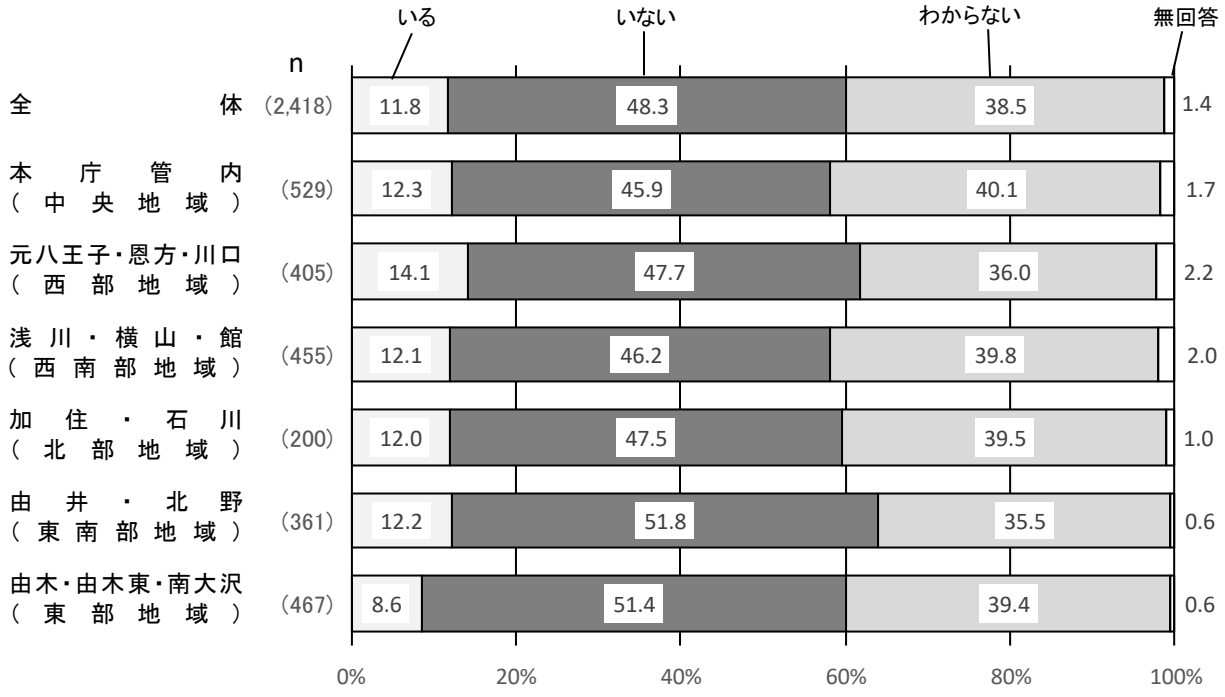
性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－22－１）

図表１－22－２　支援が必要と感じる人の有無 － 年齢別



年齢別にみると、「いる」は65歳以上（13.6%）で１割強と最も高くなっている。（図表１－22－２）

図表１－22－３　支援が必要と感じる人の有無 － 居住地域別



居住地域別にみると、「いる」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（14.1%）で１割台半ばと最も高くなっている。（図表１－22－３）

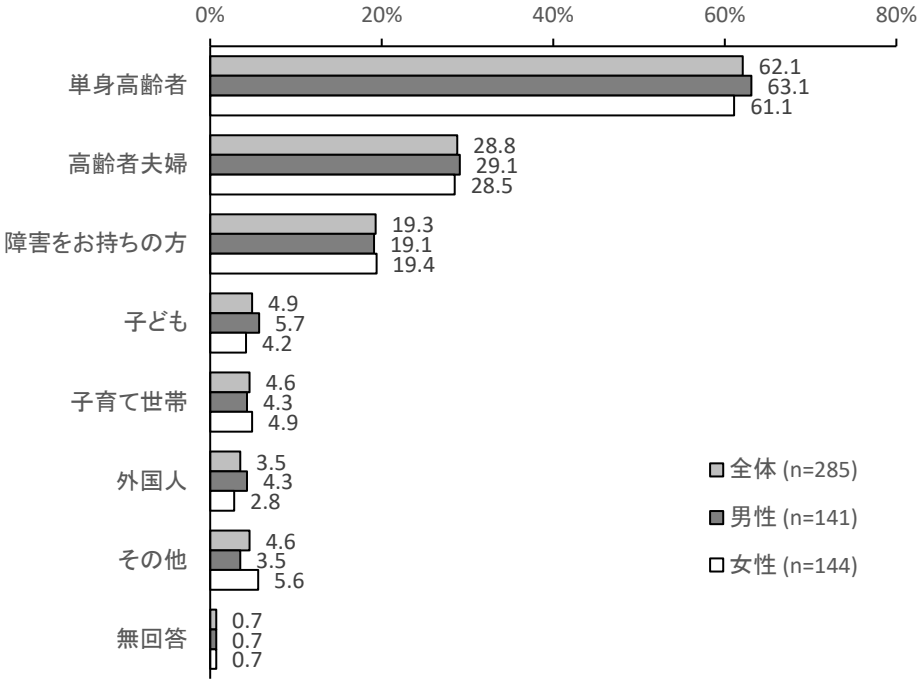
(23) 支援が必要と感じる対象者・状況について

(「1　いる」を選択した方にお聞きします。)

問 12-1　その方はどのような方ですか。また、その方はどのような状況ですか。

(あてはまるものすべてに○とその状況（自由記述))

図表１－23－１　支援が必要と感じる対象者・状況 － 全体、性別



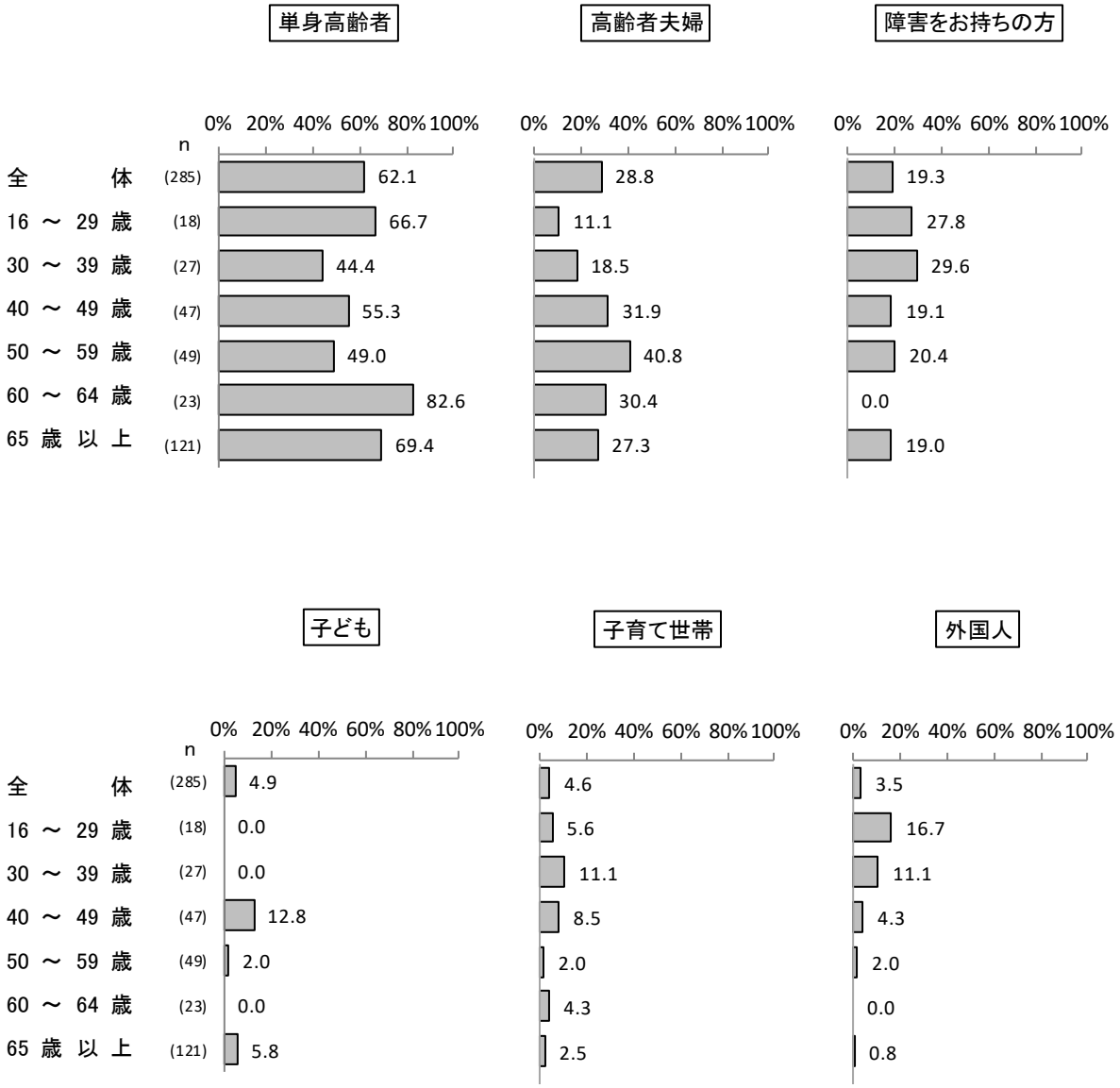
自由記述（状況）の抜粋

【単身高齢者】	日常の買物が困難、災害時の避難が困難、近所づきあいが不安、孤立
【高齢者夫婦】	老々介護、地域住民との接触があまりなく生活状況等がわからない
【障害をお持ちの方】	地域コミュニティに参加していない、救急時に連絡が自由に出来ない
【子ども】	貧困により十分な食事がとれない、不登校
【子育て世帯】	困った時に子どもを預ける場所がない、経済的に大変そう
【外国人】	外国籍のため住宅の契約がしづらい、日本語が十分にはなせない

身近（家族を除く）に支援が必要と感じる人が「いる」と回答した 285 人に支援が必要と感じる対象者・状況について聞いたところ、「単身高齢者」(62.1%) が最も高く６割強となっている。次いで、「高齢者夫婦」(28.8%)、「障害をお持ちの方」(19.3%) などの順となっている。

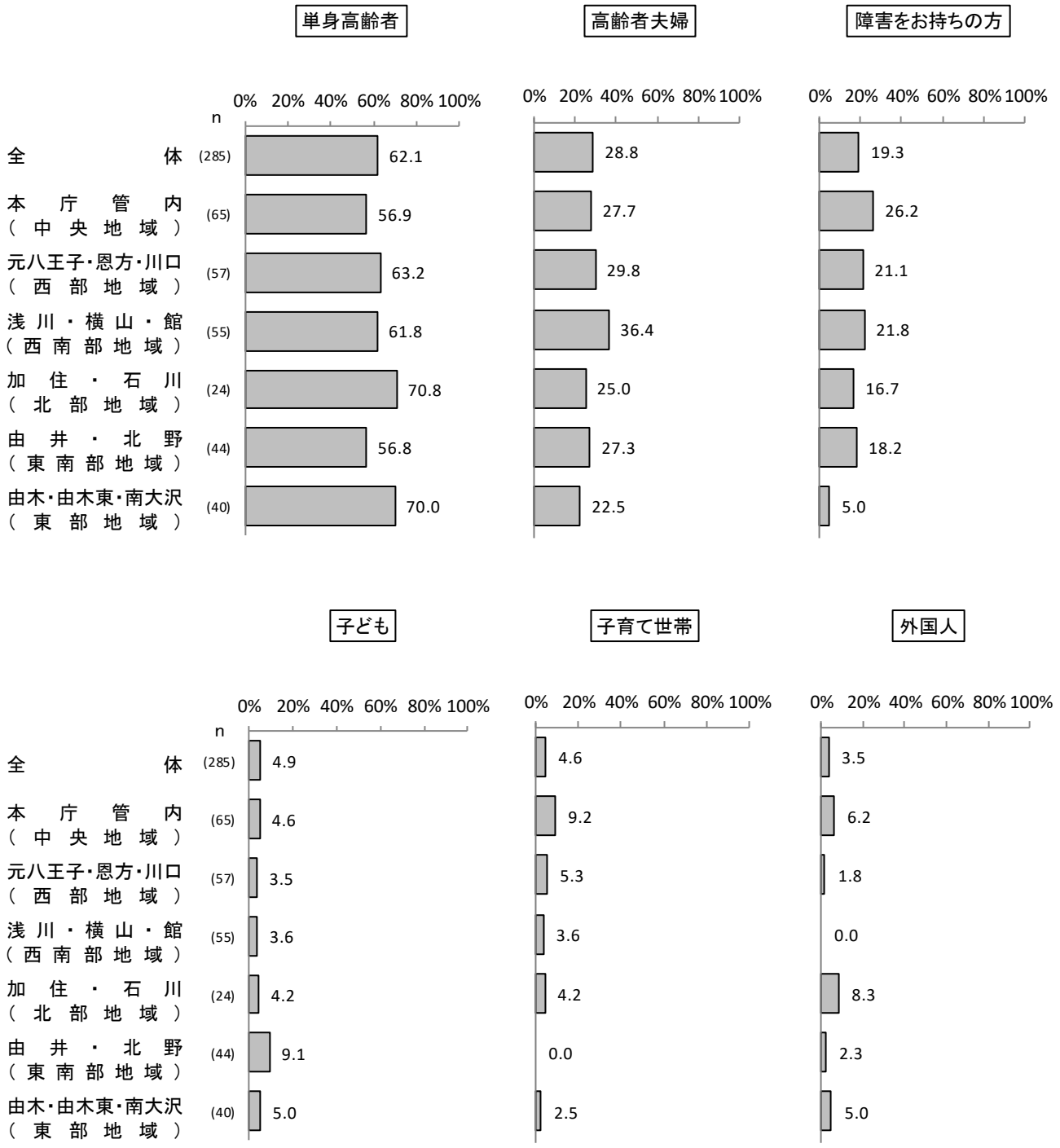
性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。(図表１－23－１)

図表１－23－２　支援が必要と感じる対象者・状況 － 年齢別



年齢別にみると、「高齢者夫婦」は50～59歳（40.8%）で約４割と高くなっている。（図表１－23－２）

図表１－23－３　支援が必要と感じる対象者・状況 － 居住地域別



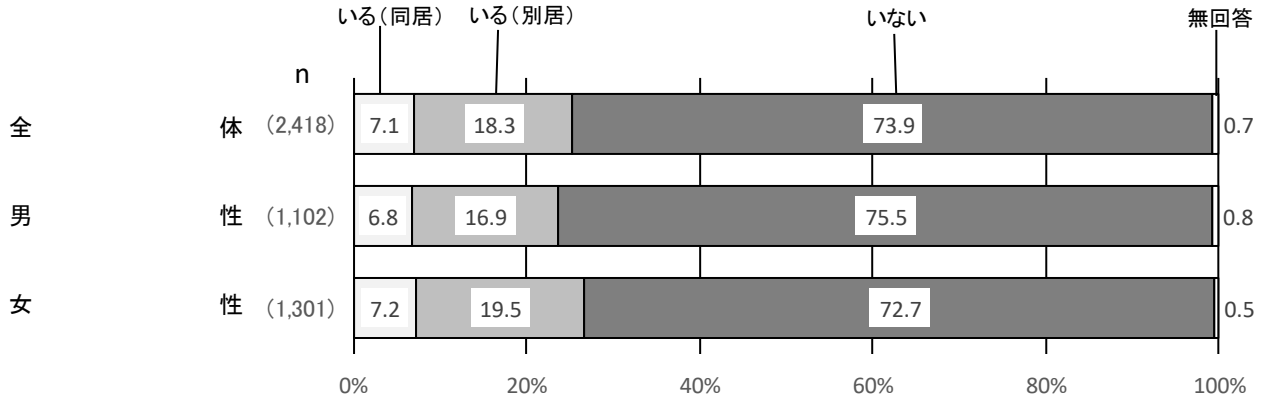
居住地域別にみると、「単身高齢者」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（70.0%）で７割以上と高くなっている。（図表１－23－３）

≪介護について≫

（24）親族の介護状況

問 13　現在、あなたの親族に介護を要する人はいますか。（○は 1 つだけ）

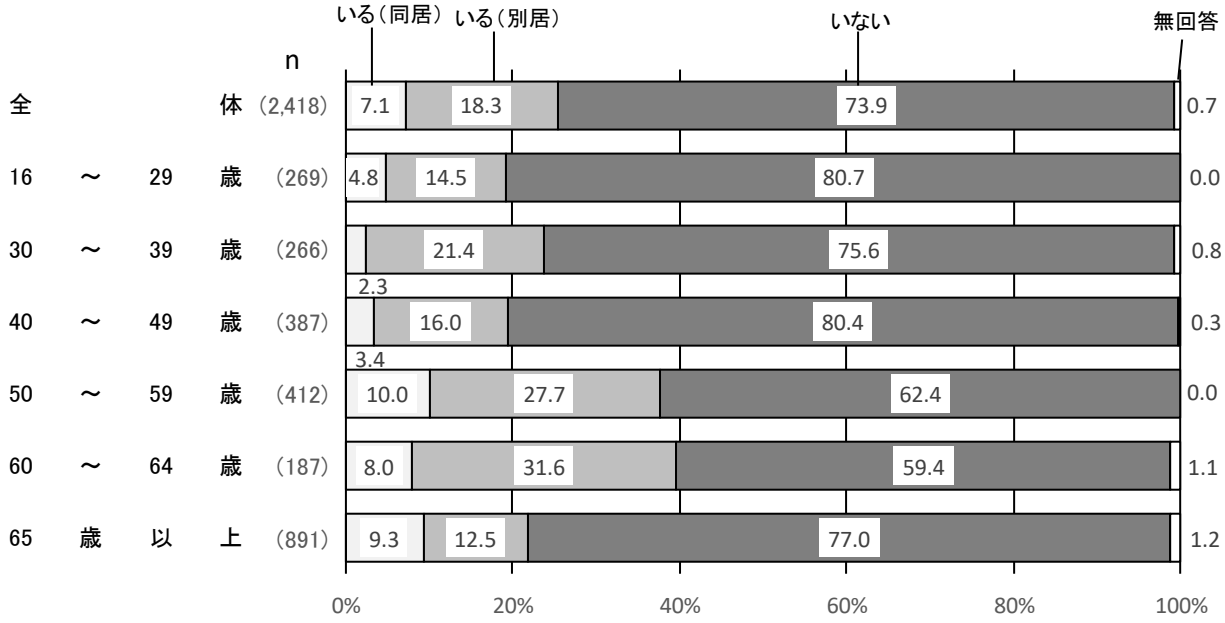
図表１－24－１　親族の介護状況 － 全体、性別



親族の介護状況について聞いたところ、「いる（同居）」（7.1%）と「いる（別居）」（18.3%）を合わせた≪いる≫（25.4%）は２割台半ばとなっている。

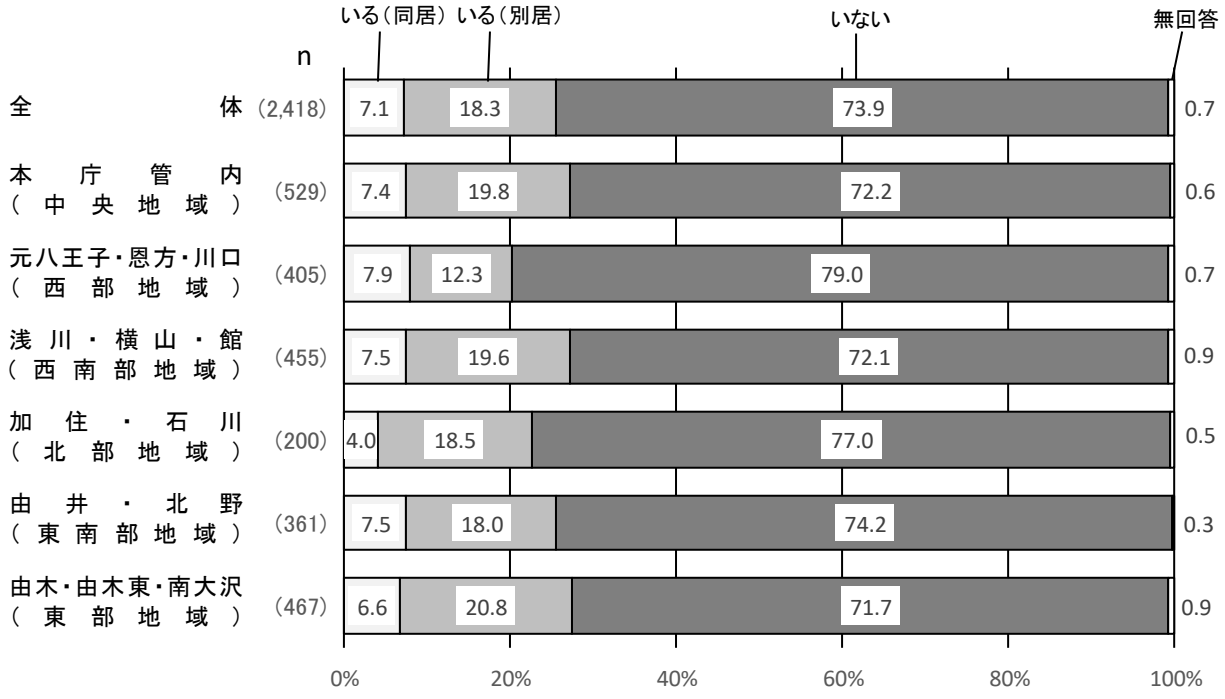
性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－24－１）

図表１－24－２　親族の介護状況 － 年齢別



年齢別にみると、≪いる≫は60～64歳（39.6%）で４割弱、50～59歳（37.7%）で４割近くと高くなっている。（図表１－24－２）

図表１－24－３　親族の介護状況 － 居住地域別



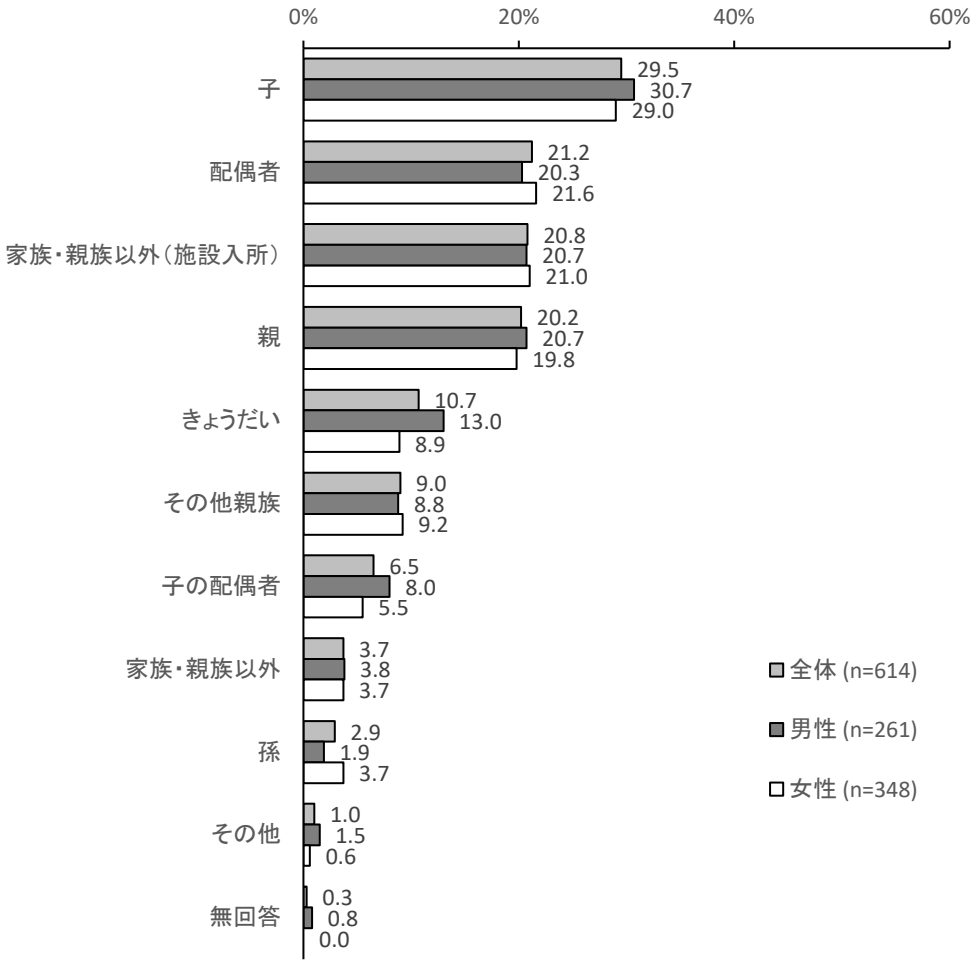
居住地域別にみると、≪いる≫はすべての地域で２割台となっており、由木・由木東・南大沢（東部地域）（27.4%）で３割近くと最も高くなっている。（図表１－24－３）

(25) 介護を要する人からみた介護者の続柄

（「１　いる（同居）」、「２　いる（別居）」を選択した方にお聞きします。）

問 13-１　介護を要する人からみて、実際に介護をしている人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

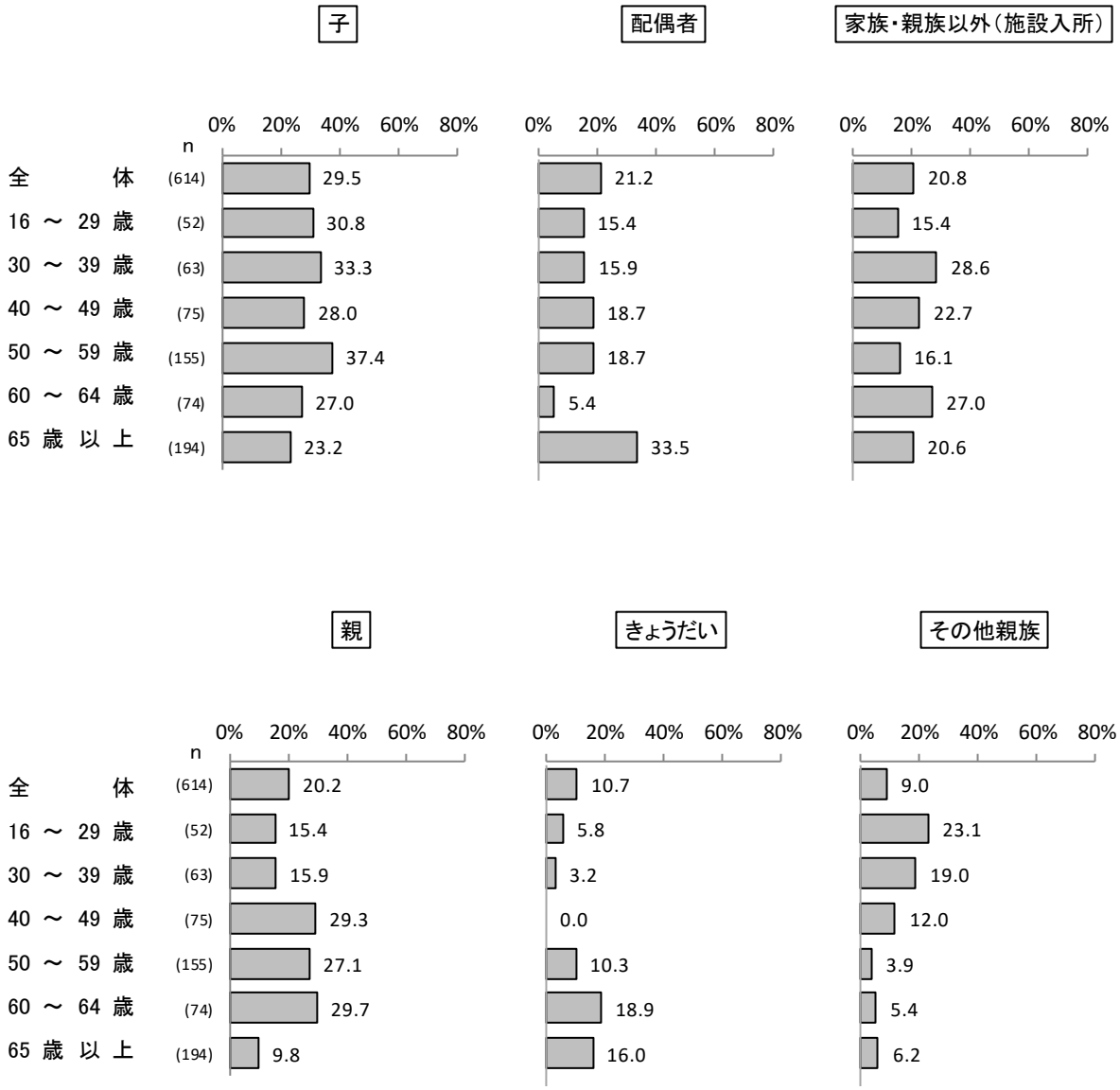
図表１－25－１　介護を要する人からみた介護者の続柄 － 全体、性別



介護を要する人からみた介護者の続柄について聞いたところ、「子」（29.5%）が最も高く３割弱となっている。次いで、「配偶者」（21.2%）、「家族・親族以外（施設入所）」（20.8%）、「親」（20.2%）がそれぞれ２割台で続いている。

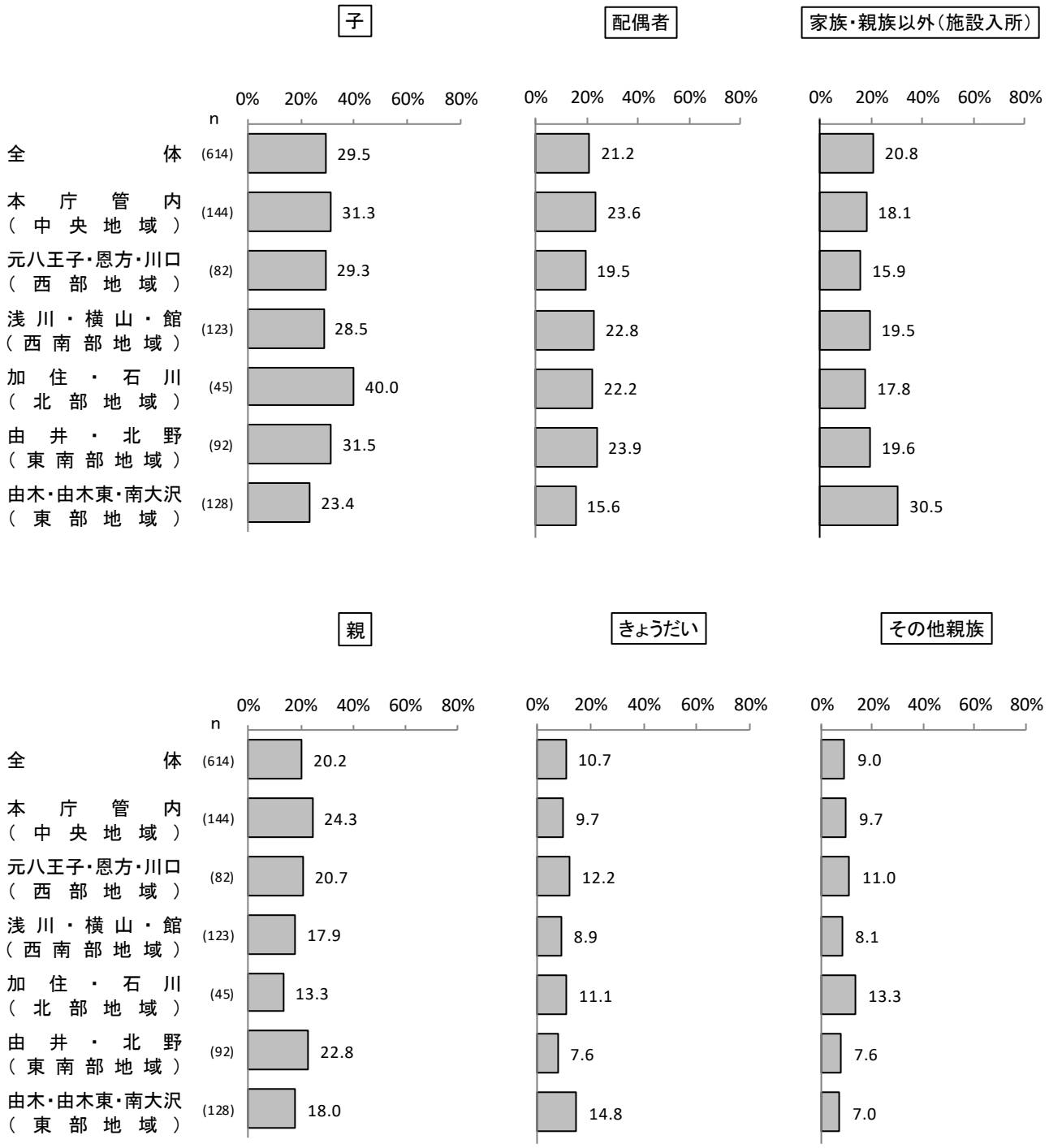
性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－25－１）

図表１－25－２　介護を要する人からみた介護者の続柄 － 年齢別（上位６位）



年齢別にみると、「配偶者」は65歳以上（33.5%）で３割強と高くなっている。「親」は60～64歳（29.7%）、40～49歳（29.3%）で３割弱、50～59歳（27.1%）で３割近くと高くなっている。（図表１－25－２）

図表１－25－３　介護を要する人からみた介護者の続柄 － 居住地域別（上位６位）



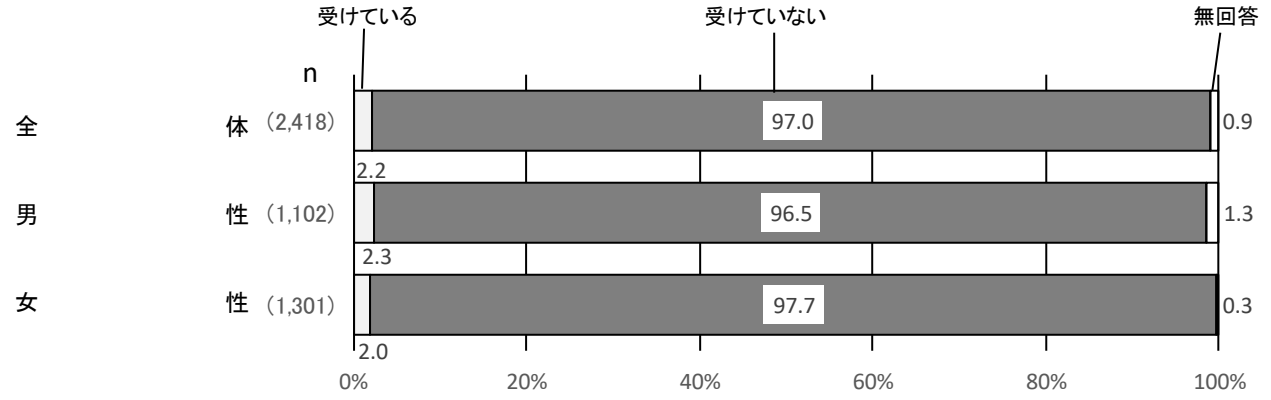
居住地域別にみると、「子」は加住・石川（北部地域）（40.0%）で４割と高くなっている。「家族・親族以外（施設入所）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（30.5%）で約３割と高くなっている。

（図表１－25－３）

(26) 介護状況

問 14　現在、あなたは介護を受けていますか。（○は 1 つだけ）

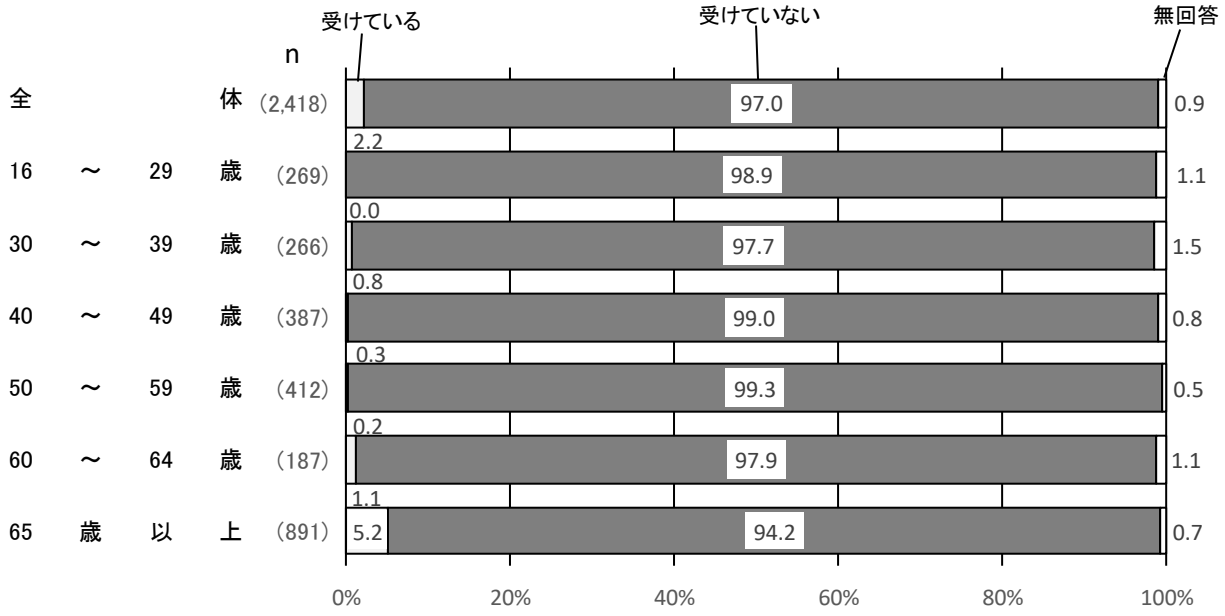
図表１－26－１　介護状況 － 全体、性別



介護状況について聞いたところ、「受けている」（2.2%）は１割未満となっている。

性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－26－１）

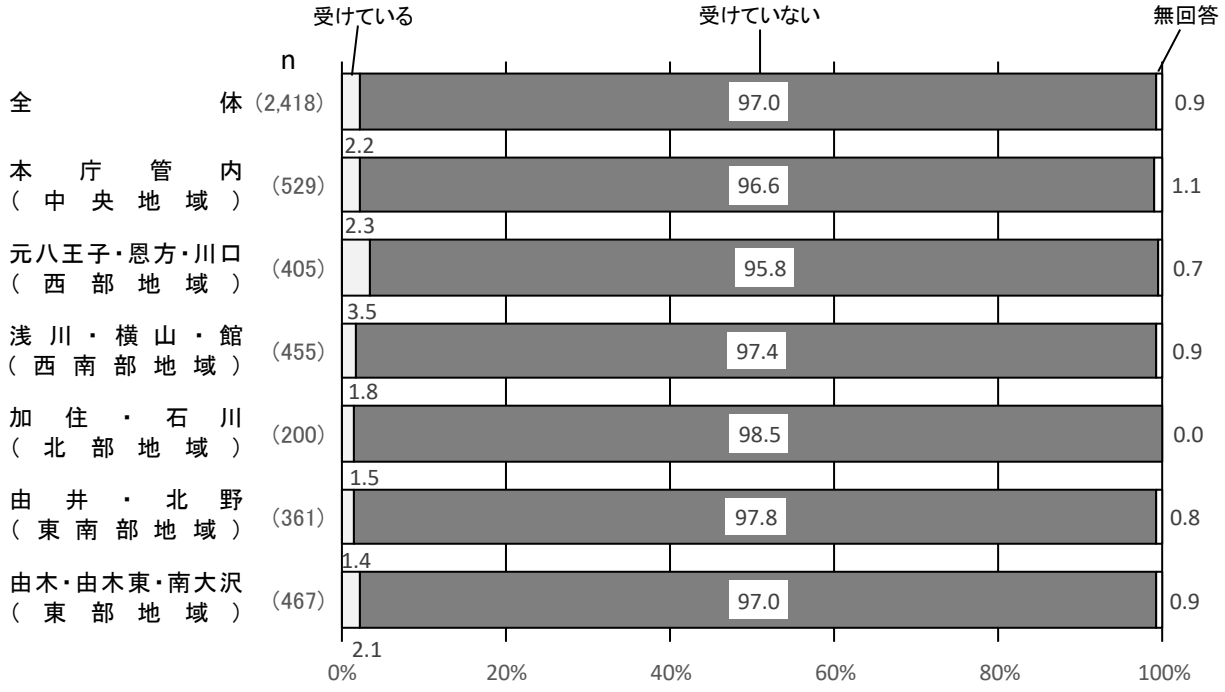
図表１－26－２　介護状況 － 年齢別



年齢別にみると、「受けている」は65歳以上（5.2%）が僅かに他の年齢層と比べて高くなっている。

（図表１－26－２）

図表１－26－３　介護状況 － 居住地域別



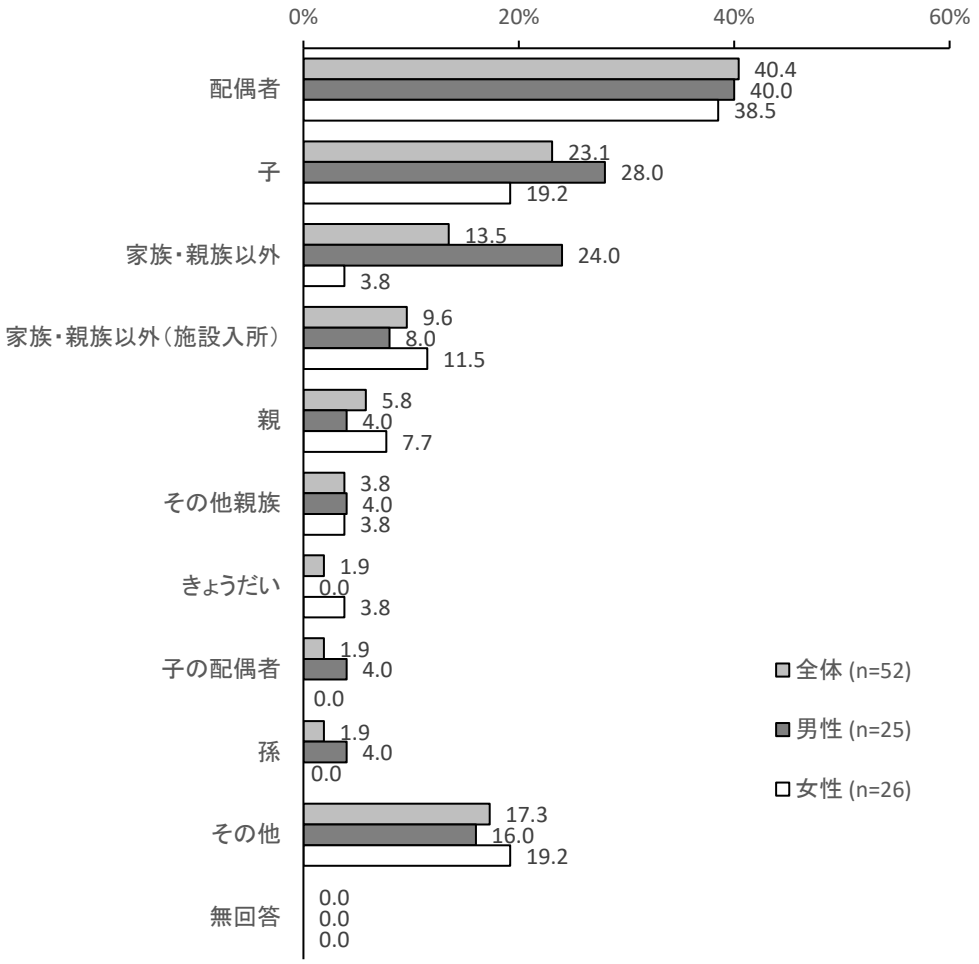
居住地域別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表１－26－３）

(27) 介護者の続柄

（「１　受けている」を選択した方にお聞きします。）

問 14-１　介護をしている人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

図表１－27－１　介護者の続柄 － 全体、性別



介護を「受けている」と回答した 52 人に介護者の続柄について聞いたところ、「配偶者」（40.4%）が最も高く約４割となっている。次いで、「子」（23.1%）、「家族・親族以外」（13.5%）などの順となっている。

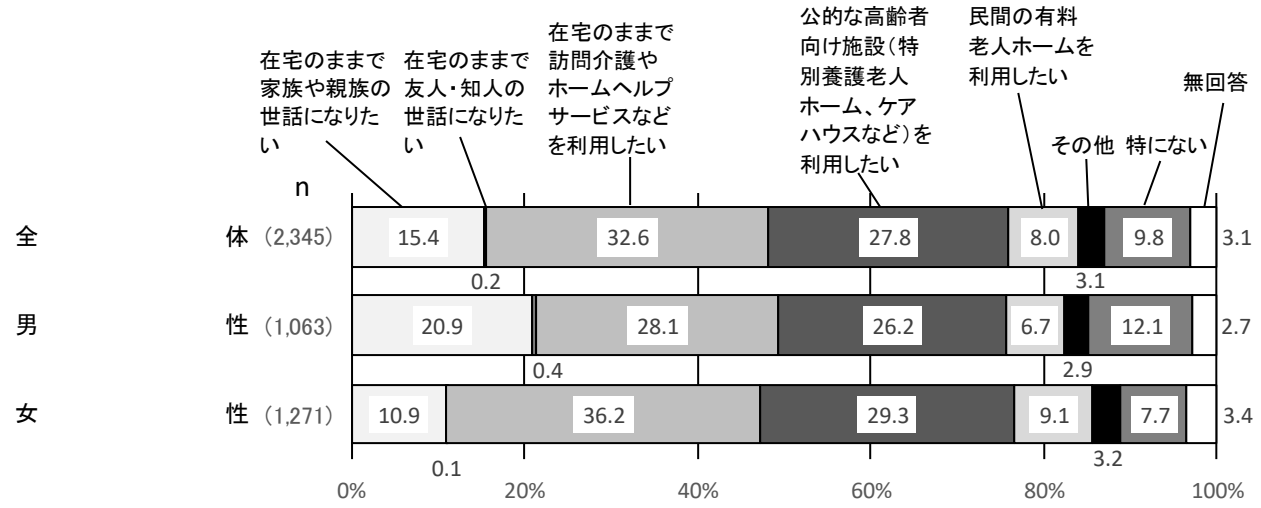
（図表１－27－１）

(28) 介護を必要とした場合の希望内容

（「２　受けていない」を選択した方にお聞きします。）

問 14-２　あなたが将来介護を必要とする状況になった場合、どのような介護を望みますか。（○は１つだけ）

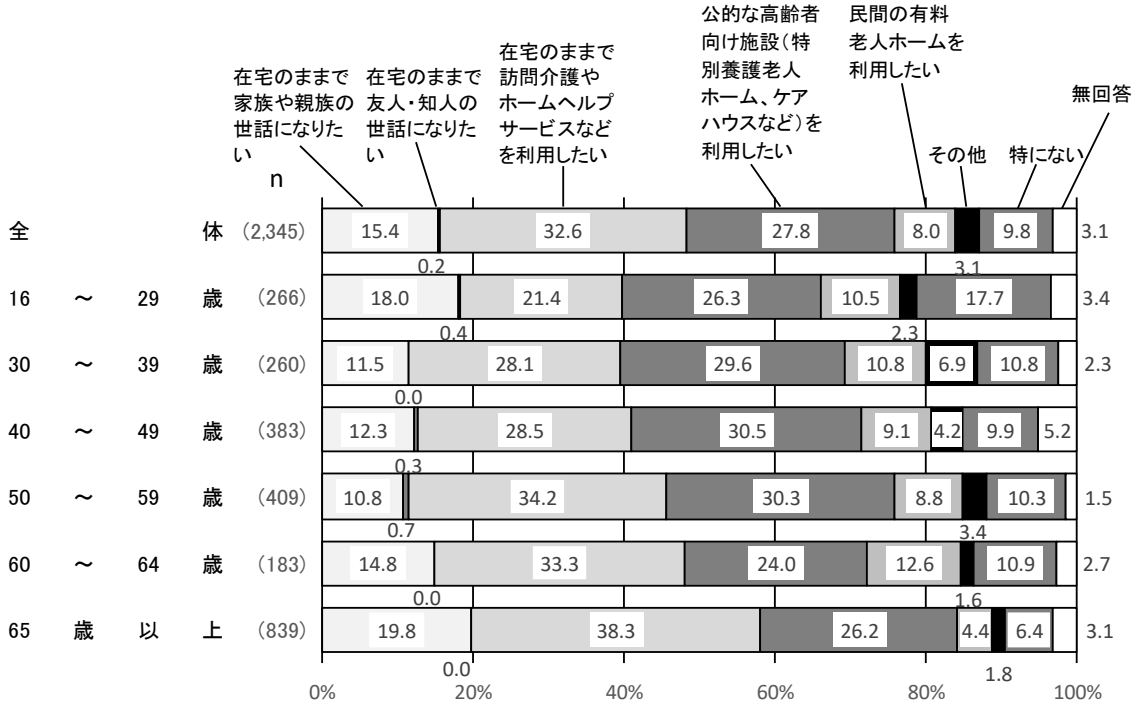
図表１－28－１　介護を必要とした場合の希望内容 － 全体、性別



介護を「受けていない」と回答した 2,345 人に介護を必要とした場合の希望内容について聞いたところ、「在宅のままで訪問介護やホームヘルプサービスなどを利用したい」（32.6%）が最も高く３割強となっている。「公的な高齢者向け施設（特別養護老人ホーム、ケアハウスなど）を利用したい」（27.8%）が３割近く、「在宅のままで家族や親族の世話になりたい」（15.4%）が１割台半ばとなっている。

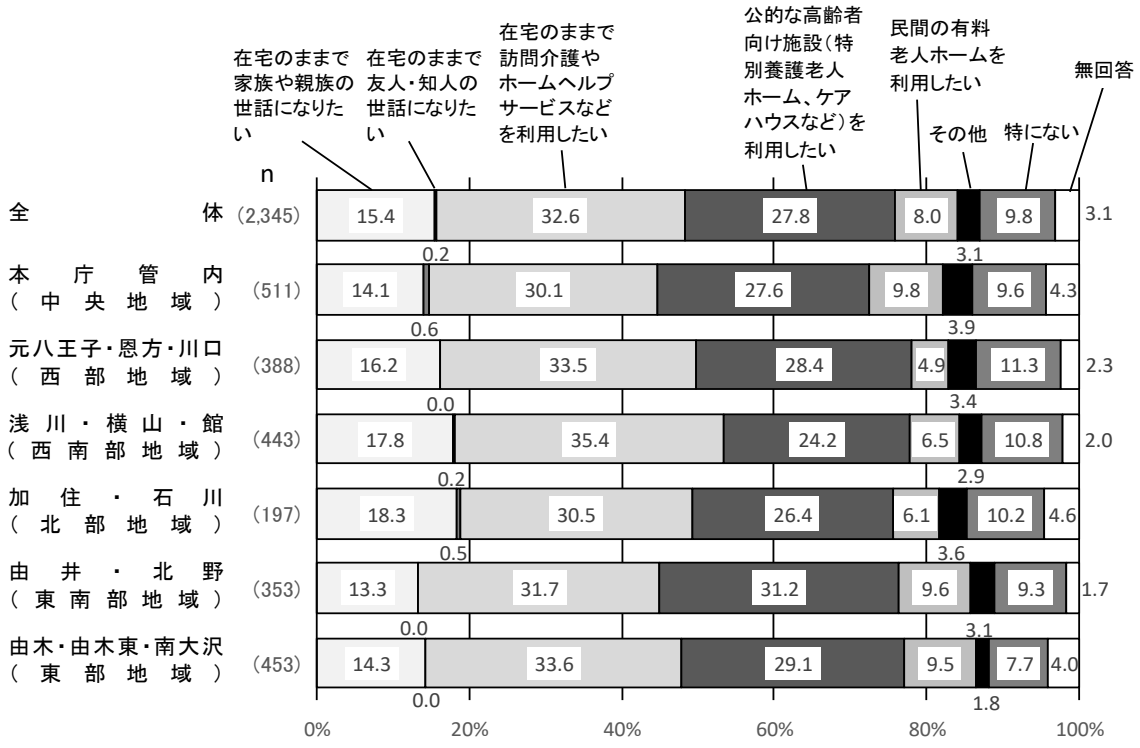
性別にみると、「在宅のままで家族や親族の世話になりたい」は男性（20.9%）が女性（10.9%）より 10.0 ポイント、「在宅のままで訪問介護やホームヘルプサービスなどを利用したい」は女性(36.2%)が男性(28.1%)より 8.1 ポイントそれぞれ高くなっている。（図表１－28－１）

図表１－28－２　介護を必要とした場合の希望内容 － 年齢別



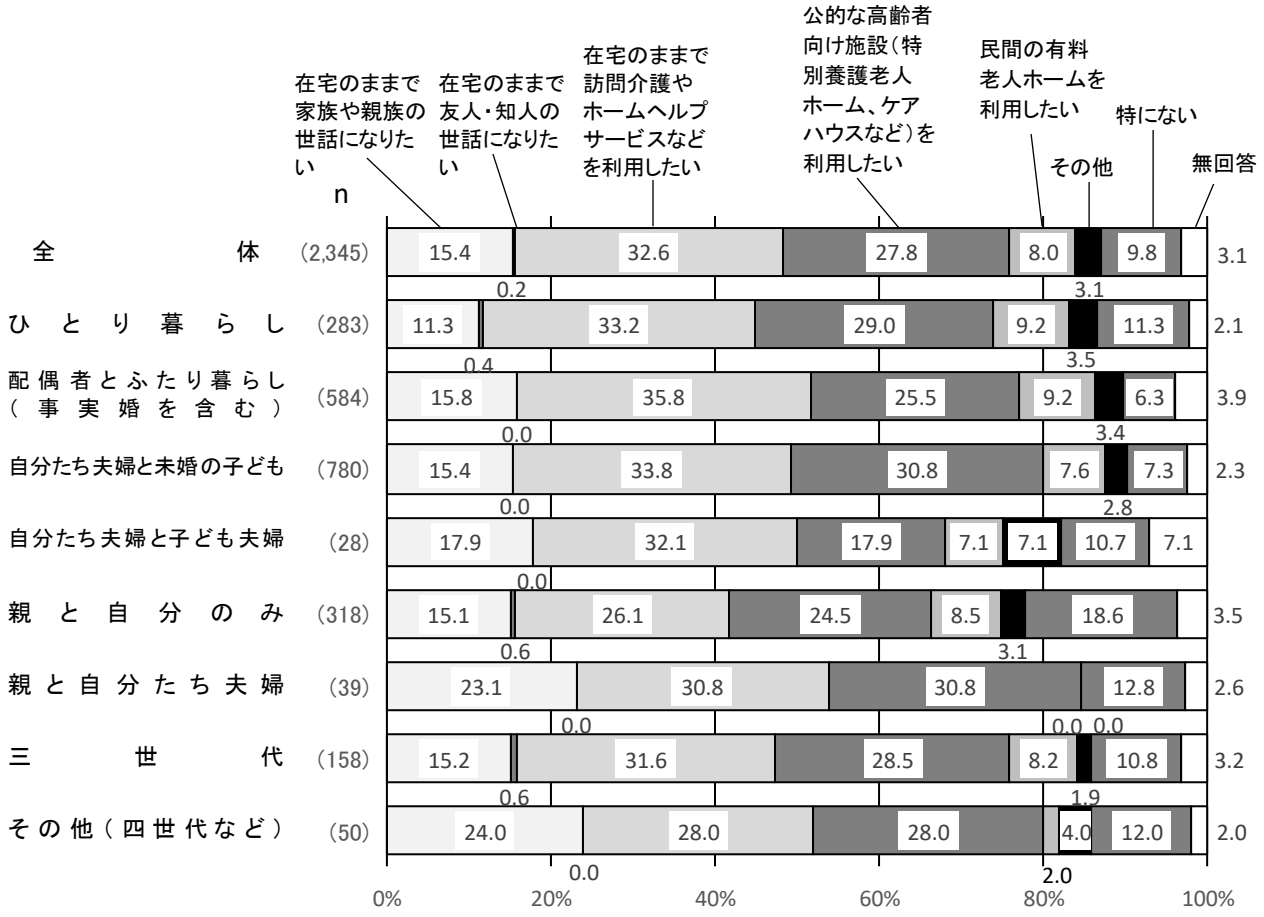
年齢別にみると、「在宅のままで訪問介護やホームヘルプサービスなどを利用したい」は 65 歳以上（38.3%）で４割近く、「公的な高齢者向け施設（特別養護老人ホーム、ケアハウスなど）を利用したい」は 40～49 歳（30.5%）で約３割とそれぞれ最も高くなっている。（図表１－28－２）

図表１－28－３　介護を必要とした場合の希望内容 － 居住地域別



居住地域別にみると、すべての地域で「在宅のままで訪問介護やホームヘルプサービスなどを利用したい」が３割以上となっており、最も高くなっている。（図表１－28－３）

図表１－28－４　介護を必要とした場合の希望内容 － 世帯構成別



世帯構成別でみると、すべての世帯構成で「在宅のままで訪問介護やホームヘルプサービスなどを利用したい」が最も高くなっている。親と自分たち夫婦、その他（四世代など）では「公的な高齢者向け施設（特別養護老人ホーム、ケアハウスなど）を利用したい」がそれぞれ同率で最も高くなっている。（図表１－28－４）

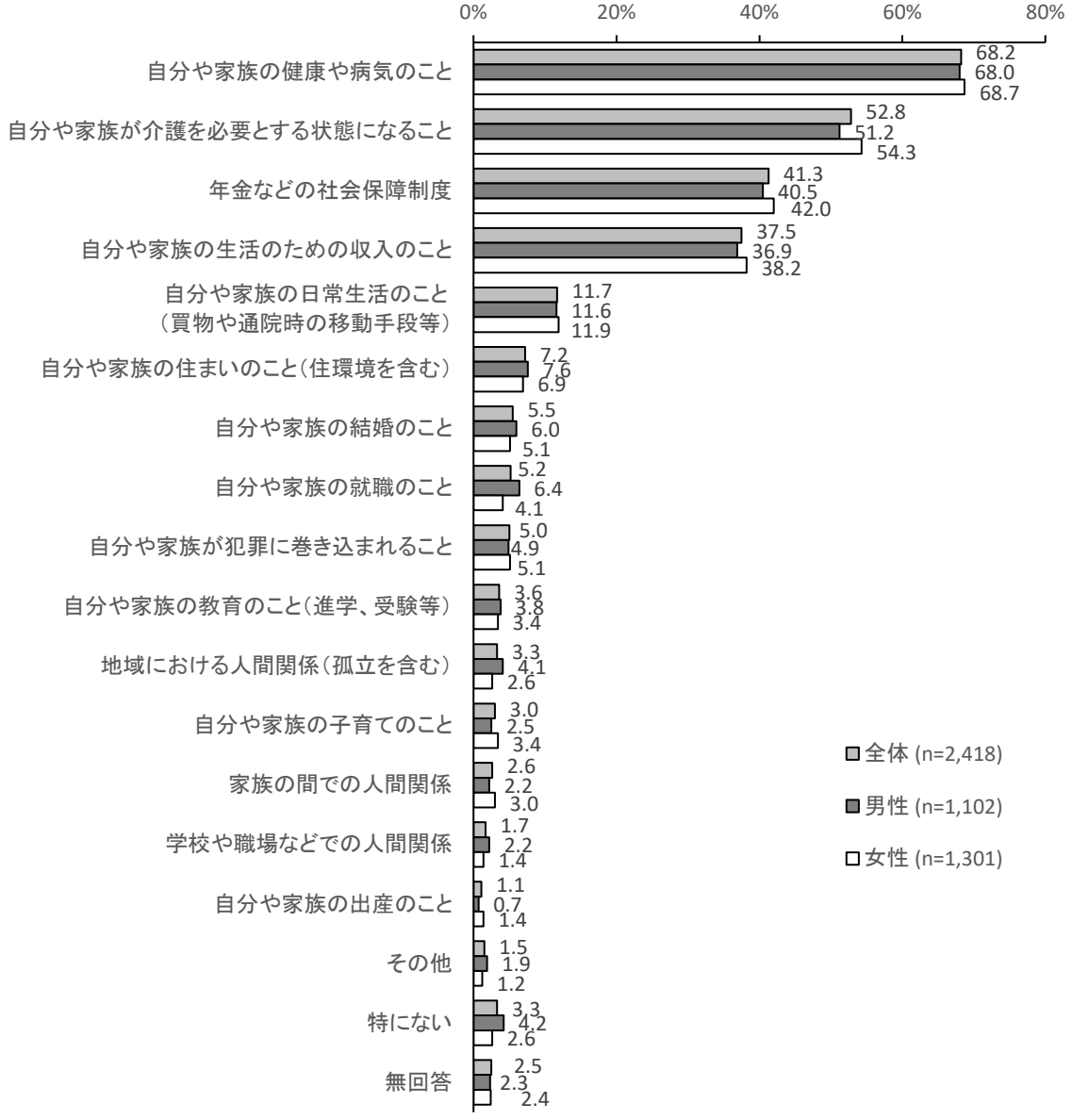
２．あなたの将来に関する認識について

≪あなたの身近な生活に関する認識について≫

（１） 将来（2040 年頃）に対しての不安要素

問 15　あなたが将来（2040 年頃）に対して、不安に感じていることは何ですか。（○は３つまで）

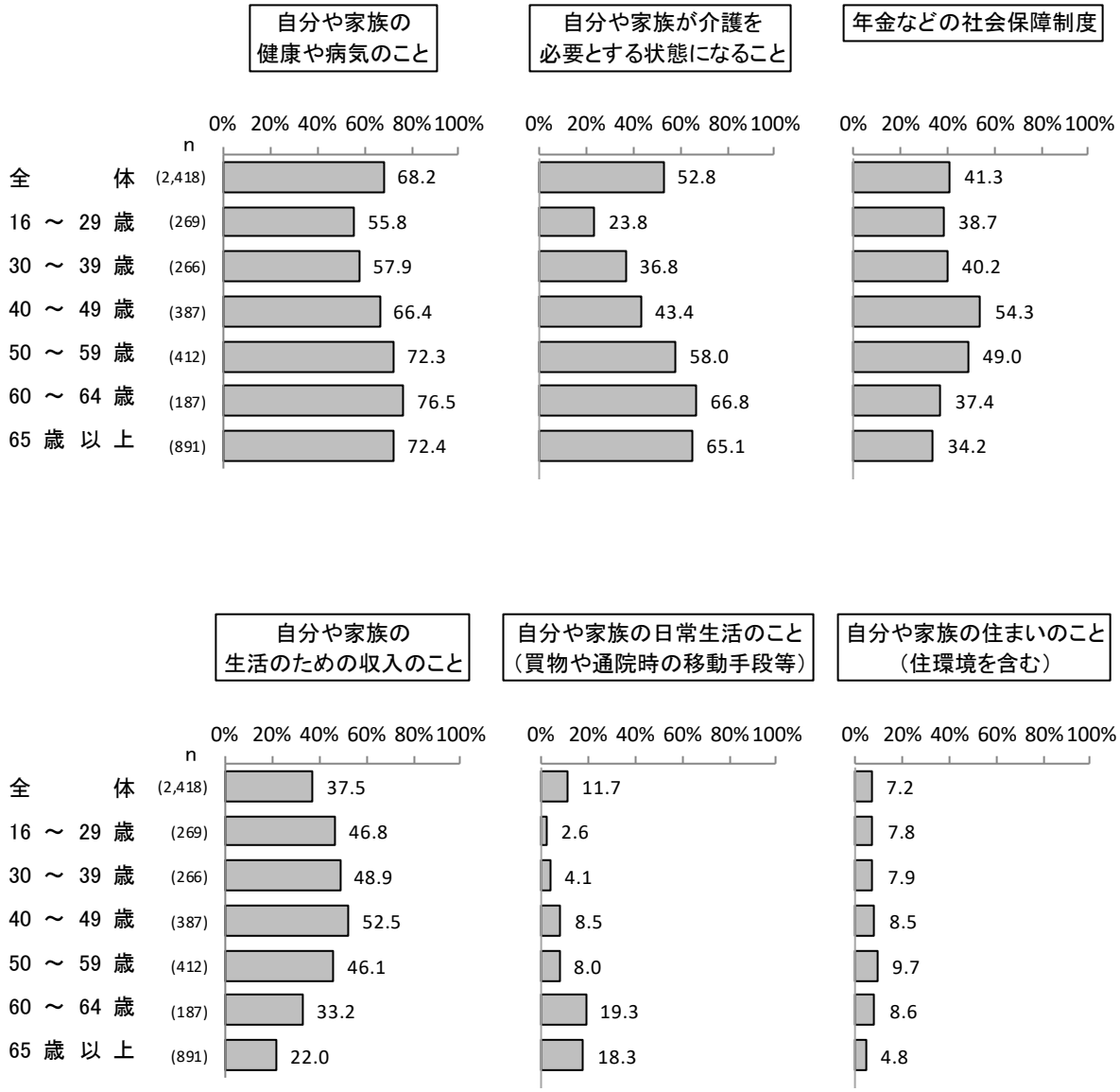
図表２－１－１　将来（2040 年頃）に対しての不安要素 － 全体、性別



将来（2040 年頃）に対しての不安要素について聞いたところ、「自分や家族の健康や病気のこと」（68.2%）が最も高く７割近くとなっている。次いで、「自分や家族が介護を必要とする状態になること」（52.8%）、「年金などの社会保障制度」（41.3%）、「自分や家族の生活のための収入のこと」（37.5%）などの順となっている。

性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表２－１－１）

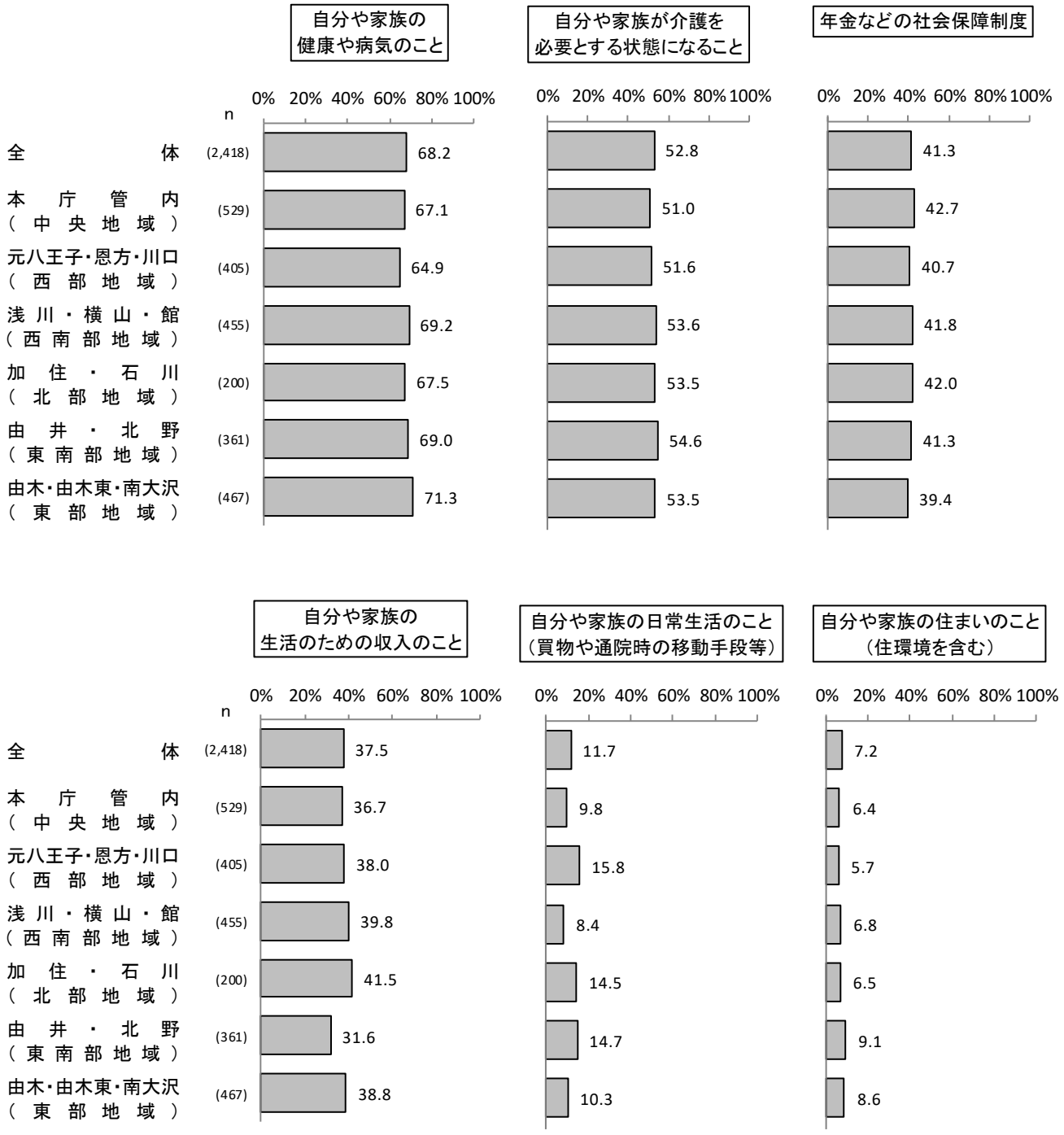
図表２－１－２　将来（2040 年頃）に対しての不安要素 － 年齢別（上位６位）



年齢別にみると、「自分や家族の健康や病気のこと」は 50 歳以上の年齢層で７割強以上と高くなっている。「自分や家族が介護を必要とする状態になること」は 60～64 歳（66.8%）、65 歳以上（65.1%）で６割台半ば以上と高くなっている。「年金などの社会保障制度」は 40～49 歳（54.3%）で５割台半ばと高くなっている。

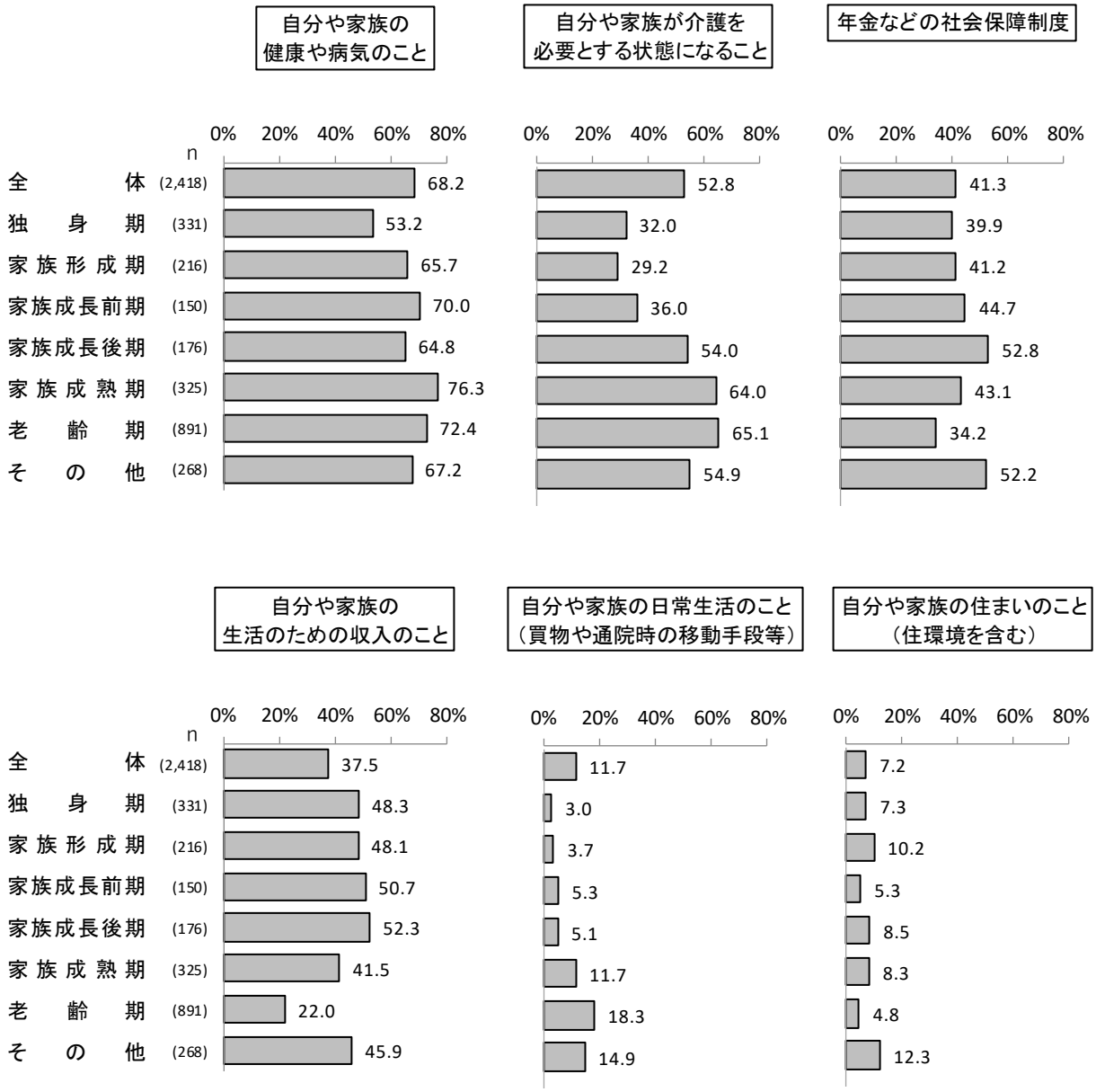
（図表２－１－２）

図表２－１－３　将来（2040 年頃）に対しての不安要素 － 居住地域別（上位６位）



居住地域別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表２－１－３）

図表２－１－４　将来（2040 年頃）に対しての不安要素 － ライフステージ別（上位６位）



ライフステージ別にみると、「自分や家族の健康や病気のこと」は家族成熟期（76.3%）で８割近く、「自分や家族が介護を必要とする状態になること」は老齢期（65.1%）、家族成熟期（64.0%）で６割台半ば、「年金などの社会保障制度」は家族成長後期（52.8%）、その他（52.2%）で５割強とそれぞれ高くなっている。

（図表２－１－４）

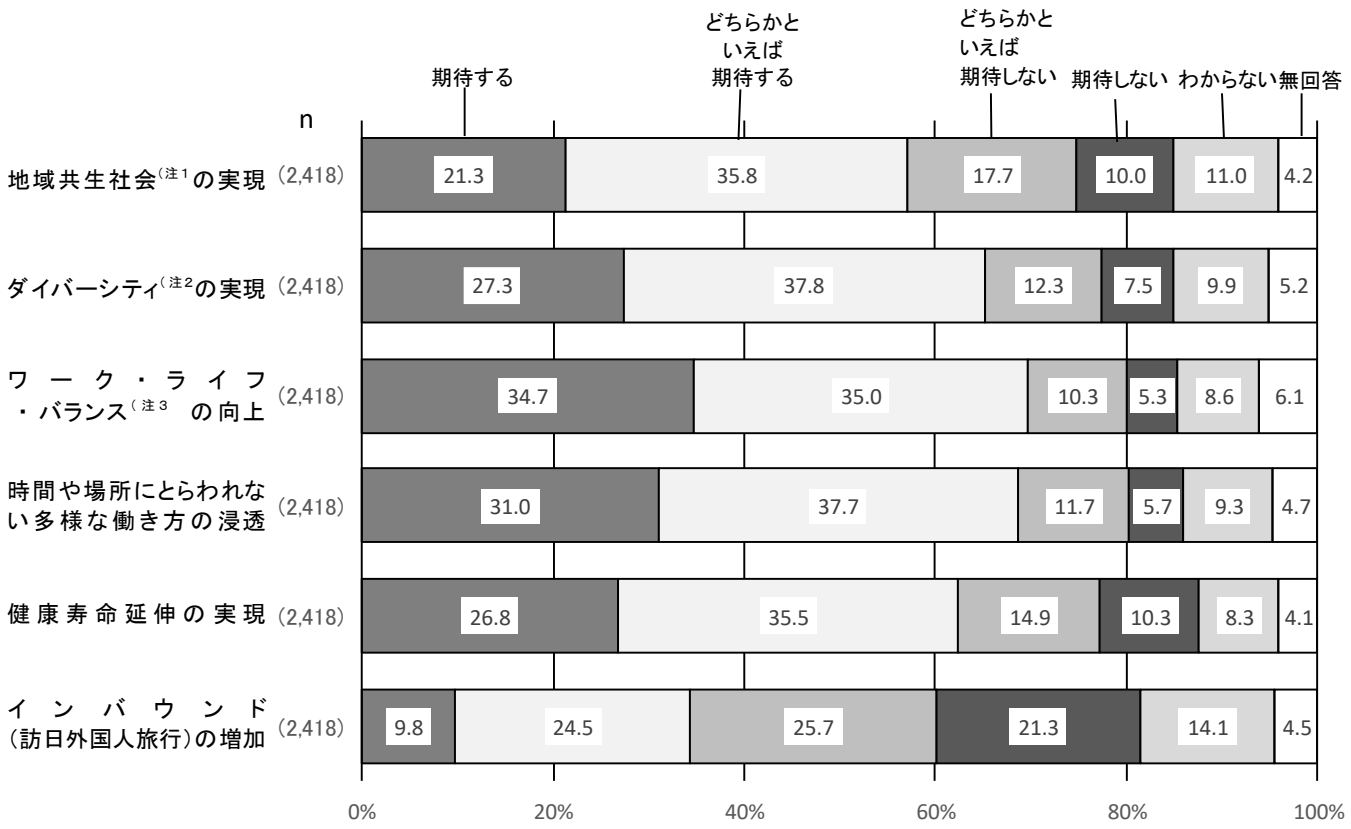
≪今後、想定される社会環境の変化に関する認識について≫

ー期待感（一般）ー

（２） 社会環境に対する期待要素

問16　次の（１）～（６）の事柄についての期待感についてお答えください。（それぞれ○は１つだけ）

図表２－２－１　社会環境に対する期待要素 ー 全体



（注１　制度・分野ごとの“縦割り”や、“支え手”“受け手”という固定的な役割分担の考え方ではなく、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」としてとらえ、人とひと、人と資源が世代や分野を越えて「丸ごと」つながる取組をとおして、住民一人ひとりの暮らしと生きがいを大切にし、地域をともに築く社会

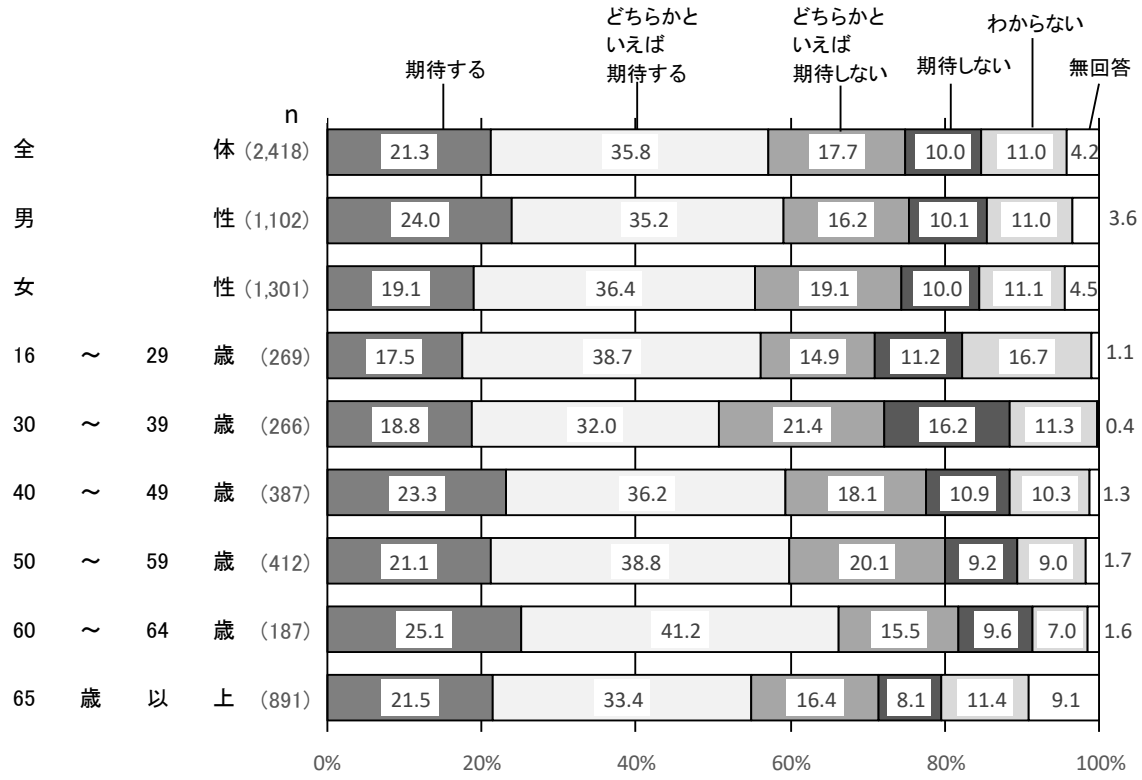
（注２　性別、障害、国籍などに関係なく、一人ひとりが自分らしくいきいきと活躍できる社会

（注３　「仕事と生活の調和」という意味で、仕事と、私生活のバランスのとれた働き方を目指そうという考え方

社会環境に対する期待要素について聞いたところ、「期待する」と「どちらかといえば期待する」を合わせた≪期待する≫では、「ワーク・ライフ・バランスの向上」（69.7%）が最も高く７割弱となっている。次いで、「時間や場所にとらわれない多様な働き方の浸透」（68.7%）が７割近く、「ダイバーシティの実現」（65.1%）で６割台半ばと高くなっている。一方、「どちらかといえば期待しない」と「期待しない」を合わせた≪期待しない≫は、「インバウンド（訪日外国人旅行）の増加」（47.0%）が最も高く５割近くとなっている。

（図表２－２－１）

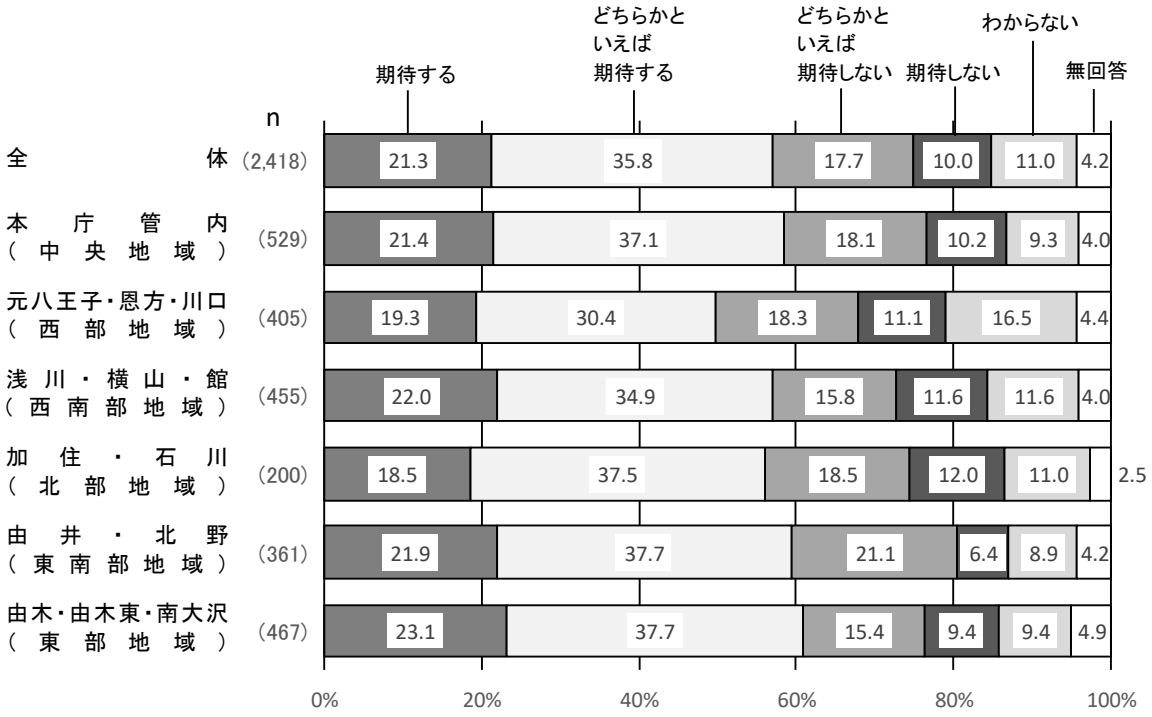
図表２－２－２　社会環境に対する期待要素（１）地域共生社会の実現 － 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

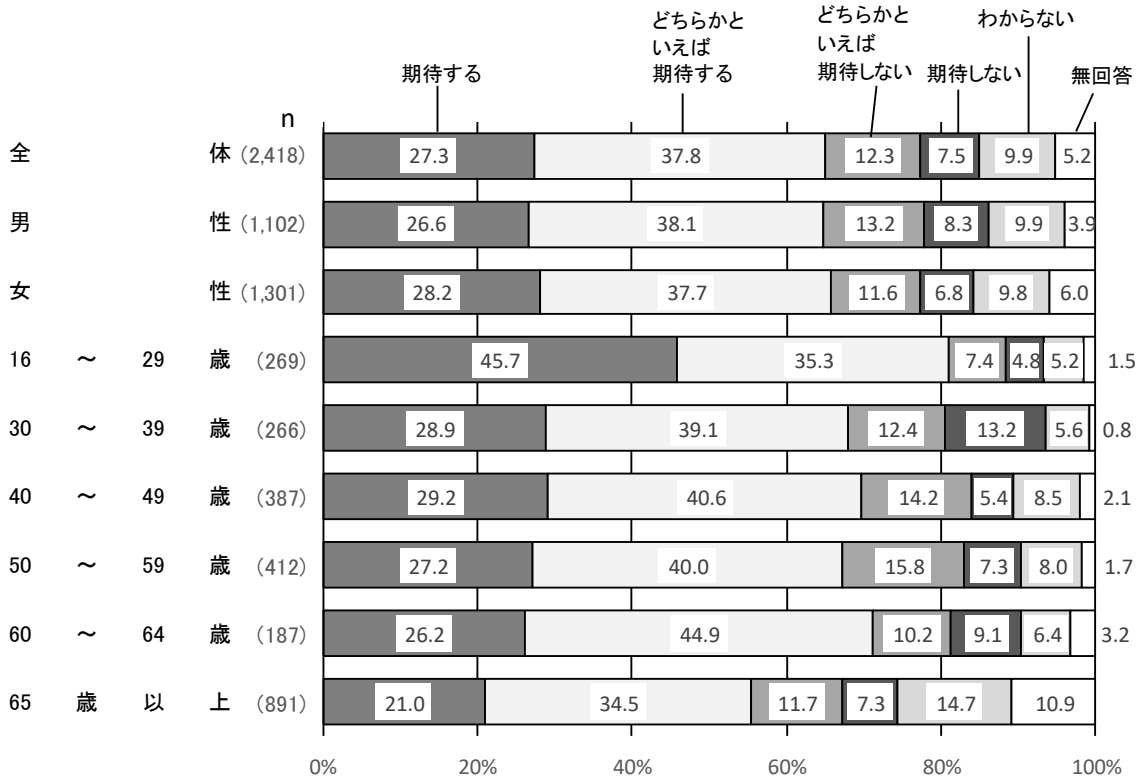
年齢別にみると、≪期待する≫は60～64歳（66.3%）で７割近くと最も高くなっている。（図表２－２－２）

図表２－２－３　社会環境に対する期待要素（１）地域共生社会の実現 － 居住地域別



居住地域別にみると、≪期待する≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（60.8%）で約６割と最も高くなっている。（図表２－２－３）

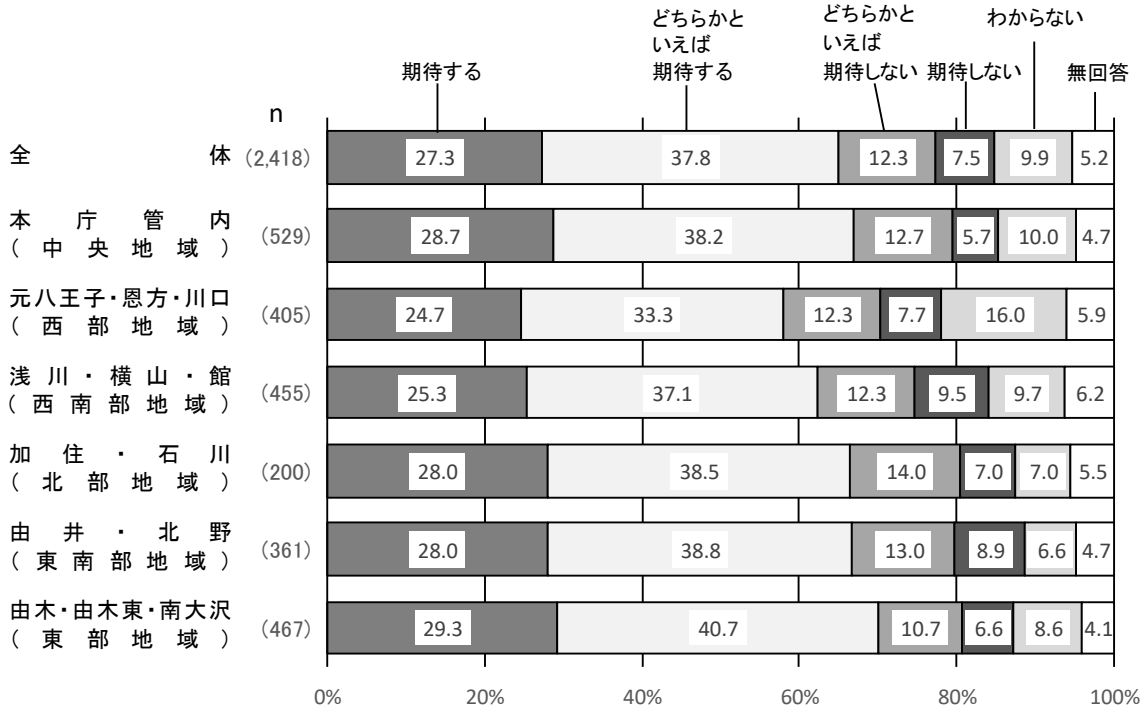
図表２－２－４　社会環境に対する期待要素（２）ダイバーシティの実現 － 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

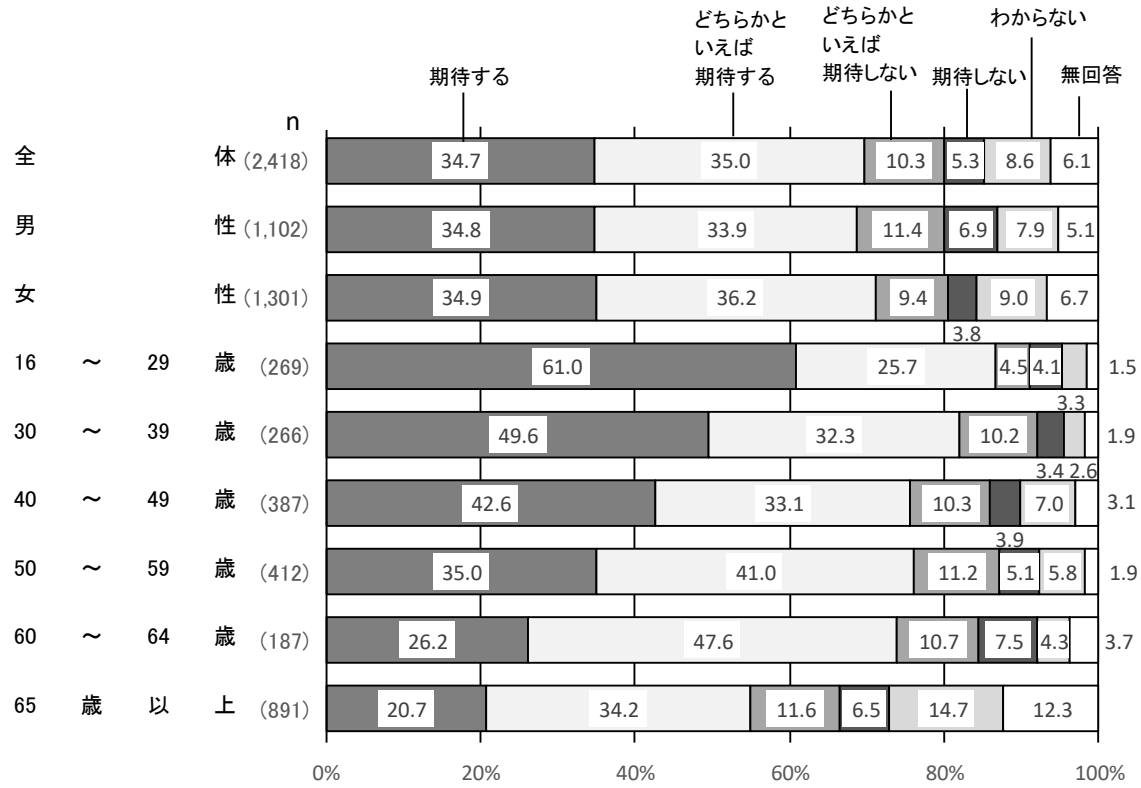
年齢別にみると、≪期待する≫は16～29歳（81.0%）で８割強と最も高くなっている。（図表２－２－４）

図表２－２－５　社会環境に対する期待要素（２）ダイバーシティの実現 － 居住地域別



居住地域別にみると、≪期待する≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（70.0%）で７割と最も高くなっている。（図表２－２－５）

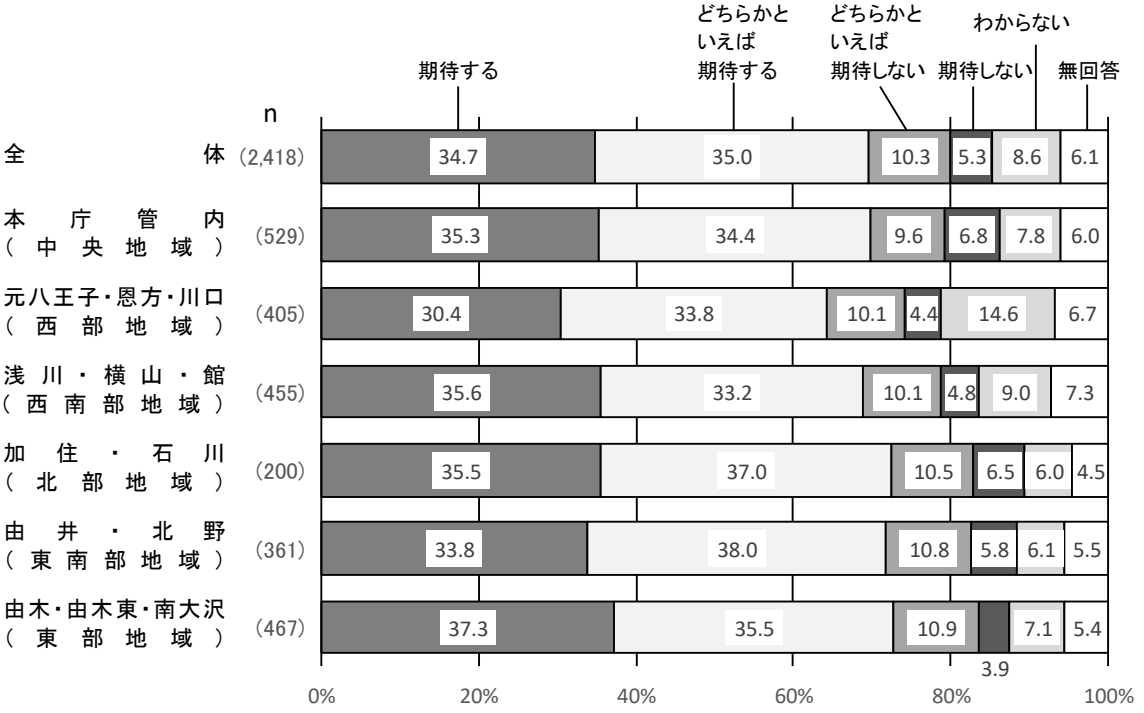
図表２－２－６　社会環境に対する期待要素（３）ワーク・ライフ・バランスの向上 － 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

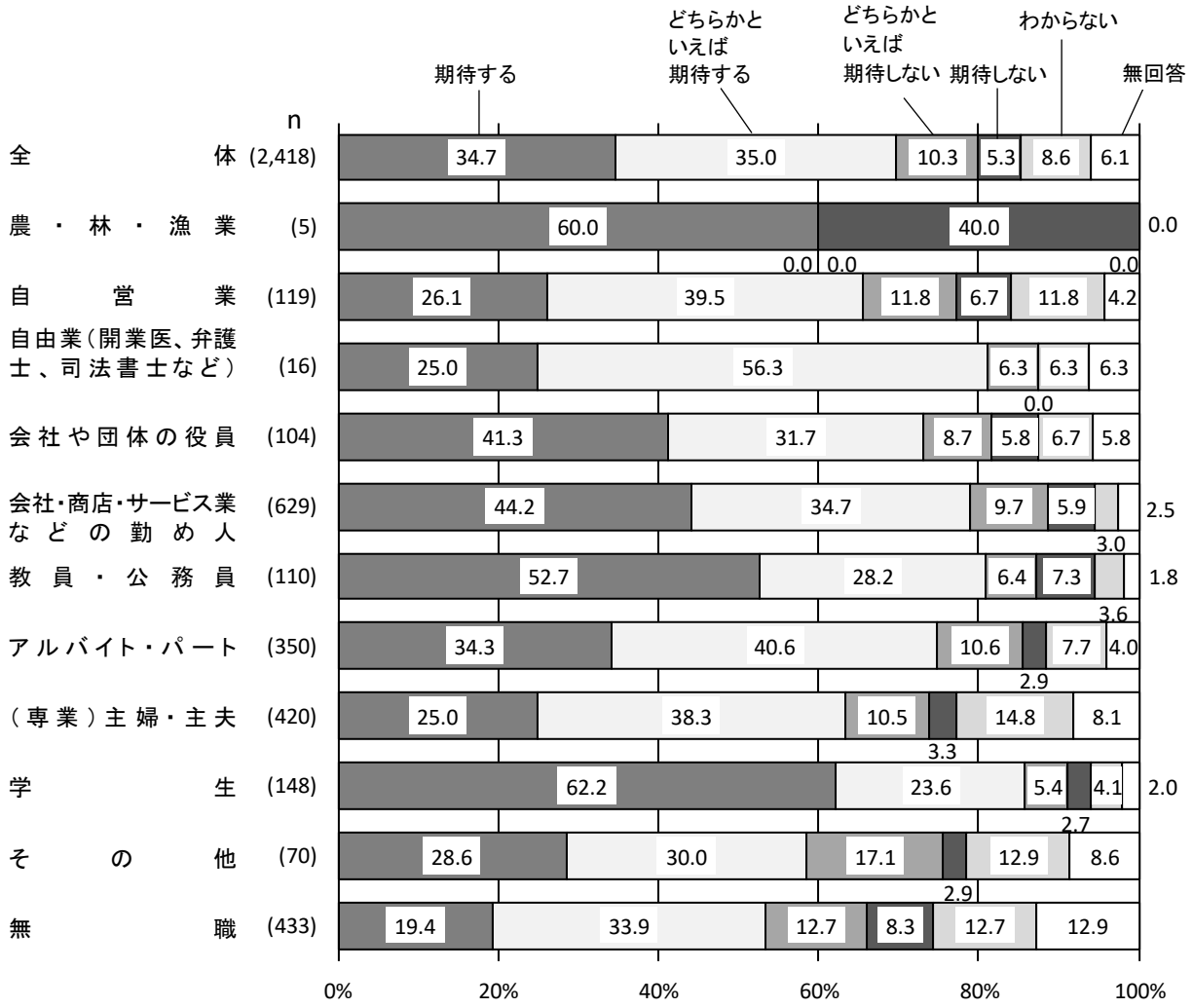
年齢別にみると、≪期待する≫はおおむね年齢層が下がるにつれ割合が高くなっており、16～29 歳（86.7%）で９割近くと最も高くなっている。（図表２－２－６）

図表２－２－７　社会環境に対する期待要素（３）ワーク・ライフ・バランスの向上 － 居住地域別



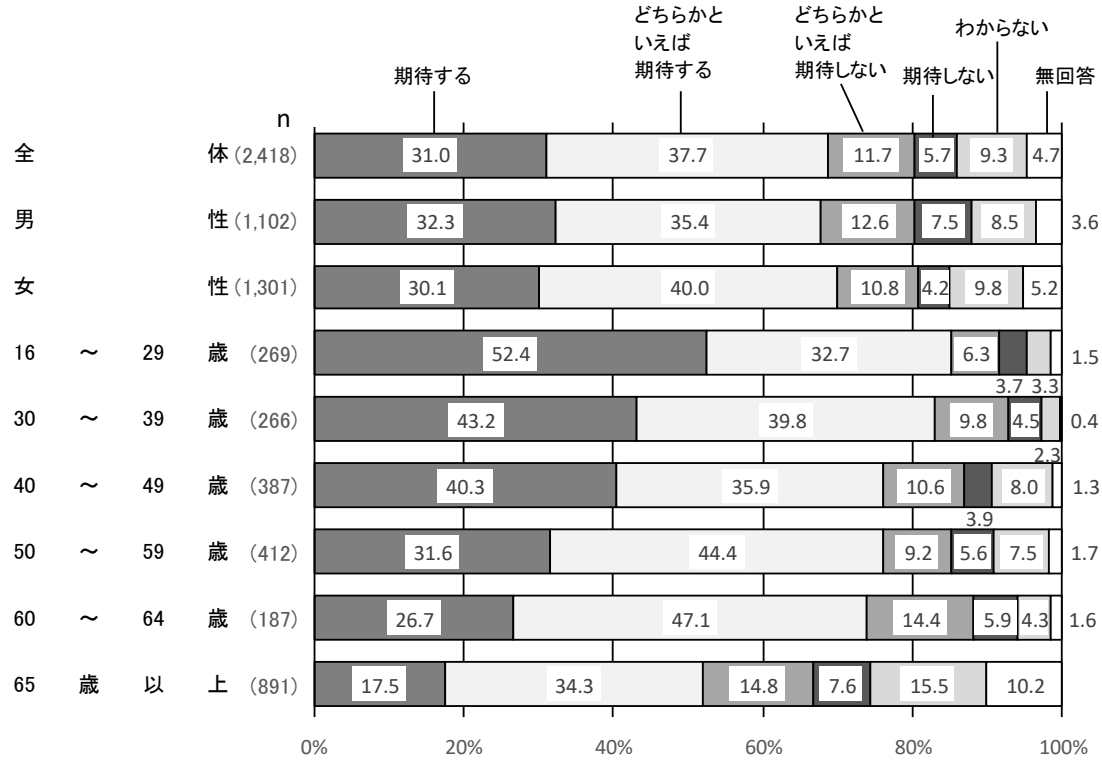
居住地域別にみると、≪期待する≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（72.8%）で７割強と最も高くなっている。（図表２－２－７）

図表２－２－８　社会環境に対する期待要素（３）ワーク・ライフ・バランスの向上 － 職業別



職業別にみると、≪期待する≫は学生（85.8%）で８割台半ばと最も高く、教員・公務員（80.9%）で約８割、会社・商店・サービス業などの勤め人（78.9%）が８割近くとなっている。（図表２－２－８）

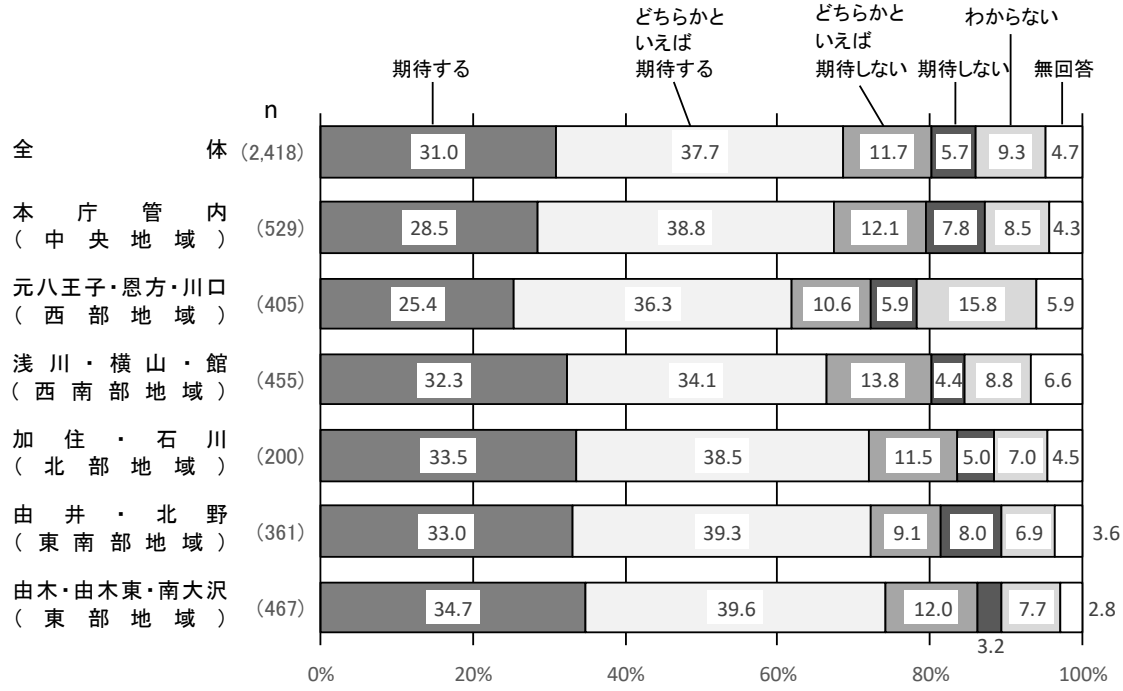
図表２－２－９　社会環境に対する期待要素（４）時間や場所にとらわれない多様な働き方の浸透
－ 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

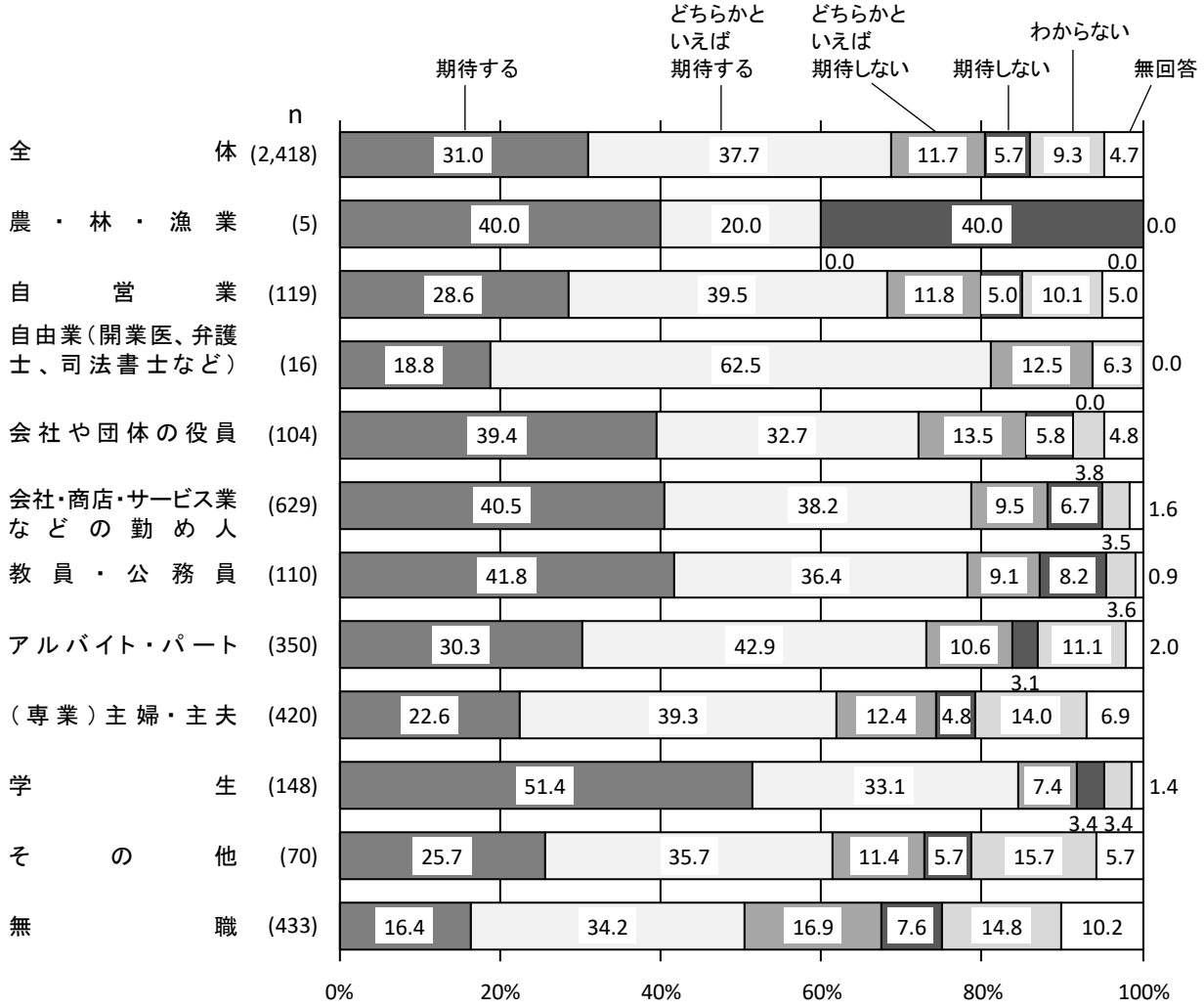
年齢別にみると、≪期待する≫は年齢層が下がるにつれ割合が高くなっており、16～29 歳（85.1%）で８割台半ばとなっている。（図表２－２－９）

図表２－２－10　社会環境に対する期待要素（４）時間や場所にとらわれない多様な働き方の浸透
－ 居住地域別



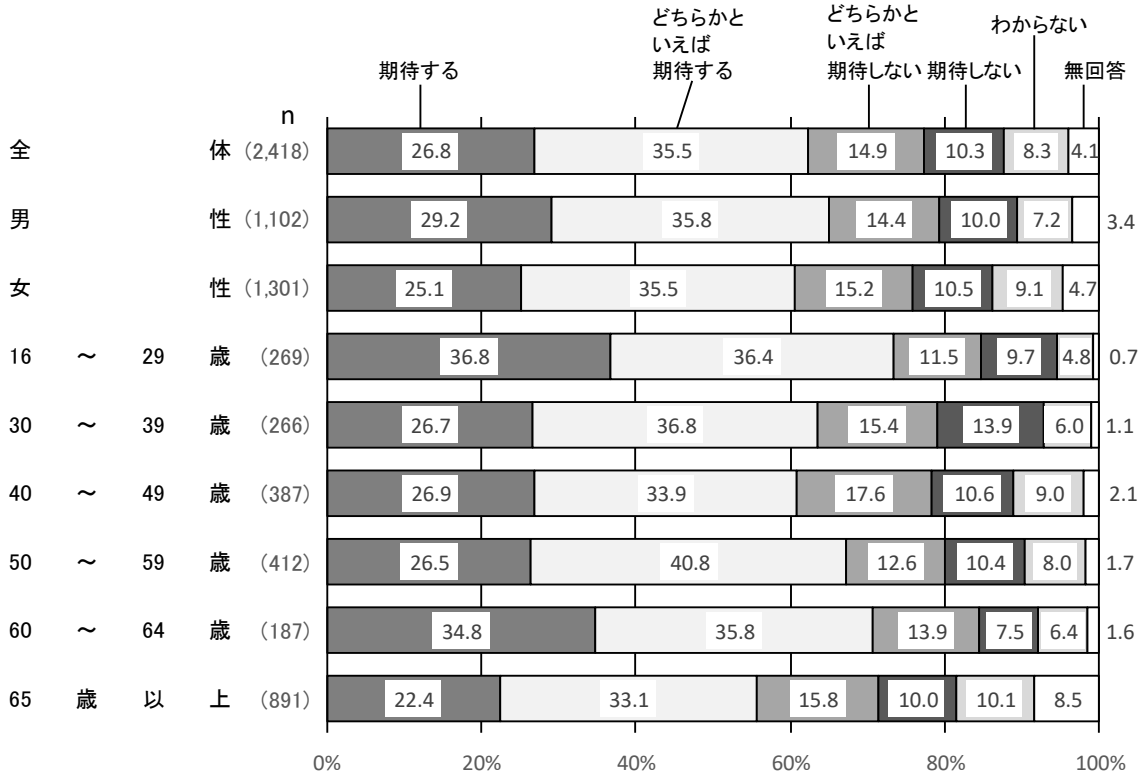
居住地域別にみると、≪期待する≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（74.3%）で７割台半ばと最も高くなっている。（図表２－２－10）

図表２－２－11　社会環境に対する期待要素（４）時間や場所にとらわれない多様な働き方の浸透
－ 職業別



職業別にみると、≪期待する≫は学生(84.5%)で８割台半ば、会社・商店・サービス業などの勤め人(78.7%)、教員・公務員（78.2%）が８割近くとなっている。(図表２－２－11)

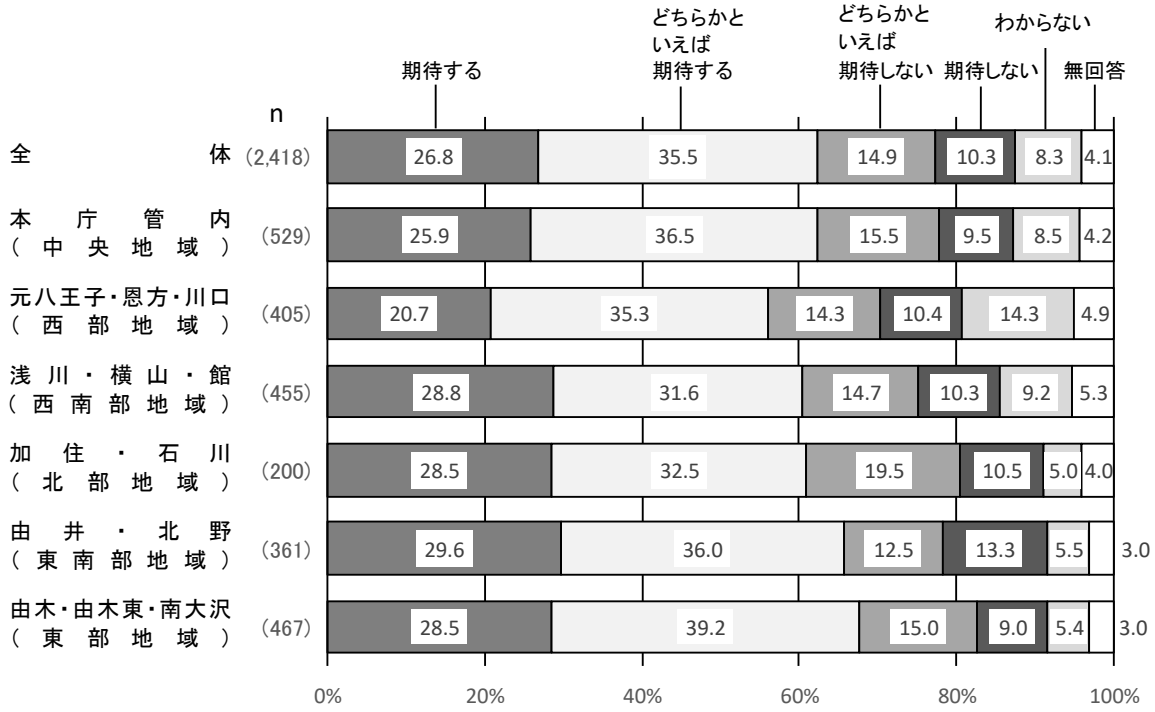
図表２－２－12　社会環境に対する期待要素（５）健康寿命延伸の実現 － 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

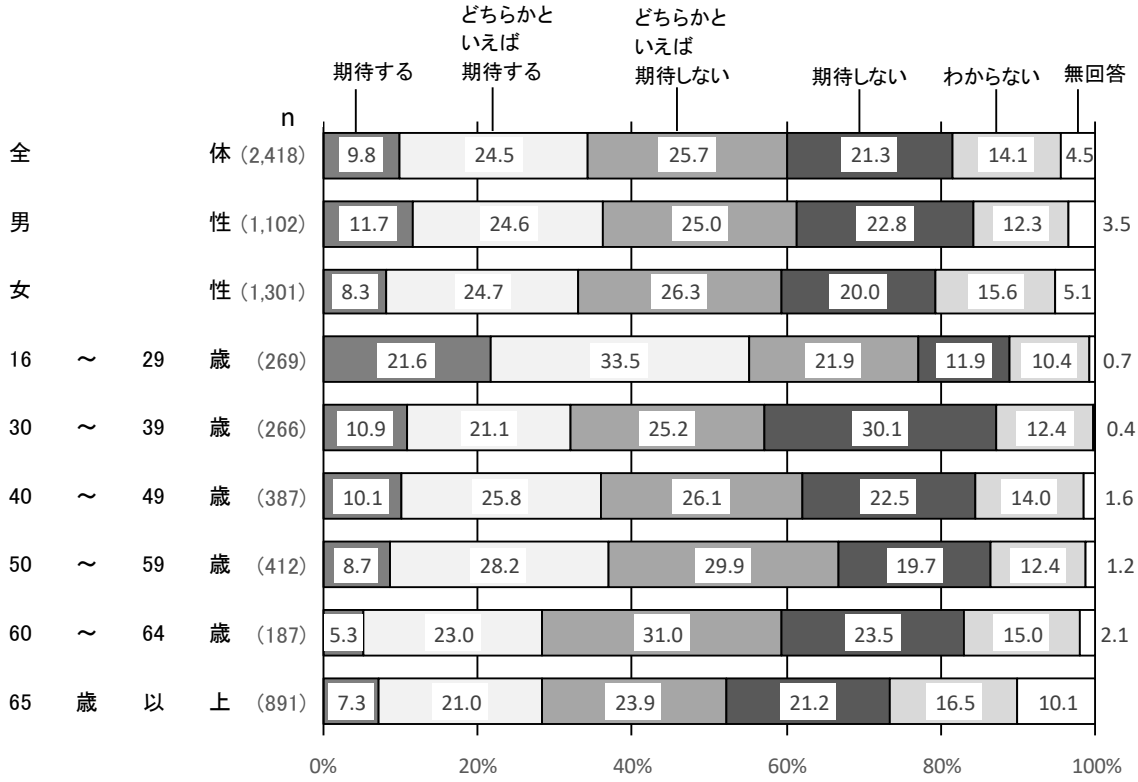
年齢別にみると、≪期待する≫は16～29歳（73.2%）で７割強と最も高くなっている。（図表２－２－12）

図表２－２－13　社会環境に対する期待要素（５）健康寿命延伸の実現 － 居住地域別



居住地域別にみると、≪期待する≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（67.7%）で７割近くと最も高くなっている。（図表２－２－13）

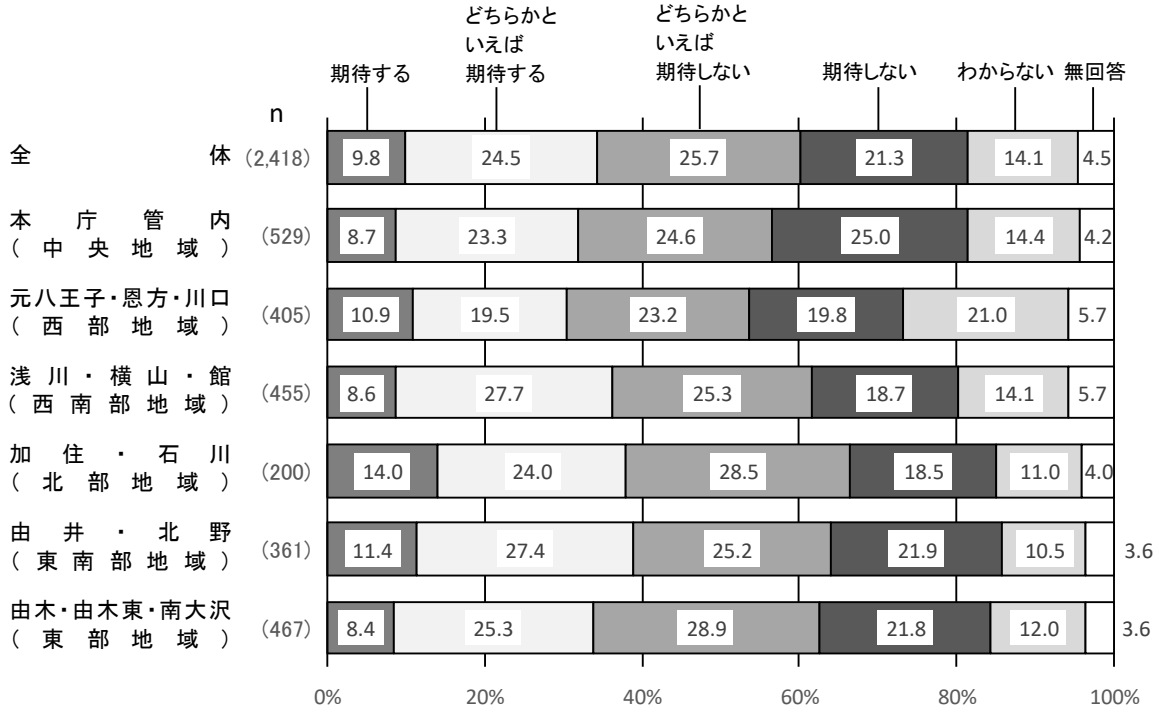
図表２－２－14　社会環境に対する期待要素（６）インバウンド（訪日外国人旅行）の増加 － 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

年齢別にみると、≪期待する≫は16～29歳（55.1%）で５割台半ばと最も高くなっている。一方、≪期待しない≫は30～39歳（55.3%）、60～64歳（54.5%）で５割台半ばと高くなっている。（図表２－２－14）

図表２－２－15　社会環境に対する期待要素（６）インバウンド（訪日外国人旅行）の増加 － 居住地域別



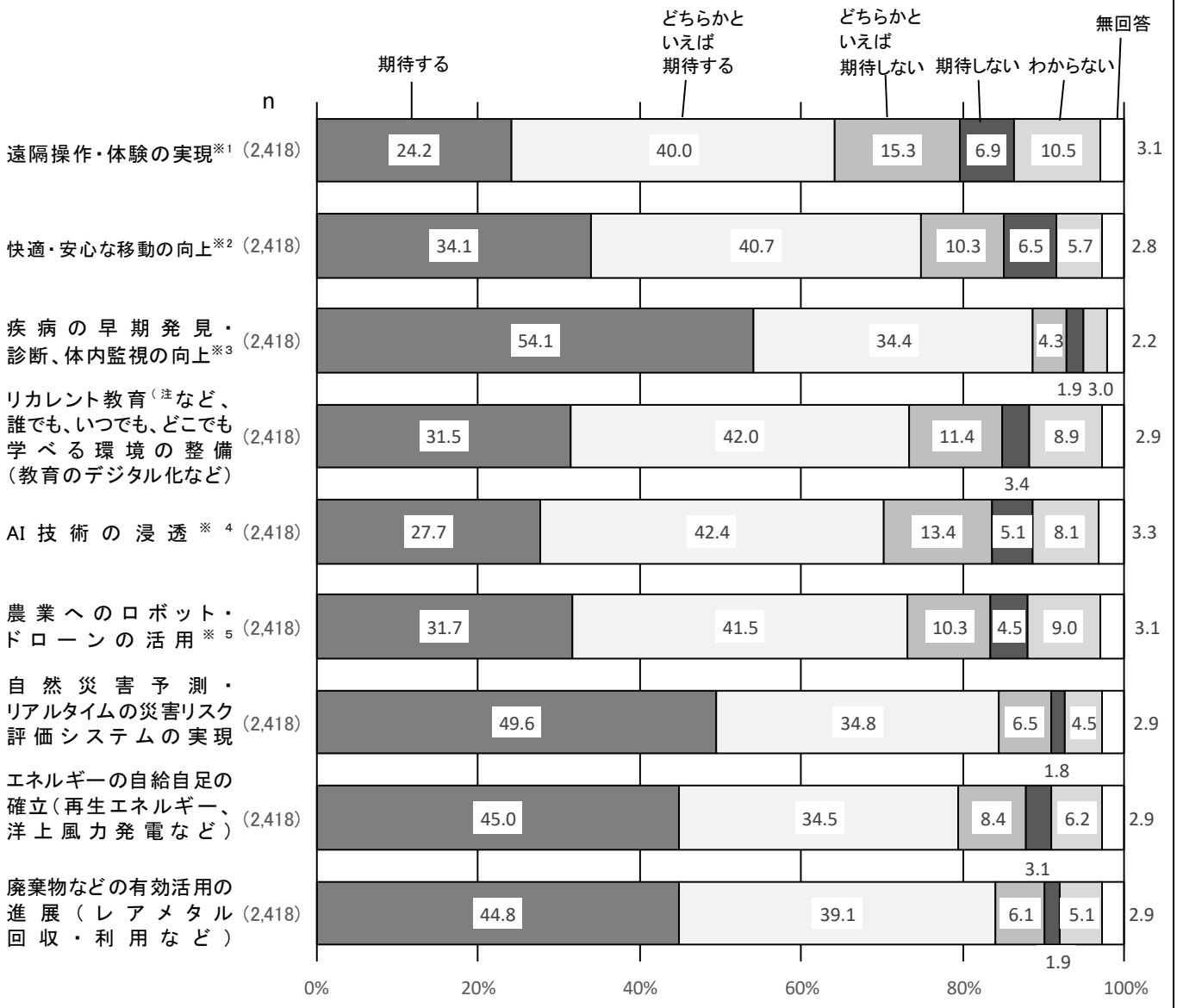
居住地域別にみると、≪期待する≫は由井・北野（東南部地域）（38.8%）で４割近くと最も高くなっている。すべての地域で、≪期待しない≫が≪期待する≫を上回っている。（図表２－２－15）

ー期待感（科学技術）ー

（３） 科学技術に対する期待要素

問17　次の（１）～（９）の事柄についての期待感についてお答えください。（それぞれ○は１つだけ）

図表２－３－１　科学技術に対する期待要素 ー 全体



（注　社会人が学び直すなど、生涯にわたり、教育と就労を交互に繰り返すことでスキルを高め続ける教育制度

※1　遠隔操作・体験の実現（治療・介護、心理状態や味覚などの感覚を体験・共有できるメディア、遠隔地の人やロボットを自在に操れる身体共有技術）

※2　快適・安心な移動の向上（リニアモーターカー開通、どこでも自動運転、都市部で人を運べるドローン、視覚障害者や高齢者が安心して自由に移動できるナビゲーションシステム）

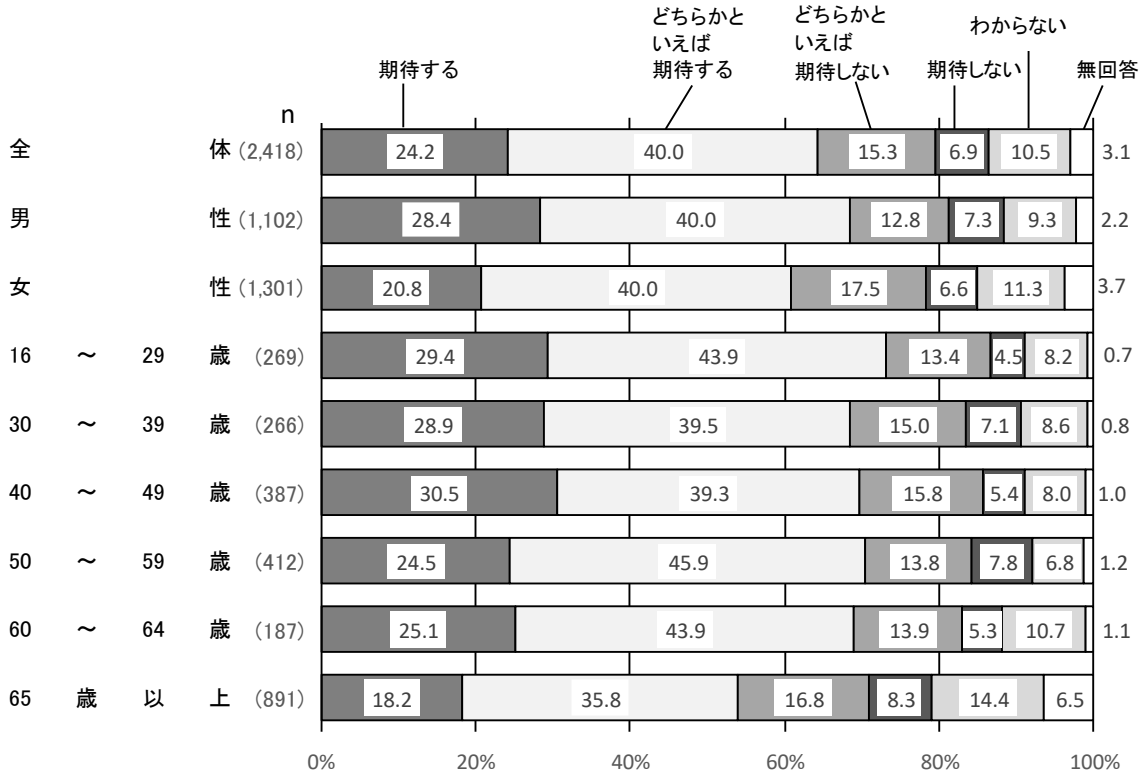
※3　疾病の早期発見・診断、体内監視の向上（超軽量感染症センサー、血液分析によるがんや認知症の早期診断、体内監視システム、心身のサポートシステム）

※4　AI技術の浸透（話の要約・理解、技術や経験の習得や危険が伴う作業の無人化など）

※5　農業へのロボット・ドローンの活用（無人精密農業、職人技の伝承、収穫物の自動運搬など）

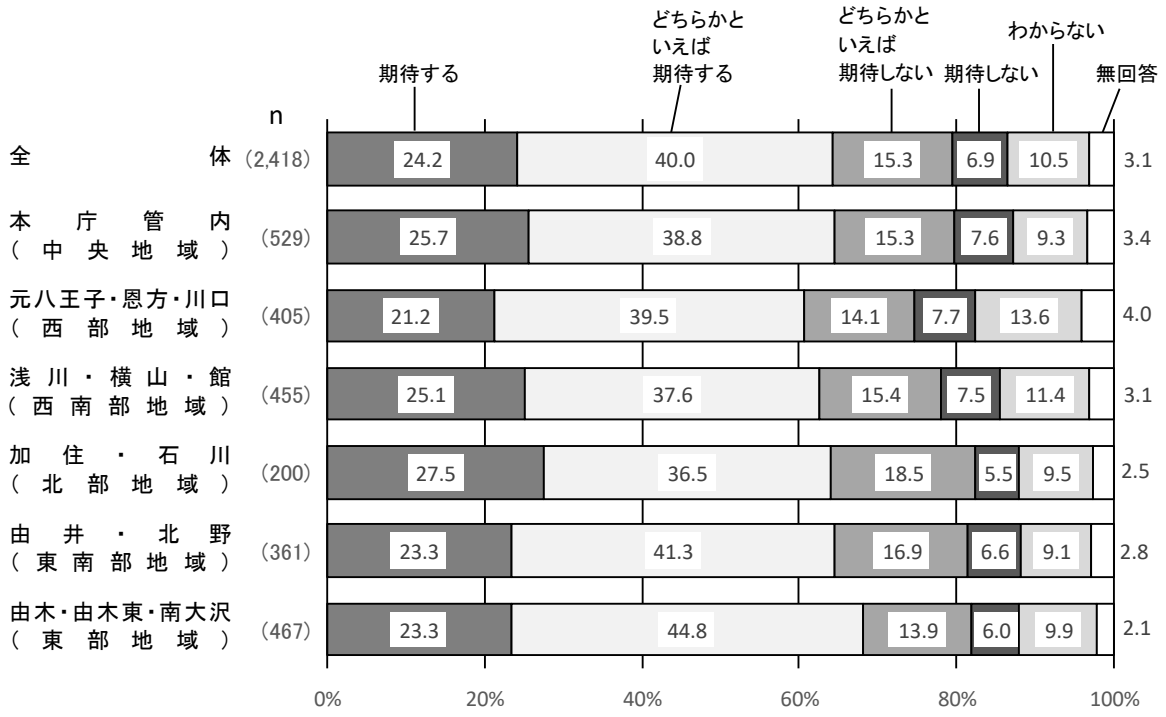
科学技術に対する期待要素について聞いたところ、≪期待する≫は、「疾病の早期発見・診断、体内監視の向上」（88.5%）で９割近くと最も高くなっている。次いで、「自然災害予測・リアルタイムの災害リスク評価システムの実現」（84.4%）、「廃棄物などの有効活用の進展（レアメタル回収・利用など）」（83.9%）が８割台と高くなっている。一方、≪期待しない≫は、「遠隔操作・体験の実現」（22.2%）が最も高く２割強となっている。（図表２－３－１）

図表２－３－２　科学技術に対する期待要素（１）遠隔操作・体験の実現 － 性別、年齢別



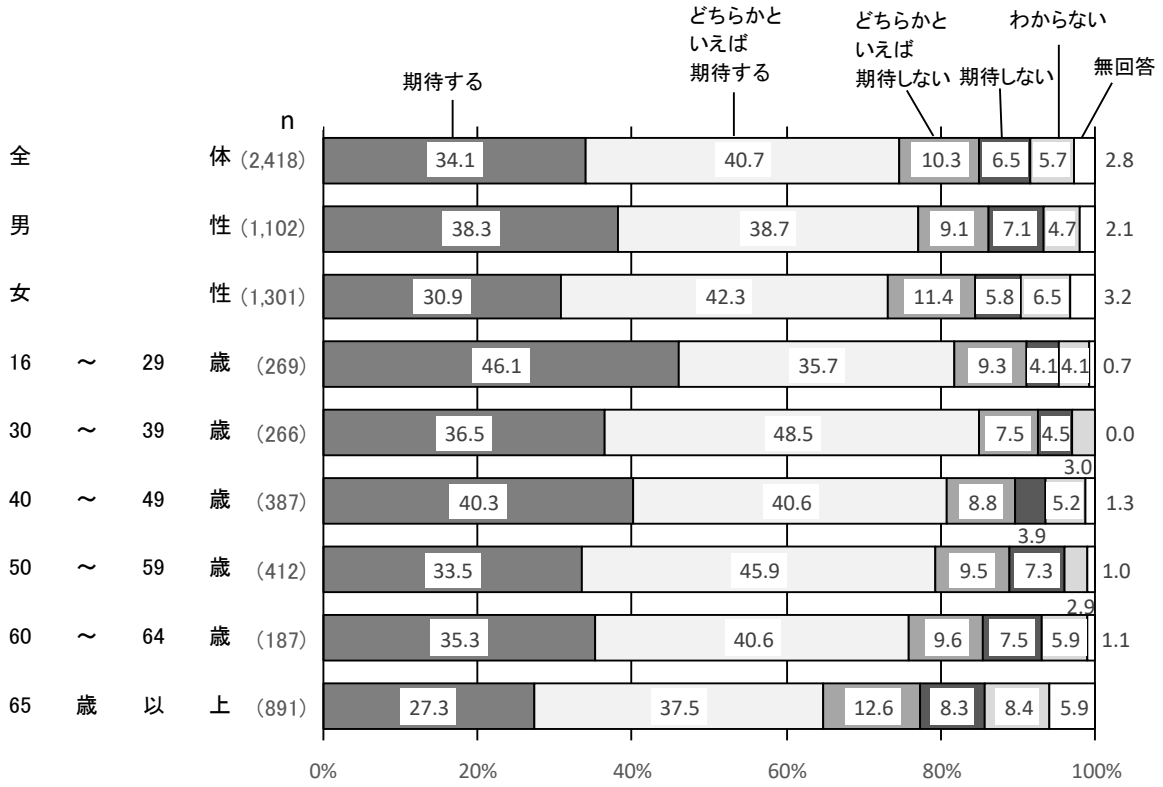
性別にみると、≪期待する≫は男性（68.4%）が女性（60.8%）より 7.6 ポイント高くなっている。
年齢別にみると、≪期待する≫は 16～29 歳（73.3%）で７割強と最も高くなっている。（図表２－３－２）

図表２－３－３　科学技術に対する期待要素（１）遠隔操作・体験の実現 － 居住地域別



居住地域別にみると、≪期待する≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（68.1%）で７割近くと最も高くなっている。すべての地域で、≪期待する≫は６割台となっている。（図表２－３－３）

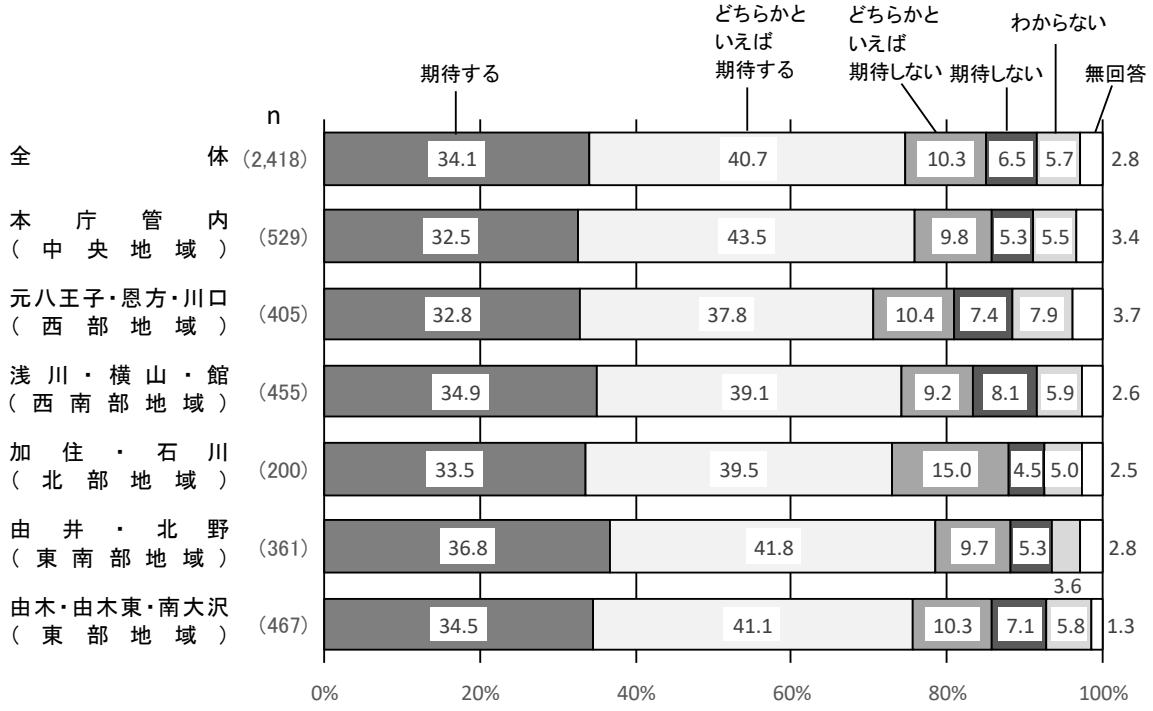
図表２－３－４　科学技術に対する期待要素（２）快適・安心な移動の向上 ― 性別、年齢別



性別にみると、「期待する」は男性（38.3%）が女性（30.9%）より 7.4 ポイント高くなっている。
年齢別にみると、≪期待する≫は 30～39 歳（85.0%）で８割台半ばと最も高くなっている。

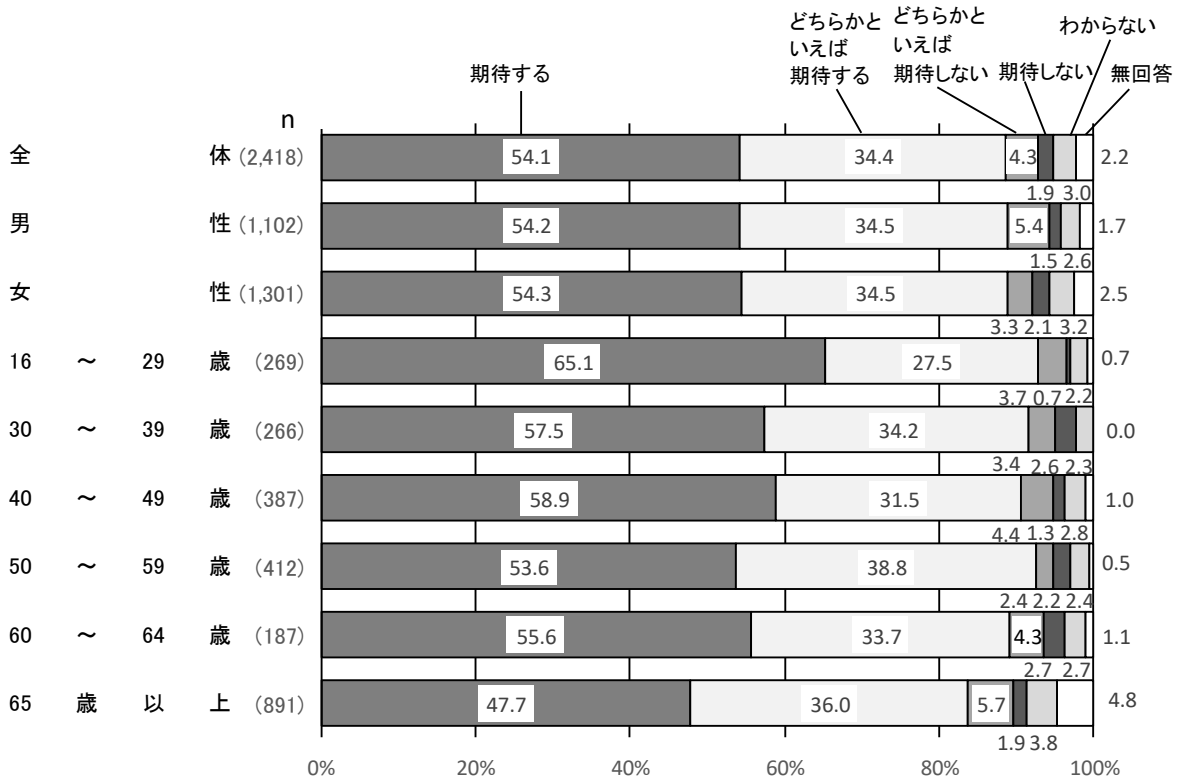
（図表２－３－４）

図表２－３－５　科学技術に対する期待要素（２）快適・安心な移動の向上 ― 居住地域別



居住地域別にみると、≪期待する≫は由井・北野（東南部地域）（78.6%）で８割近くと最も高くなっている。すべての地域で、≪期待する≫は７割台となっている。（図表２－３－５）

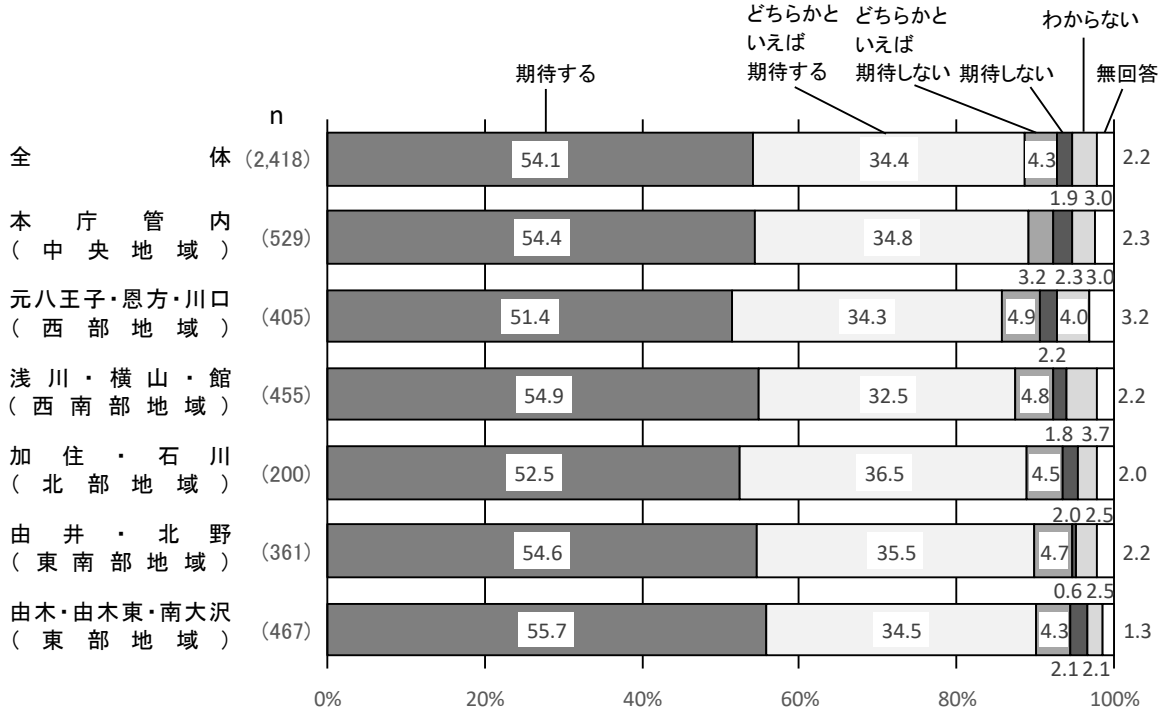
図表２－３－６　科学技術に対する期待要素（３）疾病の早期発見・診断、体内監視の向上 ― 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

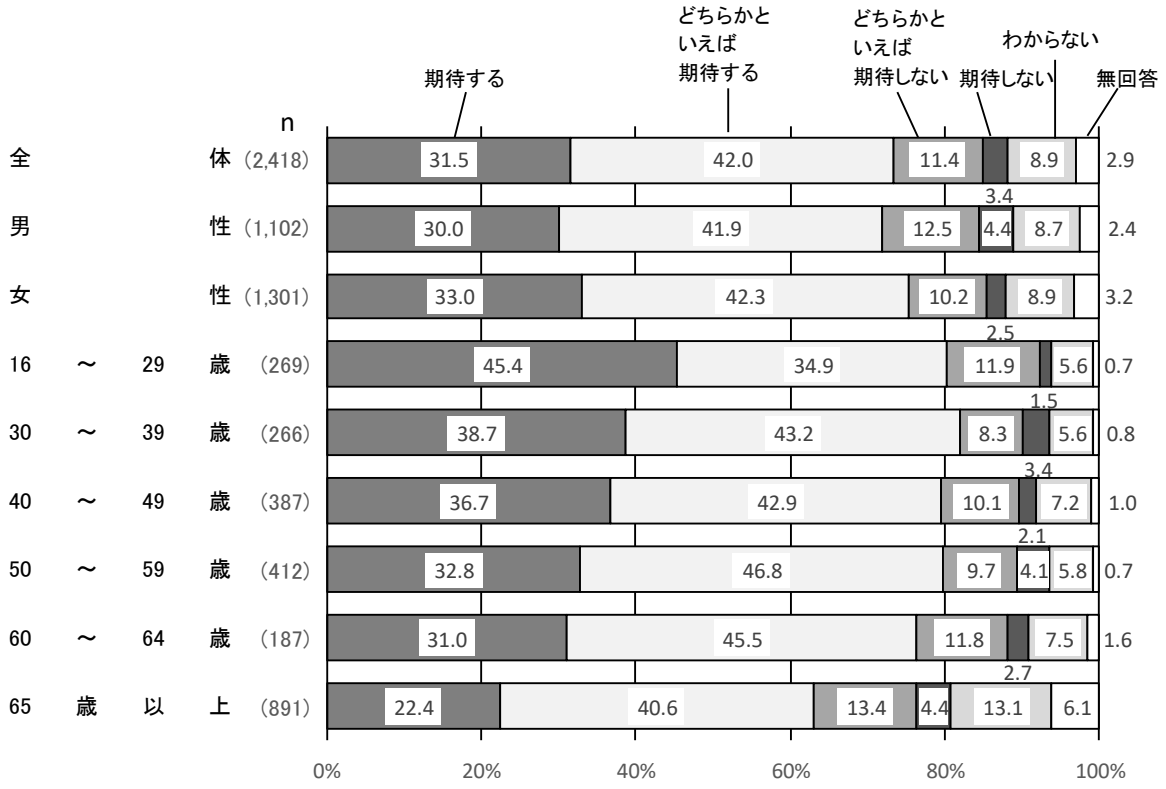
年齢別にみると、≪期待する≫は59歳以下では９割以上となっている。「期待する」は16～29歳（65.1%）で６割台半ばと高くなっている。（図表２－３－６）

図表２－３－７　科学技術に対する期待要素（３）疾病の早期発見・診断、体内監視の向上 ― 居住地域別



居住地域別にみると、≪期待する≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（90.2%）、由井・北野（東南部地域）（90.1%）で約９割となっている。（図表２－３－７）

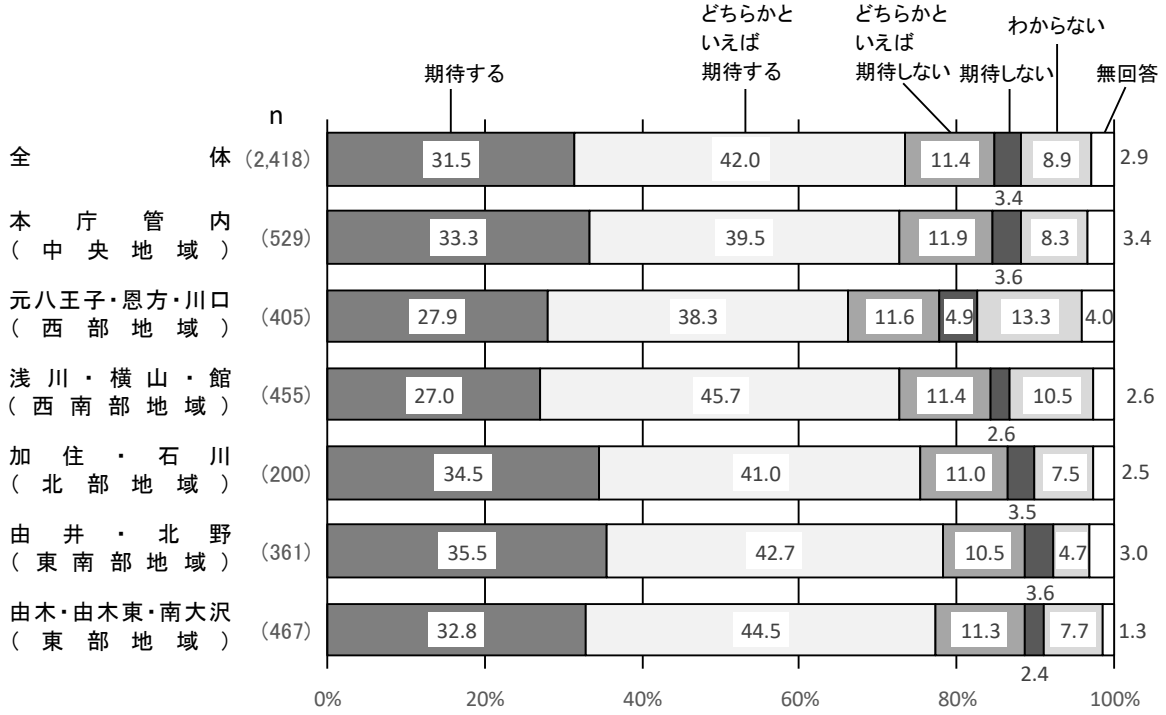
図表２－３－８　科学技術に対する期待要素（４）リカレント教育など、誰でも、いつでも、どこでも学べる環境の整備 ― 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

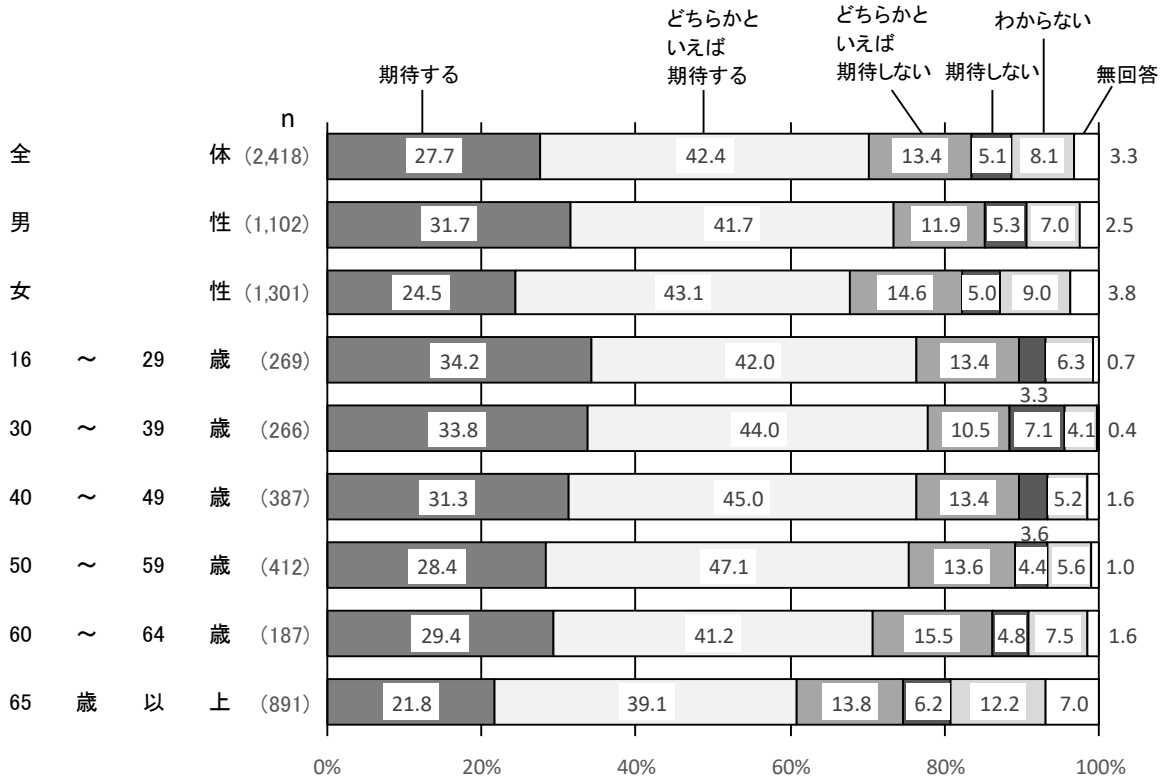
年齢別にみると、≪期待する≫は30～39歳（81.9%）で８割強と最も高くなっている。「期待する」は年齢層が下がるにつれ割合が高くなっており、16～29歳（45.4%）で４割台半ばとなっている。（図表２－３－８）

図表２－３－９　科学技術に対する期待要素（４）リカレント教育など、誰でも、いつでも、どこでも学べる環境の整備 ― 居住地域別



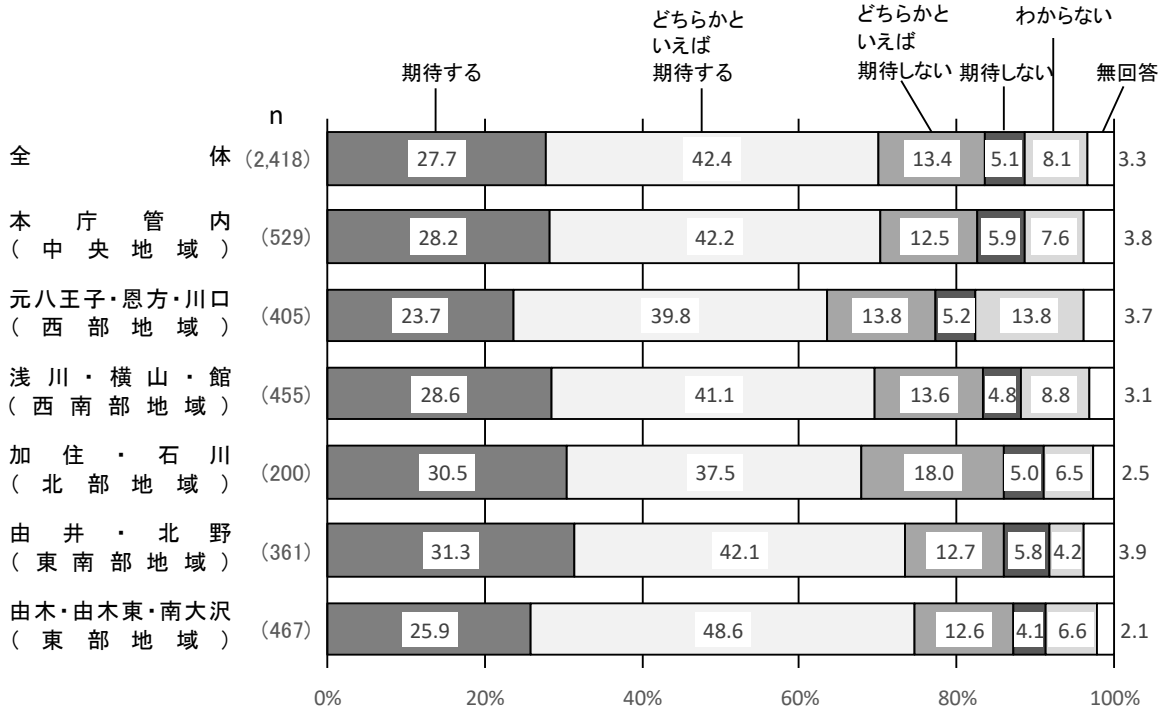
居住地域別にみると、≪期待する≫は由井・北野（東南部地域）（78.2%）で８割近くと最も高くなっている。（図表２－３－９）

図表２－３－10　科学技術に対する期待要素（５）AI 技術の浸透 ― 性別、年齢別



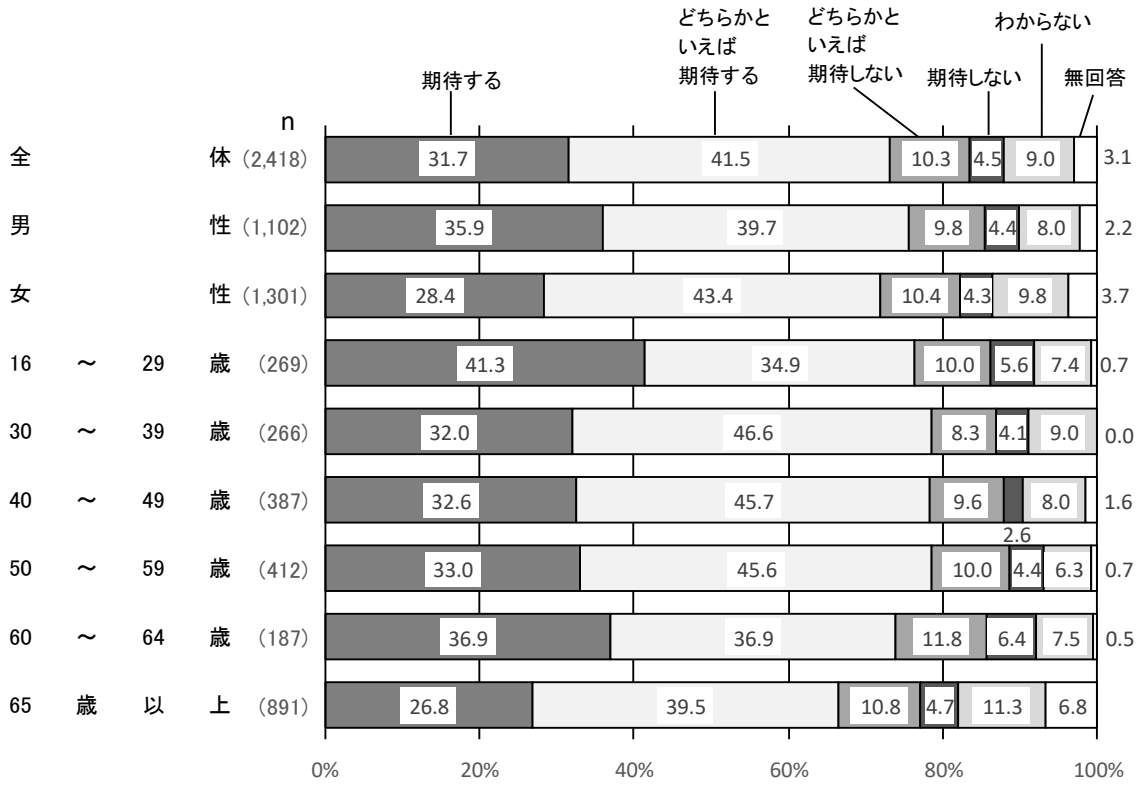
性別にみると、≪期待する≫は男性（73.4%）が女性（67.6%）より 5.8 ポイント高くなっている。
年齢別にみると、≪期待する≫は 30～39 歳（77.8%）で８割近くと最も高くなっている。（図表２－３－10）

図表２－３－11　科学技術に対する期待要素（５）AI 技術の浸透 ― 居住地域別



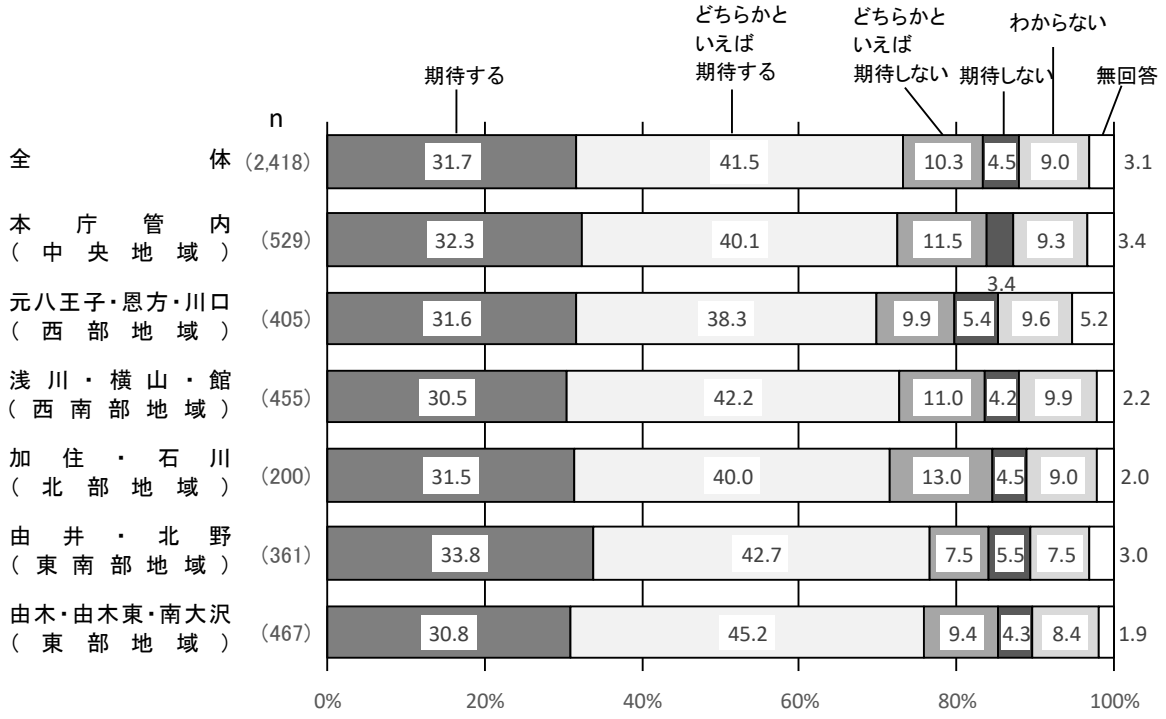
居住地域別にみると、≪期待する≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（74.5%）で７割台半ばと最も高くなっている。（図表２－３－11）

図表２－３－12　科学技術に対する期待要素（６）農業へのロボット・ドローンの活用 ― 性別、年齢別



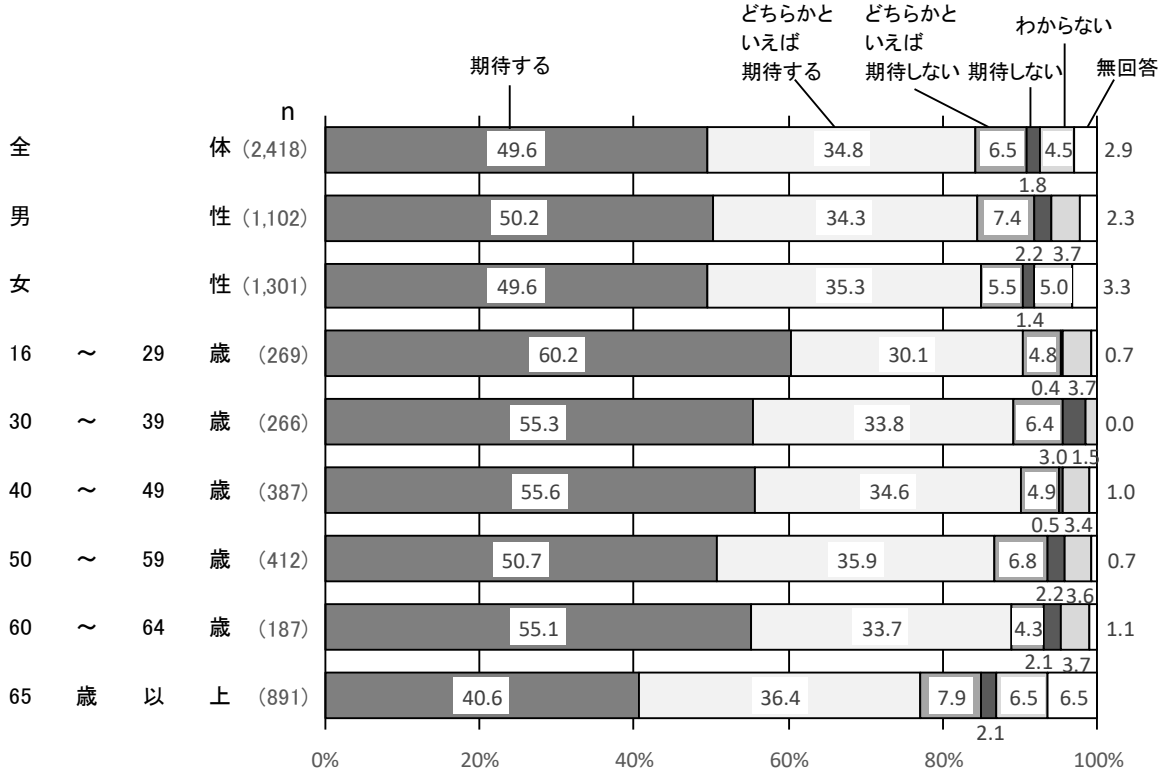
性別にみると、「期待する」は男性（35.9％）が女性（28.4％）より 7.5 ポイント高くなっている。
年齢別にみると、「期待する」は 16～29 歳（41.3％）で４割強と最も高くなっている。（図表２－３－12）

図表２－３－13　科学技術に対する期待要素（６）農業へのロボット・ドローンの活用 ― 居住地域別



居住地域別にみると、≪期待する≫は由井・北野（東南部地域）（76.5％）で８割近くと最も高くなっている。他の地域をみると、≪期待する≫がおおむね７割台となっている。（図表２－３－13）

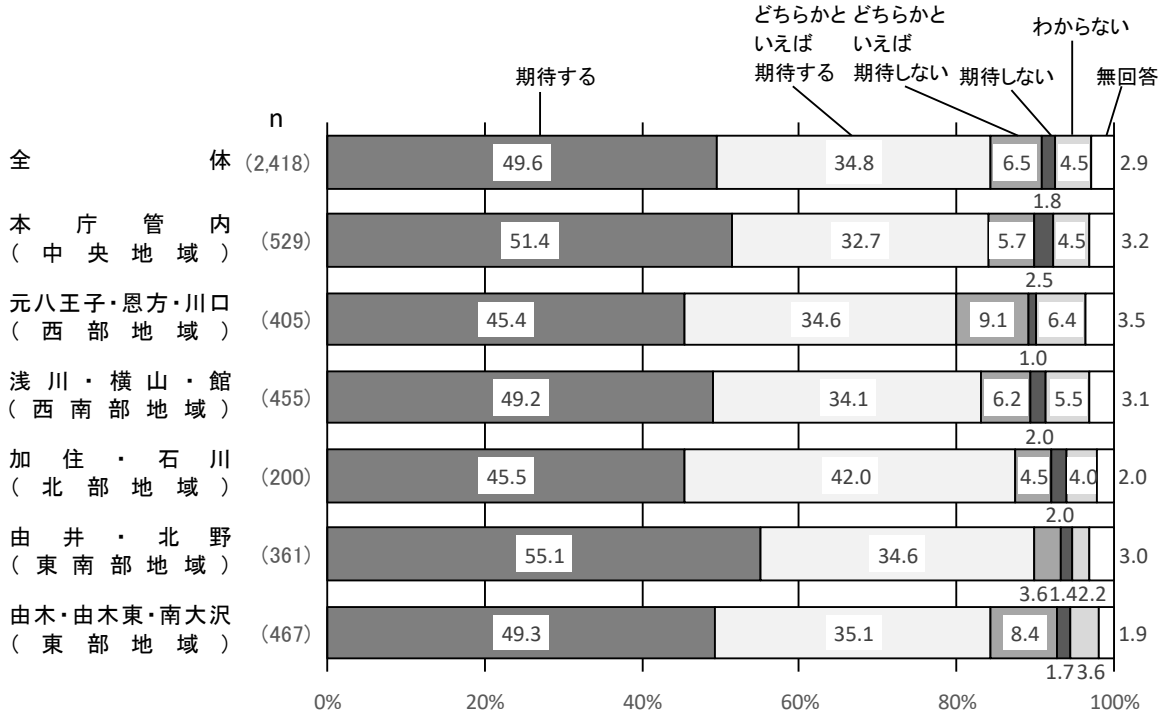
図表２－３－14　科学技術に対する期待要素（７）自然災害予測・リアルタイムの災害リスク評価システムの実現 ― 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

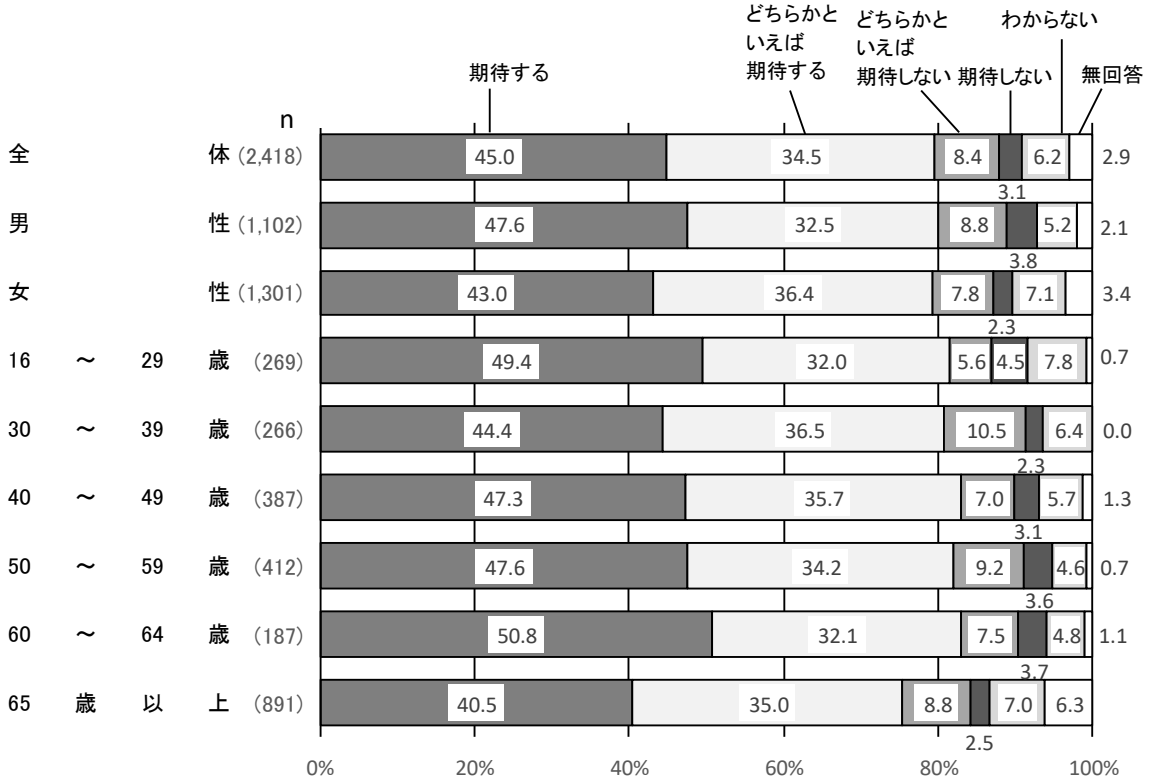
年齢別にみると、≪期待する≫は16～29歳（90.3%）で約９割と最も高くなっている。（図表２－３－14）

図表２－３－15　科学技術に対する期待要素（７）自然災害予測・リアルタイムの災害リスク評価システムの実現 ― 居住地域別



居住地域別にみると、≪期待する≫は由井・北野（東南部地域）（89.7%）で９割弱と最も高くなっている。（図表２－３－15）

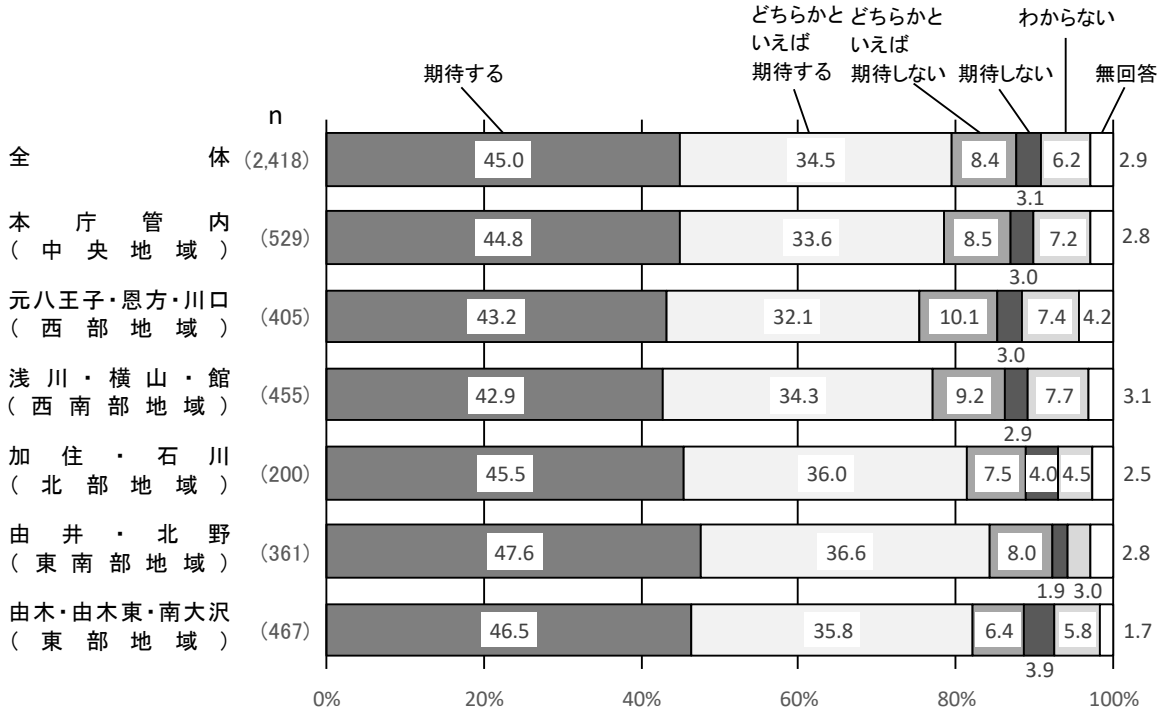
図表２－３－16　科学技術に対する期待要素（８）エネルギーの自給自足の確立 ― 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

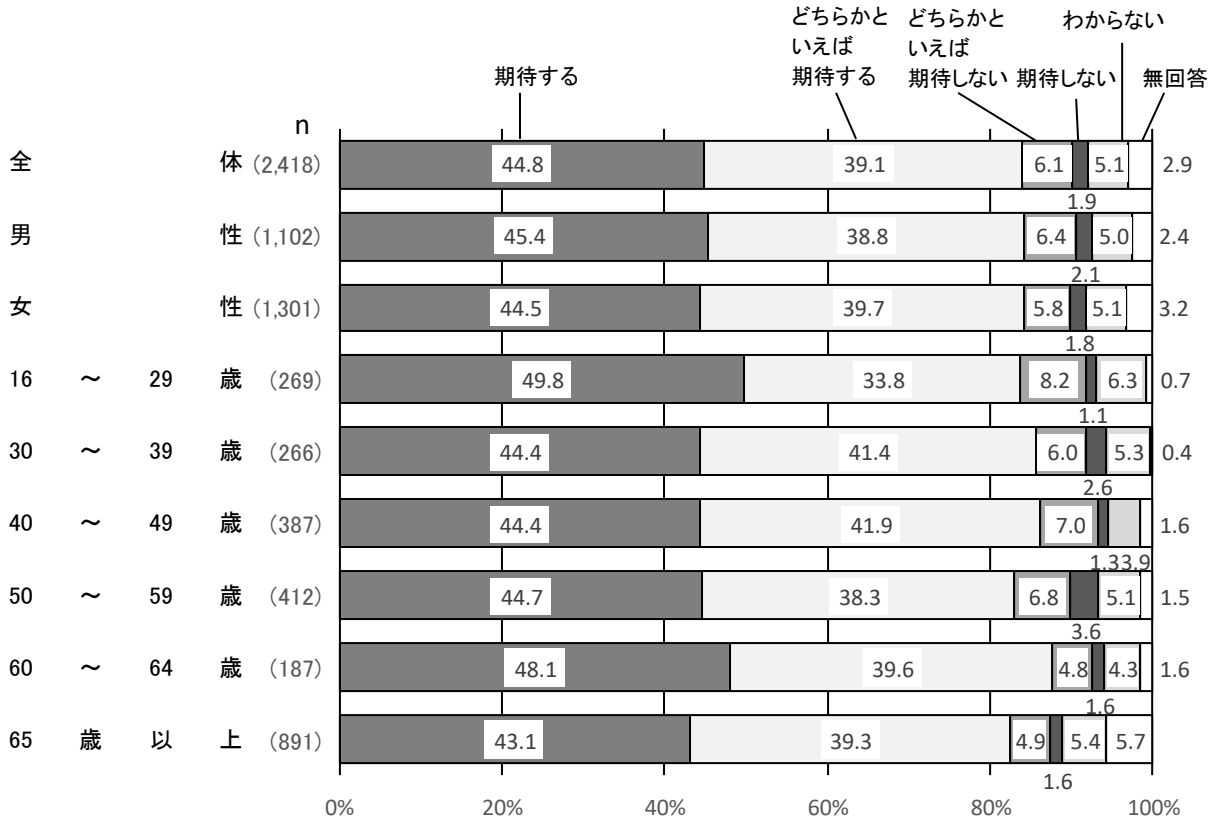
年齢別にみると、≪期待する≫は40～49歳（83.0%）で８割強と最も高くなっている。（図表２－３－16）

図表２－３－17　科学技術に対する期待要素（８）エネルギーの自給自足の確立 ― 居住地域別



居住地域別にみると、≪期待する≫は由井・北野（東南部地域）（84.2%）で８割台半ばと最も高くなっている。（図表２－３－17）

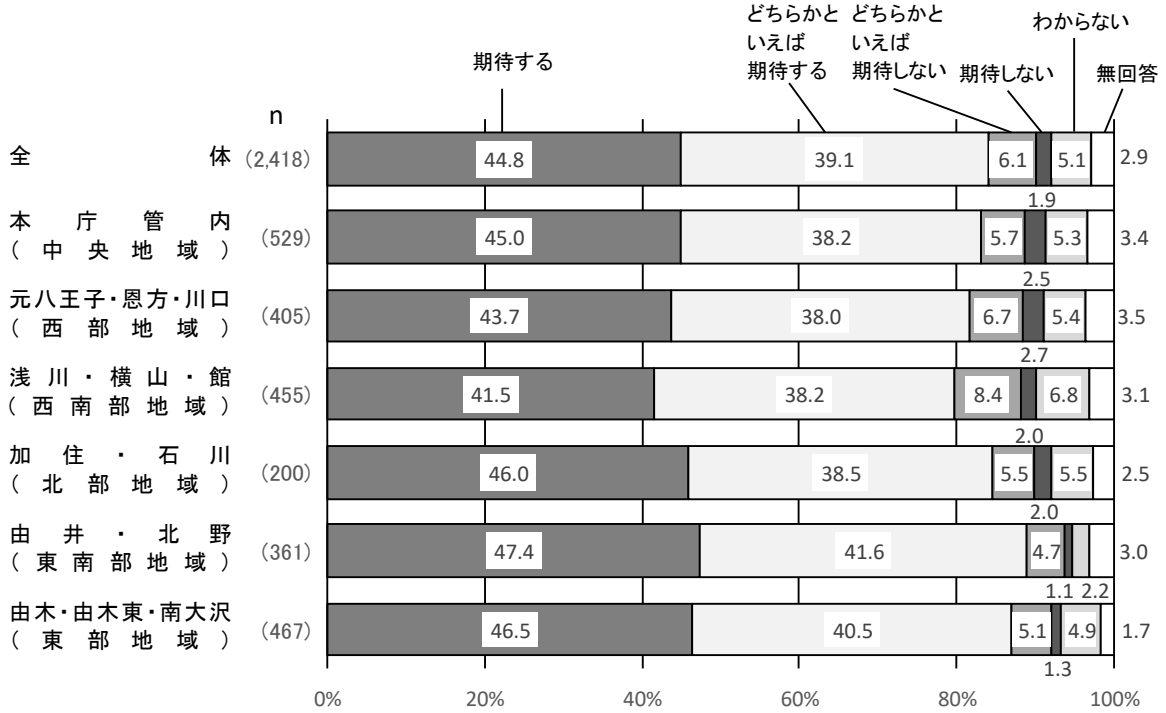
図表２－３－18　科学技術に対する期待要素（９）廃棄物などの有効活用の進展 ― 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

年齢別にみると、≪期待する≫は 60～64 歳 (87.7%) で９割近くと最も高くなっている。(図表２－３－18)

図表２－３－19　科学技術に対する期待要素（９）廃棄物などの有効活用の進展 ― 居住地域別



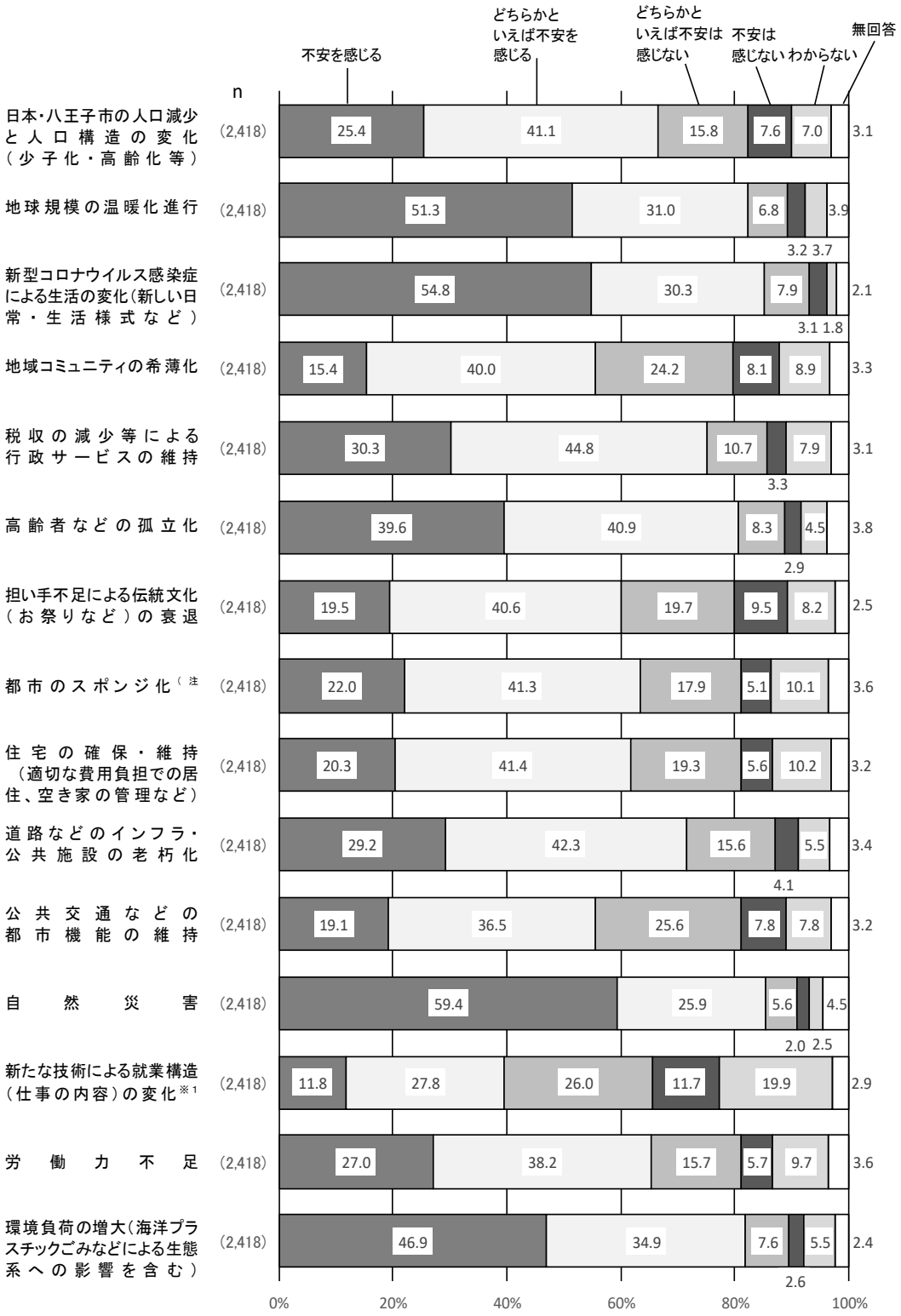
居住地域別にみると、≪期待する≫は由井・北野（東南部地域）(89.0%) で９割弱と最も高くなっている。(図表２－３－19)

－不安感－

（４） 社会環境に対する不安要素

問18　次の（１）～（15）の事柄についての不安感についてお答えください。（それぞれ○は１つだけ）

図表２－４－１　社会環境に対する不安要素 － 全体

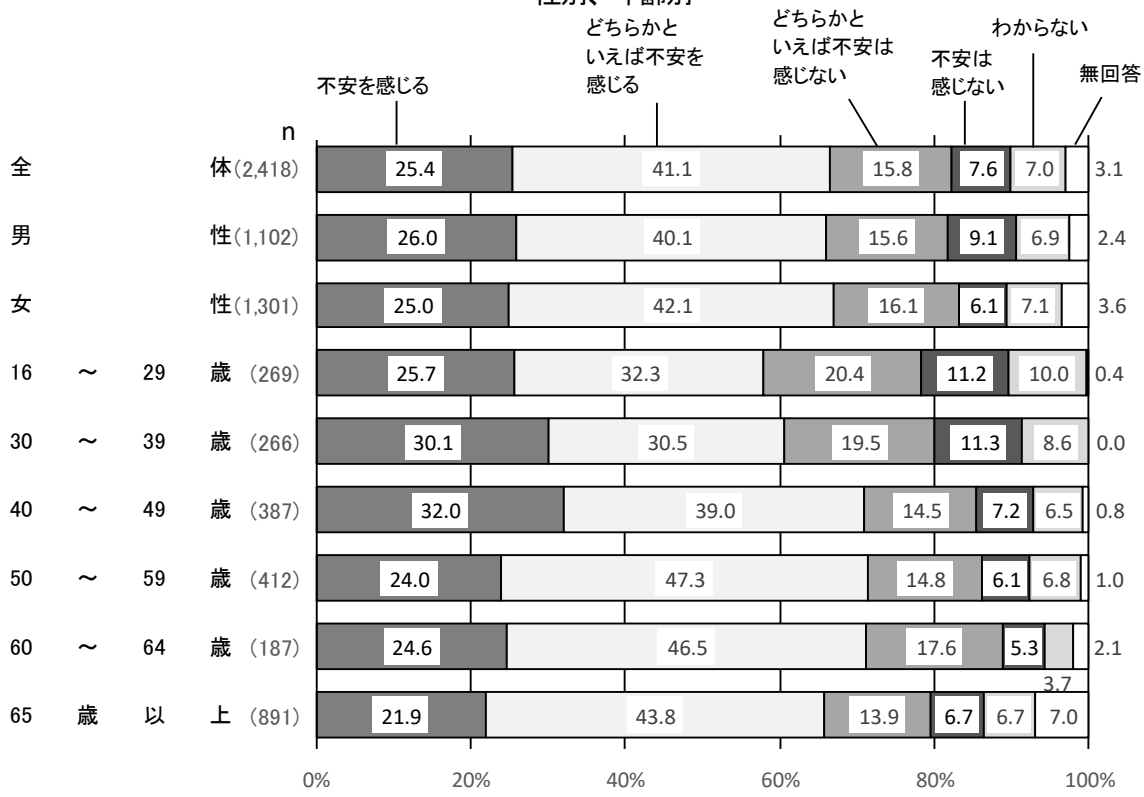


（注　都市において、空き家や空き地等が数多くの穴のように点々と増えていくこと

※1　IoT（Internet of Things（モノのインターネット））、ビッグデータ、人工知能をはじめとした新たな技術による就業構造（仕事の内容）の変化

社会環境に対する不安要素について聞いたところ、「不安を感じる」と「どちらかといえば不安を感じる」を合わせた≪不安を感じる≫では「自然災害」(85.3%) で８割台半ばと最も高くなっている。次いで、「新型コロナウイルス感染症による生活の変化（新しい日常・生活様式など)」(85.1%)、「地球規模の温暖化進行」(82.3%)、「環境負荷の増大（海洋プラスチックごみなどによる生態系への影響を含む)」(81.8%) などの順となっている。(図表２－４－１)

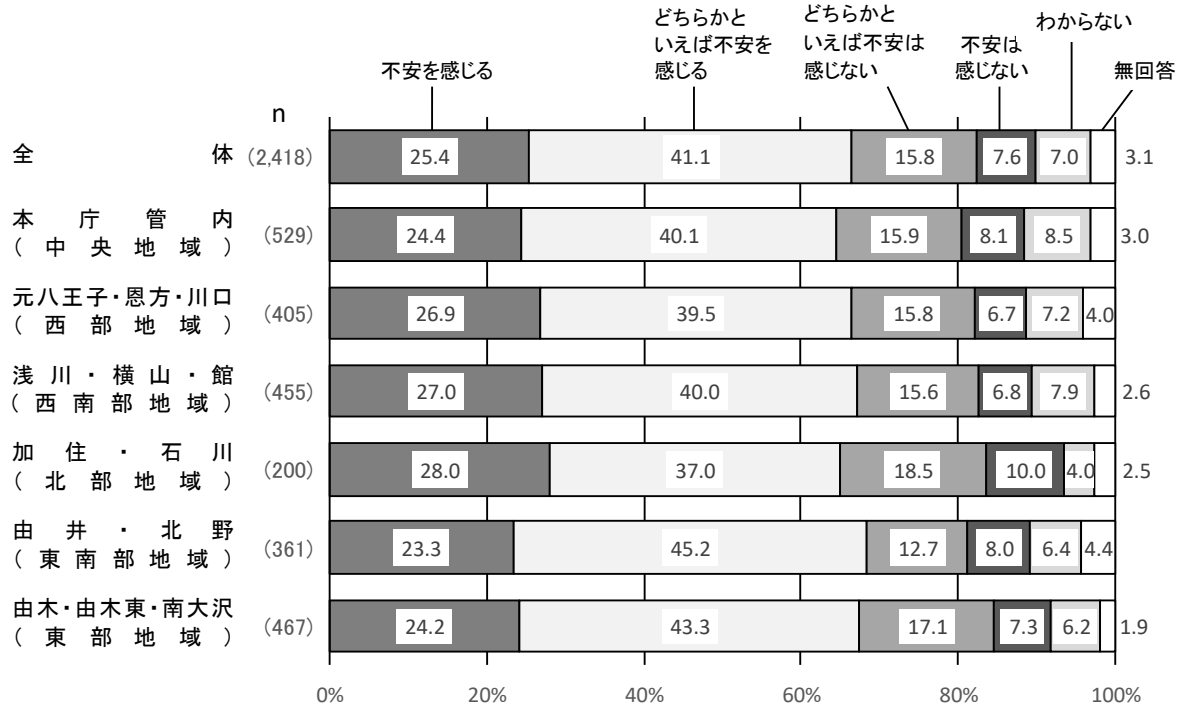
図表２－４－２　社会環境に対する不安要素（１）日本・八王子市の人口減少と人口構造の変化
－ 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

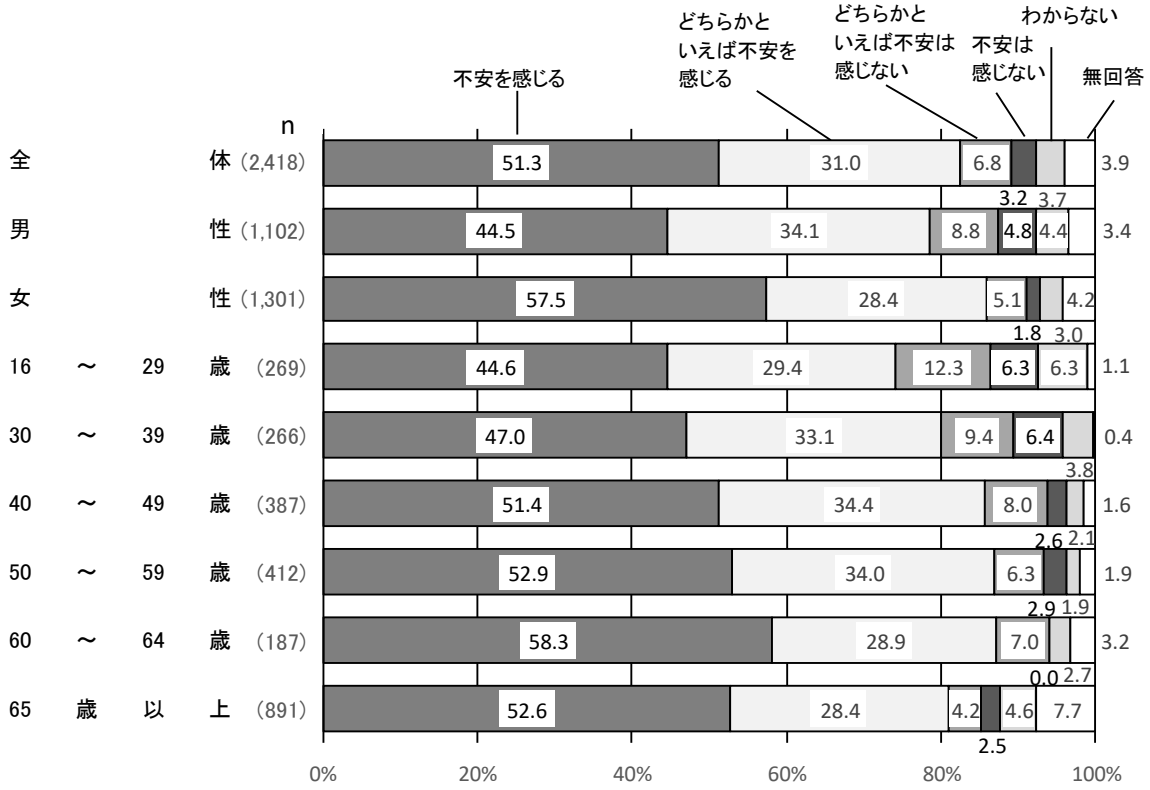
年齢別にみると、≪不安を感じる≫は40～49歳（71.0%）、50～59歳（71.3%）、60～64歳（71.1%）で７割強と高くなっている。（図表２－４－２）

図表２－４－３　社会環境に対する不安要素（１）日本・八王子市の人口減少と人口構造の変化
－ 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は由井・北野（東南部地域）（68.5%）で７割近くと最も高くなっている。すべての地域で、≪不安を感じる≫は６割台となっている。（図表２－４－３）

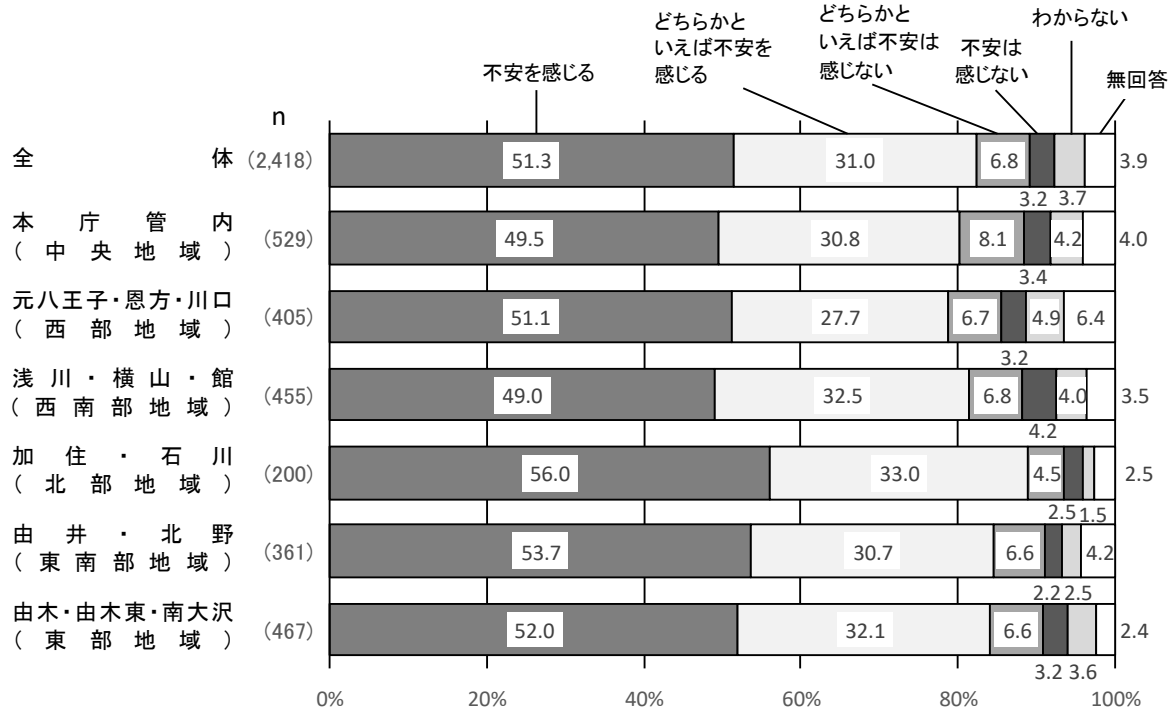
図表２－４－４　社会環境に対する不安要素（２）地球規模の温暖化進行 － 性別、年齢別



性別にみると、≪不安を感じる≫は女性（85.9%）が男性（78.6%）より 7.3 ポイント高くなっている。
年齢別にみると、≪不安を感じる≫は 60～64 歳（87.2%）で９割近くと最も高くなっている。

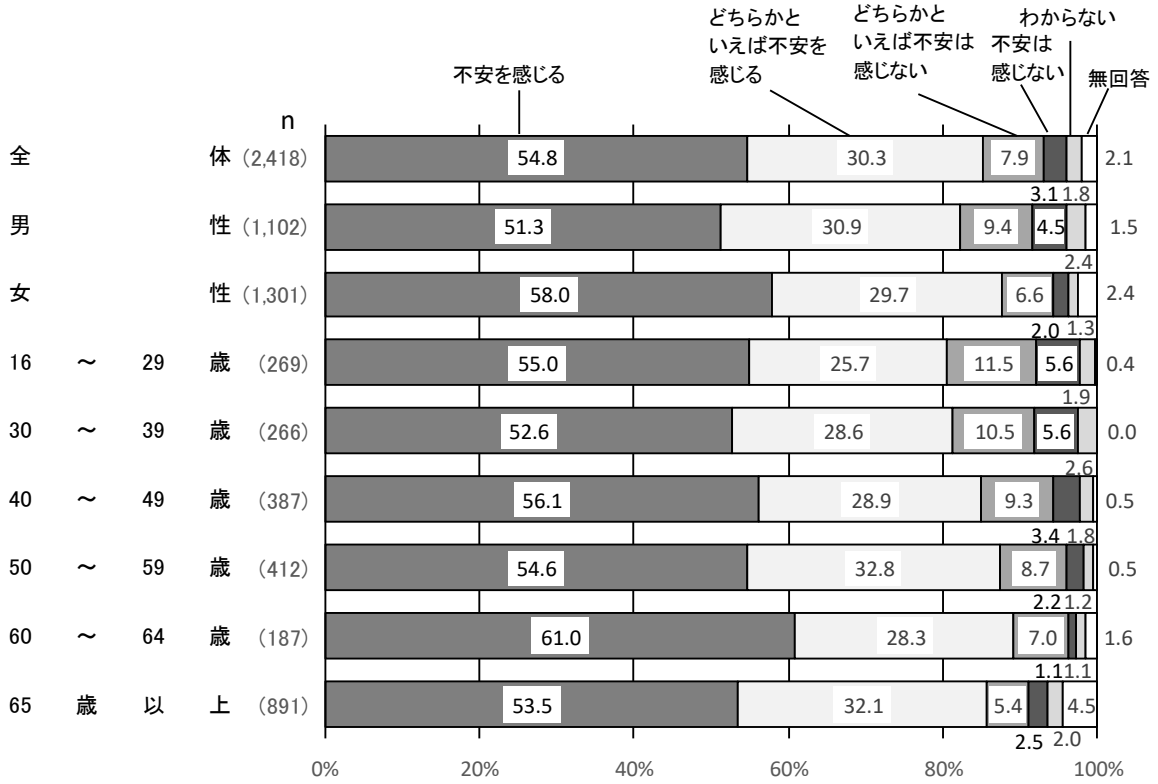
（図表２－４－４）

図表２－４－５　社会環境に対する不安要素（２）地球規模の温暖化進行 － 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は加住・石川（北部地域）（89.0%）で９割弱と最も高くなっている。（図表２－４－５）

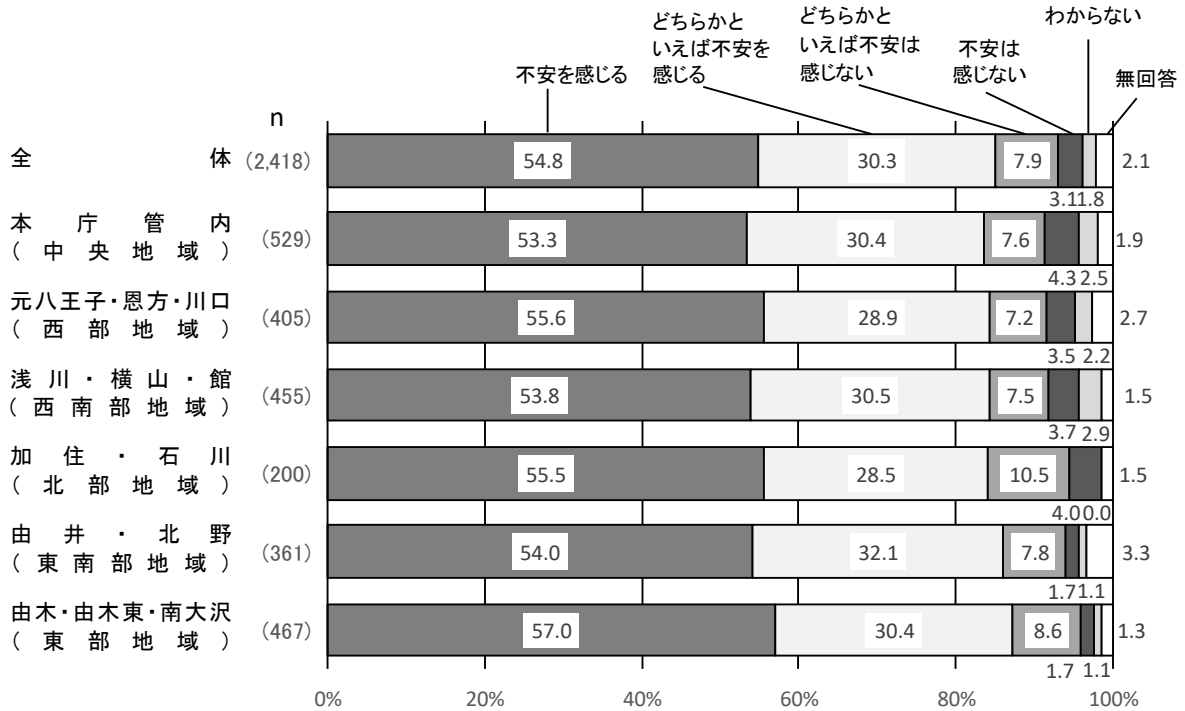
図表２－４－６　社会環境に対する不安要素（３）新型コロナウイルス感染症による生活の変化
－ 性別、年齢別



性別にみると、≪不安を感じる≫は女性（87.7%）が男性（82.2%）より5.5ポイント高くなっている。
年齢別にみると、≪不安を感じる≫は60～64歳（89.3%）で９割弱と最も高くなっている。

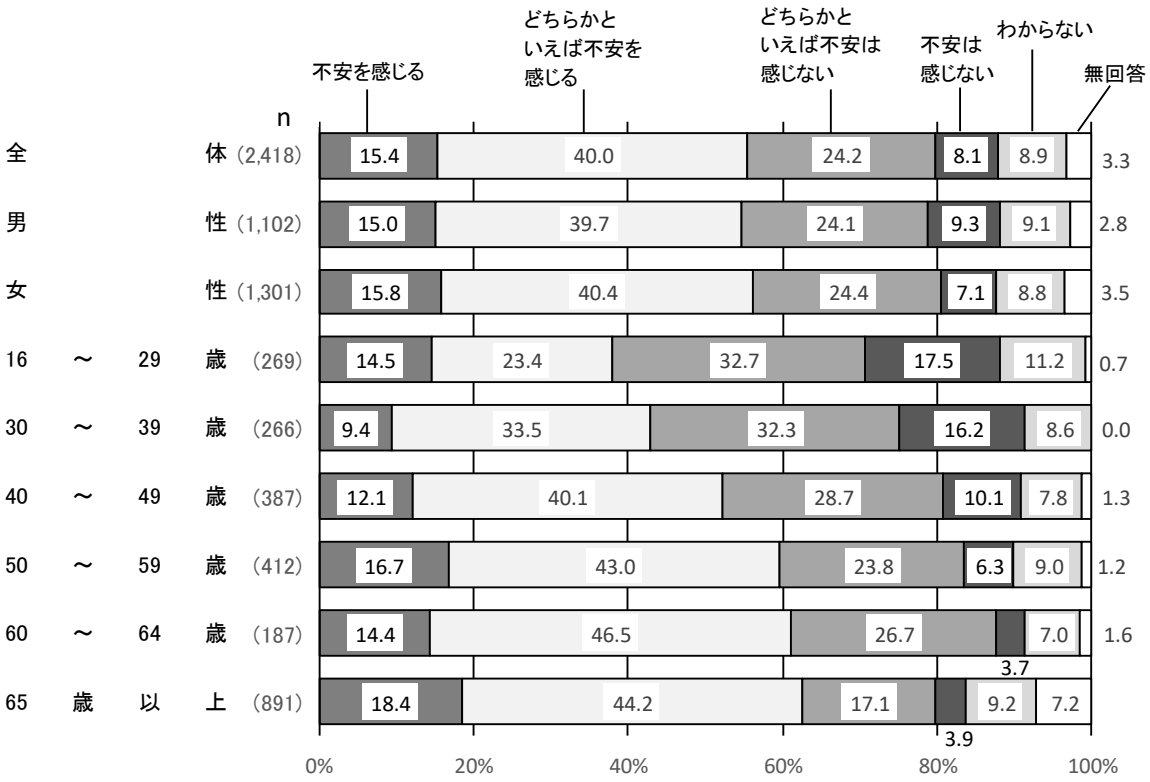
（図表２－４－６）

図表２－４－７　社会環境に対する不安要素（３）新型コロナウイルス感染症による生活の変化
－ 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（87.4%）で９割近くと最も高くなっている。すべての地域で、≪不安を感じる≫が８割台となっている。（図表２－４－７）

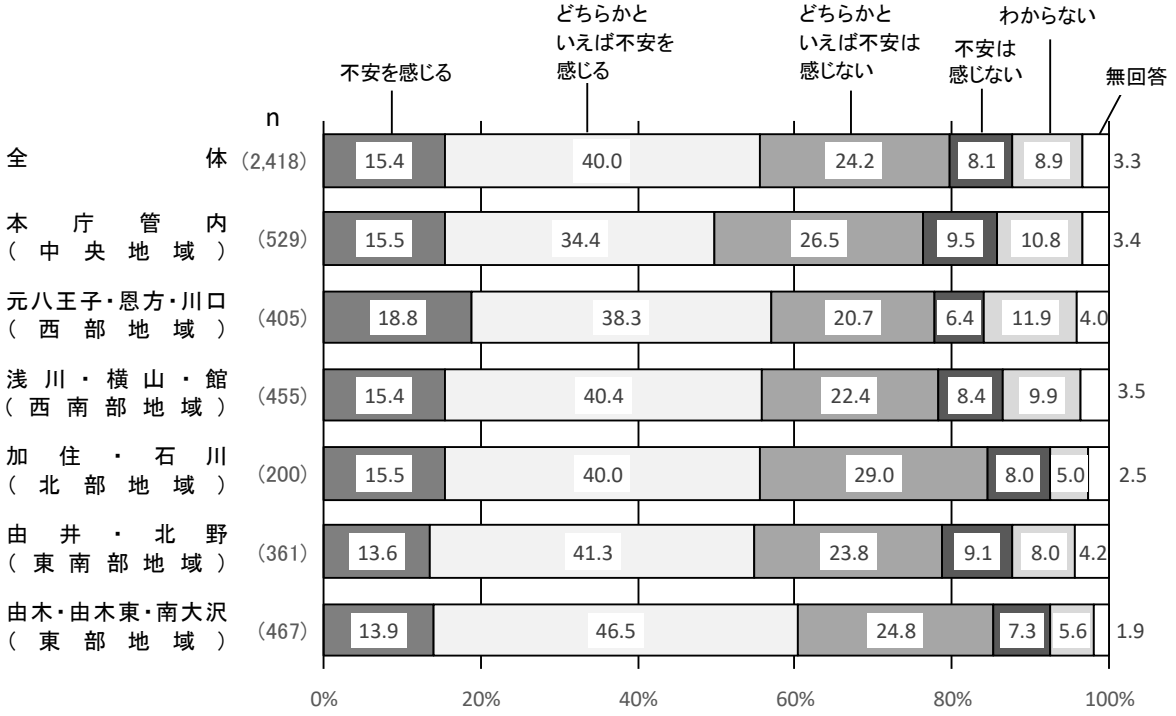
図表２－４－８　社会環境に対する不安要素（４）地域コミュニティの希薄化 － 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

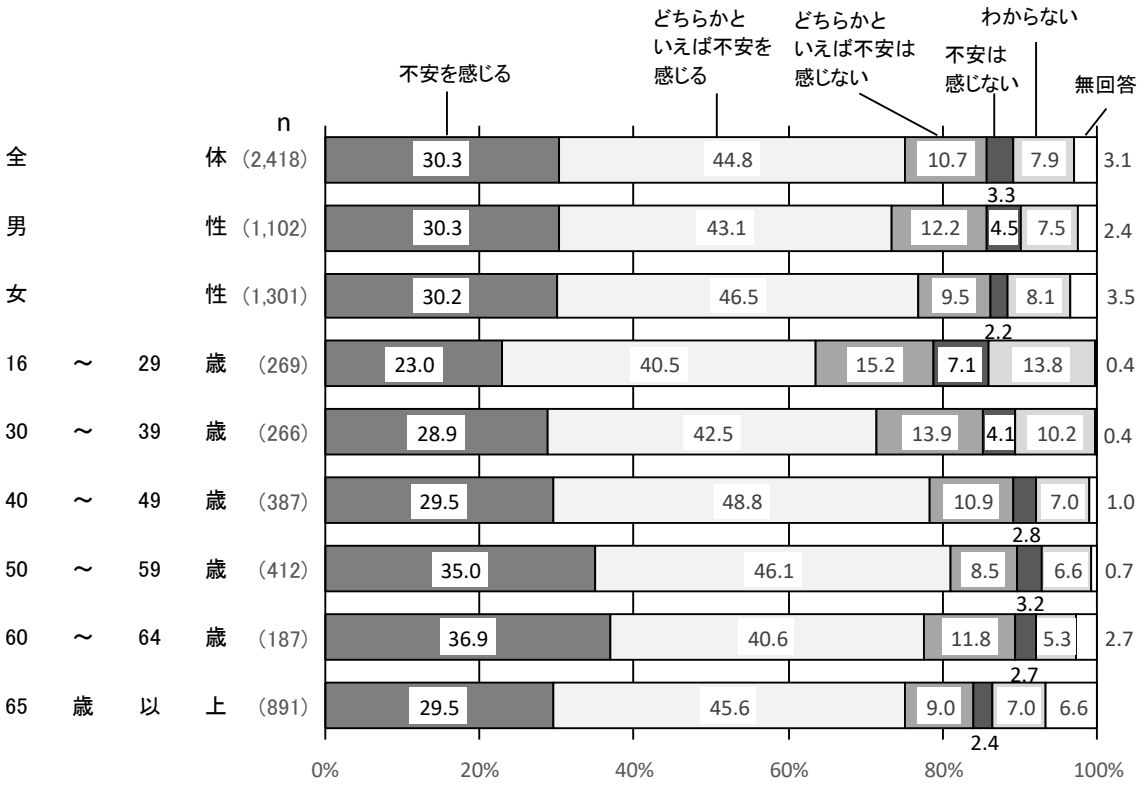
年齢別にみると、≪不安を感じる≫は年齢層が上がるにつれ高くなっており、65 歳以上（62.6%）で６割強となっている。39 歳以下では≪不安は感じない≫が≪不安を感じる≫を上回っている。（図表２－４－８）

図表２－４－９　社会環境に対する不安要素（４）地域コミュニティの希薄化 － 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（60.4%）で約６割と最も高くなっている。（図表２－４－９）

図表２－４－10　社会環境に対する不安要素（５）税収の減少等による行政サービスの維持 － 性別、年齢別

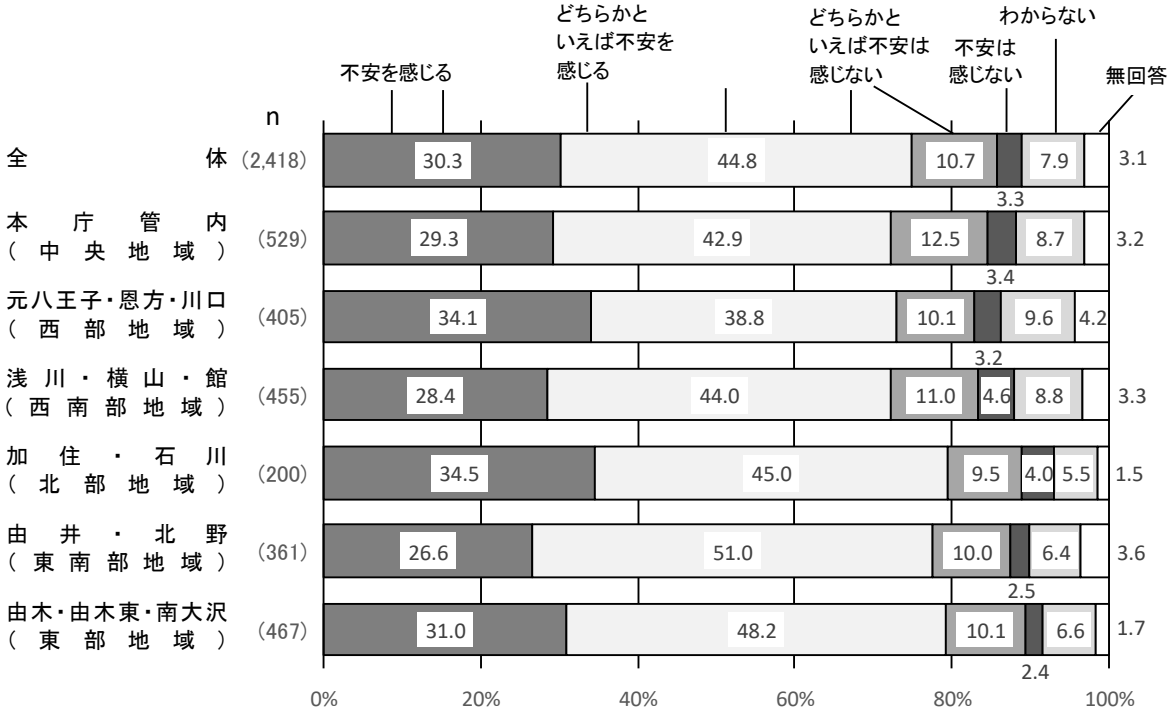


性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

年齢別にみると、≪不安を感じる≫は50～59歳（81.1%）で８割強と最も高くなっている。

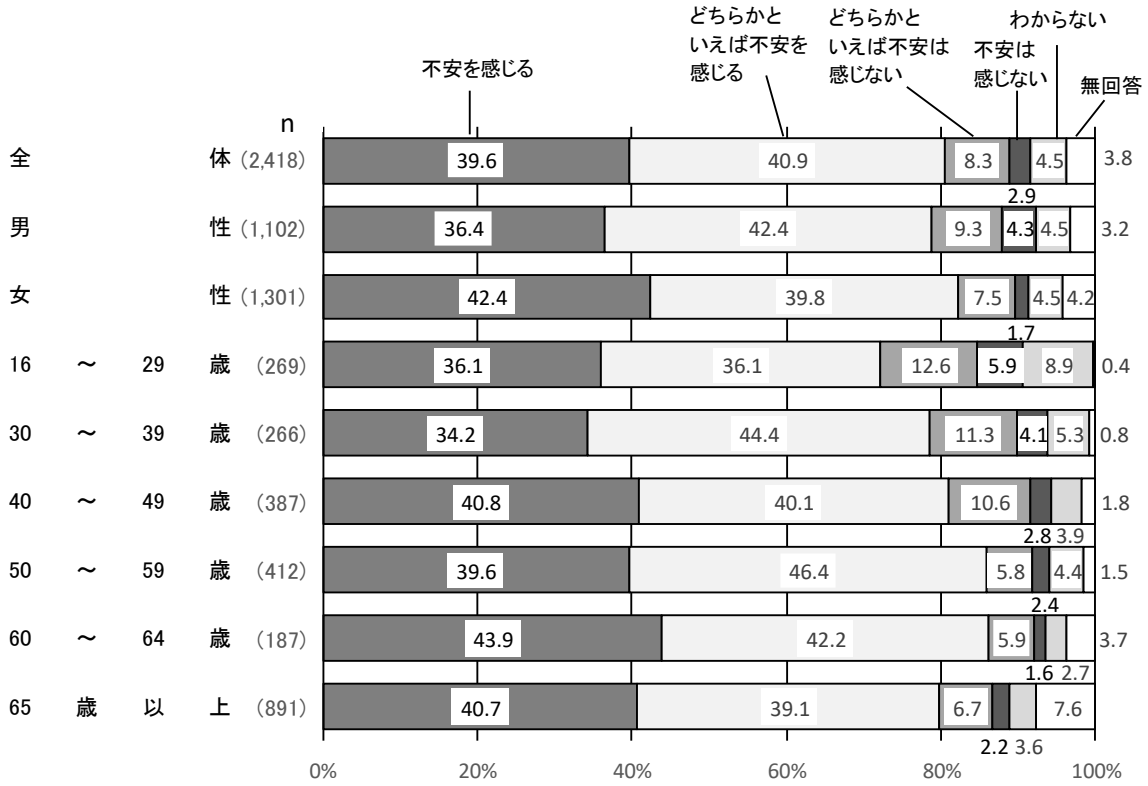
（図表２－４－10）

図表２－４－11　社会環境に対する不安要素（５）税収の減少等による行政サービスの維持 － 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は加住・石川（北部地域）（79.5%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（79.2%）で８割弱と高くなっている。（図表２－４－11）

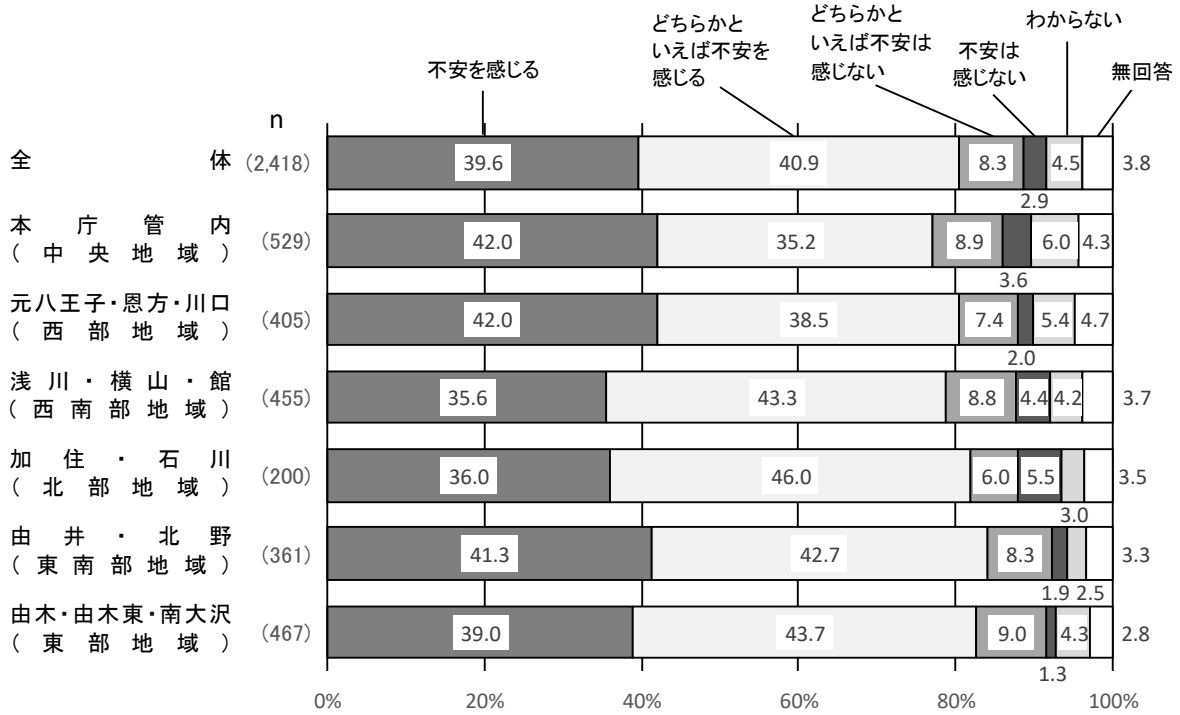
図表２－４－12　社会環境に対する不安要素（６）高齢者などの孤立化 － 性別、年齢別



性別にみると、「不安を感じる」は女性（42.4%）が男性（36.4%）より 6.0 ポイント高くなっている。

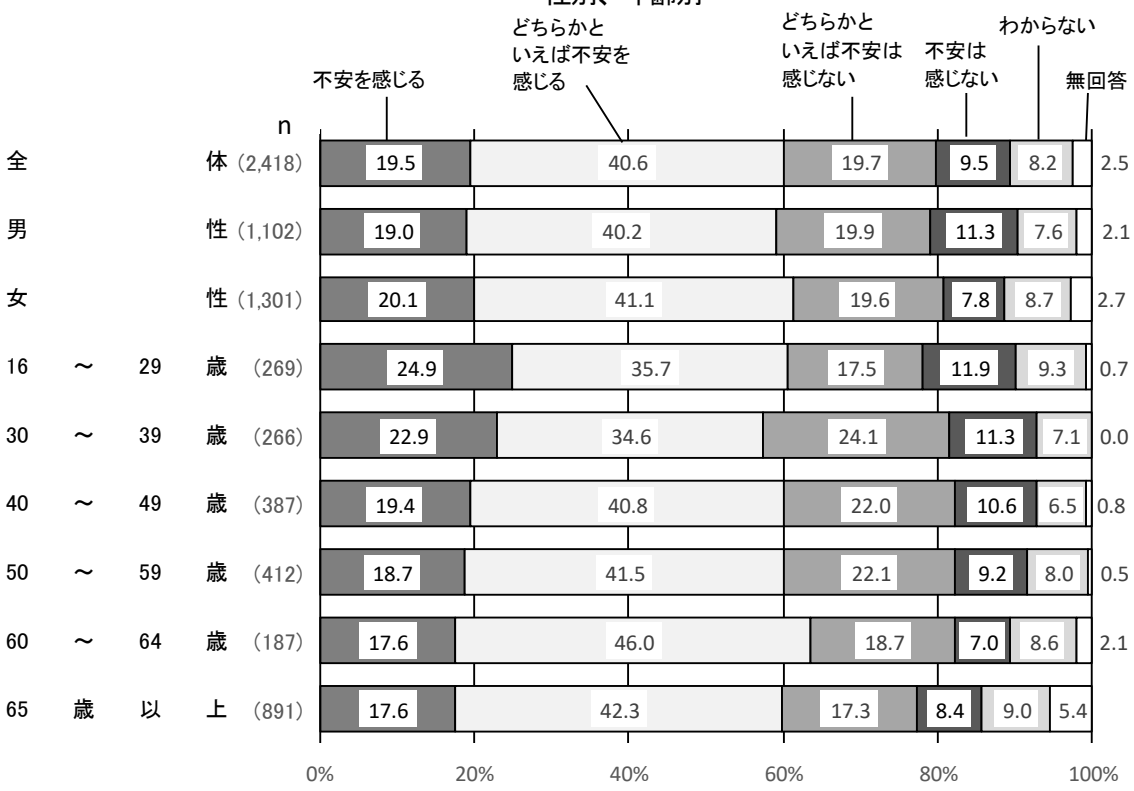
年齢別にみると、≪不安を感じる≫は 60～64 歳（86.1%）、50～59 歳（86.0%）で９割近くと高くなっている。（図表２－４－12）

図表２－４－13　社会環境に対する不安要素（６）高齢者などの孤立化 － 居住地域別別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は由井・北野（東南部地域）（84.0%）で８割台半ばと最も高くなっている。（図表２－４－13）

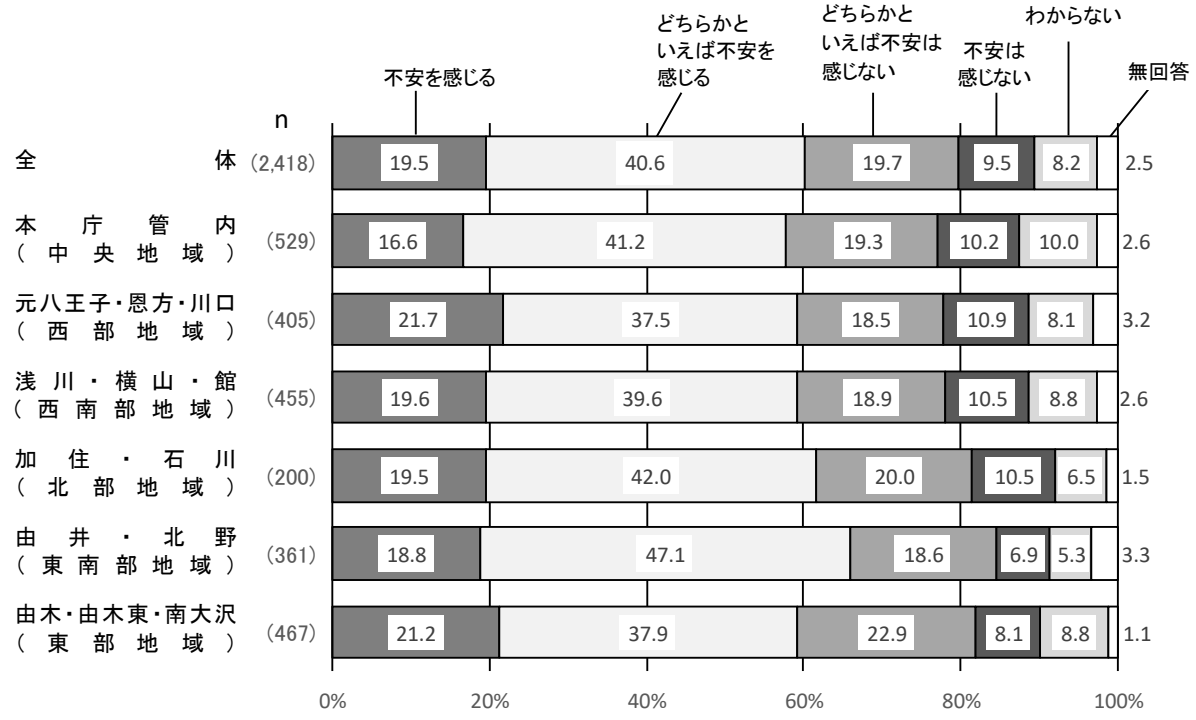
図表２－４－14　社会環境に対する不安要素（７）担い手不足による伝統文化（お祭りなど）の衰退
－ 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。
年齢別にみると、≪不安を感じる≫は60～64歳（63.6%）で６割強と最も高くなっている。

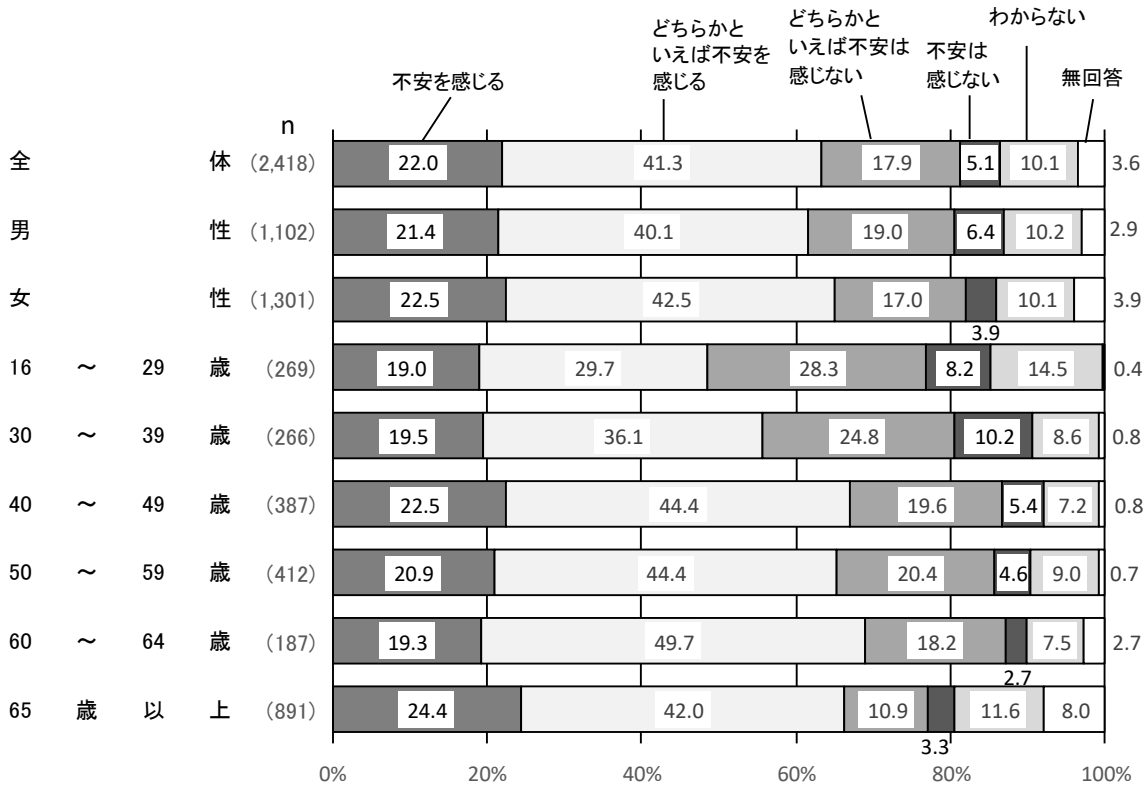
（図表２－４－14）

図表２－４－15　社会環境に対する不安要素（７）担い手不足による伝統文化（お祭りなど）の衰退
－ 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は由井・北野（東南部地域）（65.9%）で６割台半ばと最も高くなっている。（図表２－４－15）

図表２－４－16　社会環境に対する不安要素（８）都市のスポンジ化 － 性別、年齢別

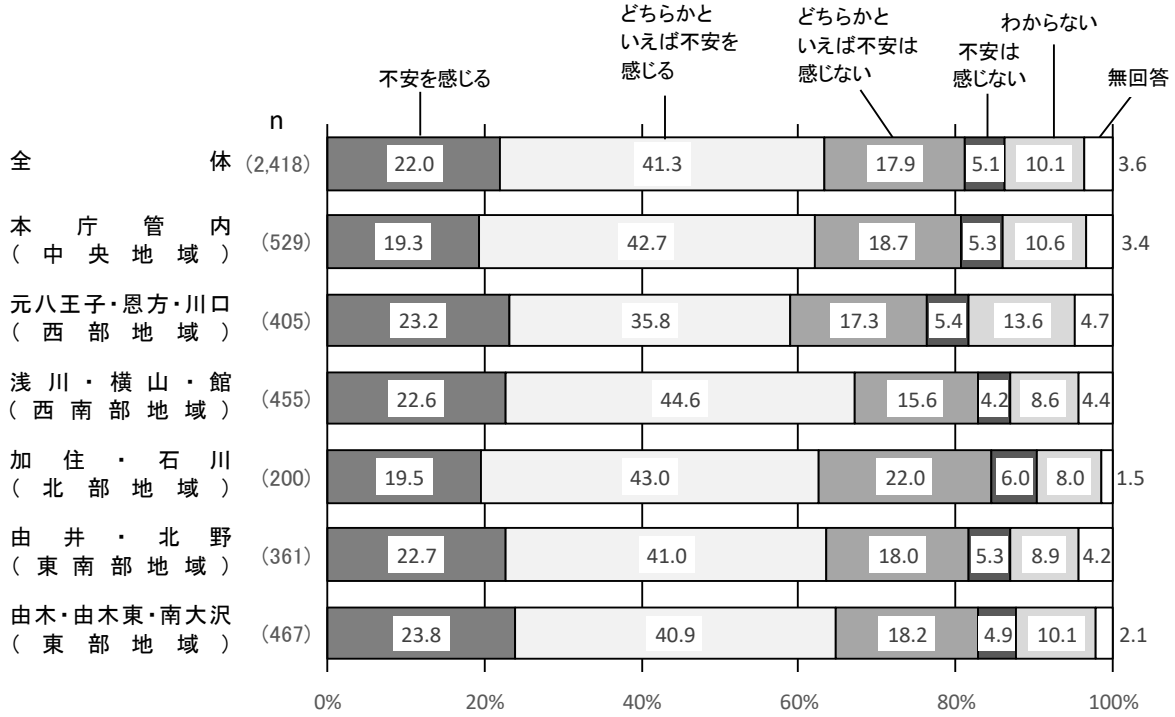


性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

年齢別にみると、≪不安を感じる≫は60～64歳（69.0%）で７割弱と最も高くなっている。

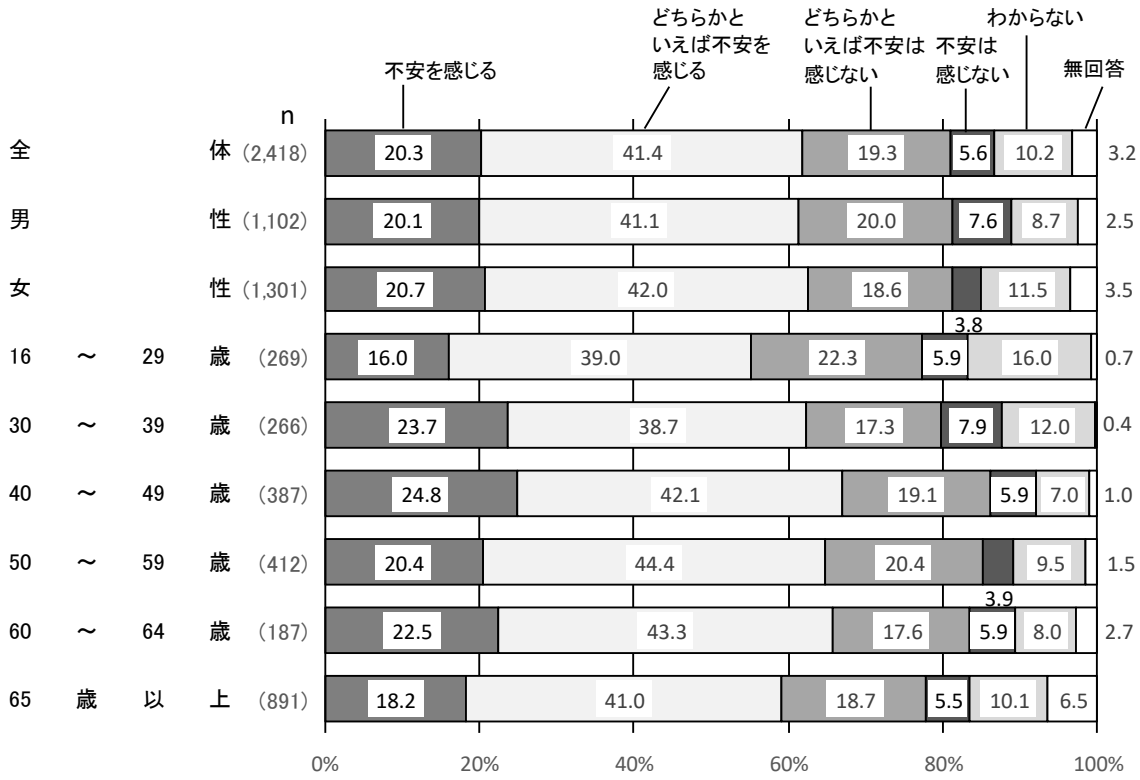
（図表２－４－16）

図表２－４－17　社会環境に対する不安要素（８）都市のスポンジ化 － 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は浅川・横山・館（西南部地域）（67.2%）で７割近くと最も高くなっている。（図表２－４－17）

図表２－４－18　社会環境に対する不安要素（９）住宅の確保・維持 ― 性別、年齢別

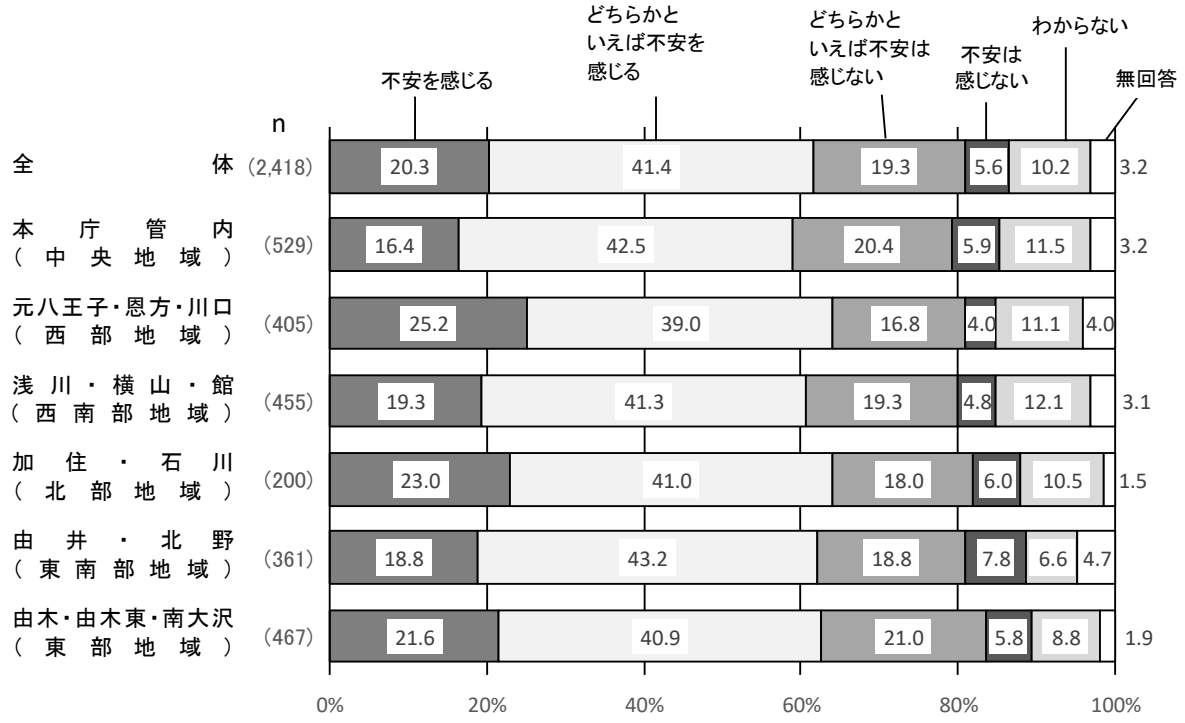


性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

年齢別にみると、≪不安を感じる≫は 40～49 歳（66.9%）で７割近くと最も高くなっている。

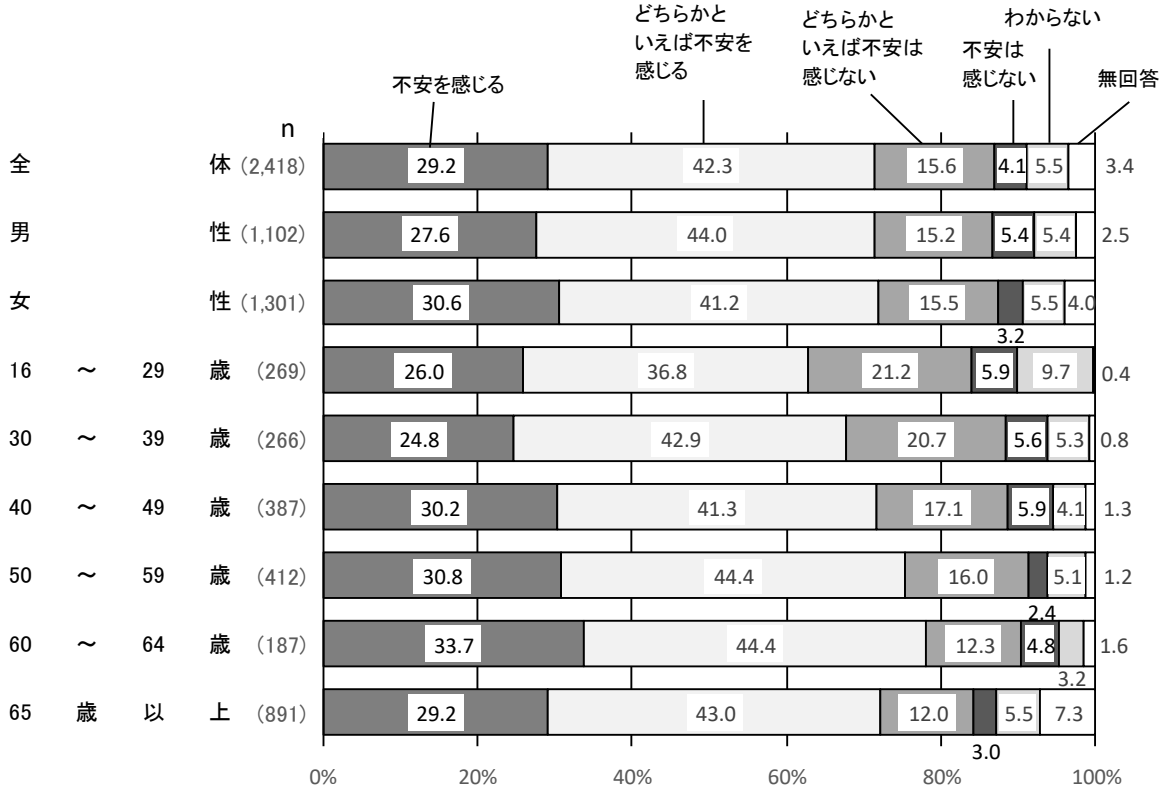
（図表２－４－18）

図表２－４－19　社会環境に対する不安要素（９）住宅の確保・維持 ― 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）（64.2%）で６割台半ばと最も高くなっている。（図表２－４－19）

図表２－４－20　社会環境に対する不安要素（10）道路などのインフラ・公共施設の老朽化 ― 性別、年齢別

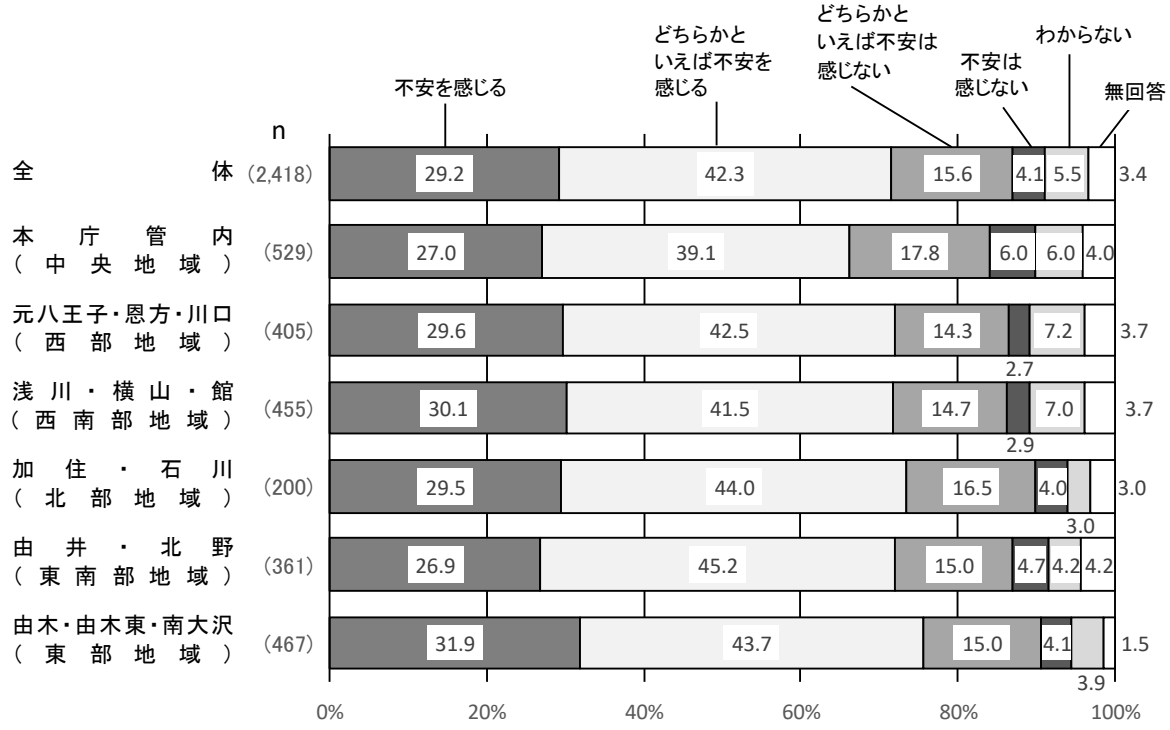


性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

年齢別にみると、≪不安を感じる≫は60～64歳（78.1%）で８割近くと最も高くなっている。

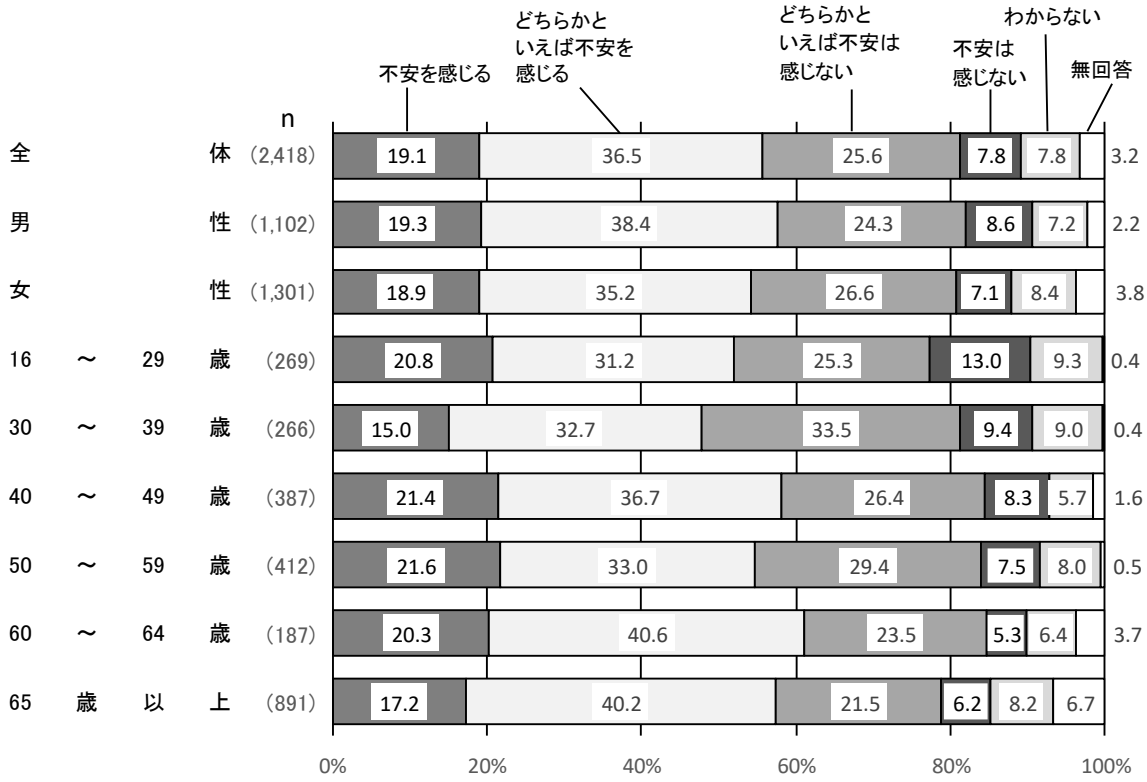
（図表２－４－20）

図表２－４－21　社会環境に対する不安要素（10）道路などのインフラ・公共施設の老朽化 ― 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（75.6%）で７割台半ばと最も高くなっている。（図表２－４－21）

図表２－４－22　社会環境に対する不安要素（11）公共交通などの都市機能の維持 ― 性別、年齢別

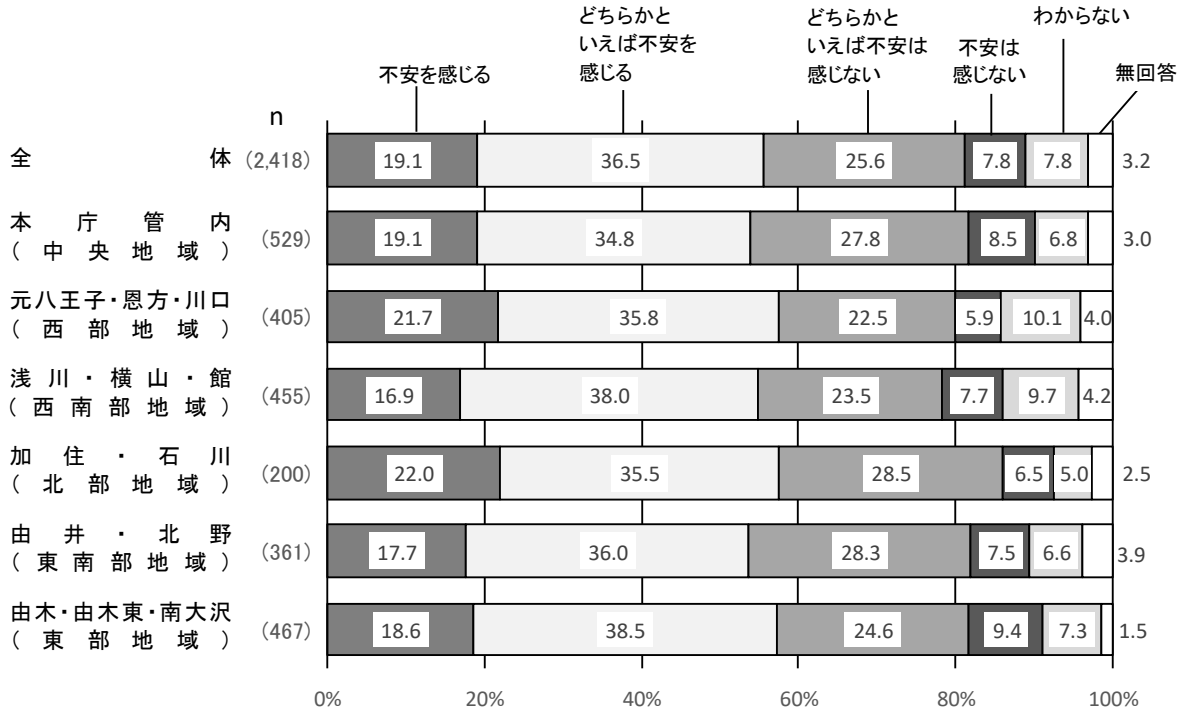


性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

年齢別にみると、≪不安を感じる≫は60～64歳（60.9%）で約６割と最も高くなっている。

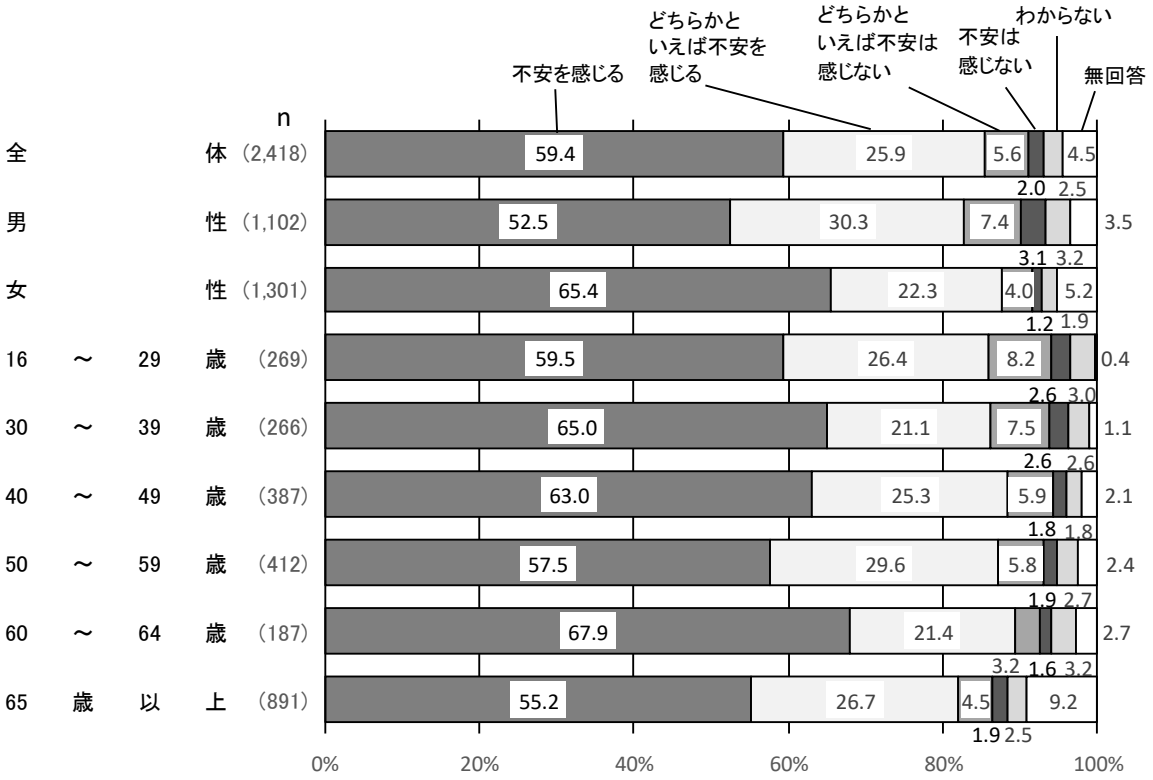
（図表２－４－22）

図表２－４－23　社会環境に対する不安要素（11）公共交通などの都市機能の維持 ― 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は元八王子・恩方・川口（西部地域）（57.5%）と加住・石川（北部地域）（57.5%）で６割近くと最も高くなっている。（図表２－４－23）

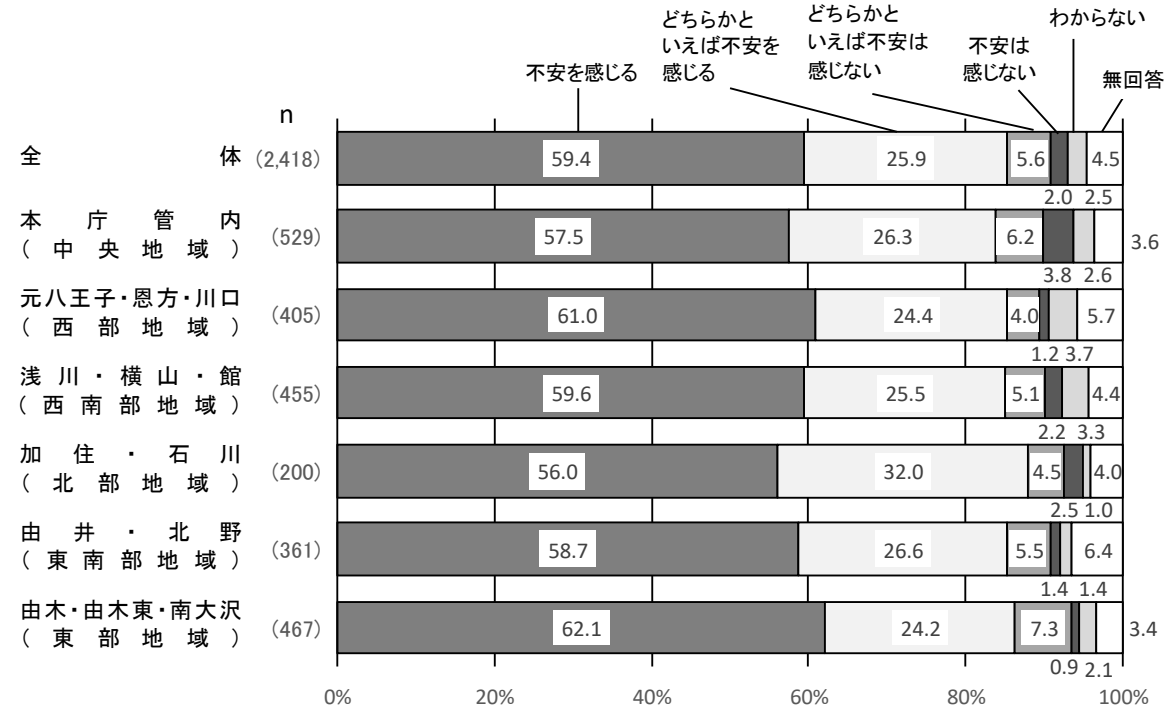
図表２－４－24　社会環境に対する不安要素（12）自然災害 ― 性別、年齢別



性別にみると、「不安を感じる」は女性（65.4%）が男性（52.5%）より 12.9 ポイント高くなっている。
年齢別にみると、≪不安を感じる≫は 60～64 歳（89.3%）で９割弱と最も高くなっている。

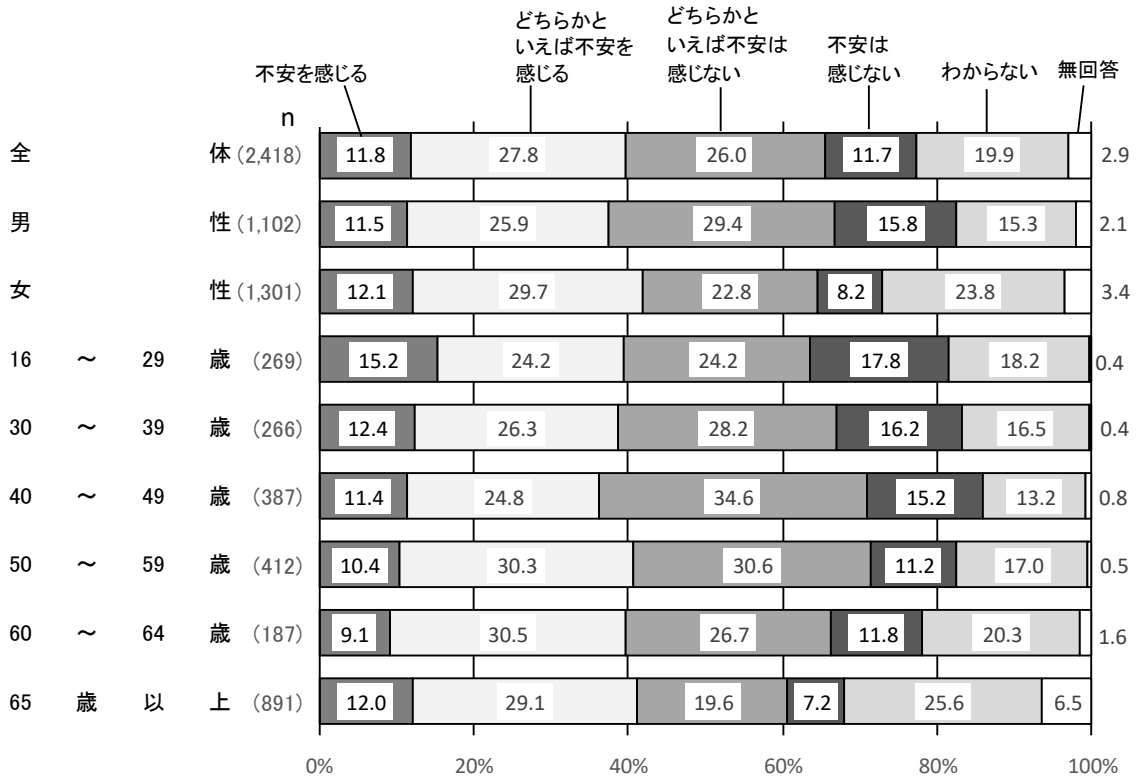
（図表２－４－24）

図表２－４－25　社会環境に対する不安要素（12）自然災害 ― 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は加住・石川（北部地域）（88.0%）で９割近くと最も高くなっている。（図表２－４－25）

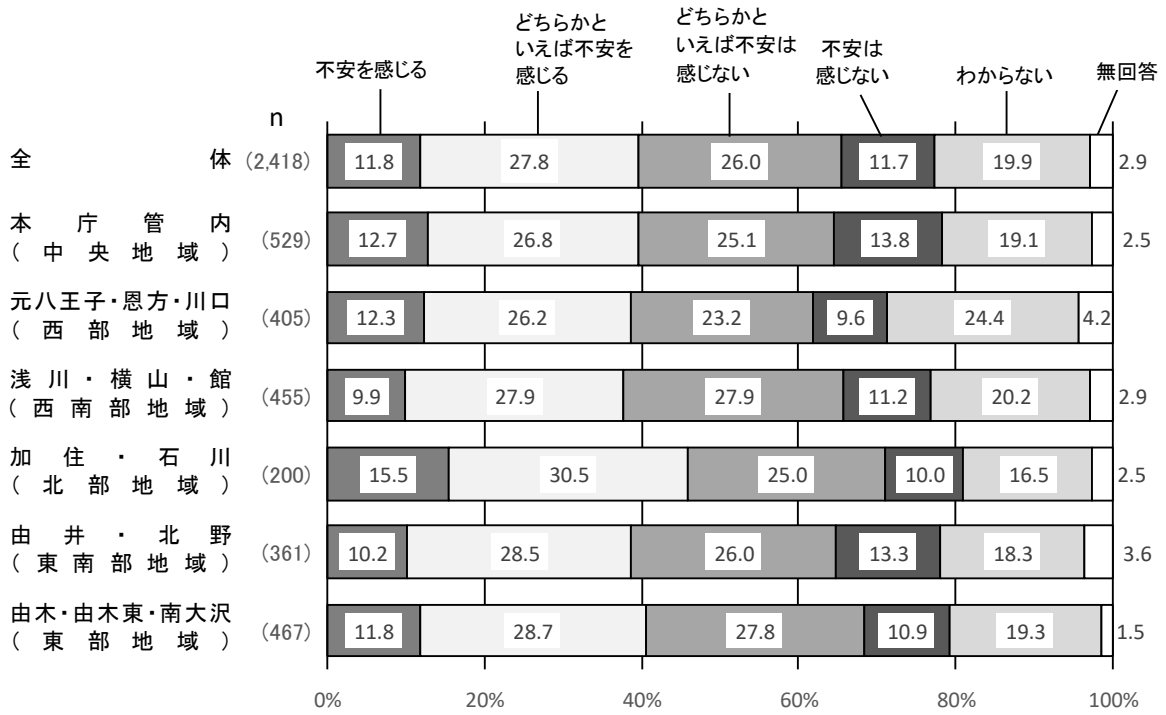
図表２－４－26　社会環境に対する不安要素（13）IoT、ビッグデータ、人工知能をはじめとした新たな技術による就業構造（仕事の内容）の変化 ― 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

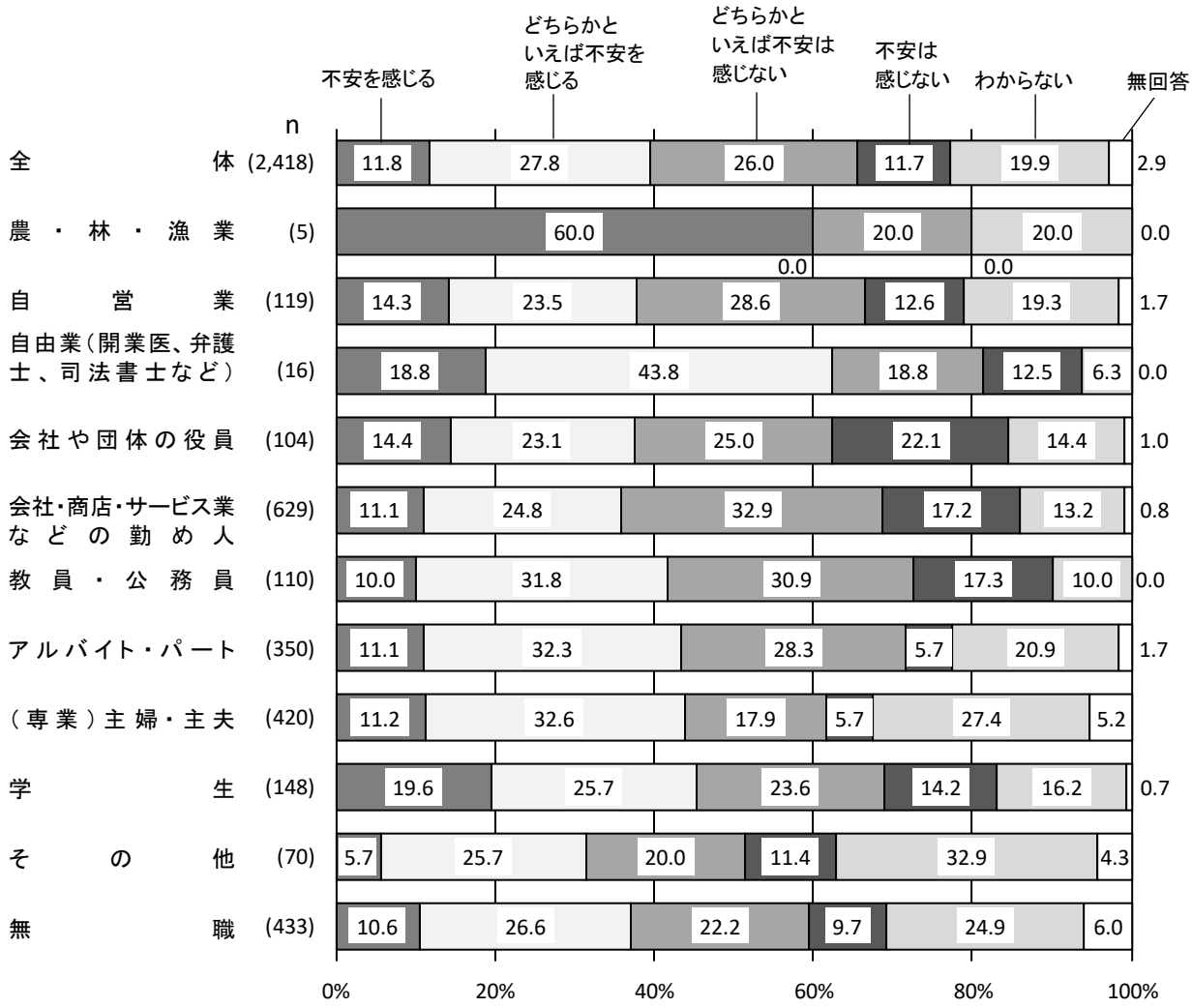
年齢別にみると、≪不安を感じる≫は65歳以上（41.1%）で４割強と最も高くなっている。59歳以下では、≪不安は感じない≫が≪不安を感じる≫を上回っている。（図表２－４－26）

図表２－４－27　社会環境に対する不安要素（13）IoT、ビッグデータ、人工知能をはじめとした新たな技術による就業構造（仕事の内容）の変化 ― 居住地域別



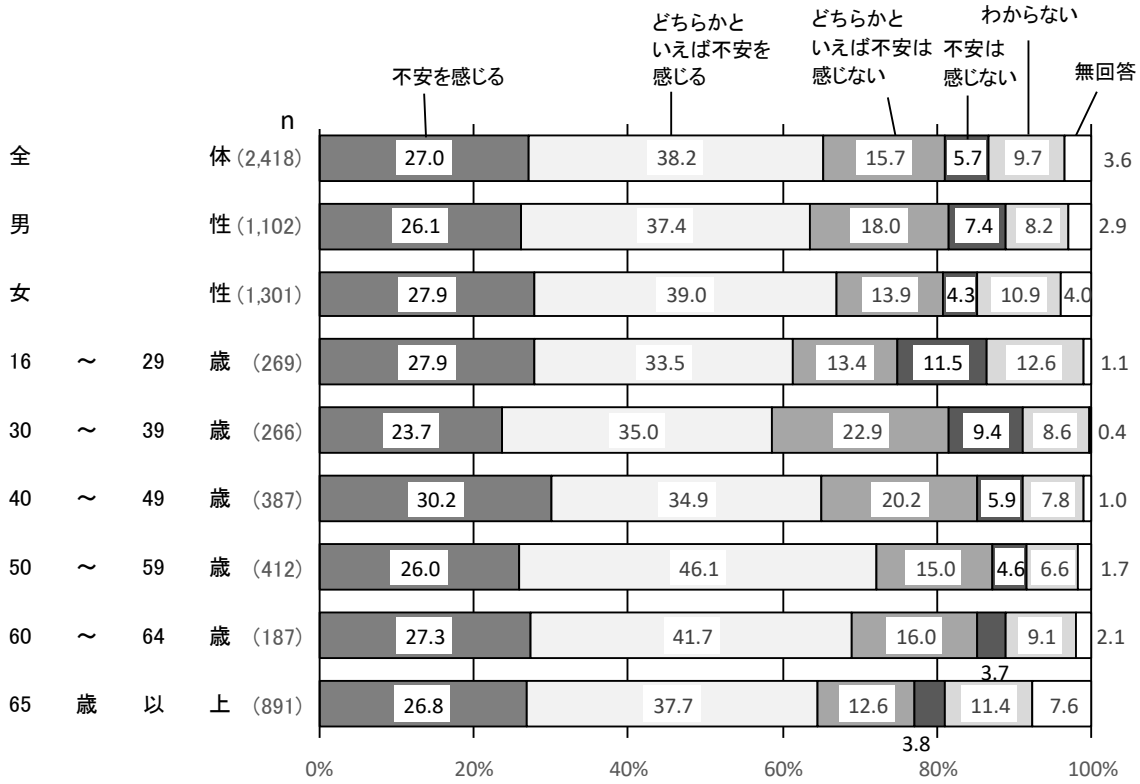
居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は加住・石川（北部地域）（46.0%）で５割近くと最も高くなっている。（図表２－４－27）

図表２－４－28　社会環境に対する不安要素（13）IoT、ビッグデータ、人工知能をはじめとした新たな技術による就業構造（仕事の内容）の変化 ― 職業別



職業別にみると、≪不安を感じる≫は学生（45.3%）で４割台半ばと高くなっている。自営業、会社や団体の役員、会社・商店・サービス業などの勤め人、教員・公務員では、≪不安は感じない≫が≪不安を感じる≫を上回っている。（図表２－４－28）

図表２－４－29　社会環境に対する不安要素（14）労働力不足 ― 性別、年齢別

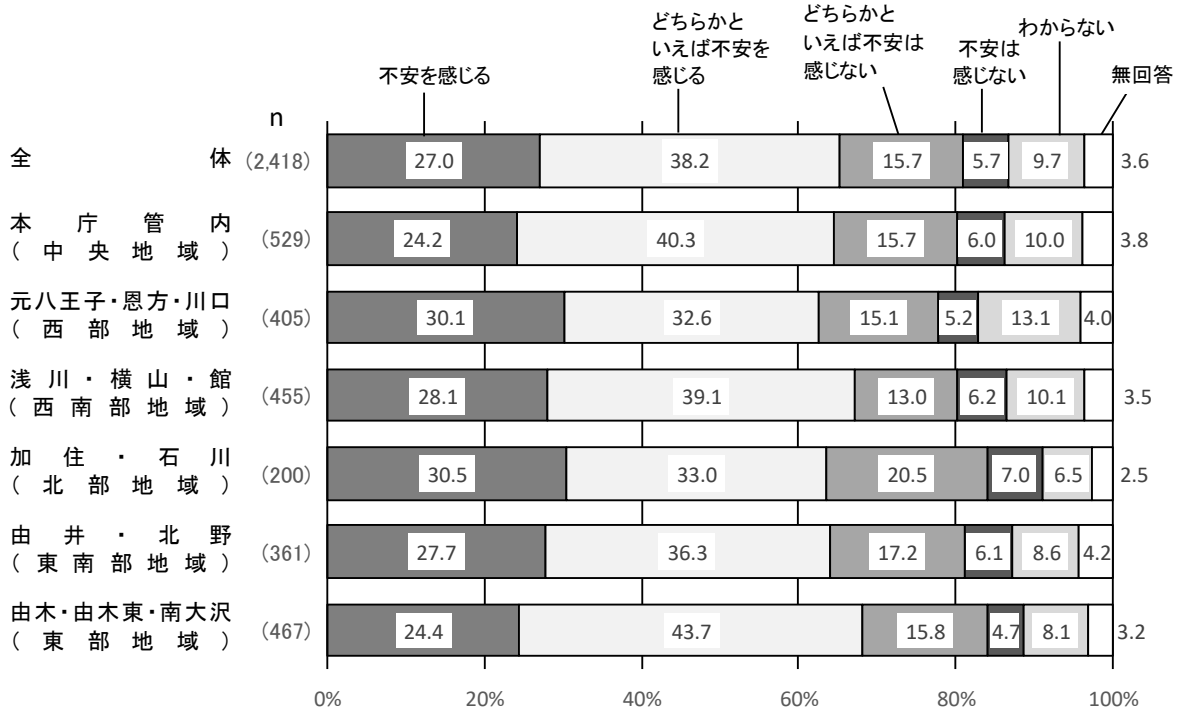


性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。

年齢別にみると、≪不安を感じる≫は 50～59 歳（72.1%）で７割強と最も高くなっている。

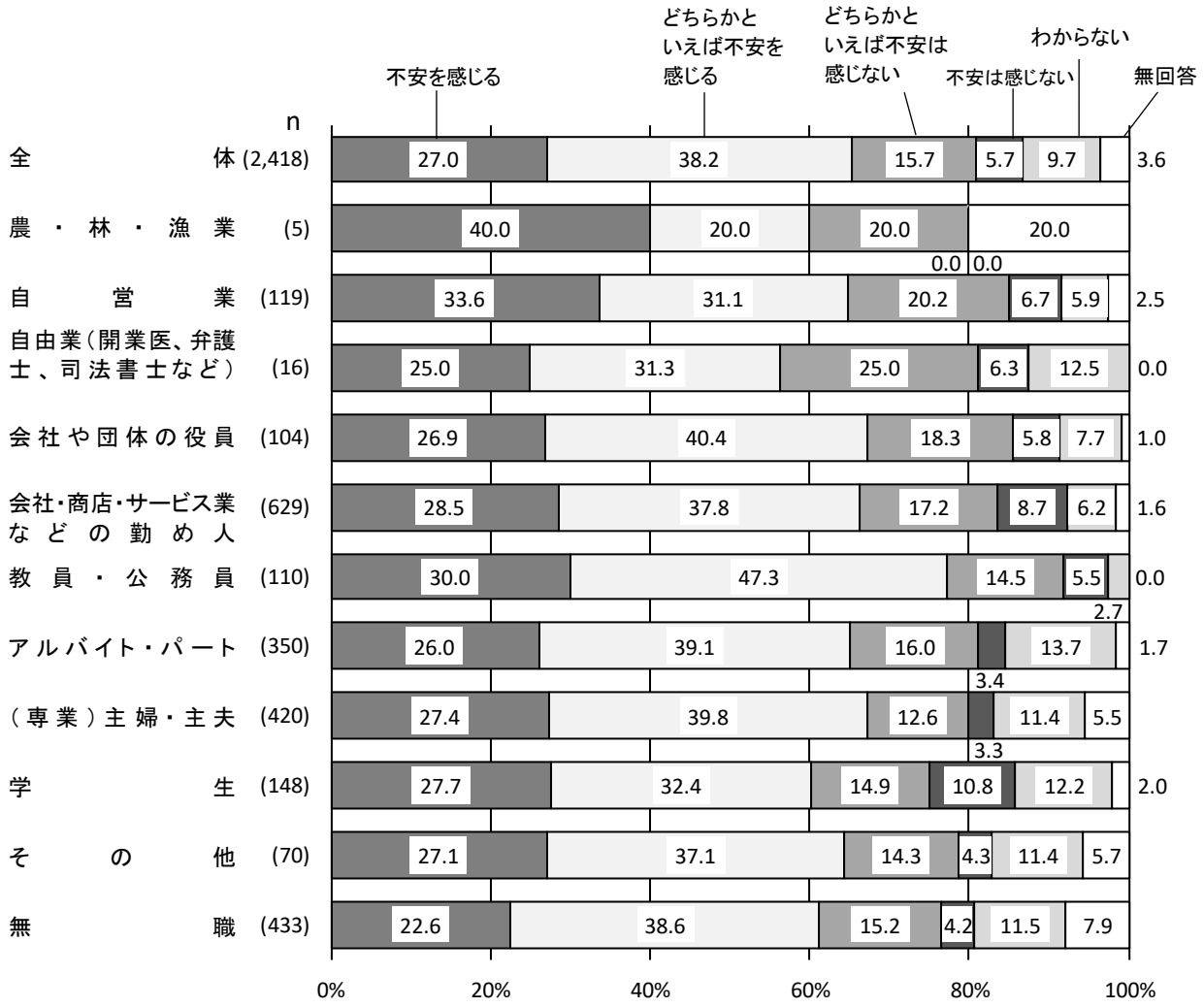
（図表２－４－29）

図表２－４－30　社会環境に対する不安要素（14）労働力不足 ― 居住地域別



居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（68.1%）で７割近くと最も高くなっている。（図表２－４－30）

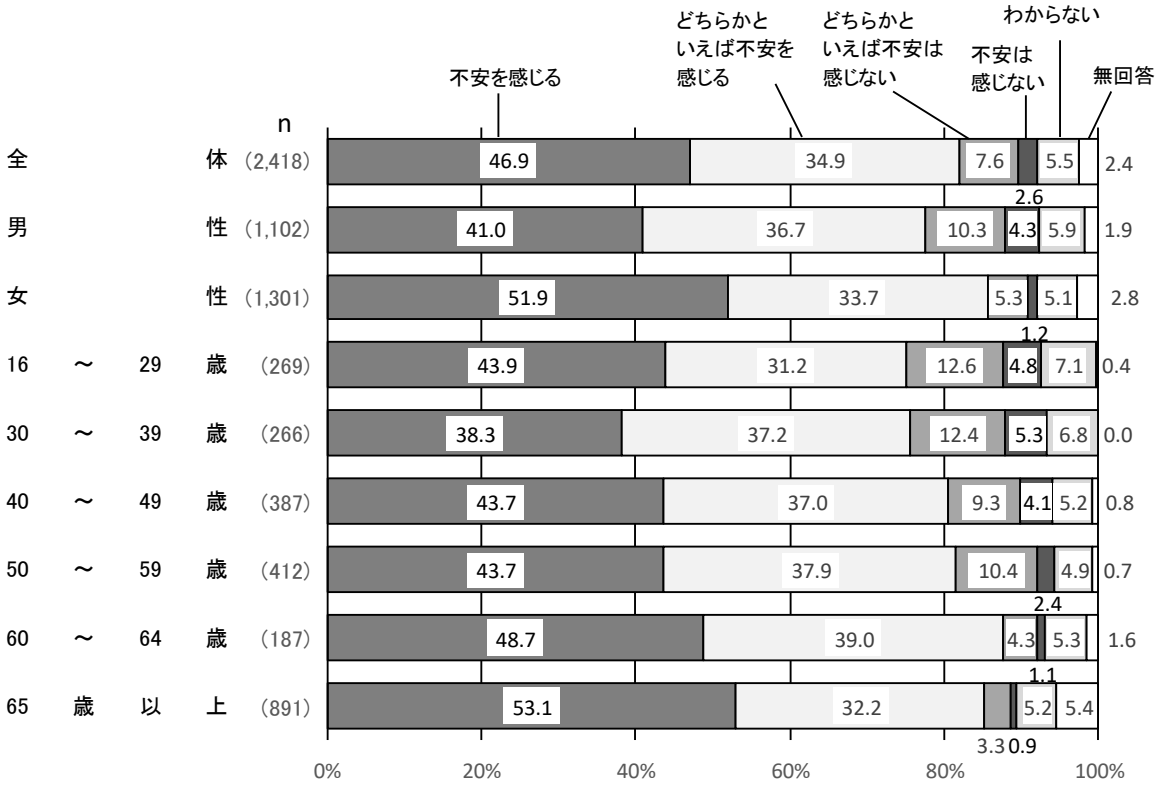
図表２－４－31　社会環境に対する不安要素（14）労働力不足 ― 職業別



職業別にみると、≪不安を感じる≫は教員・公務員（77.3%）で８割近くと最も高くなっている。

（図表２－４－31）

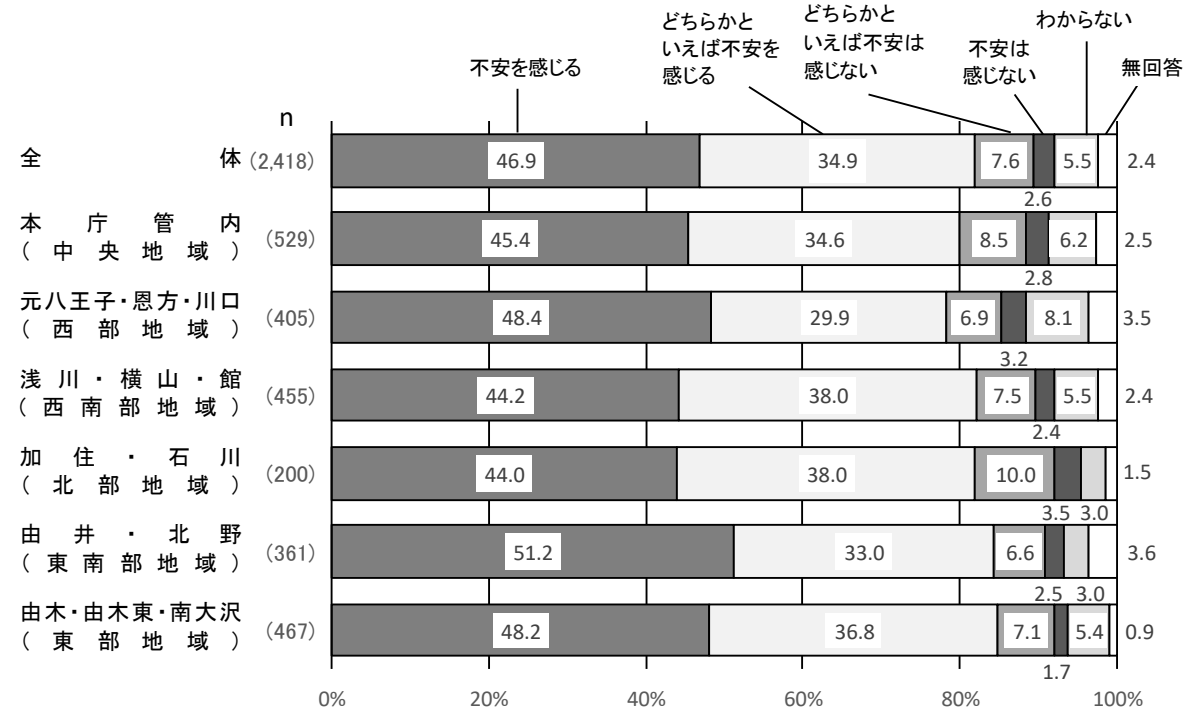
図表２－４－32　社会環境に対する不安要素（15）環境負荷の増大 ― 性別、年齢別



性別にみると、≪不安を感じる≫は女性（85.6%）が男性（77.7%）より 7.9 ポイント高くなっている。
年齢別にみると、≪不安を感じる≫は 60～64 歳（87.7%）で９割近くと最も高くなっている。

（図表２－４－32）

図表２－４－33　社会環境に対する不安要素（15）環境負荷の増大 ― 居住地域別



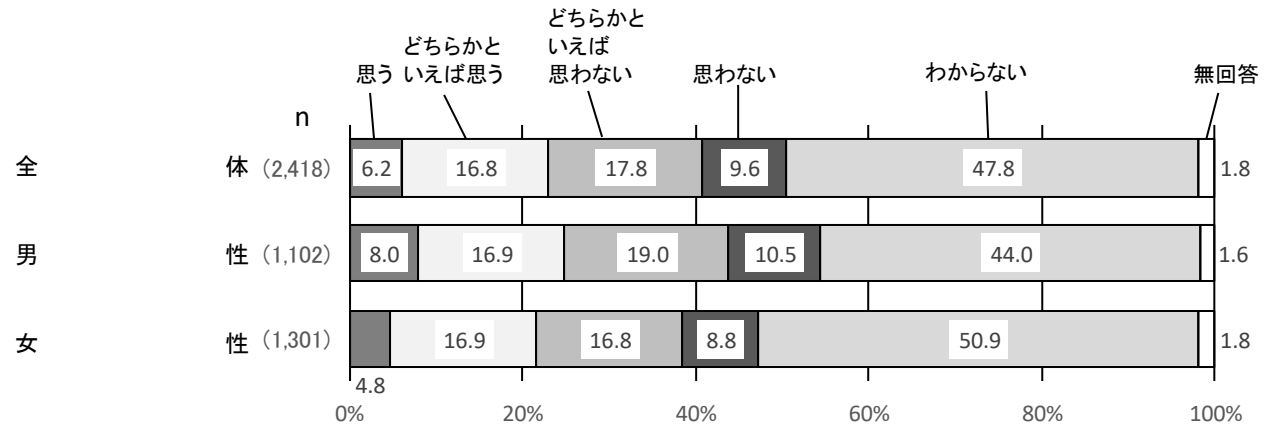
居住地域別にみると、≪不安を感じる≫は由木・由木東・南大沢（東部地域）（85.0%）で８割台半ばと最も高くなっている。他の地域をみても、≪不安を感じる≫がおおむね８割台となっている。（図表２－４－33）

３．八王子市の現在、将来に関する認識について

（１） 現在と比較した将来（2040 年頃）の暮らしやすさ

問 19　将来（2040 年頃）の八王子市は、現在と比べて暮らしやすくなっていると思いますか。（○は１つだけ）

図表３－１－１　将来（2040 年頃）に対して現状との比較 － 全体、性別

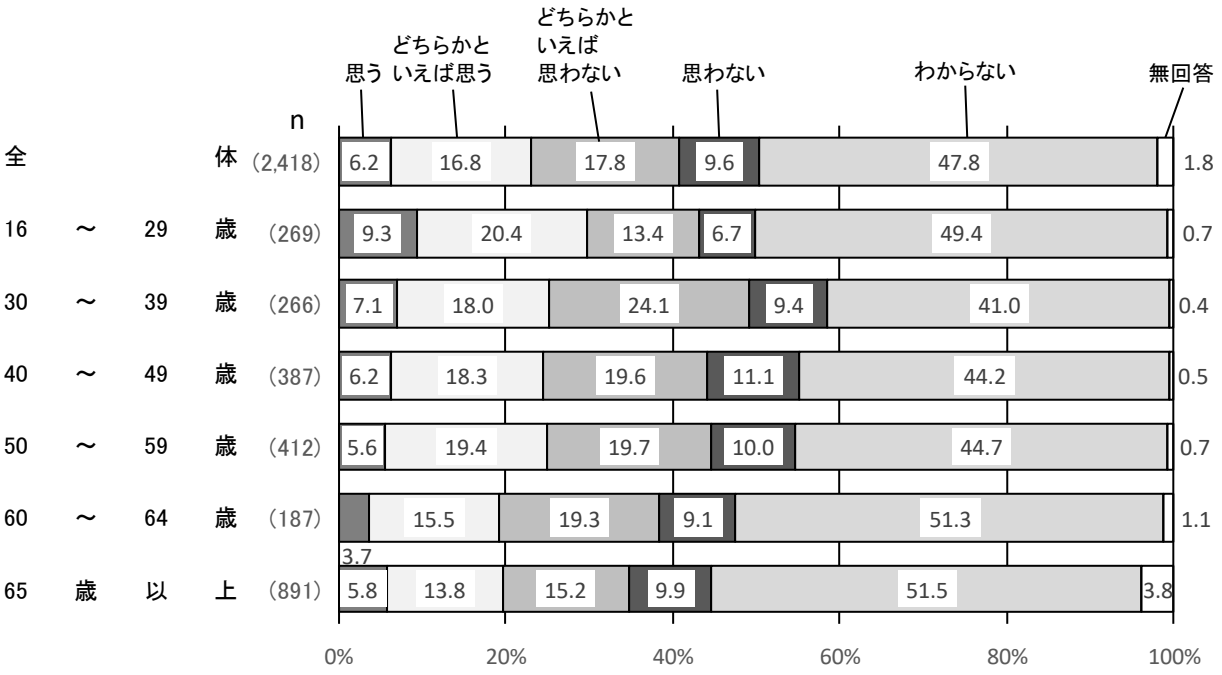


将来（2040 年頃）に対して現状との比較について聞いたところ、暮らしやすくなっていると「思う」（6.2%）と「どちらかといえば思う」（16.8%）を合わせた≪思う≫（23.0%）は２割強となっている。一方、「どちらかといえば思わない」（17.8%）と「思わない」（9.6%）を合わせた≪思わない≫（27.4%）は３割近くとなっている。

性別にみると、「わからない」は女性（50.9%）が男性（44.0%）より 6.9 ポイント高くなっている。

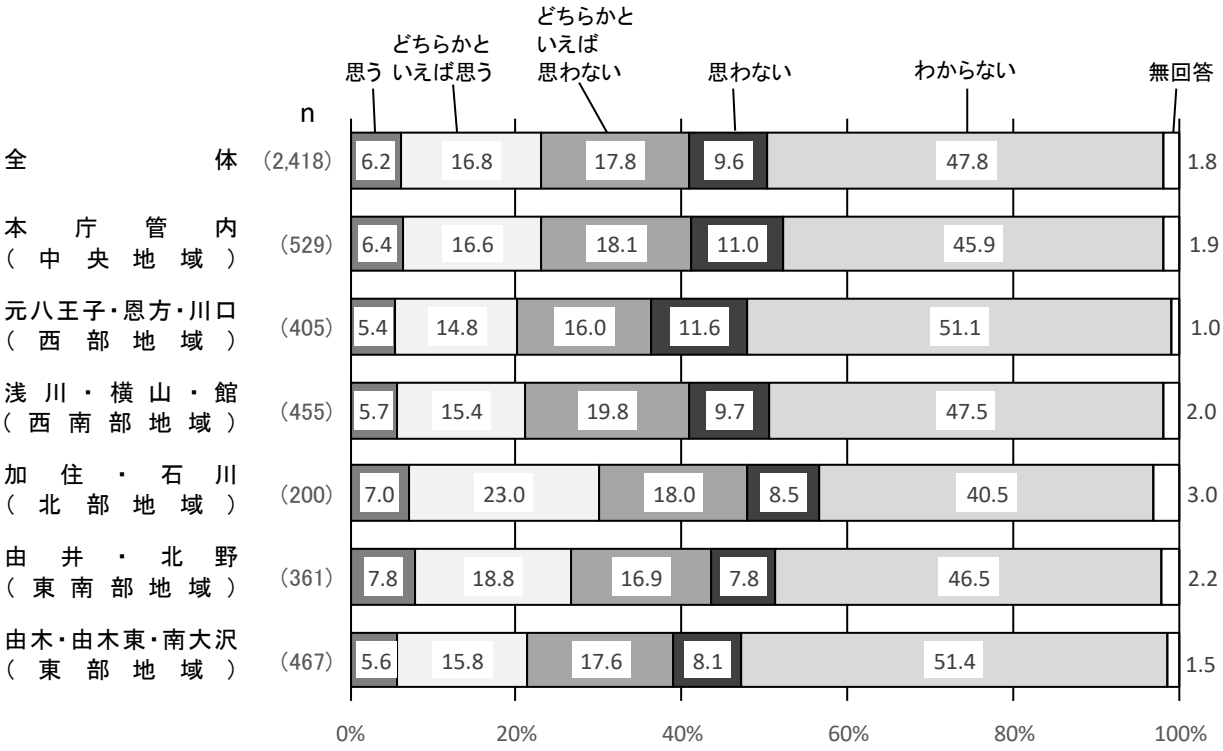
（図表３－１－１）

図表３－１－２　現在と比較した将来（2040 年頃）の暮らしやすさ － 年齢別



年齢別にみると、≪思う≫は 16～29 歳（29.7%）が最も高く３割弱となっている。（図表３－１－２）

図表３－１－３　現在と比較した将来（2040 年頃）の暮らしやすさ － 居住地域別



居住地域別にみると、≪思う≫は加住・石川（北部地域）（30.0%）が最も高く３割となっている。

（図表３－１－３）

（２） 現在と比較した将来（2040 年頃）の暮らしやすさ（理由）

（「１　思う」から「４　思わない」を選択した方にお聞きします。）
問 19-１　そのように思った理由は何ですか。（自由記述）

将来（2040 年頃）の暮らしやすさについて、暮らしやすくなると「思う」から「思わない」を選択した理由について 877 人から回答があった。その中からそれぞれ抜粋した意見を掲載する。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがある。

【「思う」または「どちらかといえば思う」と回答した理由】

○自然が豊かだと思うから。（女性　16～18 歳）
○最近、近所に病院や店が増えてきて便利になってきているから。新たな道路も作られていて、交通の方も便利になっていくと思うから。（男性　16～18 歳）
○良い具合に田舎と都会が共生していると思うから。八王子ブランドがある。（男性　19～22 歳）
○他の地域よりも、市役所の運営や、警察のパトロール等がきちんとされているので、暮らしはじめて数年だが、年々治安は良くなっていると感じるから。（女性　23・24 歳）
○近年、八王子駅周辺が再開発で変わってきており、いろんなお店が出来て昔より暮らしやすくなってきていると感じるから。（男性　25～29 歳）
○昨年出産し、八王子市の手厚い子育て支援制度に助けられた。子育て支援に力を入れていることがよく伝わり、今後はさらに子育てがしやすい場所になっていくだろうと思った（２人目もほしい！と前向きに考えられる環境です）。（女性　25～29 歳）
○ＡＩなどの技術的進歩によるサービスの向上（男性　30～34 歳）
○八王子駅周辺の地域発展が順調に進んでゆくと考えられるため。（男性　35～39 歳）
○情報化が進めば、23 区より多摩地区に住む人が増え、税収も増えるから。（女性　35～39 歳）
○現在に満足している。通販の普及で店舗での販売は大変かもしれないが、一人ひとり、人と人がふれ合える地域づくりがいいのではないかと思う。（女性　35～39 歳）
○地域資源が豊富でポテンシャルは高いから。（男性　40～44 歳）
○地域愛の強い土地柄と感じたので、皆で盛り上げ暮らしやすくなっていくと思う。（女性　40～44 歳）
○子ども達が八王子市を好きだから。（女性　45～49 歳）
○八王子は大学が多くあり、若い人の暮らしやすさも考えられていると思う。（男性　50～54 歳）
○市からいろいろな情報を発信し続けてくれていて、この地に愛着を持っている人々が多い地域だと思う。（女性　50～54 歳）
○リモートワークが進むことにより、郊外の魅力が見直されるため。（男性　55～59 歳）
○リニアモーターカーも利用できるようになり、都心や郊外への移動が楽になる。（男性　55～59 歳）
○八王子市は市政への市民参加を積極的に推進している。八王子市も市民も一緒に成長していくことができると信じている。（女性　55～59 歳）
○地域ごとに、色々な業種で努力している人が少なくないと思うから。（男性　60～64 歳）
○自然災害に強い市だから、地質はよい、多摩礫層、地盤がよく人が集まってくるから。（男性　60～64 歳）
○大都市郊外にあり、独自の文化や歴史を持つ八王子には、まだまだ発展の可能性があり、それを積極的に打ち出して市のイメージを高めるこができる。（男性　60～65 歳）
○人口減少で今よりゆったりした時間、空間を確保できるのではないか。（男性　65～69 歳）
○介護サービス、ケア等がしっかりしていると思う。（女性　70～74 歳）
○ＤＸ（ＩＴ）の進展、子育て・教育体制の改善、インフラのムダのない集約。整備・促進が進めば、八王子

市の地理的特性（都心からの立地・広い市域）から充分に暮らしやすくすることは可能（男性　70～74 歳）
○大きな土地がありなんでもその気になれば作れると思うから（いこいの場等）。（女性　80 歳以上）

【「どちらかといえば思わない」または「思わない」と回答した理由】

○高齢化の進行によって外出するのが困難になり、買い物難民が増えるだろうから（八王子市は他市と比較して面積が広く、坂などが多いので移動式スーパーやバスなどの新しいインフラ整備が大変だろうから）。（男性　16～18 歳）
○都心へのアクセスは良くなっているとは感じるが、市の中央地域の映画館やデパートなど、市民生活において魅力となる施設が八王子で減っている印象を受けており、若者にとっては魅力が薄いあるいは住みづらくなるのではないかという不安がある。（男性　19～22 歳）
○支える老年人口が増加するとその分税金を取られるのでは？と不安がある。（男性　25～29 歳）
○多摩地域の行政や経済の中心地が八王子から立川に移っているため、行政サービスの利便性や商業がさらに衰退していくのではないかと思う。また、大学の都心回帰の傾向が加速して若者の流入が少なくなり、お金を使う人や税収が減ったり、地域の空洞化が進むのではないかと思う。（男性　25～29 歳）
○八王子市のこれからのビジョンが見えないから。（女性　25～29 歳）
○都市開発など、他の都内の市区町村の方がよくなっているように感じる。多くの大学がある活気ある街のはずだが、活かせていないように感じる。（男性　35～39 歳）
○車を必要とする地域が多いため、老後は交通の便等で不便さを感じると思われる。子育て支援と高齢者支援の充実を期待したい。（女性　35～39 歳）
○映画館や百貨店など商業施設が減り、パチンコ屋が増え治安が悪くなっているから。（女性　35～39 歳）
○少子高齢化がさらに進み、市内の大学等教育機関の撤退、縮小が加速していると考える。若年人口が減少し経済活動が縮小することで税収が減少する。行政サービスの質の低下、中心市街地と郊外部との地域格差が拡大すると予測されるから。（男性　40～44 歳）
○八王子市というよりは、国自体が暮らしやすくなっているとは思えないから。（女性　40～44 歳）
○技術の進歩により、いろいろと便利になると思うし、街としての導入もあると思うが、暮らしやすさの一番大事なところは地域コミュニティだと思っている。改善するための何か、に取り組んでいるように感じない。（男性　40～44 歳）
○税収入が減り、現在のようなサービスや施設の維持が難しくなっていると思うから。（女性　50～54 歳）
○八王子市は車社会のため、これから高齢のドライバーがもっと増えていく。もっと車を使わなくても便利な状況にならないと暮らしやすくならないと思う。自然が多いだけではダメ。自然を活かしながら整備が必要。（女性　55～59 歳）
○高齢化によるコミュニティ減少（女性　60～64 歳）
○新型コロナウイルス感染者拡大で全く先の事がわからなくなったから。（女性　60～64 歳）
○防災、今後 30 年間に 70%の確率と言われている首都直下地震の発生等（男性　65～69 歳）
○地域が広く、人を含めて様々なもの（施設など大きなものも）が点在していく感じがあり、不便になっていくような気がする。（女性　70～74 歳）
○都市機能が悪くなっている。大病院の不足、デパート等の主要な機能がなくなっている。（男性　75～79 歳）
○新興住宅地であり、隣人達とのコミュニケーションの不足を感じる。とても都会的な暮らし方になり、昔のように対話する時間がなく、人と人との関係がとてもうすい。（女性　75～79 歳）
○八王子の豊かさが生かされていない。産業の活性化、就業率の活性、経済の活発化などもっと工夫して、人と物とお金が動かないと今までのやり方を変える必要あり。（女性　80 歳以上）

（３） 将来（2040 年頃）に残したい事

問 20　将来（2040 年頃）の八王子市に“残したい資源”や“大切にしてほしいもの”を教えてください。
（自由記述）

将来（2040 年頃）に残したい事について聞いたところ、1,329 人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載する。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがある。

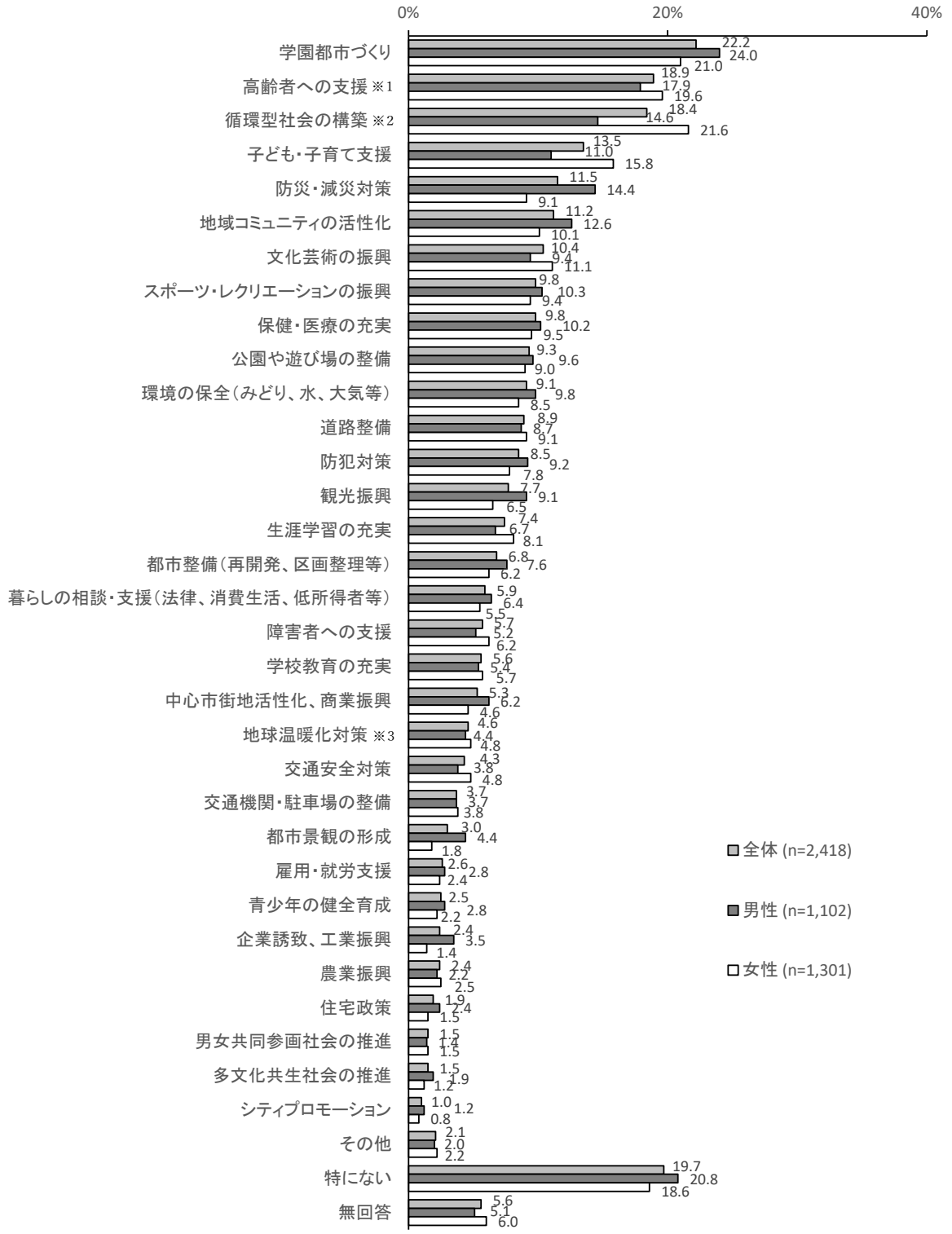
○人とのつながり（女性　16～18 歳）
○学園都市であることを大切にして欲しい。大学生がいることで街が活性化したり、八王子市に魅力を感じる若者が増えると思うから。（女性　19～22 歳）
○自然を多く残して欲しい。（女性　19～22 歳）
○都心にはないような広くて遊びがいのある公園（女性　23・24 歳）
○八王子城跡、滝山城跡等の史跡、古文書等の重要文化財、博物館等（男性　25～29 歳）
○若年層が多い活気のある都市にしたい。そのためにも今あるいくつかの大学が移転せずに残ってほしい。また若年層が働ける場所も増やして、若年層が離れない環境にしたい。（女性　25～29 歳）
○高尾山が今と同じく愛されていると良いと思う。八王子ラーメンが好きなので残っていてほしい。
（女性　25～29 歳）
○八王子市に住んでみると八王子まつりを始めとし、老若男女が楽しみにしているイベントがあり、とても珍しいと感じたので、残してほしい。（女性　30～34 歳）
○都心へのアクセスの良さと、身近な自然との接点が豊かであり、住みやすいことはずっと残しておいてほしい。（男性　35～39 歳）
○今まで地方や 23 区と様々な所で住んできたが、ゴミ処理の仕方は一番しっかりしていて町もきれいだと思う。（女性　35～39 歳）
○子育て世代に向けたサポートやイベント等が大変有難いので、引き続き子育てに優しい市として発展を望んでいる。（女性　35～39 歳）
○都市と自然が一体となっている街（以前住んでいた街より断然住みやすいと感じる。同じ市内に八王子中心部のような都市と高尾山のような自然のある街はあまりないように思う）（男性　40～44 歳）
○地域の伝統文化、歴史といった教養。またそれを伝えていける人材。豊かな自然（男性　40～44 歳）
○農業（地場野菜）、ＩＴ技術などの進歩だけでなく人とのつながりも失わない社会（女性　45～49 歳）
○買い物等の便利な市街地と豊かな自然との共存（女性　45～49 歳）
○相手を思いやる気持ち（女性　45～49 歳）
○子供を大事にしてほしいので、小中学校生活を充実させてほしい。行事・授業内容を向上させたり、先生の対遇の向上をしてほしい。また、自然の保護、市民に意識改革するよう啓蒙してほしい。（女性　50～54 歳）
○都会（東京都）の中の田舎“らしさ”（女性　55～59 歳）
○子どもや教育を大切にしてほしい。八王子市で育った子どもが、将来、八王子市の活動に戻ってきてほしいと思います。（女性　55～59 歳）
○商店街などの八王子らしい風情や街並み（男性　55～59 歳）
○市役所のサービスの向上、電子申請・届け出等、市役所に出かけなくてもできる、デジタル化の推進等
（男性　60～64 歳）
○高尾山などの自然環境　八王子車人形、八王子織物、八王子まつりの山車など（女性　65～69 歳）
○恵まれた自然を残し、災害に強いフレキシブルでスピード感のある若々しい都市（男性　75～79 歳）
○伝統芸能、日本遺産認定された物（男性　80 歳以上）

（４） 力を入れている施策について

問21　八王子市の施策のうち力を入れていると感じる施策は何ですか。（○は５つまで）

≪現在の認識≫

図表３－４－１　力を入れている施策 － 全体、性別



※1　高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステム（注）の構築等）

※2　循環型社会の構築（ごみの発生抑制と資源化の推進、廃棄物の適正処理）

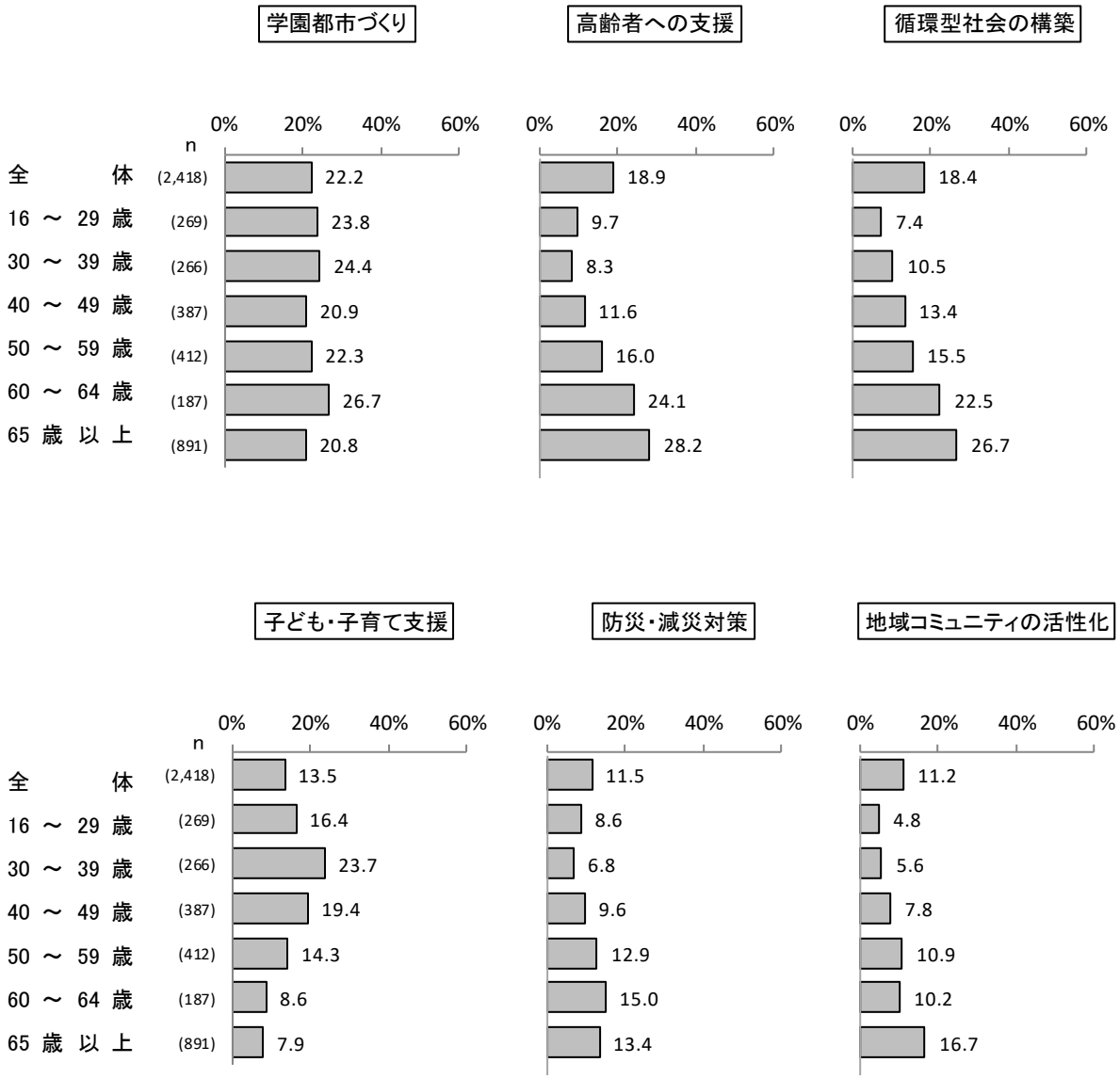
※3　地球温暖化対策（CO_2排出量の削減、再生可能エネルギーの普及促進）

（注　地域包括ケアシステムとは、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるよう、「予防・介護・医療・生活支援・住まい」を一体的・継続的に提供する体制のこと

力を入れている施策について聞いたところ、「学園都市づくり」（22.2%）が最も高く２割強となっている。次いで、「高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステムの構築等）」（18.9%）、「循環型社会の構築（ごみの発生抑制と資源化の推進、廃棄物の適正処理）」（18.4%）などの順となっている。

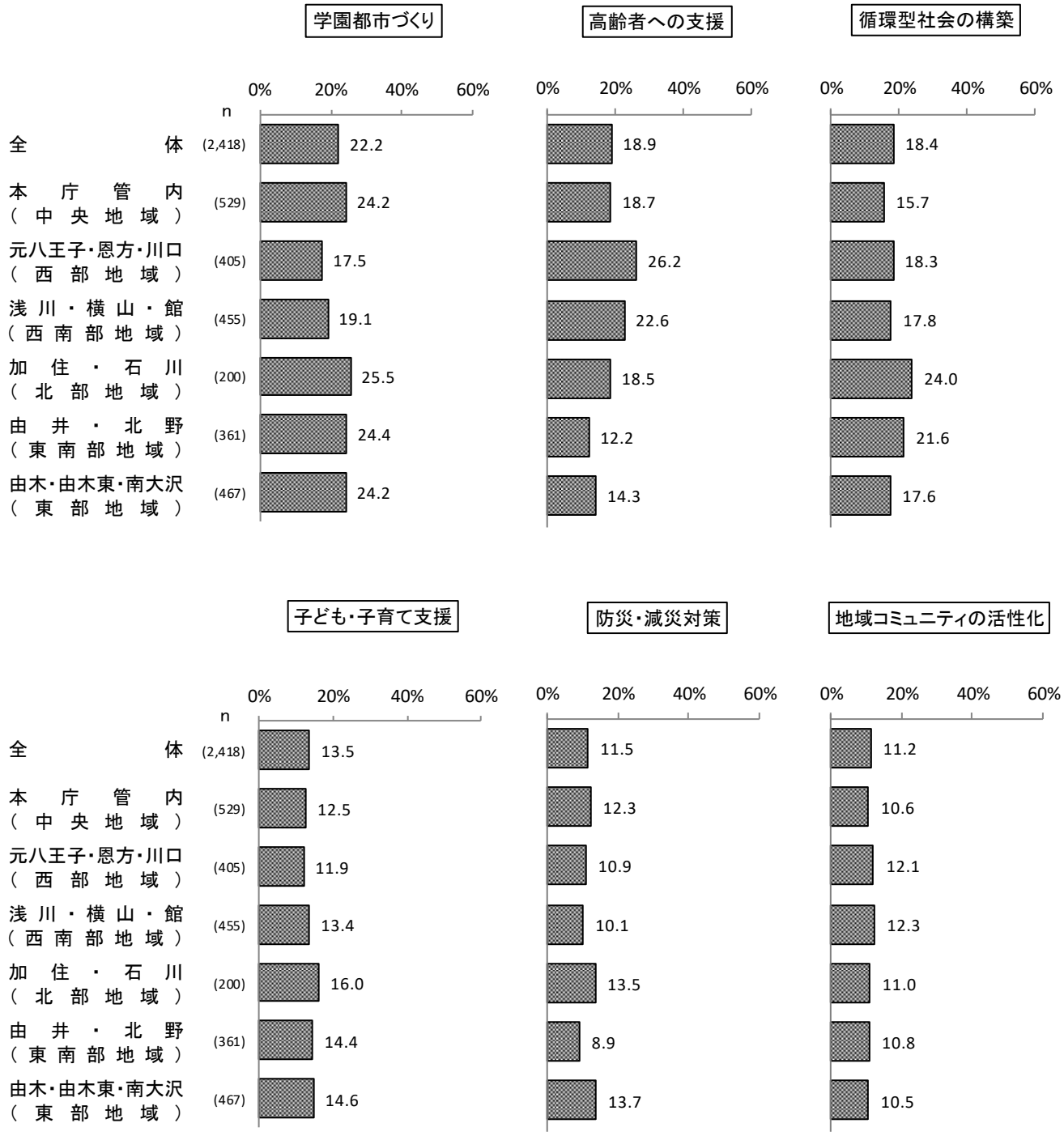
性別にみると、「循環型社会の構築（ごみの発生抑制と資源化の推進、廃棄物の適正処理）」は女性（21.6%）が男性（14.6%）より 7.0 ポイント、「防災・減災対策」は男性（14.4%）が女性（9.1%）より 5.3 ポイントそれぞれ高くなっている。（図表３－４－１）

図表３－４－２　力を入れている施策 － 年齢別（上位６位）



年齢別にみると、「高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステムの構築等）」、「循環型社会の構築（ごみの発生抑制と資源化の推進、廃棄物の適正処理）」は年齢層が上がるにつれて割合が高くなっており、それぞれ 65 歳以上で３割近くとなっている。「子ども・子育て支援」は 30～39 歳（23.7%）が最も高く２割強となっている。（図表３－４－２）

図表３－４－３　力を入れている施策 － 居住地域別（上位６位）



居住地域別にみると、「高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステムの構築等）」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（26.2%）が最も高く３割近くとなっている。「循環型社会の構築（ごみの発生抑制と資源化の推進、廃棄物の適正処理）」は加住・石川（北部地域）（24.0%）が最も高く２割台半ばとなっている。（図表３－４－３）

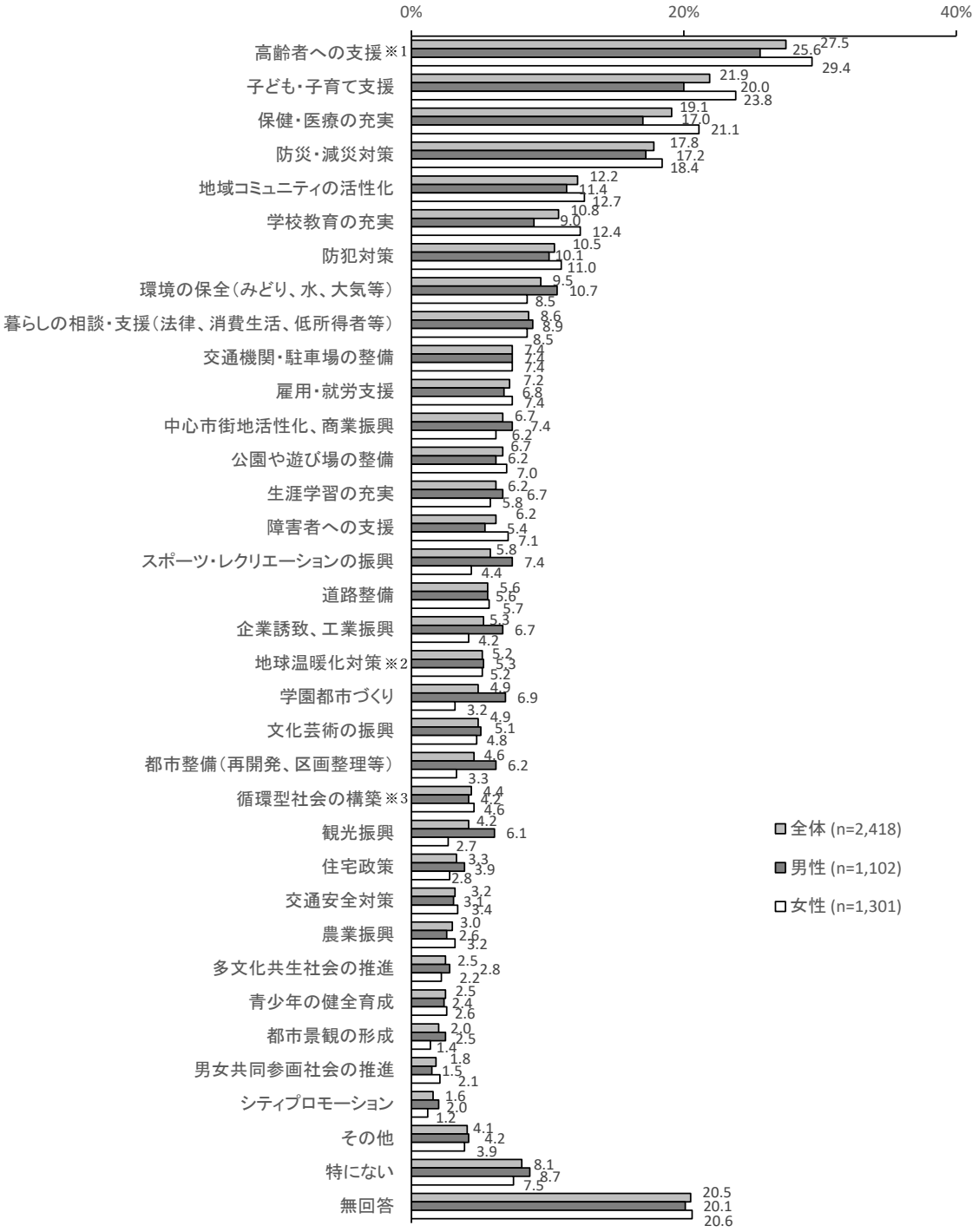
以下は別紙「2040 年頃までに想定されている社会環境の変化」をご覧いただきお答えください。

（５） 将来（2040 年頃）に向けて力を入れるべき施策

問 22　八王子市は将来（2040 年頃）に向けてどのような施策に特に力を入れた方がよいと思いますか。また、その具体的な内容は何ですか。（○は５つまでとその内容（自由記述））

≪将来への考え≫

図表３－５－１　将来（2040 年頃）に向けて力を入れるべき施策－ 全体、性別



※1　高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステム (注)の構築等）

※2　地球温暖化対策（CO_2排出量の削減、再生可能エネルギーの普及促進）

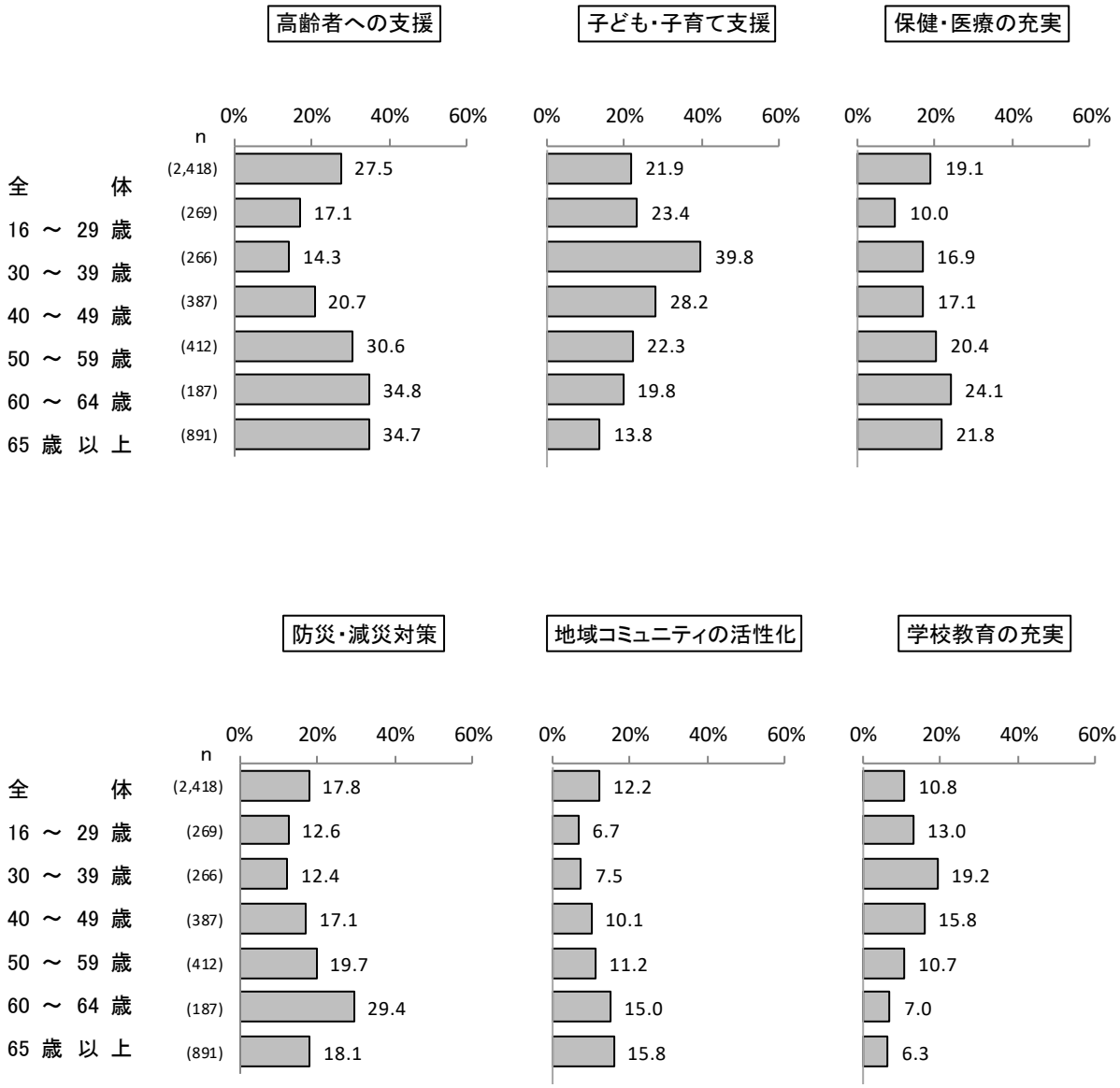
※3　循環型社会の構築（ごみの発生抑制と資源化の推進、廃棄物の適正処理）

（注　地域包括ケアシステムとは、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるよう、「予防・介護・医療・生活支援・住まい」を一体的・継続的に提供する体制のこと

将来（2040 年頃）に向けて力を入れるべき施策について聞いたところ、「高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステムの構築等）」（27.5%）が最も高く３割近くとなっている。次いで、「子ども・子育て支援」（21.9%）、「保健・医療の充実」（19.1%）、「防災・減災対策」（17.8%）などの順となっている。

性別にみると、傾向に大きな違いは見られない。（図表３－５－１）

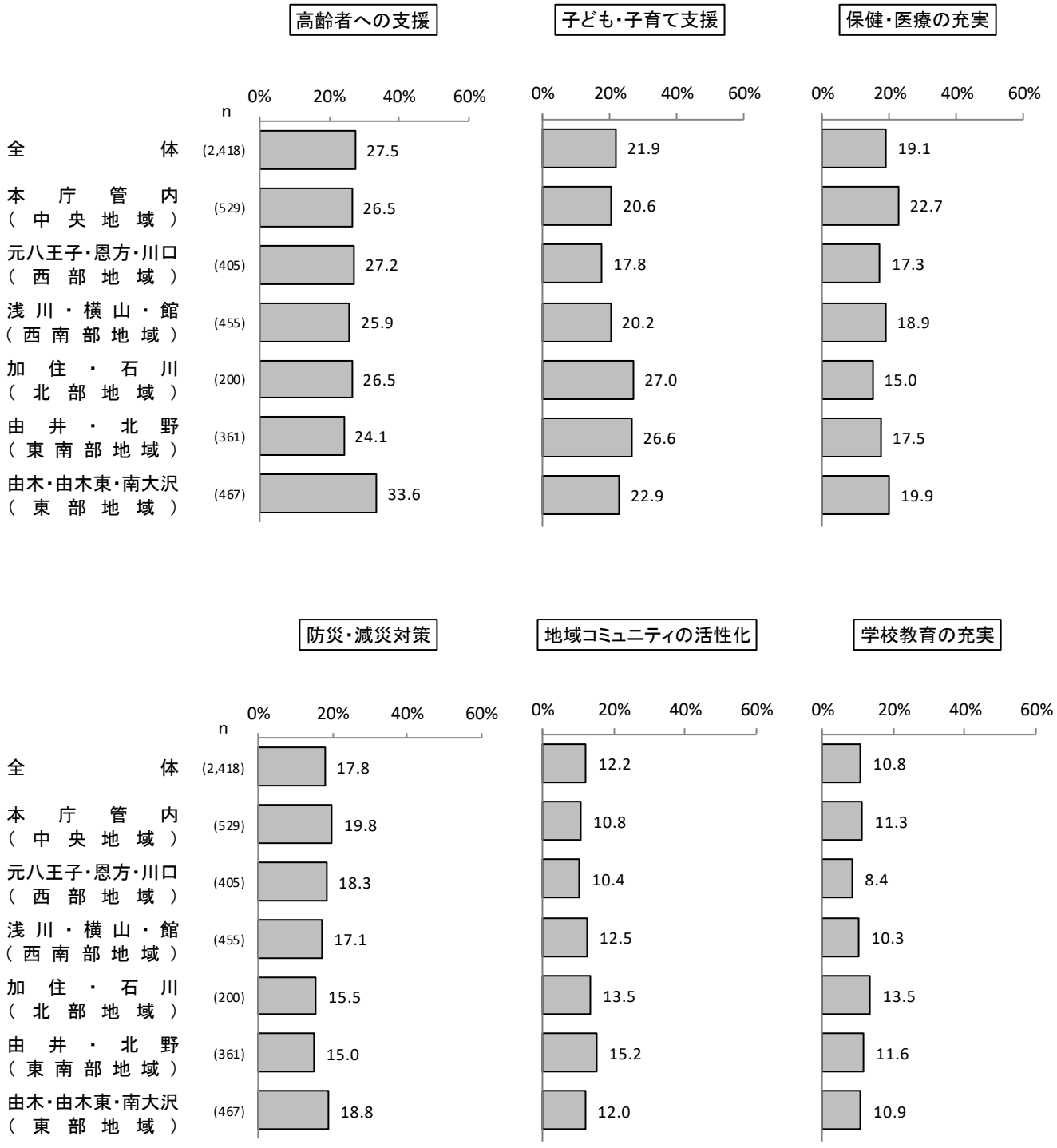
図表３－５－２　将来（2040 年頃）に向けて力を入れるべき施策 － 年齢別（上位６位）



年齢別にみると、「高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステムの構築等）」は 50～59 歳（30.6％）、60～64 歳（34.8％）、65 歳以上（34.7％）で３割以上と高くなっている。「子ども・子育て支援」は 30～39 歳（39.8％）で４割弱、「防災・減災対策」は 60～64 歳（29.4％）で３割弱とそれぞれ高くなっている。

（図表３－５－２）

図表３－５－３　将来（2040 年頃）に向けて力を入れるべき施策 － 居住地域別（上位６位）



居住地域別にみると、「高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステムの構築等）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（33.6%）で３割強、「保健・医療の充実」は本庁管内（中央地域）（22.7%）で２割強とそれぞれ最も高くなっている。（図表３－５－３）

IV 参考資料

インターネット回答用	
申請者ＩＤ	
パスワード	

地域Ｎｏ．

長期ビジョン策定に向けた市民アンケート調査

市民アンケート調査へのご協力のお願い

本市の基本構想・基本計画である「八王子ビジョン 2022」の基本計画部分が、令和４年度（2022年度）に計画期間を終えるため、次期最上位計画として令和 22 年（2040 年）を展望した「長期ビジョン」の策定に着手しています。

「長期ビジョン」は、市民の皆さんとともに未来の“ありたい姿”を描き、実現していくために策定するものです。策定にあたっては、多くの市民の皆さんから意見をお聞きしたいと考えており、本アンケート調査もその一環として実施しています。

この調査の対象者は、市内にお住まいの 16 歳以上の方々から無作為に 5,000 名を選ばせていただきました。また、調査は無記名で、調査結果は統計的な処理をしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。

令和３年（2021 年）１月　　八王子市長　石森　孝志

回答にあたってのお願い

- 必ずあて名のご本人がご回答ください。
- 回答は、《郵送》または《インターネット（電子申請）》で行うことができます。
  どちらかの方法をお選びください。

郵送での回答方法

この調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストへ投函してください。切手を貼る必要はありません。

インターネットでの回答方法

インターネットに接続したパソコン、スマートフォン等から回答できます。詳しくは同封の別紙「インターネットを利用した回答方法」をお読みください。

- 回答は、**令和３年（2021 年）１月 31 日（日）まで**に投函または送信してください。

◎このページの左上の「地域Ｎｏ．」は、市内を 14 の地域に分けて集計するための区別に用いるものです。また、右上の「申請者ＩＤ」「パスワード」はインターネット回答で使用するものです。これらによってお名前やご住所を特定することはありません。

◎本調査で、市の職員や調査員が訪問や電話をすることはありません。

≪お問い合わせ≫八王子市未来デザイン室（月曜日～金曜日　午前８時 30 分～午後５時）
電話：０４２－６２０－７３０７（直通）　Ｆａｘ：０４２－６２７－５９３９

【記入要領】

- ◆ あらかじめ設けてある選択肢の中から選んで、あなたのお考えに最も近い番号に○印をつけてください。
- ◆ 回答の○の数は（○は１つだけ）（○は３つまで）（あてはまるものすべてに○）などのように指定していますので、それに合わせてください。
- ◆ ご自分の答えが選択肢の中にない場合などは、「その他」を選び、「（具体的に　　）」の欄がある場合は、内容を具体的に記入してください。
- ◆ このページから順に最後までお答えください。なお、問○－１のように、一部の方だけにお答えいただく質問もあります。その場合は矢印や説明文に従ってお答えください。

あなたご自身について　～基本項目（フェイス・シート）～

最初にあなたご自身のことについておたずねします。

Ｆ１　あなたの性別は、次のどれですか。（○は１つだけ）　　ｎ＝2,418

1	男性	45.6%	2	女性	53.8%	3	あてはまらない 0.1% 無回答 0.5%

Ｆ２　あなたは現在何歳ですか。（○は１つだけ）　　ｎ＝2,418

1	１６～１８歳	2.9%	6	３５～３９歳	6.2%	11	６０～６４歳	7.7%
2	１９～２２歳	3.0%	7	４０～４４歳	7.1%	12	６５～６９歳	8.7%
3	２３・２４歳	1.4%	8	４５～４９歳	8.9%	13	７０～７４歳	12.1%
4	２５～２９歳	3.8%	9	５０～５４歳	8.4%	14	７５～７９歳	10.1%
5	３０～３４歳	4.8%	10	５５～５９歳	8.6%	15	８０歳以上	6.0%
							無回答	0.2%

Ｆ３　現在、あなたに配偶者（夫または妻）はいらっしゃいますか（事実婚を含みます）。
（○は１つだけ）ｎ＝2,418

1	いる	66.1%	3	いない（離別）	5.5%	無回答	0.4%
2	いない（死別）	6.6%	4	結婚したことはない（未婚）	21.5%		

Ｆ４　お子さんは何人いらっしゃいますか。同居・別居は問いません。（○は１つだけ）ｎ＝2,418

1	いない	30.4%	3	２人	38.0%	5	４人	1.2%
2	１人	16.0%	4	３人	12.9%	6	５人以上	0.2%

無回答	1.4%

（「２　１人」から「６　５人以上」を選択した方にお聞きします。）
Ｆ４－１：お子さんは次のどの段階にあてはまりますか。（あてはまるものすべてに○）　ｎ＝1,649

1	０歳～小学校入学前	10.3%	5	大学生（大学院・専門学校等を含む）	10.1%
2	小学生	12.4%	6	学校教育終了（成人・社会人など）	58.3%
3	中学生	9.1%	7	その他	5.9%
4	高校生	9.9%		無回答	5.6%

Ｆ５　現在、一緒に暮らしているご家族は、あなたを含めて何人ですか。（○は１つだけ）ｎ＝2,418

1	１人	14.5%	3	３人	24.7%	5	５人	7.5%	7	７人以上	0.8%
2	２人	31.3%	4	４人	17.5%	6	６人	2.1%		無回答	1.7%

Ｆ６　あなたの世帯は、次のように分類した場合、どれにあたりますか。（○は１つだけ）ｎ＝2,418

1	ひとり暮らし	12.4%
2	配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）	24.9%
3	自分たち夫婦と未婚の子ども（または、自分と未婚の子どもなど）	32.8%
4	自分たち夫婦と子ども夫婦（または、自分と子ども夫婦など）	1.2%
5	親と自分のみ（または、親と自分と兄弟・姉妹など）	13.4%
6	親と自分たち夫婦	1.7%
7	三世代（例えば、自分たち夫婦と子どもと孫、親と自分と子どもなど）	6.6%
8	その他（四世代など）	2.4%
	無回答	4.6%

Ｆ７　あなたの八王子市での通算の居住状況を教えてください。（○は１つだけ）　ｎ＝2,418

1	生まれてからずっと居住している	15.1%	6	10～15 年未満の居住	7.9%
2	１年未満の居住	2.3%	7	15～20 年未満の居住	8.9%
3	１～３年未満の居住	3.6%	8	20～30 年未満の居住	15.0%
4	３～５年未満の居住	3.4%	9	30 年以上の居住	36.7%
5	５～10 年未満の居住	6.5%		無回答	0.7%

Ｆ８　あなたのご職業は、次のどれにあたりますか。（○は１つだけ）　ｎ＝2,418

1	農・林・漁業	0.2%	7	アルバイト・パート	14.5%
2	自営業	4.9%	8	（専業）主婦・主夫	17.4%
3	自由業（開業医、弁護士、司法書士など）	0.7%	9	学生	6.1%
4	会社や団体の役員	4.3%	10	その他	2.9%
5	会社・商店・サービス業などの勤め人	26.0%	11	無職	17.9%
6	教員・公務員	4.5%		無回答	0.6%

（「１　農・林・漁業」から「７　アルバイト・パート」を選択した方にお聞きします。）

Ｆ８-１：あなたの仕事場は、次のどちらにあたりますか。（○は１つだけ）　ｎ＝1,333

1	八王子市内	45.8%	2	八王子市外	42.9%	無回答	11.3%

Ｆ９　あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。（○は１つだけ）　ｎ＝2,418

1	戸建て（持ち家）	60.4%	6	UR（旧公団）・公社の賃貸住宅または	
2	戸建て（借家）	2.5%		都民住宅	3.3%
3	分譲マンション	17.0%	7	社宅・官舎・寮	0.5%
4	民間の賃貸アパート・マンション	11.0%	8	その他（間借りなど）	1.0%
5	公営賃貸住宅（都営・市営）	3.9%		無回答	0.5%

あなたの日常生活について

≪インターネット等利用状況について≫

問１　インターネットを利用していますか。（○は１つだけ）　　ｎ＝2,418

１　利用している	79.4%	２　利用していない	20.2%	⇒問１－４へ	無回答　0.4%

（「１　利用している」を選択した方にお聞きします。）

問１－１　日常的に利用しているインターネット接続端末はどれですか。

（あてはまるものすべてに○）　　ｎ＝1,920

１　自分専用のパソコン（タブレット端末を含む）	47.1%
２　家族兼用のパソコン（タブレット端末を含む）	32.7%
３　インターネットカフェ等のパソコン（タブレット端末を含む）	0.7%
４　スマートフォン、携帯電話・PHS	80.1%
５　その他	2.7%
無回答	0.1%

問１－２　ご自宅のインターネット環境を教えてください。（○は１つだけ）　　ｎ＝1,920

１　通信量及び通信速度の制限なし	77.2%
２　通信量又は通信速度の制限あり（毎日２時間程度の動画視聴可）	9.5%
３　通信量又は通信速度の制限あり（毎日２時間程度の動画視聴不可）	2.7%
４　自宅から通信することはできない	1.0%
５　わからない	8.6%
無回答	0.9%

問１－３　インターネットの利用目的を教えてください。（あてはまるものすべてに○）ｎ＝1,920

１　メッセージの送受信（電子メール、LINE など）	87.9%
２　情報収集	87.0%
３　商品の購入・サービスの利用	74.4%
４　動画・音楽・ゲームなどのコンテンツ利用	69.8%
５　ソーシャルメディア（Twitter、Facebook、Instagram など）の利用	40.8%
６　遠隔授業などの教育関係	19.0%
７　テレワークなど仕事関係	20.9%
８　その他	1.4%
無回答	0.5%

（「２　利用していない」を選択した方にお聞きします。）

問１－４　インターネットを利用していない理由を教えてください。

（あてはまるものすべてに○）ｎ＝489

１　利用する必要がない	38.7%	６　利用方法が難しい	25.6%
２　興味がない	21.9%	７　インターネットがよくわからない	39.9%
３　個人情報の漏洩など安全面に不安がある	15.7%		
４　インターネット機器の購入費用が高い	9.4%	８　その他	7.6%
５　通信料金が高い	10.8%	無回答	8.8%

≪身近な生活及び生活環境について≫

問２　あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。つきあいの程度（度合い）としてお答えください。（○は１つだけ）　n＝2,418

1	困ったときに相談したり、助け合ったりする程度	9.8%
2	一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声を掛けあったりする程度	4.6%
3	たまに立ち話をする程度	26.6%
4	会えばあいさつをかわす程度	46.9%
5	つきあいがほとんどない	10.8%
	無回答	1.3%

問３　あなたの町会・自治会活動への参加度合いを教えてください。（○は１つだけ）　n＝2,418

1	積極的に参加している	7.2%	
2	どちらかといえば参加している	25.6%	
3	どちらかといえば参加していない	20.9%	
4	参加していない	28.0%	
5	町会・自治会に加入していない（町会・自治会がない場合を含む）	17.6%	
	無回答	0.8%	

→「１　積極的に参加している」、「２　どちらかといえば参加している」を選択した方にお聞きします。）

問３－１　あなたが町会・自治会活動に参加したきっかけを教えてください。

（あてはまるものすべてに○）n＝792

1	家族や友人に誘われて	10.2%	7	近所の情報を得たくて	15.4%
2	近所の人に誘われて	16.3%	8	地域に貢献したくて	23.0%
3	生活に充実感や達成感を得たいと思って	8.5%	9	地域の慣習で	57.8%
4	自分の能力や個性を伸ばしたいと思って	2.4%	10	その他	8.6%
5	地域に仲間や友達が欲しくて	9.2%		無回答	2.7%
6	いろいろな年代の人と関わりたくて	11.4%			

問４　あなたの町会・自治会活動以外の地域活動（まちづくり、環境、教育、福祉、国際交流、文化、スポーツなど）への参加度合いを教えてください。（○は１つだけ）　n＝2,418

1	積極的に参加している	6.0%	3	どちらかといえば参加していない	20.4%
2	どちらかといえば参加している	13.3%	4	参加していない	57.2%
				無回答	3.2%

（「１　積極的に参加している」、「２　どちらかといえば参加している」を選択した方にお聞きします。）

→　問４－１　あなたがその地域活動に参加したきっかけを教えてください。

（あてはまるものすべてに○）n＝465

1	家族や友人に誘われて	22.8%	7	近所の情報を得たくて	11.2%
2	近所の人に誘われて	15.9%	8	地域に貢献したくて	32.9%
3	生活に充実感や達成感を得たいと思って	27.5%	9	地域の慣習で	23.9%
4	自分の能力や個性を伸ばしたいと思って	19.8%	10	その他	8.2%
5	地域に仲間や友達が欲しくて	15.5%		無回答	2.2%
6	いろいろな年代の人と関わりたくて	19.1%			

問５　町会・自治会活動や地域活動への協力または参加を増やすためには、どのような条件・きっかけが必要だと考えますか。（○は３つまで）　ｎ＝2,418

1	活動について情報が得られること	23.1%	10	一定の報酬、特典などが得られること	5.3%
2	友人・知人と一緒に参加できること	10.5%	11	活動の必要性が納得できること	25.8%
3	同じ年代の人たちと活動できること	11.7%	12	協力・参加することは難しいと思う	6.8%
4	気軽に参加できる活動があること	37.6%	13	その他	2.6%
5	楽しいイベント・活動があること	22.8%	14	特にない	5.8%
6	時間や期間にあまりしばられないこと	37.8%		無回答	6.2%
7	知人や地域の人に誘われること	5.8%			
8	身体的な負担が少ないこと	18.0%			
9	金銭的な負担が少ないこと	17.0%			

問６　あなたがこの１年間にスポーツや運動（散歩を含む）を行った回数はどのくらいですか。

（○は１つだけ）ｎ＝2,418

1	週に３回以上	25.5%	4	３か月に１～２回	5.3%	無回答	1.5%
2	週に１～２回	28.5%	5	年に１～２回	4.0%		
3	月に１～２回	16.0%	6	行わなかった	19.1%	⇒問６－２へ	

（「1　週に３回以上」から「5　年に１～２回」を選択した方にお聞きします。）

→ 問６－１　あなたがこの１年間にスポーツや運動を行った理由は何ですか。

（○は３つまで）ｎ＝1,919

1	健康・体力づくり	60.8%	6	家族との交流	11.5%	11	その他
2	ストレス解消	24.6%	7	友人・仲間との交流	14.0%		4.1%
3	自然とのふれあい	19.1%	8	運動不足の解消	50.3%	12	特にない
4	楽しみ・面白さ	18.1%	9	美容や肥満の解消	13.6%		0.9%
5	自己の記録や能力向上	4.1%	10	仕事の都合やつきあい	2.3%		無回答　6.4%

（「6　行わなかった」を選択した方にお聞きします。）

問６－２　あなたがこの１年間にスポーツや運動を行わなかった理由は何ですか。

（○は３つまで）ｎ＝463

1	仕事が忙しくて時間がないから	34.8%	8	お金がかかるから	8.6%
2	家事・育児が忙しくて時間がないから	11.4%	9	運動・スポーツが好きではないから	17.5%
3	体が弱いから	7.6%	10	きっかけ・機会がないから	31.1%
4	年をとったから	16.6%	11	その他	16.4%
5	場所や施設がないから	6.7%	12	特にない	10.4%
6	仲間がいないから	6.3%		無回答	0.9%
7	指導者がいないから	0.9%			

問７　直近３年間のあなたの防災訓練への参加状況を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

n＝2,418

1	市など主催の防災訓練に参加した	3.0%	5	防災訓練には参加しなかった	58.6%
2	職場主催の防災訓練に参加した	19.5%			
3	自治会など主催の防災訓練に参加した	16.4%		無回答	2.3%
4	その他の防災訓練に参加した	5.8%			

問８　災害時、あなたはご自宅からの避難場所を知っていますか。（○は１つだけ）　n＝2,418

1	知っている	82.1%	2	知らない	17.1%	無回答	0.7%

問９　災害時、家族や大切な人との連絡方法について共有しているものを教えてください。

（あてはまるものすべてに○）n＝2,418

1	スマートフォン・携帯電話での連絡（SNS を含む）	75.9%
2	災害用伝言ダイヤル（171）の活用	11.1%
3	災害用伝言板（Web）の活用	4.9%
4	避難所での集合	25.8%
5	特に決めていない	17.9%
	無回答	0.7%

問 10　あなたのご家庭は食料品などの買物に不便を感じていますか。（○は１つだけ）　n＝2,418

1	感じている	8.3%	4	感じていない	59.1%
2	どちらかといえば感じている	10.7%		無回答	0.7%
3	どちらかといえば感じていない	21.2%			

（「1　感じている」、「2　どちらかといえば感じている」を選択した方にお聞きします。）

→ 問 10-1　不便と感じている理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）　n＝459

1	徒歩や自転車で行ける場所にお店がないから	46.6%
2	近くにあるお店は品揃えが悪く、遠くのお店にいく必要があるから	31.6%
3	宅配や移動販売などを実施しているお店を知らないから	4.4%
4	身体的・体力的にお店まで行くのが困難だから	15.7%
5	自動車・バイクがなく、重いものやまとめ買いができないから	20.5%
6	自動車・バイクの運転が困難になってきたから	10.0%
7	バス停や電車の駅まで遠く、利用しにくいから	14.6%
8	バスや電車の本数が少ないなど、交通の便が悪いから	16.6%
9	自分以外に買物に行ける同居者がいないから	13.1%
10	介護や育児で買物に行ける時間が限られるから	5.2%
11	勤務形態により買物に行ける時間が限られるから	16.3%
12	その他	10.2%
	無回答	1.3%

問 11　あなたの身近に空き地や空き家は増えていますか。（○は 1 つだけ）　　n＝2,418

1　増えている	9.2%	4　わからない	32.7%
2　どちらかといえば増えている	15.6%	無回答	1.0%
3　増えていない	41.6%		

（「1　増えている」、「2　どちらかといえば増えている」を選択した方にお聞きします。）

→ 問 11-1　あなたが空き地や空き家が増えて問題だと考えることはどのようなことですか。

（あてはまるものすべてに○）n＝600

1　防災や防犯上の問題	69.7%	5　自治会組織の維持の問題	19.2%
2　住環境の問題	43.3%	6　その他	7.2%
3　景観上の問題	26.5%	7　特にない	11.0%
4　権利上の問題	6.7%	無回答	2.3%

≪身近にいる支援が必要な人について≫

問 12　あなたの身近（家族を除く）に日常の生活を送るにあたり支援が必要と感じる人はいますか。

（○は 1 つだけ）n＝2,418

1　いる	11.8%	2　いない	48.3%	3　わからない	38.5%	無回答	1.4%

（「1　いる」を選択した方にお聞きします。）

→ 問 12-1　その方はどのような方ですか。また、その方はどのような状況ですか。

（あてはまるものすべてに○とその状況（自由記述））

例：(1) 単身高齢者（状況：日常の買物が困難）
　　(2) 子ども（状況：貧困により十分な食事が与えられていない）n＝285

1　単身高齢者	62.1%
2　高齢者夫婦	28.8%
3　障害をお持ちの方	19.3%
4　子ども	4.9%
5　外国人	3.5%
6　子育て世帯	4.6%
7　その他	4.6%
無回答	0.7%

≪介護について≫

問 13　現在、あなたの親族に介護を要する人はいますか。（○は 1 つだけ）　n＝2,418

1　いる（同居）	7.1%	2　いる（別居）	18.3%	3　いない	73.9%　無回答　0.7%

（「1　いる（同居）」、「2　いる（別居）」を選択した方にお聞きします。）

→ 問 13-1　介護を要する人からみて、実際に介護をしている人はどなたですか。

（あてはまるものすべてに○）　n＝614

1	配偶者	21.2%	5	親	20.2%	9	家族・親族以外（施設入所）
2	きょうだい	10.7%	6	孫	2.9%		20.8%
3	子	29.5%	7	その他親族	9.0%	10	その他　1.0%
4	子の配偶者	6.5%	8	家族・親族以外	3.7%		無回答　0.3%

問 14　現在、あなたは介護を受けていますか。（○は 1 つだけ）　n＝2,418

1　受けている	2.2%	2　受けていない	97.0%	⇒問 14-２へ	無回答　0.9%

（「1　受けている」を選択した方にお聞きします。）

→ 問 14-1　介護をしている人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）　n＝52

1	配偶者	40.4%	5	親	5.8%	9	家族・親族以外（施設入所）
2	きょうだい	1.9%	6	孫	1.9%		9.6%
3	子	23.1%	7	その他親族	3.8%	10	その他　17.3%
4	子の配偶者	1.9%	8	家族・親族以外	13.5%		無回答　0.0%

（「2　受けていない」を選択した方にお聞きします。）

問 14-２　あなたが将来介護を必要とする状況になった場合、どのような介護を望みますか。

（○は 1 つだけ）　n＝2,345

1	在宅のままで家族や親族の世話になりたい	15.4%
2	在宅のままで友人・知人の世話になりたい	0.2%
3	在宅のままで訪問介護やホームヘルプサービスなどを利用したい	32.6%
4	公的な高齢者向け施設（特別養護老人ホーム、ケアハウスなど）を利用したい	27.8%
5	民間の有料老人ホームを利用したい	8.0%
6	その他	3.1%
7	特にない	9.8%
	無回答	3.1%

あなたの将来に関する認識について

≪あなたの身近な生活に関する認識について≫

問 15　あなたが将来（2040 年頃）に対して、不安に感じていることは何ですか。（○は３つまで）

n＝2,418

1	自分や家族の健康や病気のこと	68.2%
2	自分や家族が介護を必要とする状態になること	52.8%
3	自分や家族の生活のための収入のこと	37.5%
4	自分や家族の就職のこと	5.2%
5	自分や家族の結婚のこと	5.5%
6	自分や家族の出産のこと	1.1%
7	自分や家族の子育てのこと	3.0%
8	自分や家族の教育のこと（進学、受験等）	3.6%
9	自分や家族の日常生活のこと（買物や通院時の移動手段等）	11.7%
10	自分や家族の住まいのこと（住環境を含む）	7.2%
11	自分や家族が犯罪に巻き込まれること	5.0%
12	家族の間での人間関係	2.6%
13	学校や職場などでの人間関係	1.7%
14	地域における人間関係（孤立を含む）	3.3%
15	年金などの社会保障制度	41.3%
16	その他	1.5%
17	特にない	3.3%
	無回答	2.5%

≪今後、想定される社会環境の変化に関する認識について≫

－期待感（一般）－

問16　次の（1）～（6）の事柄についての期待感についてお答えください。（それぞれ○は1つだけ）

n＝2,418

	1 期待する	2 どちらかといえば期待する	3 どちらかといえば期待しない	4 期待しない	5 わからない	無回答
（1） 地域共生社会※1の実現	21.3%	35.8%	17.7%	10.0%	11.0%	4.2%
（2） ダイバーシティ※2の実現	27.3%	37.8%	12.3%	7.5%	9.9%	5.2%
（3） ワーク・ライフ・バランス※3の向上	34.7%	35.0%	10.3%	5.3%	8.6%	6.1%
（4） 時間や場所にとらわれない多様な働き方の浸透	31.0%	37.7%	11.7%	5.7%	9.3%	4.7%
（5） 健康寿命延伸の実現	26.8%	35.5%	14.9%	10.3%	8.3%	4.1%
（6） インバウンド（訪日外国人旅行）の増加	9.8%	24.5%	25.7%	21.3%	14.1%	4.5%

※1　制度・分野ごとの“縦割り”や、“支え手”“受け手”という固定的な役割分担の考え方ではなく、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」としてとらえ、人とひと、人と資源が世代や分野を越えて「丸ごと」つながる取組をとおして、住民一人ひとりの暮らしと生きがいを大切にし、地域をともに築く社会

※2　性別、障害、国籍などに関係なく、一人ひとりが自分らしくいきいきと活躍できる社会

※3　「仕事と生活の調和」という意味で、仕事と、私生活のバランスのとれた働き方を目指そうという考え方

－期待感（科学技術）－

問 17　次の（1）～（9）の事柄についての期待感についてお答えください。（それぞれ○は 1 つだけ）

n＝2,418

	1 期待する	2 どちらかといえば期待する	3 どちらかといえば期待しない	4 期待しない	5 わからない	無回答
（1） 遠隔操作・体験の実現（治療・介護、心理状態や味覚などの感覚を体験・共有できるメディア、遠隔地の人やロボットを自在に操れる身体共有技術）	24.2%	40.0%	15.3%	6.9%	10.5%	3.1%
（2） 快適・安心な移動の向上（リニアモーターカー開通、どこでも自動運転、都市部で人を運べるドローン、視覚障害者や高齢者が安心して自由に移動できるナビゲーションシステム）	34.1%	40.7%	10.3%	6.5%	5.7%	2.8%
（3） 疾病の早期発見・診断、体内監視の向上（超軽量感染症センサー、血液分析によるがんや認知症の早期診断、体内監視システム、心身のサポートシステム）	54.1%	34.4%	4.3%	1.9%	3.0%	2.2%
（4） リカレント教育※など、誰でも、いつでも、どこでも学べる環境の整備（教育のデジタル化など）	31.5%	42.0%	11.4%	3.4%	8.9%	2.9%
（5） AI 技術の浸透（話の要約・理解、技術や経験の習得や危険が伴う作業の無人化など）	27.7%	42.4%	13.4%	5.1%	8.1%	3.3%
（6） 農業へのロボット･ドローンの活用（無人精密農業、職人技の伝承、収穫物の自動運搬など）	31.7%	41.5%	10.3%	4.5%	9.0%	3.1%
（7） 自然災害予測・リアルタイムの災害リスク評価システムの実現	49.6%	34.8%	6.5%	1.8%	4.5%	2.9%
（8） エネルギーの自給自足の確立（再生エネルギー、洋上風力発電など）	45.0%	34.5%	8.4%	3.1%	6.2%	2.9%
（9） 廃棄物などの有効活用の進展（レアメタル回収・利用など）	44.8%	39.1%	6.1%	1.9%	5.1%	2.9%

※　社会人が学び直すなど、生涯にわたり、教育と就労を交互に繰り返すことでスキルを高め続ける教育制度

－不安感－

問 18　次の（1）～（15）の事柄についての不安感についてお答えください。（それぞれ○は 1 つだけ）

n＝2,418

	1	2	3	4	5	
	不安を感じる	どちらかといえば不安を感じる	どちらかといえば不安は感じない	不安は感じない	わからない	無回答
（1）　日本・八王子市の人口減少と人口構造の変化（少子化・高齢化等）	25.4%	41.1%	15.8%	7.6%	7.0%	3.1%
（2）　地球規模の温暖化進行	51.3%	31.0%	6.8%	3.2%	3.7%	3.9%
（3）　新型コロナウイルス感染症による生活の変化（新しい日常・生活様式など）	54.8%	30.3%	7.9%	3.1%	1.8%	2.1%
（4）　地域コミュニティの希薄化	15.4%	40.0%	24.2%	8.1%	8.9%	3.3%
（5）　税収の減少等による行政サービスの維持	30.3%	44.8%	10.7%	3.3%	7.9%	3.1%
（6）　高齢者などの孤立化	39.6%	40.9%	8.3%	2.9%	4.5%	3.8%
（7）　担い手不足による伝統文化（お祭りなど）の衰退	19.5%	40.6%	19.7%	9.5%	8.2%	2.5%
（8）　都市のスポンジ化※	22.0%	41.3%	17.9%	5.1%	10.1%	3.6%
（9）　住宅の確保・維持（適切な費用負担での居住、空き家の管理など）	20.3%	41.4%	19.3%	5.6%	10.2%	3.2%
（10）　道路などのインフラ・公共施設の老朽化	29.2%	42.3%	15.6%	4.1%	5.5%	3.4%
（11）　公共交通などの都市機能の維持	19.1%	36.5%	25.6%	7.8%	7.8%	3.2%
（12）　自然災害	59.4%	25.9%	5.6%	2.0%	2.5%	4.5%
（13）　IoT（Internet of Things（モノのインターネット））、ビッグデータ、人工知能をはじめとした新たな技術による就業構造（仕事の内容）の変化	11.8%	27.8%	26.0%	11.7%	19.9%	2.9%
（14）　労働力不足	27.0%	38.2%	15.7%	5.7%	9.7%	3.6%
（15）　環境負荷の増大（海洋プラスチックごみなどによる生態系への影響を含む）	46.9%	34.9%	7.6%	2.6%	5.5%	2.4%

※　都市において、空き家や空き地等が数多くの穴のように点々と増えていくこと。

八王子市の現在、将来に関する認識について

問 19　将来（2040 年頃）の八王子市は、現在と比べて暮らしやすくなっていると思いますか。

（○は 1 つだけ）n＝2,418

1　思う	6.2%	4　思わない	9.6%
2　どちらかといえば思う	16.8%	5　わからない	47.8%
3　どちらかといえば思わない	17.8%	無回答	1.8%

（「1　思う」から「4　思わない」を選択した方にお聞きします。）

→ 問 19-1　そのように思った理由は何ですか。（自由記述）

問 20　将来（2040 年頃）の八王子市に“残したい資源”や“大切にしてほしいもの”を教えてください。（自由記述）

問 21　八王子市の施策のうち力を入れていると感じる施策は何ですか。（○は５つまで）n＝2,418

≪現在の認識≫

1	地域コミュニティの活性化	11.2%
2	学園都市づくり	22.2%
3	文化芸術の振興	10.4%
4	男女共同参画社会の推進	1.5%
5	多文化共生社会の推進	1.5%
6	生涯学習の充実	7.4%
7	スポーツ・レクリエーションの振興	9.8%
8	防災・減災対策	11.5%
9	防犯対策	8.5%
10	暮らしの相談・支援（法律、消費生活、低所得者等）	5.9%
11	障害者への支援	5.7%
12	高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステム※の構築等）	18.9%
13	保健・医療の充実	9.8%
14	子ども・子育て支援	13.5%
15	青少年の健全育成	2.5%
16	学校教育の充実	5.6%
17	雇用・就労支援	2.6%
18	企業誘致、工業振興	2.4%
19	中心市街地活性化、商業振興	5.3%

20	観光振興	7.7%
21	農業振興	2.4%
22	環境の保全（みどり、水、大気等）	9.1%
23	地球温暖化対策（CO_2排出量の削減、再生可能エネルギーの普及促進）	4.6%
24	循環型社会の構築（ごみの発生抑制と資源化の推進、廃棄物の適正処理）	18.4%
25	住宅政策	1.9%
26	都市整備（再開発、区画整理等）	6.8%
27	都市景観の形成	3.0%
28	公園や遊び場の整備	9.3%
29	交通安全対策	4.3%
30	道路整備	8.9%
31	交通機関・駐車場の整備	3.7%
32	シティプロモーション	1.0%
33	その他	2.1%
34	特にない	19.7%
	無回答	5.6%

※　地域包括ケアシステムとは、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるよう、「予防・介護・医療・生活支援・住まい」を一体的・継続的に提供する体制のことです。

以下は別紙「2040 年頃までに想定されている社会環境の変化」をご覧いただきお答えください。

問 22　八王子市は将来(2040 年頃)に向けてどのような施策に特に力を入れた方がよいと思いますか。また、その具体的な内容は何ですか。（○は５つまでとその内容（自由記述））　n＝2,418

例：(1) 地域コミュニティの活性化（具体的な内容：年をとっても地域に見守られて安心して生活したい。）
(13) 保健・医療の充実（具体的な内容：自宅で医療が受けたい。）
(14) 子ども・子育て支援（具体的な内容：少子化の進行に歯止めをかける必要があるため、子育て世帯への経済的支援を行ってほしい。）

≪将来への考え≫

1	地域コミュニティの活性化	12.2%
2	学園都市づくり	4.9%
3	文化芸術の振興	4.9%
4	男女共同参画社会の推進	1.8%
5	多文化共生社会の推進	2.5%
6	生涯学習の充実	6.2%
7	スポーツ・レクリエーションの振興	5.8%
8	防災・減災対策	17.8%
9	防犯対策	10.5%
10	暮らしの相談・支援（法律、消費生活、低所得者等）	8.6%
11	障害者への支援	6.2%
12	高齢者への支援（介護サービス、地域包括ケアシステム※の構築等）	27.5%
13	保健・医療の充実	19.1%

14	子ども・子育て支援	21.9%
15	青少年の健全育成	2.5%
16	学校教育の充実	10.8%
17	雇用・就労支援	7.2%
18	企業誘致、工業振興	5.3%
19	中心市街地活性化、商業振興	6.7%
20	観光振興	4.2%
21	農業振興	3.0%
22	環境の保全（みどり、水、大気等）	9.5%
23	地球温暖化対策（CO_2排出量の削減、再生可能エネルギーの普及促進）	5.2%
24	循環型社会の構築（ごみの発生抑制と資源化の推進、廃棄物の適正処理）	4.4%
25	住宅政策	3.3%
26	都市整備（再開発、区画整理等）	4.6%
27	都市景観の形成	2.0%
28	公園や遊び場の整備	6.7%
29	交通安全対策	3.2%
30	道路整備	5.6%
31	交通機関・駐車場の整備	7.4%
32	シティプロモーション	1.6%
33	その他	4.1%
34	特にない	8.1%
	無回答	20.5%

※ 地域包括ケアシステムとは、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるよう、「予防・介護・医療・生活支援・住まい」を一体的・継続的に提供する体制のことです。

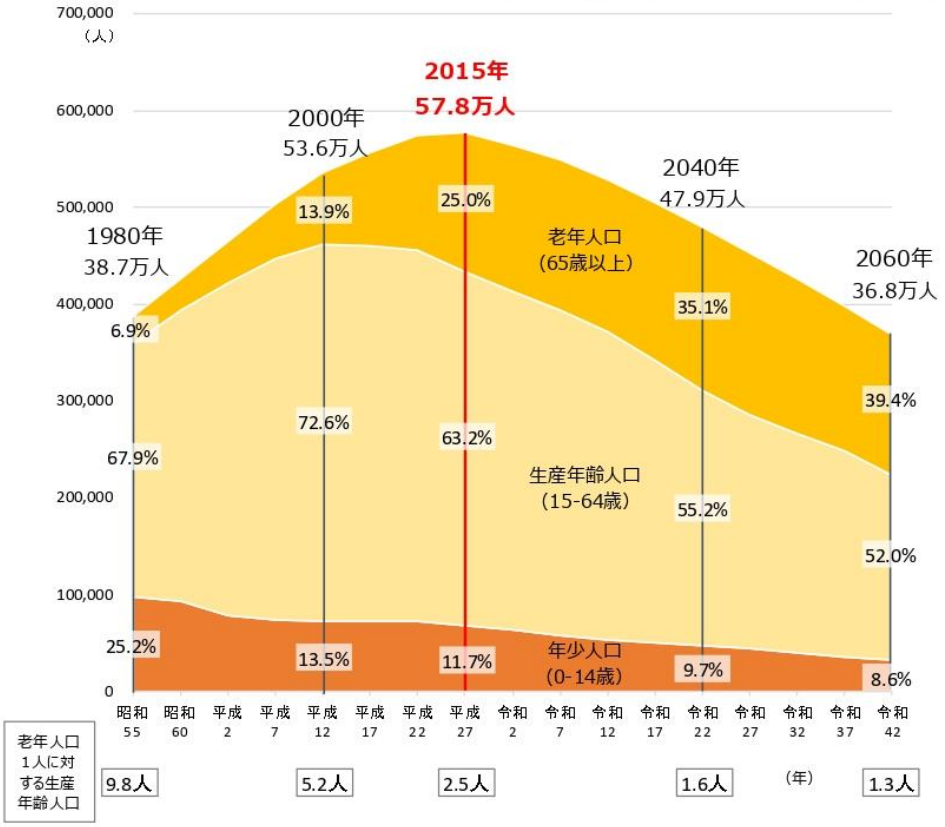
- 質問はこれで終わりです。ご協力いただきありがとうございました。
- ご記入済みの調査票は、同封の返信用封筒に入れて、1月31日（日）までに切手を貼らずに郵便ポストに投函してください。お名前を書く必要はありません。

2040年頃までに想定されている社会環境の変化

人口減少・人口構造の変化

八王子市の将来人口推計（出生率・移動率ともに変わらないと仮定した場合のシミュレーション）

※出生率は平成27年、移動率は平成24年１月～平成29年1月の数値を基に推計



- 現在の状況が続くと、2040年の人口は47.9万人になると推計しています。
- 生産年齢人口（15～64歳）の構成比は、2015年に63.2%でしたが、2040年の推計では55.2%となり、１人の老年人口（65歳以上）を１.６人の生産年齢人口（15～64歳）で支えることになります。

＜参考＞　本市では、持続可能な都市として、将来にわたり活力を維持していくため、「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、2060年の人口45.1万人の維持を目標に取り組んでいます。

人口減少・人口構造の変化が与える影響

- **働き手の減少による経済規模の縮小**
- **社会保障費一人あたりの負担が増加**
- **地域コミュニティの希薄化による地域活力の低下**
- **税収の減少により行政サービスの維持に支障**
- **公共施設維持管理コストの負担増加**

など様々な影響が予測されています。

裏面に続く

科学技術の進展

2040年頃までに、日常生活の利便性向上や社会課題の解決につながる様々な科学技術の実現が予測されています。

A4	遠隔で、認知症などの治療や介護が可能になる超分散ホスピタルシステム
A5	あらゆる言語をリアルタイムで翻訳・通訳できるシステム
A6	遠隔地の人やロボットを自在に操れる身体共有技術
A7	視覚障がい者や高齢者が安心して自由に移動できるナビゲーションシステム
A8	自律型都市におけるエネルギーコントロール

出典：文部科学省「令和２年版 科学技術白書」より抜粋
（右のＱＲコードから全体版の「令和２年版　科学技術白書」をご覧いただけます。）

その他

その他にも次のようなことが想定・予測されています。

【防　　災】　今後30年間に70％の確率で首都直下地震が発生する。

【インフラ】　老朽化したインフラ・公共施設が大幅に増加する。

【公共交通】　乗合バスなどの廃止路線が増加する。

【都市空間】　都市のスポンジ化が進行する。

【介　　護】　介護人材の需給ギャップが拡大する。

【高 齢 者】　一人暮らし高齢者が増加する。

八王子市の将来推計をさらに詳しく知りたい方は、右のＱＲコードから『八王子基礎データ集～はちおうじを知り、未来を描く～』をご覧ください。
（人口や財政、現状の各行政分野の主要データ等も掲載しています。）

インターネットを利用した回答方法

～パソコン、スマートフォン、タブレット端末等で回答できます～

※ 郵送で回答される場合は、この用紙をお読みいただく必要はありません。

※ 携帯電話（フィーチャーフォン）及び一部のスマートフォン（Android4.4 以前または iOS4 以前）でのご利用はできませんので、郵送での回答をお願いします。

調査画面へのアクセス方法

1．パソコンの場合

（1）八王子市ホームページトップページの右下にある「オンラインサービス」から「**電子申請・届出**」を選択してください。

（2）[次画面]「**長期ビジョン策定に向けた市民アンケート調査の回答はこちら**」を選択してください。

（3）[次画面]「**パソコンからのご回答（外部リンク）**」を選択してください。

（4）調査票「長期ビジョン策定に向けた市民アンケート調査」の右上に記載してある**申請者ＩＤとパスワード**を入力し、「ログイン」を選択してください。

2．スマートフォン・タブレット端末の場合

（1）右記の二次元コードを読み取ってください。

（2）調査票「長期ビジョン策定に向けた市民アンケート調査」の右上に記載してある**申請者ＩＤとパスワード**を入力し、「ログイン」を選択してください。

※　二次元コードを読み取ることができない場合などは、お手数ですが各端末から上記の「１.パソコンの場合」の方法で八王子市ホームページにアクセスし、「**スマートフォン・タブレット端末からのご回答（外部リンク）**」を選択して下さい。

二次元コード

回答にあたっての注意事項

1．ブラウザ、スマートフォン等の「戻る」機能は使えません。

2．セキュリティー確保のため、調査票画面を開いてから６０分で接続が切れる仕組みになっておりますので、時間内に回答くださるようお願いいたします。

※ ６０分を超える場合や入力を一時中断する場合は、以下の方法で入力内容の一時保存をしてください。

（1） 入力画面下部の「回答一時保存確認」ボタンを選択します。

（2） [次画面]「再開用パスワード」を入力後「回答一時保存」ボタンを選択します。

（3） [次画面]表示された「一時保存番号」と「再開用 URL」を控えておきます。

（4） 再開時は、控えておいた「再開用 URL」のページで、「再開用パスワード」と「一時保存番号」を入力することで再開することができます。

3．すべての回答が終わりましたら「回答内容確認」ボタンを押し、確認後に「回答する」ボタンを選択してください。「回答完了」（到達番号・問合わせ番号が表示される）の画面が表示されましたら、回答は終了です。

4．インターネットで回答された場合は、調査票を郵送していただく必要はありません。

5．通信サービスの接続料金は利用者様の負担となります。

あなたのみちを、
あるけるまち。
八王子

長期ビジョン策定に向けた市民アンケート調査報告書

令和３年（2021 年）３月

発　行　八王子市　未来デザイン室
〒192-8501　八王子市元本郷町三丁目 24 番１号
電　話　０４２－６２６－３１１１（代表）
０４２－６２０－７３０７（直通）
ＦＡＸ　０４２－６２７－５９３９